

Yanaginogosho Site

The 77th Excavation Report of the Local Government Office in Hiraizumi of the 12th Century



2017

Iwate Board of Education , JAPAN

岩手県文化財調査報告書第150集
平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

岩手県教育委員会



岩手県文化財調査報告書第150集
平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

第77次発掘調査概報

2017

岩手県教育委員会

岩手県文化財調査報告書第150集
平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

第77次発掘調査概報

2017

岩手県教育委員会

序

平泉町に所在する柳之御所遺跡は、平安時代末期の約100年間にわたり北方の王者として繁栄を誇った奥州藤原氏の残した遺跡で、特別史跡中尊寺境内、特別史跡毛越寺境内附鎮守社跡、特別史跡無量光院跡などの文化財と並び、当時の平泉の核をなしていた遺跡の一つであります。本遺跡は、昭和63年から（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会が実施した一級河川北上川上流改修一閑遊水地事業及び国道4号改修平泉バイパス建設事業に伴う緊急発掘調査により、大規模な掘立柱建物跡・園池跡・堀跡などが確認され、また、膨大な量のかわけや各種木製品など、質・量ともに卓越した遺物が出土いたしました。これらの豊富な遺構・遺物により、本遺跡が『吾妻鏡』に記された「平泉館」であることが指摘されています。

このような経過のなかで、遺跡に対する建設省（現国土交通省）のご理解により、平成5年には遺跡の保存が決定し、平成9年3月に『柳之御所遺跡』として国の史跡に指定されました。県では、本遺跡が国民共有の貴重な財産であるとの認識から、史跡公園として整備して後世に伝えるとともに、広く活用していきたいと考え、平成10年度から史跡整備に向けた発掘調査を実施してきました。史跡公園の公開も進み、これまで多くの方々にご来園いただいております。

また、平成23年に「平泉の文化遺産」が世界遺産に登録されました。残念ながら柳之御所遺跡は漏れてしまいましたが、平成24年に暫定リストに登載されています。今後は本遺跡をはじめ未登録の遺跡についても、その価値評価にむけて活動を継続していく所存であります。

最後に、発掘調査の実施と報告書作成に当たり、ご指導・ご協力を賜りました平泉遺跡群調査整備指導委員会の先生方、文化庁記念物課、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所をはじめ関係各位に深く感謝申し上げますとともに、本書が平泉文化研究発展の一助になれば幸いです。

平成29年3月

岩手県教育委員会
教育長 高橋嘉行

例 言

1. 本書は、岩手県教育委員会が平成27年度に実施した柳之御所遺跡整備調査事業に係る、史跡柳之御所遺跡の発掘調査の概要報告である。調査期間は平成27年5月15日から11月30日である。
2. 本事業は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が主体となり、(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの協力を得て実施した。
3. 遺構の呼称は、昭和63年度に(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した調査時の方法に準拠し、下記の略称を使用し、本書でも記載している。遺構名の記載については遺構略号の前に調査次数を付してある。なお、複数年次にわたる調査で明らかに同一と認定される遺構については当初の調査時の遺構名を継続して使用した。

SA：塀・柱列 SB：掘立柱建物 SC：道路状遺構 SD：溝・堀

SE：井戸・井戸状遺構 SG：園池 SK：土坑・柱穴の一部 SX：その他

SI：竪穴住居 P：柱穴

例：77SK1 第77次調査の第1号土坑

4. 図版、写真図版、遺物観察表中の遺物番号は共通である。遺物の実測図については一部を除いて縮尺を1/3を基本にし、スケールを図中に表示した。遺構遺物写真については縮尺不定である。
5. 本書に係る編集・執筆は生涯学習文化課柳之御所担当で協議の上、櫻井友梓・村上拓が行った。執筆分担は、各項目の文末に記載している。
6. 調査成果の一部については、平泉遺跡群調査整備指導委員会等で公表してきたが、本書の内容が優先するものである。
7. 遺構の埋土観察、遺物の色調観察、『新版標準土色帖』を参考にした。
8. 自然科学分析についてはパリノ・サーヴェイ株式会社への分析委託により実施したものである。
9. 後述する平泉遺跡群調査整備指導委員会の先生方をはじめとして、下記の方々・機関の御協力を得た。

安達訓仁 伊藤博幸 井上雅孝 及川 司 及川真紀 島原弘征 鈴木弘太 高橋千晶

七海雅人 羽柴直人 本澤慎輔 前川佳代 八重樫忠郎 (50音順：敬称略)

岩手県立博物館 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 平泉文化遺産センター
文化庁記念物課

10. 本事業に係る調査で得られた諸記録及び出土遺物は、岩手県教育委員会が保管している。

目 次

I 序 論	1
1 遺跡の位置と調査経緯	1
2 調査計画及び平泉遺跡群調査整備指導委員会	1
3 今年度の調査	5
II 調 査 内 容	9
1 調査の概要	9
2 検 出 遺 構	11
3 出 土 遺 物	33
III 自然科学分析	57
IV 総 括	61
V 付章 高館跡の調査	70

図 版 目 次

図版 1 遺構 調査区全景	図版 8 遺構 77SK2壁面抉れ部
図版 2 遺構 21SD1断面 21SD1遺物出土状況	77SK3柱材出土状況 77SK1断面
図版 3 遺構 21SD2-77T1断面 21SD2-77T2断面	77SK1断面出土状況 77SX3全景
図版 4 遺構 南区整地層 南区整地層断面	図版 9 遺物 かわらけ 1
図版 5 遺構 77SX1・77SX2検出状況 77SX1断面b-b' 77SX1断面c-c' 21SD2内岸の水口状張り出し部	図版10 遺物 かわらけ 2
図版 6 遺構 北区整地層 1 全景 北区整地層 2 全景 北区整地層 1 断面a-a' 北区整地層 2 断面	図版11 遺物 かわらけ 3
図版 7 遺構 77SK2断面・77SK3断面	図版12 遺物 かわらけ 4
	図版13 遺物 かわらけ 5
	図版14 遺物 国産陶器類 1
	図版15 遺物 国産陶器類 2
	図版16 遺物 国産陶器類 3
	図版17 遺物 国産陶器類 4
	図版18 遺物 国産陶器類 5
	図版19 遺物 輸入陶磁器・瓦・木製品

挿 図 目 次

図1	遺跡位置図	2	図24	21SD2出土土器類実測図1	45
図2	調査区位置図	6	図25	21SD2出土土器類実測図2	47
図3	遺構配置図(1/300)	10	図26	77SK1・その他遺構出土土器類実測図	48
図4	南区遺構平面図	12	図27	遺構外出土土器類実測図1	49
図5	21SD1断面図	13	図28	遺構外出土土器類実測図2	50
図6	21SD2断面図	16	図29	遺構外出土土器類実測図3	51
図7	77SX1・77SX2	21	図30	遺構外出土土器類実測図4	52
図8	北区遺構平面図	23	図31	遺構外出土土器類実測図5	53
図9	北区整地層1	25	図32	遺構外出土土器類実測図6	54
図10	北区整地層2	26	図33	木製品類・金属製品実測図	56
図11	77SK1	27	図34	木材	60
図12	77SK2・77SK3	29	図35	南端部の遺構	62
図13	77SX3	31	図36	77次調査区の遺構変遷模式図	63
図14	遺物取り上げグリッド配置図	33	図37	堀の変遷模式図	63
図15	21SD1出土土器類実測図1	36	図38	柳之御所遺跡の堀跡	64
図16	21SD1出土土器類実測図2	37	図39	堀の変遷案	65
図17	21SD1出土土器類実測図3	38	図40	堀跡周辺の土坑1	67
図18	21SD1出土土器類実測図4	39	図41	堀跡周辺の土坑2	68
図19	21SD1出土土器類実測図5	40	図42	高館跡調査位置図	71
図20	21SD1出土土器類実測図6	41	図43	T1平面図	73
図21	21SD1出土土器類実測図7	42	図44	T2平面図	74
図22	21SD1出土土器類実測図8	43	図45	T2断面図	75
図23	21SD1出土土器類実測図9	44			

挿 表 目 次

表1	平泉遺跡群調査整備指導委員会	3	表7	樹種同定結果	58
表2	平泉遺跡群調査整備指導委員会協議事項	3	表8	高館跡の調査計画	70
表3	発掘調査年次計画	4	表9	遺物観察表(かわらけ)	77
表4	21SD2トレンチ断面土層対応表	15	表10	遺物観察表(国産陶器)	82
表5	柱穴一覧表	32	表11	遺物観察表(輸入陶磁器)	90
表6	遺物数量表	34	表12	遺物観察表(瓦)	90
			表13	遺物観察表(木製品)	90

I 序 論

1 遺跡の位置と調査経緯

柳之御所遺跡は、岩手県西磐井郡平泉町平泉字柳御所に所在し、経度・緯度は北緯38度59分28秒、東経141度7分35秒（旧日本測地系）である（図1）。遺跡の背後（北東側）には高館の丘陵があり、東に北上川、西から南にかけて猫間ヶ淵と呼称される低地によって区切られた河岸段丘上に立地する。遺跡内の標高は南側で25.3m、中心部で27m、北側で32mであり、北西側が高く、南東側に傾斜している。遺跡の北側の一部は北上川の流路により浸食されたと考えられるため、本来の遺跡の形状には不明な点が残る。遺跡の範囲は調査前には住宅地と田畑があった場所で、緊急調査後に岩手県による公有地化が行われている。

この遺跡は本格的な発掘調査の開始以前から奥州藤原氏に関連することが想定されていたが、多くは北上川の洪水等により削平を受けて失われたものと考えられていた。そのため、遺跡は一閑遊水地事業や国道4号バイパス事業に伴い、記録保存を目的とした大規模な発掘調査が行われることとなった。調査開始以前の予想に反して、調査当初より多くの遺構、遺物が確認され、調査の進展に伴って内容が明らかになり、その価値が高く評価されることとなった（岩手県埋蔵文化財センター1995）。この成果を受けて遺跡の保存運動が高まり、建設省（現在の国土交通省）や関係機関の尽力により遺跡の保存が決定し、治水と遺跡保護との両立が図られることとなった。その後、平成9年に史跡指定され、以降順次史跡範囲を広げながら現在に至っている。岩手県教育委員会では遺跡が国の史跡に指定されたことから、史跡公園として整備し保存活用を図るため、文化庁及び柳之御所遺跡調査研究指導委員会（現平泉遺跡群調査整備指導委員会）の指導助言を得て、平成10年度から主に未調査区域を対象とした内容確認の発掘調査を計画し、継続して実施している。これまでの調査は当面の整備対象となる堀内部地区を中心に行ってきた。これらの調査により、堀内部地区の大部分が調査され、遺構遺物の両面から研究が深化している。なお、柳之御所遺跡堀内部地区は、平成22年より史跡公園として公開を行い、現在も史跡整備工事を継続している。

柳之御所遺跡の周辺には、西には隣接して猫間ヶ淵跡、無量光院跡が位置し、北には高館跡、南には伽羅御所跡が接している。無量光院跡はこれまでの発掘調査で、宇治平等院と類似しつつも、細部で異なる伽藍の内容が確認されている。伽羅御所跡は地名から『吾妻鏡』に記載される伽羅御所に比定される見解もある。これまで複数の地点で調査が行われ、貴重な遺物も出土しているが、小規模の発掘調査にとどまり遺跡の様相や性格を明確に示すものは確認されていない。近年の調査により周辺部で溝跡等も確認されており、区画の様相も検討されつつある。平泉町内ではこの他に志羅山遺跡や泉屋遺跡、倉町遺跡といった当時の平泉の街並みに関連する遺跡が調査されている。北上川を挟んだ東岸域や衣川を挟んで北側の奥州市接待館遺跡、白鳥館遺跡などの調査も行われており、当時の平泉の範囲が周辺に広がることが明らかになり、検討が行われてきている。

2 調査計画及び平泉遺跡群調査整備指導委員会

岩手県教育委員会では柳之御所遺跡の調査を3カ年ずつ計画を立て進めている（表3）。

平成27年度調査（77次）は第6次3カ年計画の3年目にあたる。第6次3カ年計画は堀跡を中心に発掘調査を行い、堀跡や堀内部地区への導入施設などの検討と整備に関わるデータ収集を主な目的と

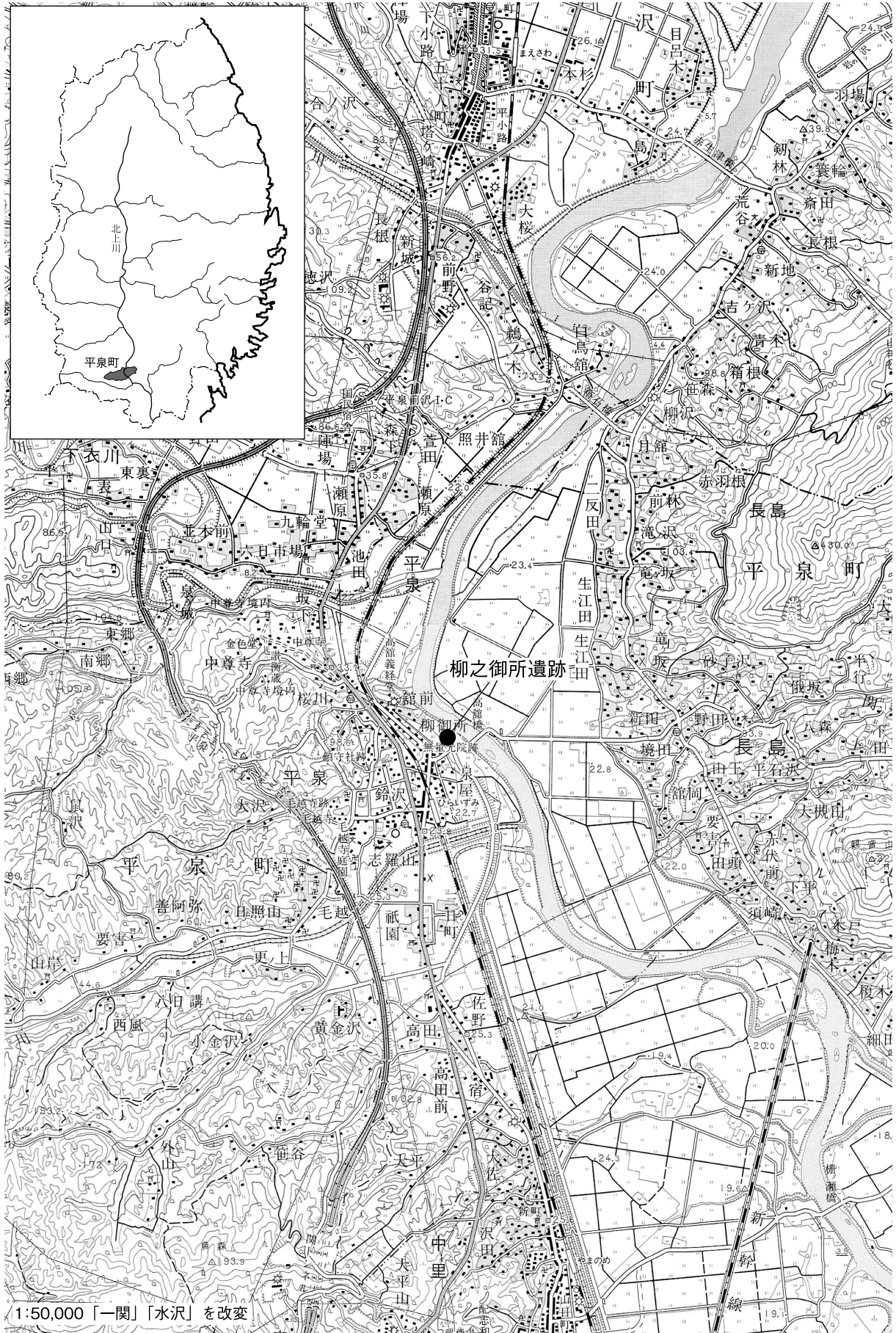


図1 遺跡位置図

した。なお、平成28年度にも堀内部地区南端部周辺で堀跡を中心として遺構や導入施設の有無や様相の確認を主な目的として調査を行っている。第6次3カ年計画では遺跡の南側を含む堀跡周辺の調査へと進んでいる。これまでの計画と今後の計画については表3に示した。調査整備にあたっては平成10年度から「柳之御所遺跡調査研究指導委員会」を設置し、柳之御所遺跡及び平泉遺跡群の発掘調査及び調査研究に対して指導助言を得てきた。平成12年に名称を「柳之御所遺跡調査整備指導委員会」に改め、平成15年度には世界遺産本登録に向けた周辺遺跡の検討の必要性から「平泉遺跡群調査整備指導委員会」と改称した（表1）。

平成27年度の委員会・専門部会は表2の通り開催した。

表1 平泉遺跡群調査整備指導委員会

(平成27年4月現在、役職は当時)

氏 名	役 職	専門部会
入間田宣夫	東北大学名誉教授	整備
遠藤セツ子	メビウスの会事務局	整備
○岡田 茂弘	国立歴史民俗博物館名誉教授	保存・整備
小野 正敏	国立歴史民俗博物館名誉教授	遺構
坂井 秀弥	奈良大学教授	遺構
斉藤 利男	弘前大学教授	遺構
佐藤 信	東京大学教授	保存・整備
清水 擴	東京工芸大学名誉教授	遺構
清水 真一	徳島文理大学教授	遺構
関宮 治良	前平泉町商工会事務局長	整備
田中 哲雄	元東北芸術工科大学教授	保存・整備
◎田辺 征夫	奈良県立大学特任教授	遺構
玉井 哲雄	国立歴史民俗博物館名誉教授	遺構
西村 幸夫	東京大学教授	保存

※ ◎委員長 ○副委員長 遺構：遺構検討部会、保存：保存管理計画検討部会、整備：整備検討部会

表2 平泉遺跡群調査整備指導委員会 協議事項

回	日 時	内 容
遺構・整備部会	27. 6. 23	今年度の調査整備の内容について
		堀跡の復旧工事について
		平泉遺跡群の調査整備について（無量光院跡の整備）
第1回委員会	27.10.1~2	今年度の調査について
		今年度の整備について（植栽、看板等について）
		看板等の整備について
		世界遺産に係る資産影響評価及び受容力調査について
遺構・整備部会	27.12. 4	無量光院跡の調査状況、整備計画について
		今年度の整備工事について
		来年度以降の整備計画について
		看板等の整備について
保存管理部会		世界遺産に係る資産影響評価
第2回委員会	28. 2. 5	今年度の整備について
		今後の柳之御所遺跡の整備計画について
		無量光院跡の調査状況、整備計画について
		平泉遺跡群の今年度の調査成果について
		世界遺産に係る資産影響評価

表3 発掘調査年次計画

	年次	調査回数	調査内容等	調査面積	調査期間	備考
第1次三カ年計画	平成10年度	第49次	・堀内部地内の中心建物群、特に最大建物である南北棟4間9間42SB1(28SB4と一部重複)の東側地区の解明。	500㎡	5月15日 ～10月31日	国庫補助
			・23次調査時の23SB2建物跡の延長確認。			
			・23SA3柱列跡、23SA1堀跡の延長確認。			
	平成11年度	第50次	・48SB1建物跡の延長確認と所属時期の検討。	1,800㎡	5月13日 ～10月31日	国庫補助
			・池跡及び中心建物群を囲む23SA1堀跡の追跡。			
			・4間9間の南北棟の東側の状況及び建物群の伸長。			
	平成12年度	第52次	・42SD1大溝とされていた遺構の時期及び伸展状況追跡。	2,500㎡	5月15日 ～11月17日	国庫補助
			・37次、42次の内容確認調査に確認されていた溝・堀類の時期及び伸展状況の把握。			
			・堀内部地区、中心建物群の西側及び北西側地域の解明。			
第2次三カ年計画	平成13年度	第55次	・祭祀遺構周辺地域の解明。	3,100㎡	5月11日 ～11月13日	国庫補助
			・無量光院との対峙地域の解明。			
			・堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。			
			・現存する微高地状の高まりの性格把握。			
	平成14年度	第56次	・北上川縁地域の状況把握。	4,000㎡	5月13日 ～11月29日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・中心建物群の北側地区の解明。			
			・中心建物群を囲むと推定される堀跡の検出。			
	平成15年度	第57次	・堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。	4,000㎡	4月14日 ～10月31日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・現存する微高地状の高まりの性格把握。			
・北上川右岸縁での大型建物の展開の把握。						
第3次三カ年計画	平成16年度	第59次	・遺跡を二分する外堀の追跡。	3,500㎡	5月10日 ～10月31日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・旧池跡の規模と造成時期の把握。			
	平成17年度	第64次	・遺跡中核を囲う堀の追跡調査及び門跡の確認。	2,500㎡	4月15日 ～9月30日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・高館南側裾部分未調査地域の遺構分布の確認。			
	平成18年度	第65次	・中心建物群の規模と新旧関係の解明。	1,500㎡	5月8日 ～10月31日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・園池北部の構造及び規模と造成時期の把握。			
平成19年度	第68次	・園池から東側への建物等の展開状況の確認。	1,200㎡	5月7日 ～10月15日	国庫補助 ※整備関係予算含む	
		・池跡から東側への建物等の展開状況の確認。				
		・遺跡中核を囲う堀の追跡調査及び門跡及び道路遺構の確認。				
第4次三カ年計画	平成20年度	第69次	・遺跡中核を囲う堀の追跡調査及び門跡及び道路遺構の確認。	1,100㎡	5月7日 ～12月10日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・遺跡を区画する二重堀の構造や構築時期の特定。			
	平成21年度	第70次	・既調査で一部確認されている橋跡の追跡調査。	1,100㎡	5月8日 ～10月31日	国庫補助 ※整備関係予算含む
・堀内部北部のトイレ状遺構の分布。						
第5次三カ年計画	平成22年度	第72次	・堀内部北端部の構造確認。	1,100㎡	5月11日 ～9月30日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・堀内部北端部の様相確認。			
	平成23年度	第73次	・遺跡北端部の堀の延長確認。	1,100㎡	6月1日 ～10月31日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・堀内部と堀外部との導入施設の確認。			
	平成24年度	第74次	・堀跡の延長確認。	1,100㎡	6月1日 ～10月31日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・堀内部地区の道路の延長の確認。			
第6次三カ年計画	平成25年度	第75次	・堀内部と堀外部の導入施設周辺地域の確認。	1,100㎡	6月1日 ～11月30日	国庫補助 ※整備関係予算含む
			・猫間が淵跡周辺における堀跡の様相の確認。			
	平成26年度	第76次	・交通施設の有無及び遺構の把握。	1,100㎡	6月1日 ～11月30日	国庫補助 ※整備関係予算含む
・遺跡南端部における堀跡の状況確認。						
平成27年度	第77次	・堀周辺の遺構の延長確認。	1,100㎡			
			・遺跡南端部周辺における遺構の分布状況の確認。			

※ 第51次・53次・54次・58次・60～63次・71次調査は平泉町教育委員会が実施。

3 今年度の調査 (図2)

(1) 調査体制

〈岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課〉

総括課長	松下 洋介
世界遺産担当課長	細越 健志 (H28. 3.31まで)
主幹兼世界遺産担当課長	佐藤 嘉広 (H28. 4. 1から)
上席文化財専門員 (柳之御所担当)	岩淵 計 (H28. 3.31まで)
文化財専門員 (柳之御所担当)	千葉 正彦 (H28. 4. 1から)
主 査 (柳之御所担当)	淵上 恭子
文化財調査員 (柳之御所担当)	櫻井 友梓

〈(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター〉

所 長	中村 英俊
主任文化財専門員	村上 拓

(2) 調査区の位置と調査目的

平成27年度調査(77次)は遺跡の南端部周辺の未調査範囲を主な対象とした(図2)。今回の範囲は近年まで宅地等が所在し、これまで未調査の範囲で遺構の分布状況等に不明な点が多い。ただし、77次調査の対象とした範囲の周辺は、これまで多くの調査が行われている範囲でもある。調査区は大きく南北の2つの範囲に分かれるが、南区は21次調査・69次調査・70次調査の調査範囲と76次調査の調査範囲の間にあたる部分である。柳之御所遺跡の緊急調査が開始された21次調査(昭和63年)および23次調査(平成元年)でこの周囲が調査されたほか、69次調査(平成20年)と70次調査(平成21年)で周囲の調査を行っている。このほか、平泉町教育委員会が小規模の調査を行った範囲も近接する。これらの調査で内側の堀跡(21SD1)や外側の堀跡(21SD2)、関連する遺構(21SX4)が確認されているほか、伽羅之御所跡の方向へ伸びる橋跡の遺構も確認されている。

今回の調査目的のひとつは堀跡の位置と内容の確認である。調査範囲は遺跡を囲む堀跡のうち、これまで調査が行われてきた南端部と猫間が淵跡周辺の間での未調査の範囲にあたる。堀跡の位置については地形の観察などから推察されてきたが、明確な位置については不明な部分も残されていた。そこで位置の確定のため一部について走行方向を確認することをひとつの目的とした。また、76次調査で確認した堀跡周辺の整地等に由来する人為的な土質の崩壊土層の延長と性格の検討も目的のひとつとしているほか、猫間が淵跡方向への地形の様相や遺構の分布状況の確認も目的とした。堀跡については時期や規模について課題が残されており、それらの検討の材料を得ることも目的とする。

もうひとつの目的は、堀内部の範囲にあたる堀跡に近接する平坦な範囲について、遺構の分布等が不明なことからこれらの様相の把握を目的としている。特に、堀跡に沿った部分での遺構の把握とこの周囲の性格検討のための材料を得ることを目的としている。

なお、調査は遺構の分布や所属時期の確定、遺構の性格等を把握することを目的としているが、遺構の保存のために、精査の際の掘削は必要最小限にとどめている。調査終了後は、調査区全体と一部の掘削を行った遺構についてはいずれも砂の埋め戻しによる保護層を確保した上で、調査以前の地形に合わせて埋め戻しを行い、遺構の保護を図っている。



図2 調査区位置図

(3) 調査の方法

グリッド

柳之御所遺跡の調査に際しては、遺構の測量や遺物の取り上げなどの作業に際し、基準としてグリッドを設定している。このグリッドは(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが1988年から始まる緊急調査に際し平泉町教育委員会と協議のうえ設定したものである(岩手県埋蔵文化財センター1995)。平面直角座標第X系(旧日本測地系)をもとにした5×5mグリッドで、南北方向の基準線に対し真北は、西に0°11′振れる。遺跡範囲の北西端辺りが原点(0, 0)となる。

なお、49次調査まではグリッドの呼称をX座標方向、Y座標方向の順にしていたが、50次調査以降、その順を逆転させY座標方向、X座標方向の順で呼称・記載している。混乱を最小限にとどめるため、本書においてもこの方式を踏襲し、たとえば66-70(Y-X)グリッドならばX軸方向が70、Y軸方向が66を示している。以下の記載についてはこのグリッドによって調査を行い、遺物の取り上げも、近現代の改変による耕作土の出土遺物等を一部除いて、基本的にこのグリッドによって行っている。なお、調査時の、地震後の改測成果と以前の測量成果の混同により、今年度調査時にグリッドの位置が錯誤しており、その対応については取り上げグリッドを後述した。遺構図面及び遺構に関する記述の表記については修正しており、表記のものが正である。

また、本遺跡の周辺では大規模な調査の開始以降に宮城県東部地震や東日本大震災により大きな地形の変動を受けている。その後に行った再測量において当遺跡内での座標変動とその数値を改めて確認している。ただし、柳之御所遺跡内での継続調査においては1988年以来進めているグリッド内での位置を示すことが調査研究の継続上有効と考えており、旧座標におけるグリッド表記を行うこととする。そのため現在の調査においても現地においては旧日本測地系の座標を基準として設定しており、発掘調査における測量及び報告書等の記載は従来の局地座標で行う。

局地的な調査継続としては上記のように考えられるものの、柳之御所遺跡は周囲の遺跡との関係性も研究上重要であることが認識されてきている。それらの比較や整備、その基準となる図面作成においては世界測地系の正確な座標値を把握、更新する必要性も高い。そのため東日本大震災後の成果に基づいた改測成果を把握することで対応に努めていきたい。

表土掘削・遺構検出

今回の調査では、昨年度の調査で表土の厚さを確認していた範囲については、バックホーを使い、表土を除去した。また、表土が薄いことが想定された以前の宅地部分の範囲については人力で表土除去を行った。表土の除去後は遺構の検出を、鋤簾などの道具を使用して確認調査(検出作業)を行った。

遺構精査・記録

検出作業によって確認された遺構については、遺跡保護のため基本的には掘削を伴う精査は行っていない。しかし、一部の遺構については遺構の年代把握や遺物検討のために、半裁等によって土層観察を行い、遺構の断面を記録した。平面図の実測は5mグリッドを分割した1m×1mのメッシュを使用して手作業で行った。今次の調査で検出された遺構はもちろんであるが、既知の遺構についても、検出したものについてはあらためて平面図の作成を行っている。写真については6×7版カメラ(モノクロ・リバーサルフィルム)を中心に、適宜35mm版カメラやデジタルカメラを使用して撮影を行った。調査区全景写真撮影に際しては高所作業車を使用して、調査員が撮影を行っている。

遺構名称

今次調査における遺構名は新規の遺構については頭に今回の調査回数である77を付して上記遺構略号を使用した(例.77SK○○)、既往の発掘調査で確認された遺構と同一であることが想定できる遺構については旧番号(既調査で命名)を本書においても使用している。具体的には2条の大規模な堀跡については既調査で確認されている遺構と同一であることから21SD1、21SD2の遺構名称を継続して用いる。

整理作業

野外調査終了後の平成27年12月1日から平成28年3月31日まで行った。遺物は水洗後に注記→接合→実測→トレース→図版作成→写真撮影の順で作業を行った。遺構については点検、合成の後、必要に応じて第2原図を作成し、その後トレース→図版作成の順で作業を行った。

記載内容

この報告では、今次の調査で検出した遺構と、既知の遺構でも半裁などにより精査した遺構について記載している。また、新たに精査した柱穴が含まれる建物跡や新たな知見が得られた遺構についても記載している。

普及活動

普及活動の一環として、野外調査の全容がほぼ明らかとなった10月3日に現地説明会を行った。晴天に恵まれ、約100名の参加者を得た。そのほかに、遺跡を訪れる観光客や小中学校の見学などに対して、必要に応じて随時現場を公開した。

(櫻井)

Ⅱ 調査内容

1 調査の概要

今回の調査区は平成21・22年度に実施した69・70次調査区と平成26年度に実施した第76次調査区間の範囲（南区）と、昭和63年度の21次調査区の南側の範囲（北区）に大きく分かれる。調査対象面積は約800㎡である。公有地化以前の状況は宅地で現況の地形は平坦だが、南区の造成前の本来の地形は猫間ヶ淵跡へ向かって下がる地形である。

今回の調査区は、南区は遺跡を囲む2条の堀跡（21SD1・21SD2）が位置するとみられる範囲でこれまでの調査で確認されている整地層などの土層の分布状況を確認し、周囲の遺構状況を把握することを目的としている。北区は堀内部の縁辺部にあたり、これまでの調査で小規模な掘立柱建物跡や井戸跡が確認されている。

調査区内は北区、南区のいずれの範囲も宅地造成時の削平等による地形の改変が著しい。北区は宅地等の攪乱が多数検出面で確認でき、地点によっては遺構が検出される面を大きく削り、遺構の有無が確認できない範囲もある。南区も攪乱による溝等が確認できるほか、現代の厚い盛り土層が確認された。検出面までの層序は、地点によって層の有無や層厚の差はあるが、基本的には同様である。調査区内の基本層序は下記の通りである。

I 表土層

II 宅地造成時とみられる盛土層

III 調査区東に堆積する黒褐色から灰褐色の土層で、12世紀代の遺物を含む。12世紀以降の堆積層。遺構の上層埋土となる範囲もあり、その部分での様相からは細分が可能である。近世以降のものより12世紀代に近いものなどで細分できる。

IV 黒褐色の土層。12世紀とそれ以前の時期の旧表土にあたる層だが、多くの範囲では削平等により確認できない。この土層が残る範囲はこの上面で遺構検出面となるため掘削は行なっておらず、分層やそれによる遺構の検出等を基本的に行っていないが、黒色が強い旧表土とみられる土層、灰褐色土層、黒色が強い土層の3層程度に分かれる。これらの土層には、古代や縄文の土器を含み、灰褐色土層は平安時代の、黒色が強い土層は縄文の遺物を基本的に含む土層である。過去の調査でも旧地形の標高が低い範囲などで確認されている。

V 黄褐色の粘土層で、いわゆる地山層である。柳之御所遺跡全体の多くの範囲で遺構検出面となる土層。

なお、このうちⅢ・Ⅳ層は調査範囲全体では確認できず、調査範囲の東側の一部でのみ確認できる。多くの調査範囲はⅤ層の上面にⅡ層の盛土層が堆積し、削平等により改変が行なわれたことがわかる。一部を除き、遺構の多くはⅤ層上面での検出となる。

今回の調査における検出遺構は以下の通りである（図3）。

堀跡 2条

整地層 3カ所

土坑 3個（うち1個は井戸跡の可能性が高い）

柱穴 70個（多くは12世紀以降の遺構）

（櫻井）

1 調査の概要

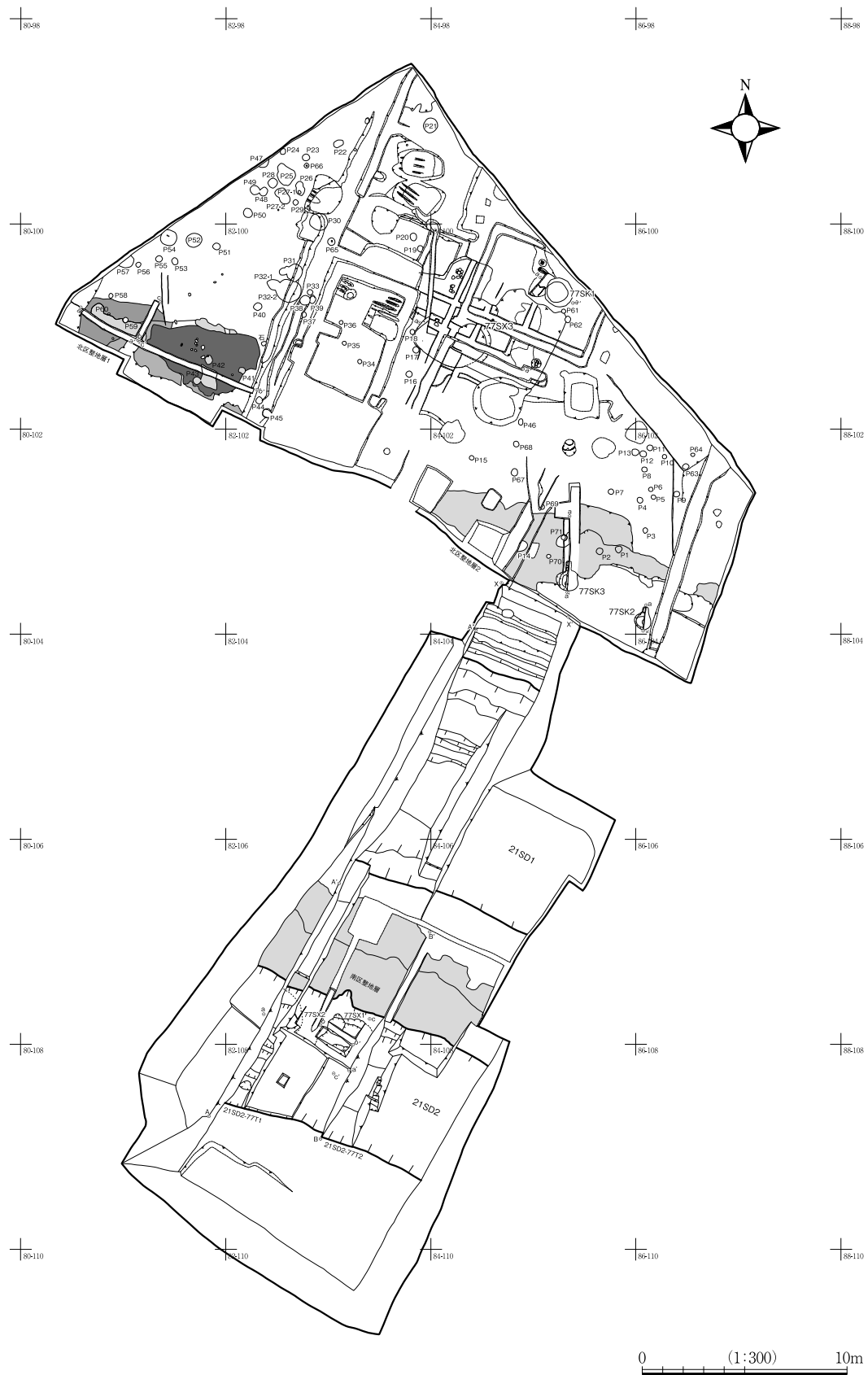


図3 遺構配置図 (1/300)

2 検出遺構

(1) 南区(図4)

堀内部地区南端部西縁から猫間が淵側の低位面にかけて設定した調査区である。既往調査で検出されている堀跡(21SD1・21SD2)の追跡及びこれに付帯する遺構等の確認を主な目的としている。グリッドライン東西81～86・南北103～111の範囲に位置し、84-103グリッド付近で北区と接する。面積は約290㎡である。当区は全体が宅地造成等に伴う厚い盛り土に覆われているが、本来の地形は猫間ヶ淵に向かってやや急に下る斜面である。遺構確認面の標高は高位側が23.5m前後、低位側では22.0m前後である。

① 堀跡

21SD1(図4・5)

〔位置・検出状況・精査方法〕 84-105グリッドを中心に東南東-西北西方向に走行する帯状の灰黄褐色土範囲として検出した。内岸側プランは地山黄褐色土面、外岸側は地山黄褐色土層上位の自然堆積層である黒色～褐色土面でそれぞれ確認している。いずれも後世の宅地化に伴う削平面である。精査方法はトレンチ調査とし、本遺構を直交方向に横断する幅約3.0mの範囲を底面まで完掘した。なお、このトレンチは、南側に並走する21SD2(後掲)及び南区整地層の土層を連続して観察できるよう同一線上に設定している。図5に示した本遺構の断面(A'-A'')は、図6の21SD2-77T1断面(A-A')に連続するものである。

〔形状・規模〕 断面形状は概ね逆台形を呈する。上端幅11.0m、下端幅4.3m、底面までの残存深度は240cm前後、底面標高は21.1m前後である。壁の立ち上がりは本来直線的だったと推測されるが、埋没過程の崩落により壁面中部がやや抉れ緩く内湾した状態となっている。残存形態にみる壁面の勾配は内岸側が40°前後、外岸側が30°前後である。内岸側壁面下部に残存する構築当初の面では50°強の傾斜が認められる。底面は全体に平坦に整っているが、両壁の直下は浅い溝状にわずかに低くなっている。鋤先痕に類似する黒色土の小斑が集中することから、構築時に堀底の幅を規定するため一旦深く掘り下げられた可能性がある。

〔埋土・堆積状況〕 土層断面に観察される最も古い堆積層は内岸側壁直下の21層である。上述した、壁下端に沿って一段深まる部分を埋める土層である。大径の地山ブロックを多く含んでおり、掘削後すぐに埋め戻された可能性が高い。よって中央部の掘方底面に連続する21層上面が構築直後の機能面と推定される。その後両岸側からの崩落土が堆積(20層)、これが安定した後、内部には自然流入による泥(17・18層)の堆積が漸次進んだとみられる。

その後、内岸側壁面の一部でやや大きな壁面の崩壊が生じている(15a～15d層)。土層断面付近の局所的なものであり、壁面には風倒木痕様の不整凹部が認められた。ただし、木炭粒の混入が顕著になるのはこれ以降の堆積層からであることを考慮し、ここでは何らかの画期に伴う人為の可能性を留保しておきたい。

この壁面崩壊後は、再び両岸からの流入土による堆積が進んでいる。8・10・14層の下面は略完形のかかわらけを主体とする遺物分布面となっている。層界にみられるこれらの遺物集中は内岸側からの人為的な投棄によるものを含む可能性が高いが、その上下の堆積層はいずれも自然流入土であり、人為層は認められない。

なお、内岸側からの流入土では土器片・木炭片を含む暗褐色土が、外岸側からはこれらを含まない

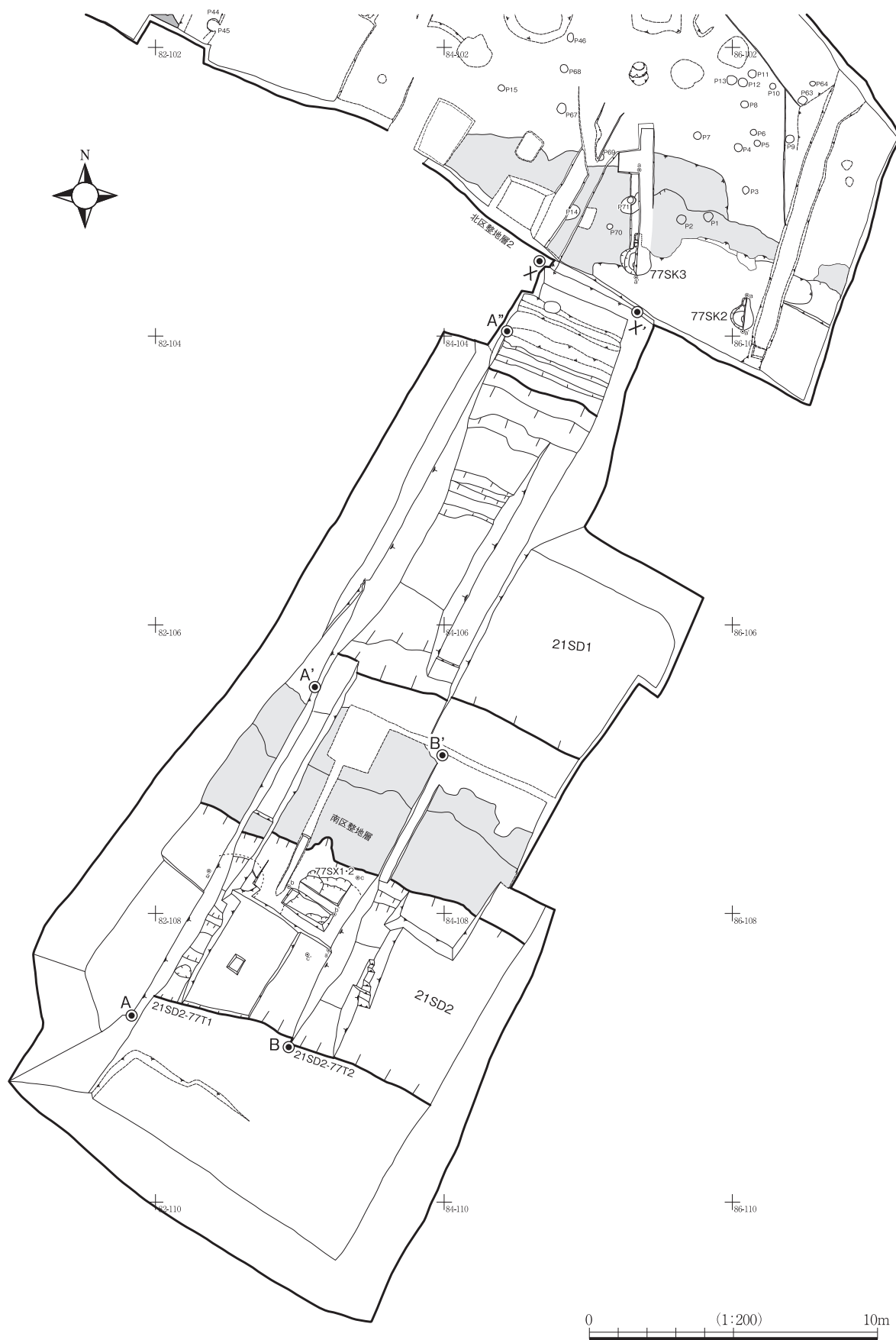
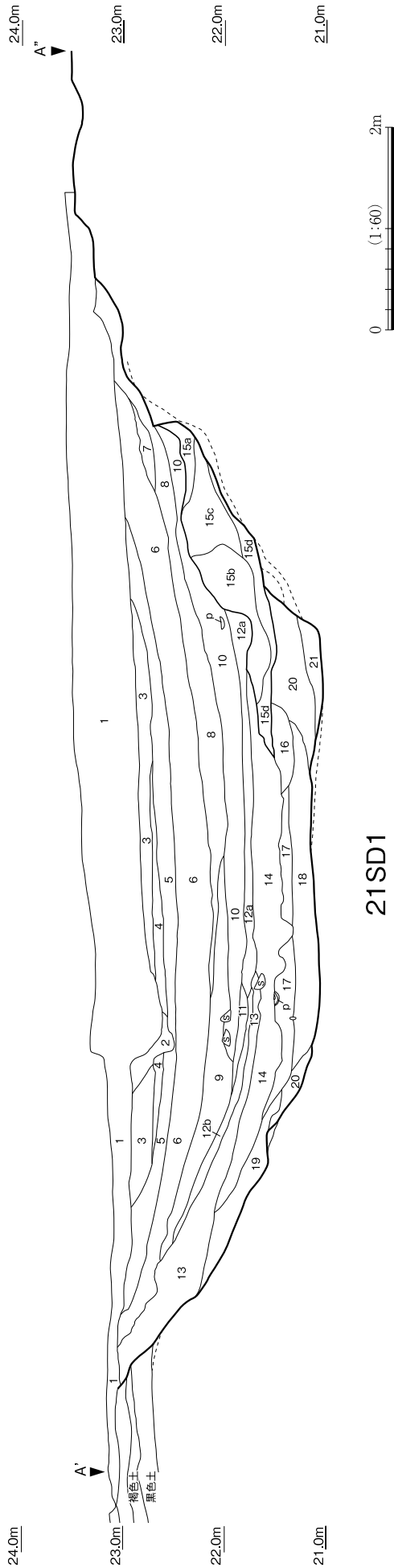


図4 南区遺構平面図



21SD1

層番号	土質	色	説明
1	シルト	灰黄褐色 - 黒褐色	【21SD1】(21SD2-77T1 延長 A'-A') 粘性中
2	シルト	10YR4/2-3/2 灰黄褐色 - 黒褐色	粘性中
3	シルト	10YR4/2-3/2 灰黄褐色 - 黒褐色	粘性中
4	粘土質シルト	10YR3/2 黒褐色	粘性中
5	シルト	10YR3/1-3/2 黒褐色	粘性中
6	シルト	10YR4/2-3/2 灰黄褐色 - 黒褐色	粘性中
7	シルト	10YR4/2-3/2 灰黄褐色 - 黒褐色	粘性中
8	シルト	10YR4/2-3/1 灰黄褐色 - 黒褐色	粘性中
9	粘土質シルト	25Y6/3-5/3 にぶい黄 - 黄褐色	粘性やや強
10	シルト	10YR4/2-3/2 灰黄褐色 - 黒褐色	粘性中
11	粘土質シルト	暗灰黄色	粘性やや強
12a	シルト	10YR3/1 黒褐色	粘性中
12b	粘土質シルト	10YR3/2 黒褐色	粘性やや強
13	シルト	25Y5/3 黄褐色	粘性やや強
14	シルト	10YR3/1-3/2 黒褐色	粘性中
15a	シルト	10YR3/1 黒褐色	粘性中
15b	粘土質シルト	暗灰黄色	粘性やや強
15c	シルト	25Y7/4-6/4 浅黄 - にぶい黄色	粘性中
15d	粘土質シルト	暗灰黄色	粘性やや強
16	粘土質シルト	25Y4/2-3/2 暗灰黄褐色 - 黒褐色	粘性やや強
17	粘土	25Y5/2-5/3 暗灰黄 - 黄褐色	粘性やや強
18	粘土	10YR3/1 黒褐色	粘性强
19	シルト	10YR3/2 黒褐色	粘性中
20	シルト	25Y4/2-3/2 暗灰黄 - 黒褐色	粘性中
21	シルト	25Y4/2-3/2 暗灰黄 - 黒褐色	粘性中

図5 21SD1 断面図

褐色の粘質土が、それぞれ主体土となっている。両者は壁寄りでは明らかに層相を異にするが、互いが交わる中央部では明瞭な層界を成さず、同一の環境下で同時的に堆積したものと理解される。

この層相の差異は、すなわち内岸・外岸それぞれの地表面の状況の相異を反映していると考えられる。内岸側では、遺跡内部で生じた木炭や遺物が、地表及びそれを形成する土層内（後掲、北区整地層2上位に想定される堆積層）に多く含まれ、且つこれらの流入を著しく制限するものが存在しない環境であったと推測される。一方、外岸側は、遺物・木炭等の人間活動に伴う生成物の少なさを除けば、地山土を用いた整地層に被覆されている点で内岸側と共通するものの、表土の生成とその流入が抑制される構造となっていた可能性が高い。南区整地層は後世の削平によって上部を失っており、残存面より上位の構造は不明となっているが、地山土を大量に用いた土塁様の構築物を想定することで、本遺構内の堆積層に認められる上述の諸相が理解できる。外岸側流入土の9層に覆われた10層上面では、壁に平行し帯状に分布する転礫群（径20cm前後）も検出されている。外岸側構築物に伴う何らかの材であった可能性を指摘しておきたい。

このほか、16層と14層外岸側下面並びに12a層下面両端では、それぞれ浅い落ち込みが確認されている。土層断面で認識したものであり面的な広がりには把握できていないが、上述した掘方底面両側縁の浅い溝状落ち込みや鋤先痕様の小黑斑を考慮すれば、埋没途上のある段階に保守目的の底面整形等が行われた可能性があり、その痕跡とみることもできよう。

埋没の最終段階には遺構の上部は周辺よりもやや低い連続した凹地となったと思われる。4層以上は近現代以降の堆積層であり、他の調査地点と同様、概ね近世以降は水田等に利用されたとみられる。

〔重複・先後関係〕 今次調査地点において、直接的に切り合う他の遺構はない。既往調査の成果から、当初構築時期は後掲21SD2のそれよりも新しく、また、相互の埋土の対比から21SD2最新段階（層群⑧、後述）に併行すると推測される。

〔出土遺物〕 図15～23

21SD2（図4・6）

〔位置・検出状況・精査方法〕 83-108グリッドを中心に東南東-西北西方向に走行する帯状の灰黄褐色土層として検出した。内岸側プランは南区整地層残存部上面、外岸側は現代盛土直前の旧表土層下面でそれぞれ確認したものである。内岸側は後世の宅地化に伴う削平面であり、外岸側は上述の旧表土層下面に切られている。精査方法はトレンチ調査とし、本遺構を直交方向に横断するトレンチを2箇所を設定した。南区西壁に沿って設定したトレンチ（21SD2-77T1）では幅約1.2mの範囲を底面まで完掘した。本トレンチは南区整地層を横断し、先掲21SD1断面に連続するよう同一線上に設定している。図6に示した本遺構の断面（A-A'）は、図5の21SD1断面（A'-A''）に連続するものである。また、検出範囲のほぼ中央には21SD2-77T2を設定し、幅2.0mの範囲を完掘した。本トレンチの断面もまた南区整地層に連続させて延長し相互の関係の把握に努めた（B-B'）。

〔形状・規模〕 二つのトレンチ（77T1・77T2）断面の間隔は5.0m程であるが、完掘状態における両者の断面形状は大きく異なる。後述するが、これは本遺構が複数回の再掘削を経ていることに起因する。77T1では、内岸側壁面直下が他より一段深いV字状を呈し（底面標高約20.8m）、また底面中央付近は幅広のU字状に低くなっている（同20.9m）。これより外岸側ではほぼ平坦な安定した底面が壁直下まで連続している（同21.2m）。上端幅7.9m、下端幅4.0m前後、内岸側壁面直下最深部までの残存深度は240cmである。残存形態にみる壁面の勾配は内岸側下部で62°、同中部～上部は46°ほどである。外岸側は下部から中部にかけて50°前後で立ち上がった後、上部はやや大きく外反している。一方、77T2では比較的整った逆台形の断面形を呈する。上端幅6.3m、下端幅2.7m、底面ま

での残存深度は260cm、底面標高は20.6mである。壁面勾配は内岸側が52°、外岸側が40°で、いずれもほぼ直線的に立ち上がる。底面は両トレンチとも掘方に従って平滑に整っており、凹凸等は見られなかった。なお、77T2の外岸側については、プランの把握が困難であったことから調査時に若干掘り下げ過ぎている。本来は77T1と同様、標高22.3m程まで壁が残存したものと推測される。また、内岸側上端の一部（83-107グリッド）では、「水口」状の張出し部が検出されている。この部分については断ち割り等の精査を行っていないため、構造の詳細は不明である。

〔埋土・堆積状況〕 本遺構の土層断面には、先行の堆積層を後続のそれが切る複雑な重複が認められる。両トレンチの堆積層を大別すると、下表のように整理・対比できる。

表4 21SD2トレンチ断面土層対応表

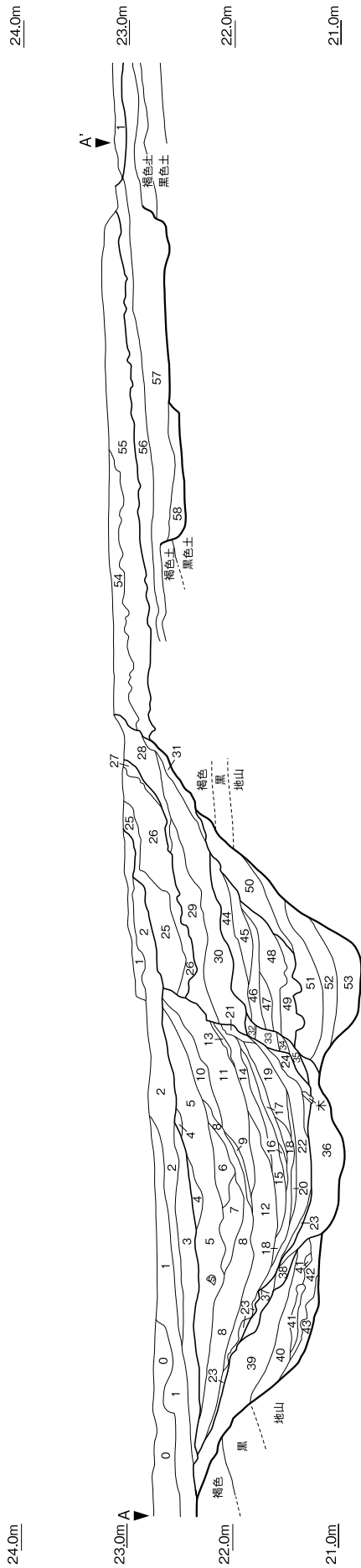
層群	性状・特徴・性格等	77T1 (断面A-A')	77T2 (断面B-B')
—	表土層・攪乱層	0-3	1
⑧	砂質帯び木炭片含む（21SD1並行期以降）。遺物急増。	4-24	(2?)/5-6
⑦	不整掘り込みの埋め戻し土。77SX1・77SX2埋土。	25-27	3-4
⑥	内岸側からの流入層か。「南区整地層」に直接接する。	28-31	7-9/19
⑤	再堆積の灰白火山灰層顕著。水成堆積。流路の累積。	32-35	10-18/20-22
④	平坦な底面に杭痕状の凹凸を持つ。逆台形か。	44-49	23-37
③	中央切る流路か。	(?)	38-39
②	中央深く切るU字形。水成堆積顕著。	36-38	40-43
①	V字～逆台形。構築最初期段階。当初の崩落土層含む。	39-43/51-53	44-45/46-47/48

最も古期に位置づけられる層群①は、77T1では内岸・外岸側それぞれの壁際に堆積している。本遺構の掘方壁面上部には、地山黄褐色土層の上位に位置づけられる自然堆積層（暗褐色～黒褐色土）が露出しており、これらが壁面から直接流入して形成された本層群は、特に下部において粘性と黒味の強い性状を呈する。77T2においては両壁際から連続して底面全体を直に覆っており、この地点の掘形状が最古期のそれであることを示している。内岸側では77T1に比して地山土塊を多く含む崩落土層が目立ち、また底面中央部では崩落層の直上に細い水流の痕跡(B-B' : 45層)も認められることから、構築後の崩落が落ち着いた段階で一旦安定したと思われる。なお、ひとつ注意が必要なのは77T1の内岸側最深部の解釈についてである。このV字状の掘方は77T2断面には表れていない。このため、本層群下面の逆台形掘方に先行するV字状の掘方が、77T1付近に部分的に残存したと見られることもできる。あるいは通水のため底面の一部を深く掘り下げていた可能性も含め、他地点の様相と比較しながら慎重に検討する必要がある。

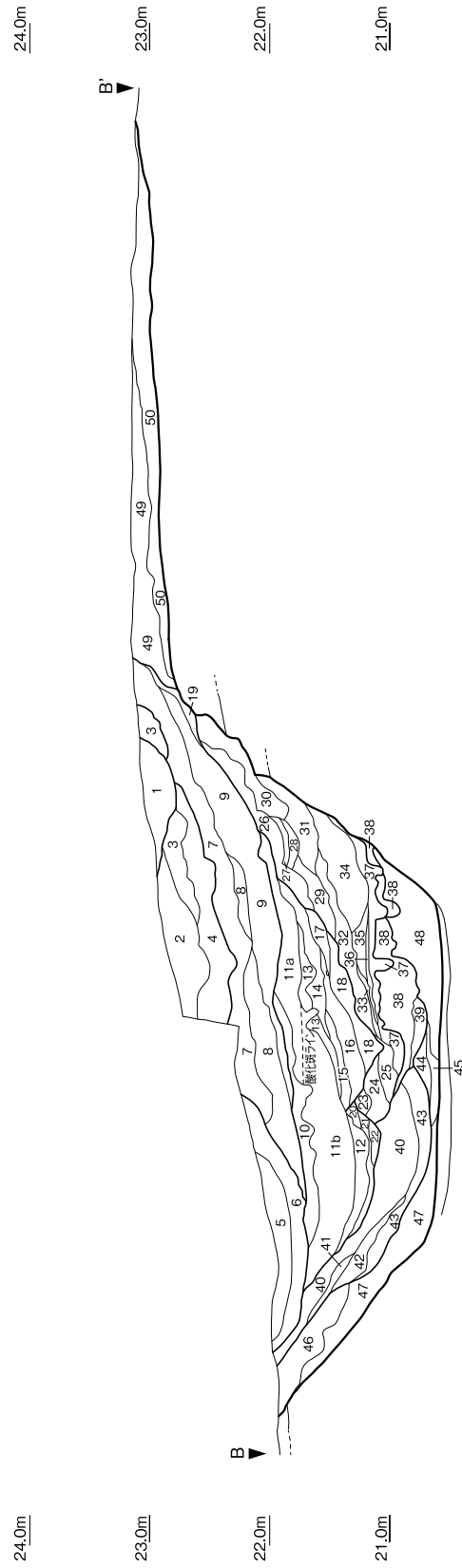
層群②は、層群①を大きく深く切る水成堆積層である。下面がU字形をなし、77T1では構築当初の底面をさらに下方に切り込んでいる。77T2では、層群②が同様の水成堆積による層群③に切られる様子が確認できる。層群①の形成後、遺構内部に生じた流水は一旦深く埋土を削り、その後も幾度か流路を移動させながら堆積を進めたことが理解される。

層群④は、下面がレンズ状を成す下位層群を水平に切る新たな掘り込みである。底面に小規模な凹凸を持ち、この部分では下位の土層をさらに下方に引きずるように押し下げている様子が観察されることから、乱杭等の痕跡かも知れない。この掘り込みもまた崩落・流入土によって上部まで堆積が進んでおり、その過程の幾筋かの小規模な流水痕跡も認められる。

層群⑤は④に後続する、重複した複数の流路からなる水成堆積層である。全体に十和田a火山灰類



21SD2-77T1



21SD2-77T2

図6 21SD2断面図

【21SD2-77T1】(A-A)

0	攪乱層(現代盛土)				
1	25Y4/2	暗灰黄色	シルト	粘性中	しまり密。現代盛土の直前の表土層。
2	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。1層に似るがやや明るく粘土質。
3	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。土器細片・炭粒(径5-10mm)極微量。上下位の土層に比して黒味。
4	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。2層によく似る。
5	25Y4/2	暗灰黄色	シルト	粘性中	しまり中。土器小片・小礫(径5-10mm)・角張った木炭片(径10-20mm)を含む。全体にやや砂質。※土器・炭が目立つ層。
6	25Y4/3	オリーブ褐色	シルト	粘性中	しまりやや疎。炭粒(径5mm)極微量。
7	25Y5/2-5/3	暗灰黄-黄褐色	シルト	粘性中	しまり中。炭粒(径1-2mm)極微量。上・下位層よりやや明るい。
8	25Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。炭小片(径5-20mm)微量。下部ほど黒味。
9	25Y3/2	黒褐色	シルト	粘性中	しまり中。淡黄色粘土粒(径5mm)微量。全体に砂質帯びる。
10	25Y4/3	オリーブ褐色	シルト		6層によく似る。
11	25Y4/2	暗灰黄色	シルト	粘性中	しまり中。淡黄色粘土ブロック(径5-10mm)微量。炭粒(径5-10mm)微量。
12	25Y5/2	暗灰黄色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。25Y6/3-5/3に黄-黄褐色細砂の薄層挟む。
13	25Y4/2-3/2	暗灰黄-黒褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり中。炭粒(径5mm)微量。上・下位層より黒味強い。
14	25Y4/2-4/3	暗灰黄-オリーブ褐色	砂質シルト	粘性中	しまり中。淡黄色粘土ブロック(径5-10mm)・25Y4/2暗灰黄色粘土質シルトブロック(径10-30mm, 29・30層の崩落土)をそれぞれ少量含む。炭粒(径5-10mm)極微量。
15	25Y5/2	暗灰黄色	粘土		12層によく似る(12層との層界に細砂薄層挟む)。内岸側では砂質強まり14・17層に似るが、粘性はより強く明るい。
16	25Y3/2	黒褐色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。
17	14層によく似る。				
18	25Y4/1-3/2	黄灰-黒褐色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。
19	14・17層によく似る。				
20	25Y4/1	黄灰色	粘土	粘性強	しまりやや密。
21	25Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。29層の崩落土。
22	上部:25Y3/1黒褐色粘土、下部:25Y4/1黄灰色粘土。上部は25Y4/1黄灰色粘土の薄層(厚さ2-5mm)複数枚入り互層成す。粘性強しまり中。				
23	25Y4/2	暗灰黄色	砂質シルト	粘性中	しまり中。全体に砂含み砂質強い。
24	10YR3/1	黒褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり中。木質繊維含みモサモサ。
25	25Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	粘性中	しまりやや密。25Y6/4に黄褐色粘土質シルトブロック(径5-30mm)少量。陶器片・かわらけ細片微量。
26	25Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	粘性やや弱	しまりやや密。25Y6/4に黄褐色粘土質シルトブロック(径5-40mm)大量。25Y3/2黒褐色粘土質シルトブロック(径5-20mm)微量。※整地層土の再堆積土(人為)であろう。混入ブロックは上方からの加圧により水平方向に潰れている。
27	25Y4/2-3/2	暗灰黄-黒褐色	シルト	粘性中	しまり中。炭粒(径5mm)極微量。
28	25Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。混入物ない土層。
29	25Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり密。
30	25Y4/1-4/2	黄灰-暗灰黄色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり密。29層に似るがやや暗く淡黄色粘土ブロックを極微量含む。内岸側の壁際では混入ブロックが上方からの加圧により潰れたような様相呈す。※21SD2-T2の11a層に対比
31	25Y6/3-6/4	に黄褐色	粘土ブロック層	粘性やや強	しまりやや密。粘土ブロックは層界に沿って潰れている(上方からの加圧によるか)。※30層の内岸壁際下部に相当。
32	25Y4/2	暗灰黄	粘土質シルト	粘性やや強	しまり密。淡黄色粘土ブロック(径20mm)微量。
33	25Y5/2-4/2	暗灰黄色	シルト	粘性中	しまりやや密。全体にやや砂質帯びる(44層の火山灰様シルトを全体に含む)。
34	25Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり中。上半部に10YR7/3-6/2に黄橙-灰黄褐色火山灰様シルト多量に含む。
35	33層によく似る。				
36	25Y4/1黄灰色粘土と25Y3/1黒褐色粘土の互層。粘性強				
37	25Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	粘性やや弱	しまり中。10YR6/3-5/3に黄橙-に黄褐色火山灰様シルトを多く含む全体明るい。
38	34層に似る。火山灰様シルト上部に多量。				
39	25Y4/2-4/3	暗灰黄-オリーブ褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。
40	25Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり密。
41	25Y3/1-3/2	黒褐色	シルト	淡黄色粘土ブロック(径2-5mm)やや多量。	
42	25Y3/1-3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり密。
43	25Y3/1-3/2	黒褐色	粘土質シルト		淡黄色粘土ブロック(径10-30mm)やや多量。壁崩落土。
44	25Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	粘性やや弱	しまり中。10YR6/3-5/3に黄橙-に黄褐色シルト(火山灰様)多く含む(低位部側により多い)、全体明るく砂質帯びる。37層に似る。
45	25Y5/2-4/2	暗灰黄-暗灰黄色	粘土質シルト	粘性中	しまりやや密。44層に比して黒味強い。
46	25Y4/2	暗灰黄色	シルト	粘性中	しまり中。全体に火山灰様シルトやや多く含む。
47	25Y4/2-4/3	暗灰黄-オリーブ褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。全体にやや黄味。
48	25Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。炭粒(径2-5mm)極微量。黒味強い。
49	25Y4/2	暗灰黄色	粘土	粘性強	しまり中。下面に小穴状の落ち込みが観察される。
50	25Y4/1-3/1	黄灰-黒褐色	シルト	粘性中	しまり密。
51	25Y3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性強	しまり中。25Y6/3-6/4に黄褐色土ブロック(径5-15mm)やや多量。
52	25Y4/2-3/2	暗灰黄-黒褐色	粘土	粘性強	しまり中。炭粒(径2-5mm)極微量。木質細片極微量。
53	25Y3/1黒褐色粘土質シルト・25Y4/2暗灰黄色粘土質シルト・25Y6/3に黄褐色粘土のブロック層(各径20-40mm)。粘性やや強				
54	SD2-T2の整地層上部に同じ。				
55	SD2-T2の整地層下部に同じ。				
56	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。※整地層直下の自然堆積黒色土層(旧表土)。古代堅住居跡を覆う。55層との間に間層なし。本層上面は12世紀における土地利用開始直前の地表面とみられる。
57	10YR4/2-3/3	暗灰黄-暗オリーブ褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。炭粒(径2mm)極微量。内堀(21SD1)側に向かって徐々に明るくなる(〜10YR4/3に黄褐色)。※平安時代前期堅住居跡埋土。
58	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり中。褐色土ブロック(径2-5mm)微量。※古代住居跡の掘方または付属施設等の埋土か

2 検出遺構

【21SD2-77T2】(B-B)

1	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。
2	2.5Y4/2-10YR4/2	暗灰黄-灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。角張った木炭片(径5-30mm)微量。木炭混入目立つ層。
3	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。浅黄色粘土ブロック・暗褐色土ブロック(径10-20mm)やや多量。
4	2.5Y4/2-4/3	暗灰黄-オリーブ褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。浅黄色粘土ブロック(径10-30mm)大量(ほぼブロック層)。
5	10YR4/2	暗灰黄色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり密。2.5Y5/2暗灰黄色粘土ブロック(径10-40mm)少量。2.5Y6/3にぶい黄色粘土ブロック(径5-40mm)少量。炭粒(径5mm)極微量。
6	2.5Y5/3	黄褐色	細砂と同色粘土の互層。	粘性中	しまり中。下部ほど砂質強く粗い。角張った木炭片(径10-20mm)微量。
7	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土	粘性やや強	しまり密。2.5Y6/3-6/4にぶい黄色粘土ブロックやや多量。混入ブロックは幅150mm厚さ1-2mm程度に水平方向に引き延ばされている。上方からの突き固めによるか。
8	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土	粘性やや強	しまり密。7層に似るが粘土ブロックは極微量。炭粒(径2-5mm)極微量。
9	10YR4/2-3/2	灰黄褐-黒褐色	粘土	粘性やや強	しまり密。9層に似るが炭片(径5-20mm)微量含む。木炭目立つ土層。
10	8層に似る。下面に沿って酸化斑顕著(※酸化斑は本層下面~11a層下面~13層にかけて水平方向に発達)。				
11a	10YR3/1	黒褐色	粘土	粘性やや強	しまり密。炭粒(径5-20mm)極微量。下面に酸化斑発達(※10層記載参照)。
11b	11aに似るが、2.5Y砂質シルトのラミナが顕著な部分。				
12	10YR3/2	黒褐色	シルト	粘性やや強	しまり中。10YR4/2灰黄褐色細砂のラミナみられる。全体に木質繊維含み赤味帯びる。
13	10YR4/2	灰黄褐色	砂質シルト	粘性やや弱	しまりやや密。全体に酸化斑顕著(※10層記載参照)。
14	2.5Y4/1-3/1	黄灰-黒褐色	粘土		2.5Y6/3にぶい黄色粘土ブロック(径2-5mm)微量。上下位の土層に比して黒味強い。
15	10YR3/2	黒褐色	シルト	粘性中	しまり中。火山灰様の灰白細砂を全体に含む(十和田a火山灰の再堆積か)。
16	10YR3/2	黒褐色			粘土質シルトと火山灰様灰白細砂の互層(ラミナ状呈する部分有り)。
17	15層に似る。				
18	10YR4/1	褐灰色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。最下部に32層の崩落ブロック層みられる。
19	2.5Y6/2-5/2	灰黄-暗灰黄色	粘土ブロック層	粘性中	しまり密。整地層(49-50層)を切る土層(※10層下面~11a層下面に対応する可能性有り)。
20	10YR4/1-4/2	褐灰-灰黄褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。全体にやや砂質。
21	10YR4/1	褐灰色	シルト	粘性中	しまりやや密。全体にやや砂質。20層より黒味。
22	10YR3/2	黒褐色	シルト	粘性中	しまり中。全体に木質繊維含みやや赤味。21層との層界に粗砂薄層。
23	2.5Y4/1-4/2	黄灰-暗灰黄色	シルト	粘性中	しまり中。20層に似る。
24	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。
25	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。下面に沿って淡黄色粘土・黒褐色土のブロック層(32層の再堆積土か)。
26	10YR4/2	灰黄褐色	シルト	粘性中	しまり密。淡黄色粘土ブロック(径10mm)極微量。ガッチリと堅く締まった土層。
27	10YR3/2	黒褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。26・28層に似るが、黒褐色土ブロック多く含み黒味強い。
28	26層に似る。				
29	2.5Y4/2	暗灰黄色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。2.5Y6/2-7/3灰黄色粘土ブロック(径50mm)大量。ほぼ粘土ブロック層。
30	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。2.5Y6/2-7/3灰黄色粘土ブロック(径5-20mm)多量(小径ブロック主体の層)。
31	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまりやや密。2.5Y6/2-7・3粘土ブロック(径5-20mm)微量。
32	10YR4/1	褐灰色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。淡黄色粘土・黒褐色土ブロック(径5-30mm)少量。34・35層の再堆積とみられる。
33	10YR4/1	褐灰色	粘土	粘性やや強	しまりやや密。
34	10YR4/1	褐灰色粘土・2.5Y6/2-7/3灰黄-浅黄色粘土・10YR3/1黒褐色シルトのブロック層。	粘性やや強	しまりやや密。※整地層(49層)を構成する各土塊のブロックからなる。崩落土か。	
35	2.5Y6/2-7/3	灰黄-浅黄色	粘土ブロック層(径10-50mm)。	粘性やや強	しまり密。
36	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり中。全体に細砂含む。
37	10YR4/2	灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまり中。上面は水平だが下面が波打つ(杭等の打設痕か、下位38層の一部も下方に引きずられている)
38	10YR4/1 褐灰色粘土・2.5Y6/2-7/3灰黄-浅黄色粘土・10YR3/1黒褐色シルトの細かいブロック層(各径5-10mm)。				
39	2.5Y4/1	黄灰色	粘土	粘性強	しまり中。細砂のラミナみられる。
40	2.5Y4/1	黄灰色	粘土	粘性強	しまりやや密。木質細片極微量。
41	10YR4/3-3/4	にぶい黄褐-暗褐色	細砂	粘性やや弱	しまりやや密。
42	10YR4/1-3/2	褐灰-黒褐色	シルト	粘性やや強	しまり中。炭粒(径5mm)極微量。
43	2.5Y4/1	黄灰色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。
44	10YR4/4	褐色	粗砂	粘性弱	しまりやや疎。
45	2.5Y6/2灰黄色粘土と2.5Y5/1黄灰色粘土の互層。				
46	2.5Y5/2	暗灰黄色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。
47	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。
48	2.5Y6/2-7/3灰黄-浅黄色粘土・10YR3/1黒褐色シルト・10YR4/1褐灰色粘土のブロック層(各径20-50mm)。			粘性やや強	しまり中。※整地層構成する各土塊のブロックからなる。崩落土か。
49	10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト・10YR3/1黒褐色粘土質シルト・10YR6/2-6/3灰黄褐-にぶい黄褐色粘土のブロック層(各径50-200mm)。粘性やや強 しまり密。整地土層上部を構成。				
50	2.5Y6/2-6/3	灰黄-にぶい黄色	粘土	粘性中	しまり密。整地土層下部を構成。

似の灰白色細砂の混入が顕著であり、また同層群内においても後続の流路内に先行土層からの再流入を繰り返して、複雑な様相を見せている。今次調査区付近では古代の自然堆積層が良好に残存するものの、火山灰層の堆積は見られないことから、本層群に見られる火山灰は上流側から流下したものである可能性が高い。なお77T1断面においては、火山灰の混入を根拠にA-A' : 32~35層を本層群に充てているが、後掲の層群⑧最下部もまた本層群に含むべきだったかもしれない。将来、より条件の良い地点で再検討されることを望む。

層群⑥は内岸側壁面最上部の南区整地層に直接接し、遺構内部側に向かって流れ込むように堆積する。下位土層の上面をその傾斜に沿って調和的に覆う様子から、遺構内部が本層群の下面付近まで埋没した段階に内岸側から流入したものとみられる。暗灰黄色の粘土質土を主体土としており、これに南区整地層に用いられた地山黄褐色土のブロックが少量混入する。黄褐色粘土のブロックは層界に多いが、層界と平行する方向に潰れて延びたブロックが層中全体にも含まれる。混入ブロックが潰れる現象は本層群が人為によるものである可能性も示唆しているが、主体土の粘土質土は自然流入の様相を呈することから、後掲の上位人為層、層群⑦の土圧による間接的な沈縮と見るのが妥当であろう。なお、本遺構内の堆積層のうち、南区整地層と直接的な切合い関係にあるのは本層群のみであり、南区整地層は少なくとも本層群下面段階と同時かより古いことは指摘できるが、本遺構の初期段階との先後関係については明らかでない。また、上述した内岸側上端の「水口」状張出し部(83-107グリッド)は、本層群に直に覆われていることから、本層群の直前に位置づけられる。

層群⑦は地山黄褐色土ブロックを主体とする人為的な埋め戻し土である。当初、内岸に沿って連続する人為層と認識していたが、77T1-77T2間の土層断面において内岸と直交方向の立ち上がりが確認されたことから、個別に分離させ77SX1・77SX2とした。この部分の精査については別に述べる。

層群⑧は本遺構が「堀」状の形態を維持し機能した最終段階の埋土に相当する。流水に伴う堆積土と周囲からの流入土が交互に堆積する様子がみられる。下位の層群が粘土質土を主体とするのに対し、本層群は砂質が強く、また炭化物の混入が急激に増加する特徴を持つ。特に炭化物については、下位層群では径の小さい「粒」状を呈し量もわずかだが、本層群には10~20mmほどの外形の角張った「小片」が多く含まれる。完形に近いかわらけや陶器の大形破片等、出土遺物が急増するのも本層群からである。これらの性状は遺跡内部側に並走する21SD1の埋土に極めて良く似ており、両者の併行段階を指し示す土層といえる。なお先述の通り、77T1における本層群の下部については層群⑤との識別に苦慮した。77T1：8層または12層の下面が本層群の下限となりうる可能性を付記しておきたい。

本遺構の断面からは以上のような変遷を読みとることができるが、21SD1に比して極めて複雑な様相を呈する原因には、上流側からの断続的な流水が上げられる。少なくとも今次調査地点では、一定量の滞水を示す痕跡は見当たらず、出水時に遺構内に生じた小規模な流路がその都度側方移動し、その累積が複雑な堆積状況を形作ったと考えられる。また、下流側の末端にはこの流水を排出する開口部を想定する必要があるが、河川増水時には逆に下方からの浸水が度々あったことが想像される。今次調査区一帯の遺跡南端部では、出水時には浸水・崩壊等の被害を受けやすかったと考えられ、本遺構についても、人為による保守(流路整備や壁面補修等)が適宜為されたであろう。このこともまた、堆積層の複雑化の一因と考えられる。

〔重複・先後関係〕 既往調査の成果から、当初構築時期は21SD1より古い。直接的な切合い関係から、少なくとも層群⑥下面段階以上は南区整地層より新しい。また層群⑥上面段階に後掲77SX1・77SX2に切られている。層群⑧堆積段階は土層性状の対比から21SD1に併行すると推測される。

〔出土遺物〕 図24・25

② 整地層

南区整地層 (図4)

〔位置・検出状況・精査方法〕 83-107グリッド付近を中心に、21SD2の内岸側上端に沿って東南東-西北西方向に広がりを持つ、地山に類似した黄褐色土範囲として検出した。検出面は後世の宅地化に伴う削平面である。精査方法はトレンチ調査とし、21SD2-77T1及び同77T2を延長して、それぞれ幅約1.0m・0.5mの範囲を整地土層の下面以下まで掘り下げた。土層断面は先掲21SD2-77T1(A-A')・同77T2(B-B')に併せて示している。

〔規模・形状〕 分布の長軸は10.5mで南区の東西両壁に及び、これと直交する幅は5.0m前後である。層厚は斜面下方の21SD2上端に接する部分が最も厚く35cmを測り、21SD1側に向かって次第に厚さを減じている。21SD1側では残存範囲の縁辺が旧地形の等高線に平行している。

〔埋土・堆積状況〕 21SD2-77T1断面(A-A')に見られるとおり、本整地層の構築面は自然堆積層である黒色土(A-A':56層)上面である。この層は本遺構構築の直前まで自然傾斜を保ち、地表面を形成していた表土層と考えられる。この下位には同じく自然堆積による褐色土層、さらに下には黒色土層が続き、漸移層を経て地山黄褐色土層へと連続する層序を成している。77T1では褐色土層の層中に掘り込み面を持つ竪穴状遺構(A-A':57・58層)が検出され、出土遺物から平安時代前期(10世紀前半)に位置づけられることが分かっている。また上述の上位黒色土層からは、須恵器・土師器小片・縄文時代石器等、平安時代前期以前の遺物のごく僅かに出土しているが、かわらけ等の12世紀遺物は皆無であった。トレンチ調査による限られた範囲での所見ではあるが、層位的には本整地層が当該地点の本格利用が開始された当初段階に位置づけられる可能性を示唆している。本整地層は二層に分層でき、下部は黒色土等が混入しない純粋な地山起源黄色粘土(A-A':55層・B-B':50層)、上部は地山土及び黒色土のブロック層(A-A':54層・B-B':49層)となっている。両者の層界は本整地層下面の自然傾斜に平行し、21SD2側へと緩く傾斜している。なお本整地層の上面は宅地化による水平な削平面であり、自然傾斜の高位側に当たる21SD1との間の空白部においては、本来分布した整地層がこの削平で失われた可能性が高い。削平面(残存面)より上位の構造は不明であり、同面においてピット等の付属遺構も確認されていない。

〔重複・先後関係〕 層位的事実から平安時代前期竪穴状遺構より新しい。また、直接的な切合い関係から少なくとも21SD2層群⑥下面段階より古い。

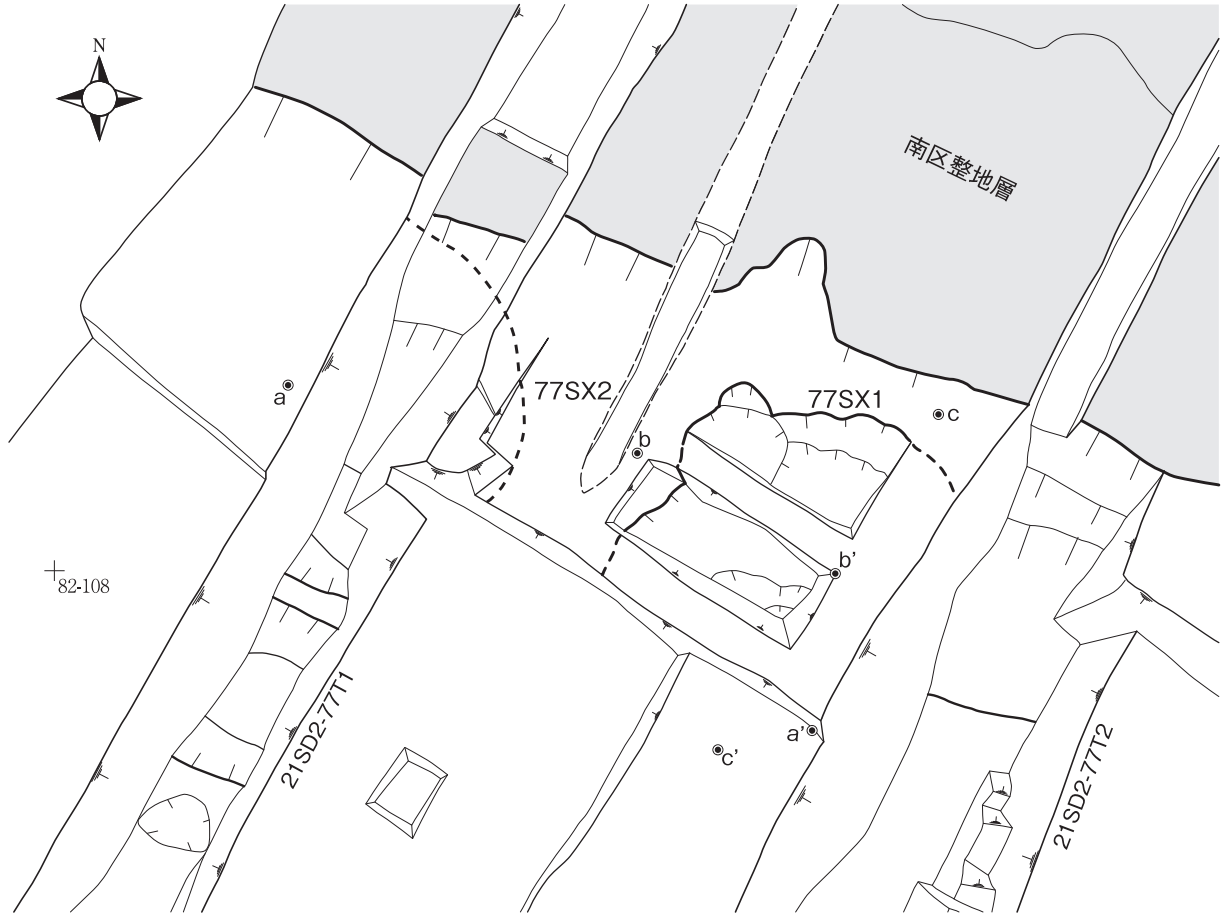
③ その他

77SX1 (図4・7)

〔位置・検出状況・精査方法〕 83-107グリッドの南西部、先掲21SD2内岸側上端の内側に位置する。21SD2埋土上部(層群⑥上面)において、地山黄褐色土ブロック主体の不整形範囲として認識された。21SD2-77T2断面及び周囲の土層断面の観察から、21SD2埋土を切る立ち上がりをもった掘り込みであることを確認し、個別遺構として分離した。21SD2の層群⑦に相当するものである。精査方法は、想定されるプラン内に直交するベルトを設定し、その間を底面まで完掘した。

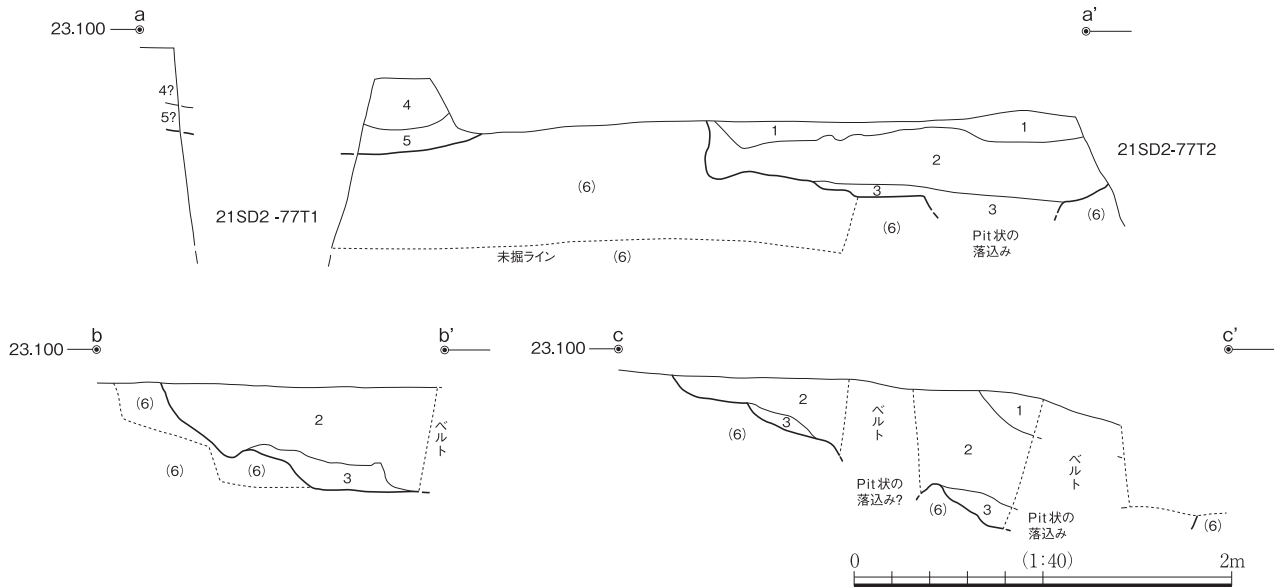
〔規模・形状〕 21SD2の精査によってトレンチ(77T2)重複部と南半部を失っているため、本来の形状・規模は不明となっている。残存部の平面形は周縁が波打つ扇形を呈し、21SD2と平行方向で210cm、直交方向で240cmを測る。壁面は断面a-a'と同c-c'の交差部に向かって求心状に傾斜しており、内湾・直立する部分も見られる。検出面下50~60cmで一旦底面に到達するが、断面a-a'・c-c'交差部付近はピット状にさらに一段深くなる。最深部はベルトの下位に延び完掘できなかった。

〔埋土・堆積状況〕 底面直上及びピット状の凹部には地山ブロックを多く含む黒褐色土層(3層)



77SX1・77SX2

0 (1:60) 2m



【77SX1・SX2 共通】(a-a'・b-b'・c-c')

- | | | | | | |
|-----|-------------|---------|---------------------------|-------|---|
| 1 | 10YR4/1-4/2 | 褐灰-灰黄褐色 | シルト | 粘性やや強 | しまり中。炭粒(径5mm)極微量。 |
| 2 | 2.5Y6/3 | にぶい黄色 | 粘土ブロック層(ブロック径10-20mmが主体)。 | 粘性やや強 | しまりやや密。※21SD2-77T2の4層に相当。 |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐色 | 粘土質シルト | 粘性やや強 | しまりやや密。10YR6/3にぶい黄橙色粘土ブロック(径20-40mm)多量。 |
| 4 | 10YR4/1-4/2 | シルト | 1層によく似る。 | | |
| 6 | 10YR5/2 | 灰黄褐色 | 粘土質シルト | 粘性中 | しまりやや密。2.5Y6/3にぶい黄色粘土及び砂質シルトブロック(径20-30mm)多量。ブロックは上方からの加圧により水平方向に潰れている。21SD2-77T1の26層に相当。 |
| (6) | 2.5Y4/2-3/2 | 暗灰黄-黒褐色 | 粘土質シルト | | 地山淡黄色土ブロックを微量含む。21SD2-77T1の29層・21SD2-77T2の7層に相当。※21SD2内岸側埋土上部を構成する土層。 |

図7 77SX1・77SX2

が堆積している。雨水等による流入の特徴は見られないので、掘削直後にこぼれ落ちたものと考えられる。この上位は地山起源の黄色粘土ブロック層（2層）により大半が埋められている。この堆積状況からは、本遺構が開口させておくことを目的としておらず、掘削後、間を置かずに埋め戻されたことがわかる。底面のピット状凹部の存在から、何らかの材を埋設した可能性も考えられるが、ベルトとの重複部でもあり柱材痕跡等の有無は確認できなかった。なお、2・3層には南区整地層と同じ土壌が用いられているが、同整地層に比して混入ブロックの径が細かいという特徴が認められる。本遺構の埋め戻しに南区整地層の構成土が再利用された可能性を指摘しておきたい。また隣接の77SX2とともに21SD2内岸沿いに並列するあり方は、同様の掘り込みが付近に断続的に分布している可能性を示唆している。既往調査地点における類似土層との対比・検討が課題である。埋土最上部の1層は21SD2の層群⑧に類似した性状を呈する。炭化物の混入量が著しく少ないという相違点があるが、21SD2層群⑧堆積段階の本遺構の有り様を示す可能性がある。

〔重複・先後関係〕 21SD2層群⑥を切る。南区整地層構築段階及び21SD2層群⑥より新しく、21SD2層群⑧堆積段階より古い。

77SX2 (図4・7)

〔位置・検出状況・精査方法〕 82-107グリッドの南部、先掲21SD2内岸側上端の内側に位置する。21SD2-77T1断面及び周囲の土層断面の観察により、先掲77SX1に類似する掘り込みであることを確認し、個別遺構として分離した。21SD2の層群⑦に相当するものである。なお本遺構については断面による範囲の確認にとどめており、その他の部分は未掘のまま保存した。

〔規模・形状〕 21SD2トレンチ(77T1)断面とこれに直交する断面a-a'において確認したものであり本来形状の詳細は不明である。平面図には土層断面から推定される範囲を破線で示した。当該埋土の広がりを確認した範囲は、21SD2と平行方向で170cm、直交方向で220cmであるが、本来は南・西に延びるものであり、この数値は最小値である。検出面からの残存深度は40cm前後で、底面は極緩く内湾している。21SD2トレンチの断面には底面から連続して緩やかに立ち上がる壁面が観察される(77T1:26~27層下面)。

〔埋土・堆積状況〕 埋土は77SX1によく類似し、地山起源の黄色粘土ブロック層(a-a' : 5層)によって下半部が埋められている。77SX1と同様、底面上に自然流入土層の堆積が見られないことから、開口させておくことを目的とせず、掘削後、間を置かずに埋め戻されたものとみられる。

〔重複・先後関係〕 21SD2層群⑥を切る。南区整地層構築段階及び21SD2層群⑥より新しく、21SD2層群⑧堆積段階より古い。

(2) 北 区 (図8)

堀内部地区の南端部西縁、21SD1の内岸側に面する地点に設定した調査区である。グリッドライン東西80~88・南北98~105の範囲に位置し、84-103グリッド付近で南区に接する。面積は約470m²である。当区は全体が宅地造成等による削平を受けており、また建物基礎・水道等の攪乱が全面に及んでいた。本来の自然地形は猫間が淵側の南南西に向かって緩く傾斜する。遺構確認面の標高は25.0~24.3m前後である。

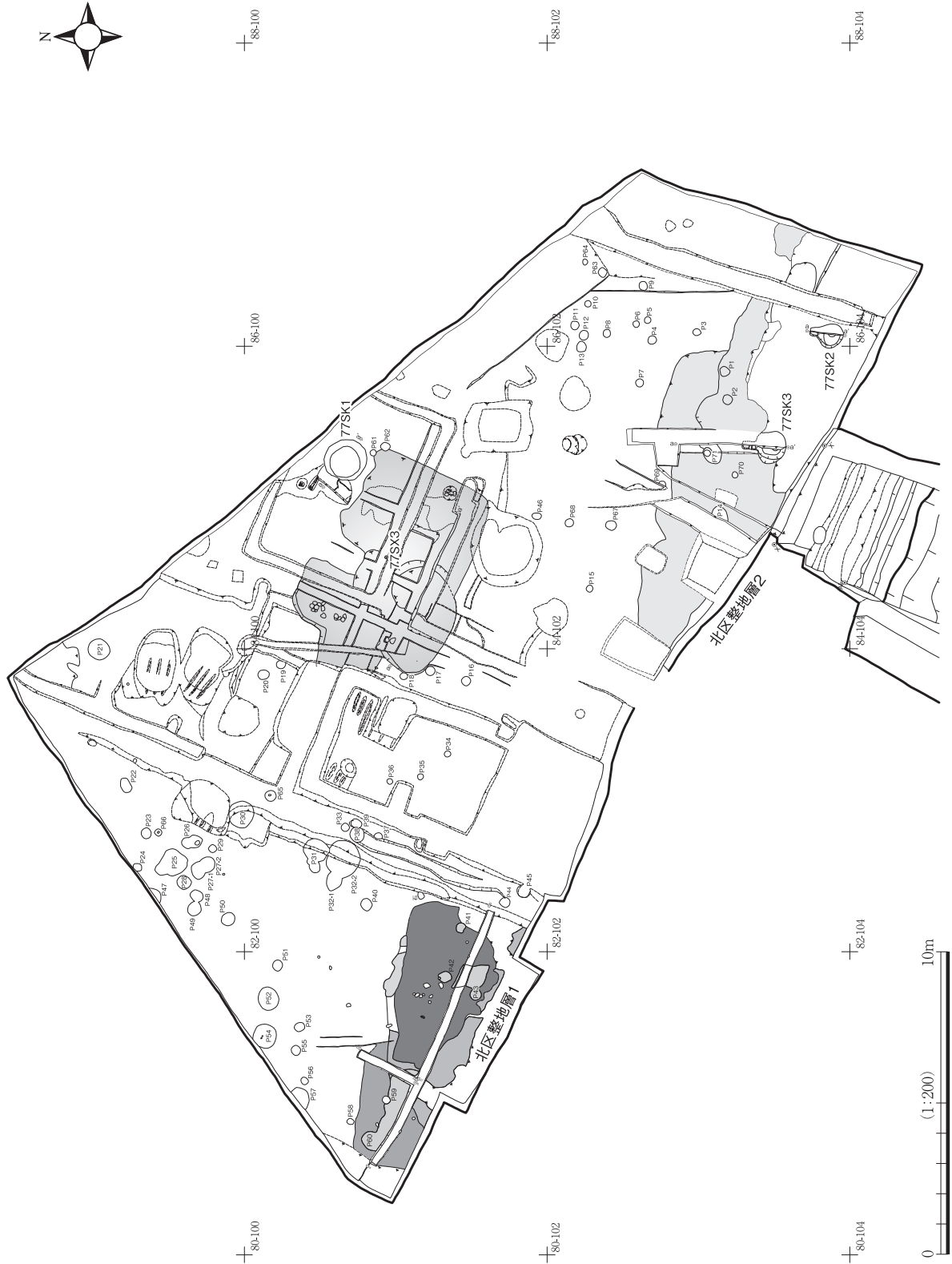


図8 北区遺構平面図

① 整地層

北区整地層1 (図9)

〔位置・検出状況・精査方法〕 81-101グリッド付近を中心に、北区西部の南側縁辺に沿って東南東—西北西方向に広がりを持つ、地山に類似した黄褐色土ブロックの分布範囲として検出した。検出面は後世の宅地化に伴う削平面である。精査方法は溝状の攪乱を利用したトレンチ調査とし、土層断面a-a'・b-b'・c-c'を設定、観察・記録を行った。

〔規模・形状〕 分布範囲は9.0m×3.7mで、東南東—西北西に長軸を持つ。残存範囲の北側縁辺は旧地形の等高線に概ね平行している。なお、本整地層は複数の人為層からなり、またさらに下位にはこれらに先行する掘り込みが確認されたことから、断面の様相については以下に併せて記述する。

〔埋土・堆積状況〕 本整地層の構築面は自然堆積層である黒褐色土層(断面(6)層)上面である。この層は本遺構構築の直前まで自然傾斜を保ち、地表面を形成していた表土層とみられる。その下位は漸移層を経て地山黄褐色土層へと連続する層序を成している。トレンチ内については地山黄褐色土層上面まで掘り下げることとし、整地土分布範囲を横断する断面a-a'・b-b'とこれに直交するc-c'により、検出面以下の堆積状況を観察した。この結果、検出面の下位には堅穴あるいは土坑状の先行遺構が複数存在し、これが人為層と流入層によって埋没していることが判明した。トレンチ調査であるため、これらの先行遺構の詳細な形態は不明だが、断面に観察される各土層と検出面における土層の分布を対比すれば、本整地層の分布範囲は先行遺構群のそれに概ね重なるものと推測される。断面b-b'では、自然堆積の黒褐色土層を掘り込み面とし、概ね地山黄褐色土面を底面とする東西長480cmの堅穴状の掘り込みを確認した。両端にはほぼ直立する壁の立ち上がりが見られ、底面は西半部で平坦に整い、東半部では一段深くなって未掘部へと連続している。堆積状況をみると、西半部底面が大径の地山黄褐色土ブロック層(5層)に覆われ、その後の凹地に黒褐色土(4層)が自然流入し、さらにその上位が薄い人為層(3層)に覆われている。埋土の上部を広く埋めているのは、多量の木炭細片を含む2層である。かわらけ及び陶器片等の遺物も本層に集中する。この層は北区全体の検出面上に広く点在しており、柱痕部分に本層類似土を持つ柱穴状ピットも多く検出されていることから、当区周辺において建物等の施設の廃絶(焼失)が起こった際に生成した土層である可能性が高い。この炭化物層の上位には再び地山黄色粘土による人為層の堆積が見られる。この新期の整地層は後掲の北区整地層2においても観察される。

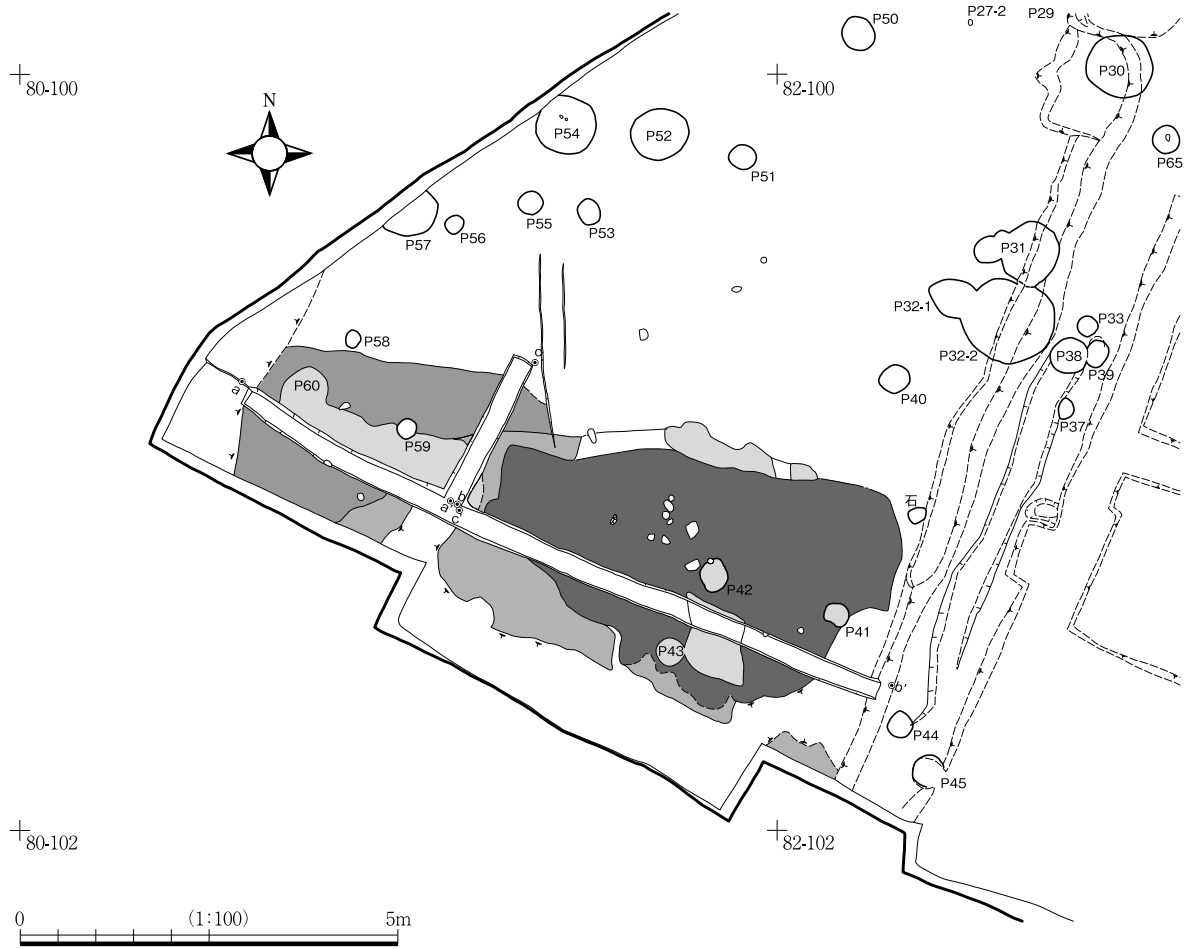
〔重複・先後関係〕 先行遺構とみられる堅穴状・土坑状掘り込み→古期人為層(整地層)→遺物・炭化物集中層→新期整地層の順となる重複関係を層位的に確認した。

北区整地層2 (図10)

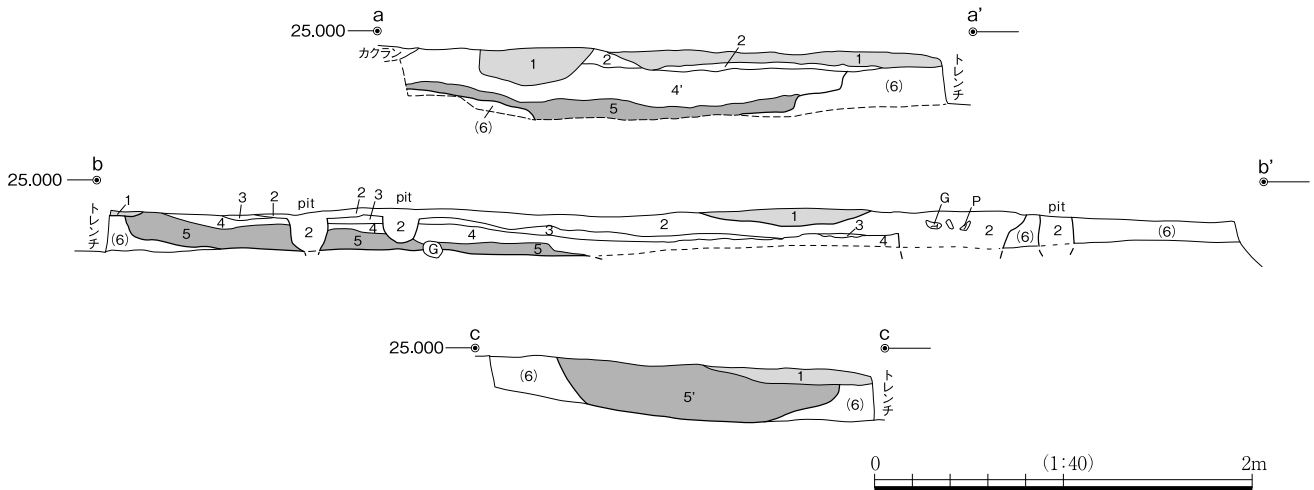
〔位置・検出状況・精査方法〕 85-103グリッド付近を中心に、北区東部の南側縁辺に沿って東南東—西北西方向に広がりを持つ、地山に類似した黄褐色土ブロックの分布範囲として検出した。検出面は後世の宅地化に伴う削平面である。南区との接点部に設定した基本土層観察断面(X-X')及び後掲77SK3の断面を延長した小トレンチにより、堆積状況等の観察を行った。

〔規模・形状〕 分布範囲は14.5m×5.5mで、東南東—西北西に長軸を持つ。残存範囲の北側縁辺は旧地形の等高線に概ね平行し、21SD1に面する南側は宅道に大きく切られている。また、分布範囲の西側及び北区南東隅に当たる部分も攪乱に切られている。本来は北区整地層1に向かって連続していた可能性が高い。層厚は斜面下方ほど厚く最大20cm前後を測り、斜面上方の北側に向かって次第に厚さを減じている。

〔埋土・堆積状況〕 本整地層の構築面は自然堆積層である黒褐色土層(X-X'断面5層)上面であ



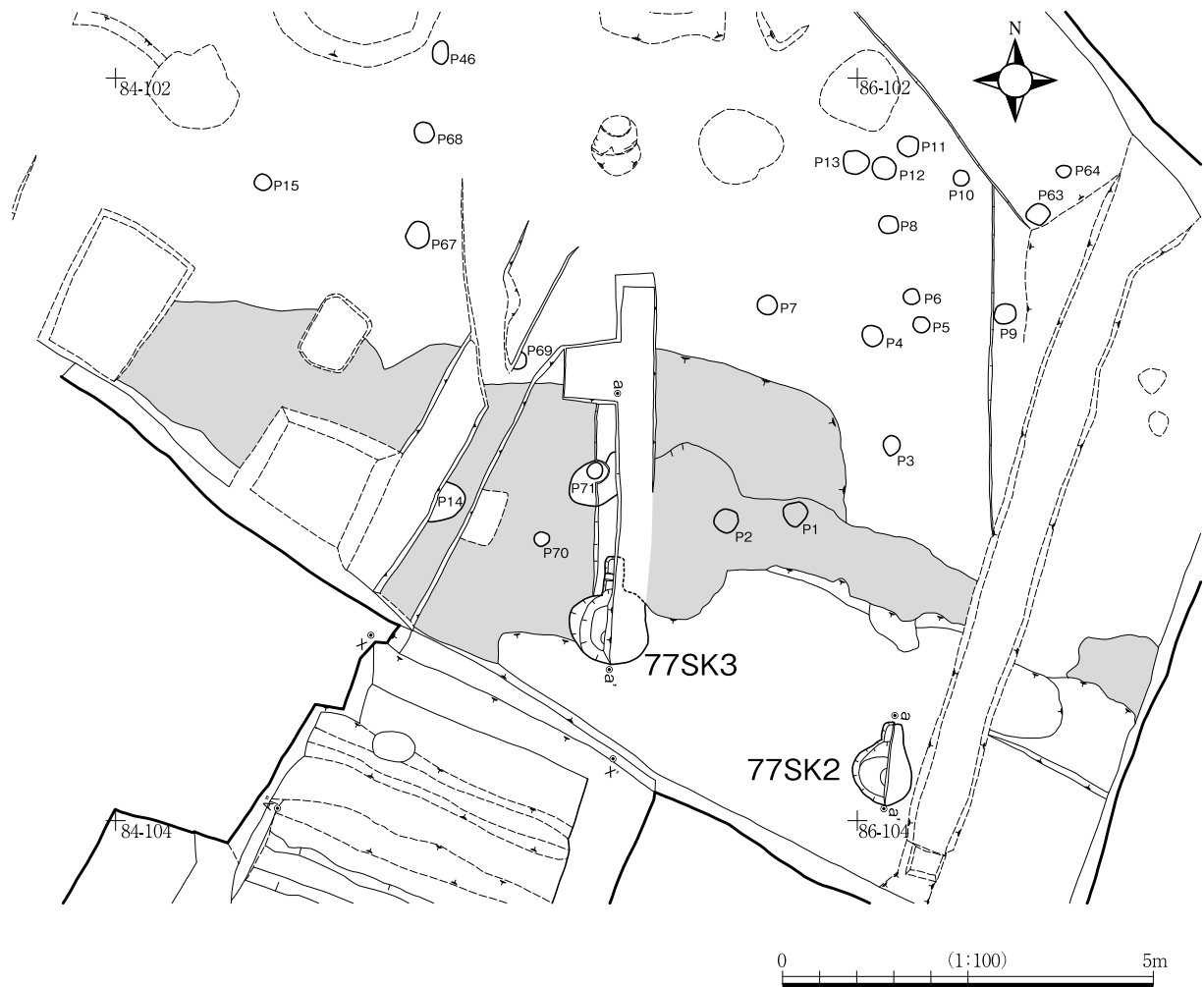
北区整地層 1



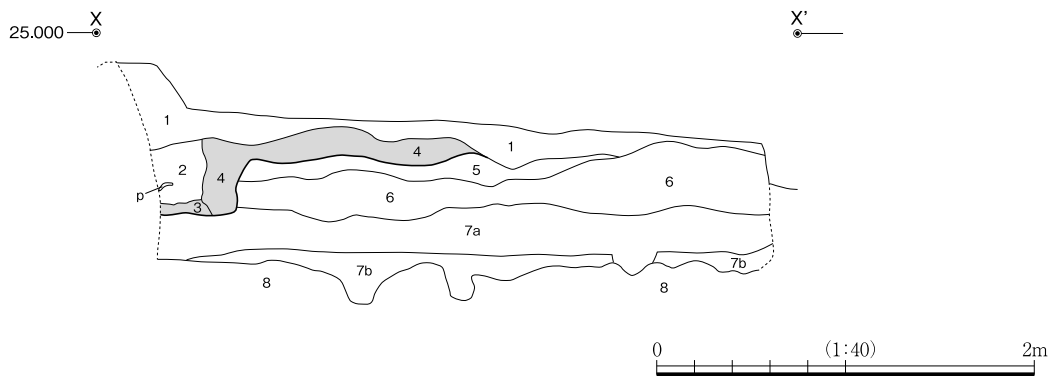
【北区整地層 1】(a-a'・b-b'・c-c')

- 1 2.5Y6/3-6/4 にぶい黄色 粘土質シルトブロック層。粘性やや強 しまりやや密。砂質帯びるブロック少量含む。人為層。※新期整地土か。
- 2 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや疎。角張った木炭片(径5-20mm)大量。ほぼ木炭層。かわらけ・陶器片含む。
- 3 2.5Y6/3 にぶい黄色 粘土質シルトブロック層。粘性やや強 しまり密。人為層(整地層)。
- 4 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや密。炭粒(径2-5mm)極微量。自然堆積(流入)層。
- 4' b-b'の4層に似る。中部にb-b'3層類似の薄層をレンズ状に挟む。
- 5 10YR3/2-2/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや密。2.5Y6/3にぶい黄色粘土の角張った大形ブロック(径20-50mm)やや多量に含む。人為層。
- 5' b-b'の5層に相当するが、2.5Y6/3にぶい黄色粘土ブロック混入少ない。
- (6) 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中。基本土層の黒～褐色土。

図9 北区整地層 1



北区整地層 2



【北区整地層2付近 土層堆積状況】(X-X')

1	10YR4/2-4/3 灰黄褐-にぶい黄褐色	シルト	粘性中	しまりやや疎。現代表土層。
2	10YR4/2-3/3 灰黄褐-暗褐色	シルト	粘性中	しまりやや疎。炭粒(径5-10mm)微量だが目立つ。土器細片および略定形かわらけ含む。
※SD1内岸周辺(北区)に広く分布する炭化物目立つ土層。新期遺構(柱穴等)埋土となる。				
3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまりやや密。2.5Y6/3-6/4(にぶい黄色粘土ブロック(径5-10mm)微量。
4	2.5Y6/3-6/4 にぶい黄色	粘土ブロック層	粘性やや強	しまり密。※整地土及びPit掘方埋土となる土層。
5	10YR2/2-2/3 黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。※整地直前の黒色表土層。
6	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。※平安時代前期遺物含む褐色土層。
7a	10YR3/2-2/2 黒褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。橙色・白色粒子(径2-5mm)極微量。※縄文時代遺物含む黒色土。
7b	10YR3/3-3/4 暗褐色	シルト	粘性やや弱	しまり密。※7a層から8層への漸移層。
8	10YR6/4-6/6 にぶい黄橙-明黄褐色	シルト	粘性やや弱	しまり密。※地山土層。

図10 北区整地層 2

る。北区整地層1付近と同様、この層は本遺構構築の直前まで自然傾斜を保ち、地表面を形成していた表土層とみられる。その下位には平安時代前期相当の灰黄褐色土（同6層）、縄文時代相当の黒褐色土（同7a層）が続き、漸移層（同7b層）を経て地山黄褐色土層（同8層）へと連続する層序を成している。77SK3断面に見られる本整地層は、他の混入土を含まない黄色土（a-a'：8層）からなる。性状は南区整地層の下部に酷似しており、層序的にもこれに対比できるが、両者の間は2ISD1に分断されているため、直接的な関係性については不明とせざるを得ない。断面X-X'では本整地層土（4層）がピット状の掘り込み内部に連続して埋められている部分も確認できることから（図左端）、整地層の構築段階において材の埋設を伴う何らかの構造物が併せて構築された可能性が指摘できる。なお、77SK3断面には、本整地層の上位にやや汚れた地山土ブロック層（a-a'：7層）や、土器片・木炭細片を含む黒色土層（同6層）の堆積が観察される。検出面（残存面）の上位には、北区整地層1と同様、人為・自然層が堆積していたものと考えられる。

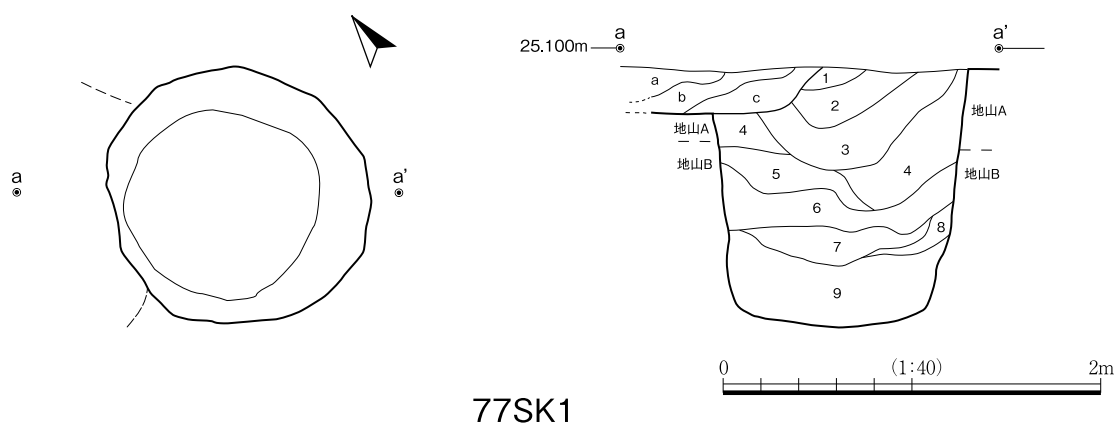
〔重複・先後関係〕 平安時代前期相当の黒褐色～褐色土層を覆い、77SK3に切られている。

② 土 坑

77SK1（図11）

〔位置・検出状況・精査方法〕 85-100グリッドに位置する。削平面である地山黄褐色土層上面において、黒褐～暗褐色土の円形範囲として検出した。埋土7・8層下面までは半裁・断面記録ののち完掘し、最下部9層は半裁にとどめている。

〔規模・形状〕 開口部は径約140cm、底面径は約100cmの円形を呈する。底面までの残存深度は138cmである。壁は開口部付近までほぼ直立して立ち上がり、底面は平坦に整っている。



【77SK1】(a-a')

a	10YR5/6	黄褐色	砂質シルトブロック層。本遺構付近にみられる地山構成土のブロック。粘性弱	しまり密。	
b	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。同上地山ブロック(径10mm)微量。炭粒(径2-5mm)極微量。
c	10YR4/2-4/3	灰黄褐-にぶい黄褐色	粘土質シルト	粘性中	しまり密。同上地山ブロック(径10mm)極微量。
※a～c：攪乱か。					
1	10YR3/3	暗褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。土器細片極微量。炭粒(径2-5mm)極微量。
2	10YR3/2	黒褐色	シルト	粘性中	しまり密。10YR7/3-6/4にぶい黄褐色粘土ブロック(地山Bブロック、径20-100mm)多量。土器細片・炭粒極微量。
3	10YR3/2	黒褐色	シルト	粘性中	しまり密。10YR4/3-4/4にぶい黄褐-褐色シルトブロック(地山Aブロック、径50-100mm)多量。土器細片・炭粒極微量。
4	10YR3/2	黒褐色	シルト	粘性中	しまりやや密。10YR7/3-6/6にぶい黄橙-明黄褐色粘土ブロック(径10-20mm)微量。土器細片・炭粒極微量。
5	10YR7/3-6/4	にぶい黄橙色	粘土ブロック層(地山B主体)。	粘性やや強	しまりやや密。
6	4層に同じ。				
7	5層に同じ。				
8	10YR3/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性やや強	しまりやや密。炭粒極微量。
9	10YR2/2	黒褐色	粘土質シルト	粘性強	自然堆積層。水分含む。

図11 77SK1

〔埋土・堆積状況〕 底面を約40cmの厚さで覆う9層は、本土坑が開口していた段階に堆積したものとみられる。水分を多く含む粘性の強い泥状の堆積層であり、井戸跡の下部埋土に良く似る。本層の上面からは完形の手づくねかわらけや棒状材の断片等が出土した。水と共に徐々に堆積が進み、概ね水平に近い上面を形成していたと考えられるが、上位層の土圧により層上面の中央がやや凹んだ状態となっていた。8層以上は壁面崩落土または人為投入土とみられる地山土ブロック主体の層群である。ただし、残存壁面に崩落痕跡がほとんど見られないこと等から、これらのほとんどが意図的な埋め戻し土とみられる。最上部は宅地造成により削平を受け、北西部上端の一部は攪乱（a-a' : a-c層）に壊されていた。形態及び埋土の様相から、本土坑は井戸跡である可能性が高い。

〔重複・先後関係〕 直接切り合う他の遺構はない。

〔出土遺物〕 図26

77SK2 (図12)

〔位置・検出状況・精査方法〕 86-103グリッド南西隅に位置する。攪乱層下面に切られた黒褐色土面において、黄色土の略円形範囲として検出した。北側上端に舌状の張出し部が認められたことから、これを通る断面を設定して半裁し、他は未掘のまま保存した。

〔規模・形状〕 開口部径90×80cm、底面径60cm前後の円筒形を呈する。検出面からの残存深度は85cmである。北側上端に長さ約35cm・幅約30cmで、底面がスロープ状を呈する舌状の張出し部を伴う。平坦に整った底面の南部には、柱痕跡とみられる径25cmほどの浅い円形凹部が認められる。壁面は僅かに内湾しつつ概ね直立して立ち上がる。張出し部と対向する南側壁面の中部には、外側に12cmほど突出する袋状の抉れ部が認められる。

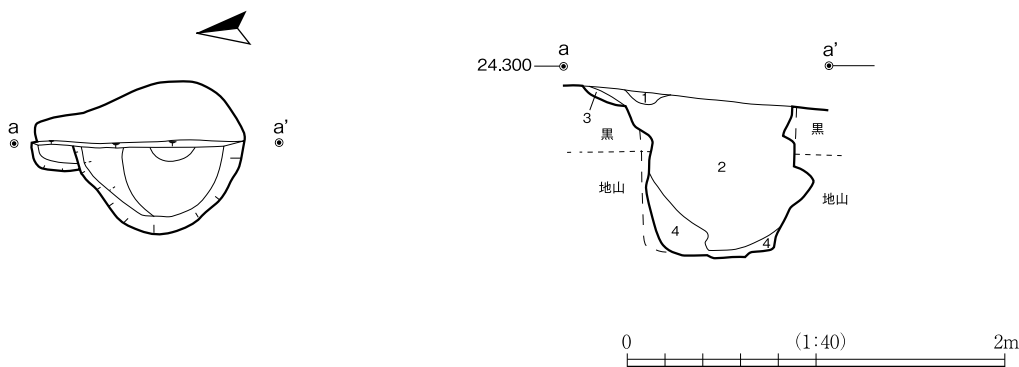
〔埋土・堆積状況〕 近接して検出された類似遺構、77SK3（後掲）との対比から、本遺構は内部に柱状材を立ち上げて根元を埋設し、その後何らかの理由で材の抜き取りが行われたものと考えられる。底面から北側壁下部にかけて堆積する4層は、柱材埋設時の埋戻し土（掘方埋土下部）の残存部とみられる。南側壁面中部の袋状の抉れ部は、柱材を引き倒した際に、北側壁面上端を支点に回転した柱底部が、壁面を抉った痕跡とみられる。埋土の大半を占める2層は、地山黄褐色土及びその上位の黒褐色土のブロックからなる。柱材埋設時の掘方埋土がその後の柱材抜き取り時に掘り返され、再び埋め戻されたものとみられる。明瞭な層界を成さないため断面図には示していないが、概ね南壁の抉れ部と北壁上端の張出し部をつなぐラインに沿って、黒色土の混入が多く黄褐色土ブロックの径が細くなる部分が認められる。なお、以上の解釈の根拠については、後掲77SK3の所見を参照されたい。

〔重複・先後関係〕 北区整地層2と同時にまたはその後に掘方掘削と柱状材の埋設が為され、その後、同整地層を切って内部を再掘、柱材の引き倒し・抜き取りが行われたと考えられる。

77SK3 (図12)

〔位置・検出状況〕 85-103グリッドに位置する。北区整地層2残存範囲の南縁において、黄色土の略円形範囲として検出した。確認面は攪乱層下面の黒褐色土面である。旧地形の傾斜方向に沿わせた断面を設定して半裁し、他は未掘のまま保存した。

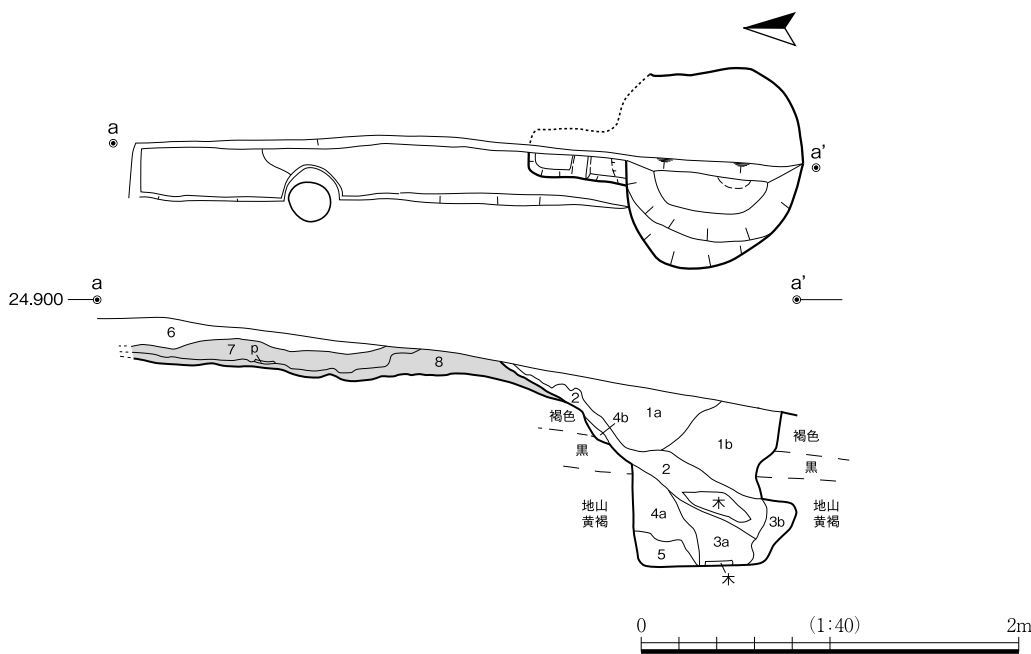
〔規模・形状〕 開口部径110cm前後、底面径65cm前後の円筒形を呈する。検出面からの残存深度は110cmである。北側上端に長さ約60cm・幅約26cmで、底面がスロープ状を呈する舌状の張出し部を伴う。平坦に整った底面の南部には、柱痕跡とみられる径28cmほどの浅い円形凹部が認められる。壁面は概ね直立して立ち上がり、上部はやや外傾して開口部付近が広がっている。張り出し部と対向する南側壁面の下部には、外側に20cmほど突出する袋状の抉れ部が認められる。



77SK2

【77SK2】(a-a')

- 1 10YR5/2 灰黄褐色 粘土 粘性やや強 しまり中。
- 2 10YR2/1 黒色粘土質シルト・2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘土質シルト・2.5Y6/3-6/4 において黄色シルトの混ブロック層(各径10-80mm)。粘性中 しまりやや密。地山ブロック(2.5Y6/3-6/4 において黄色)は上半部に多い(上半部多量・下半部やや多量)。※本層は上部(壁面凹部と張り出しをつなぐラインより上)では地山ブロックの比率が卓越し、下部は黒色土のそれとほぼ同比。
- 3 10YR2/1 黒色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり密。2.5Y6/3 において黄色シルト(地山土)ブロック(径2-5mm)極微量。
- 4 10YR5/3-5/4 において黄褐色 砂 粘性中 しまり密。2.5Y6/3 において黄色粘土質シルトブロック(径2-10mm)少量。掘方埋土残存部か。



77SK3

【77SK3】(a-a')

- 1a 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性やや強 しまりやや密。10YR6/3-5/3 において黄橙-において黄褐色粘土質シルトブロック(径20-50mm)少量。2.5Y6/3-6/4 において黄色粘土ブロックやや多量。※本層より鉄製鋤先出土。
- 1b 2.5Y6/3-6/4 において黄色粘土ブロック(径10-100mm、多量)・10YR4/2 灰黄褐色粘土質シルトブロック(径20mm、微量)・10YR3/1-2/2 黒褐色シルトブロック(径10-20mm、微量)の混ブロック層。
- 2 10YR4/1-3/1 褐灰-黒褐色 粘土 粘性強しまり中。材の一部残存する。層下面に沿って厚さ20-30mmの黒色部(10YR2/1 黒色)有。
- 3a 10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまり中。10YR6/1-6/2 褐灰-灰黄褐色粘土ブロック(径20-50mm)やや多量。
- 3b 10YR6/1-6/2 褐灰-灰黄褐色粘土ブロック層。粘性やや強 しまり中。壁との境界面に10YR2/1 黒色シルトの小径ブロック少量みられる。
- 4a 2.5Y6/3-6/4 において黄色粘土ブロック層。粘性やや強 しまり密。8層によく似る。
- 4b 4a層に同じ。
- 5 10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまりやや密。2.5Y6/3-6/4 において黄色粘土ブロック(径50-100mm)やや多量。
- 6 10YR4/2-3/2 灰黄褐-黒褐色 シルト 粘性中 しまり中。炭粒(径5-10mm)微量だが目立つ。土器細片微量。本層は付近に分布する新期柱穴の埋土となっている。
- 7 10YR4/2-3/2 灰黄褐-黒褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや密。2.5Y6/3-6/4 において黄色粘土ブロック(径10-30mm)多量。
- 8 2.5Y6/3-6/4 において黄色 粘土 粘性強 しまり密。遺構周辺の整地土層。

図12 77SK2・77SK3

〔埋土・堆積状況〕 先掲の類似遺構77SK2と同様、本遺構は柱状材を直立させてその基部を埋設した後、埋土上部を再掘し、材を北側に引き倒して抜き取ったものと考えられる。断面の4a層及び5層は地山黄褐色土を主体とするブロック層で、材埋設時の埋め戻し土（掘方埋土）の残存部とみられる。遺構底面の浅い凹部は埋設材の下面が接した痕跡とみられ、この凹部からは材の底面から剥落したとみられる炭化繊維が、垂直方向に立った状態で底面に密着して出土した。南側壁面下部の袋状の抉れ部は、北側上端張り出し部と北側壁面が接する遺構の肩を支点として材の下部が回転した際に、材の下端に抉られて生じたものと考えられる。3a・3b層はこれによって生じた間隙に周囲の掘方埋土が再堆積したものであろう。2層は黒褐色の粘土で、転倒した材下部の痕跡とみられる。本層には外面を遺す材の一部が残存していた。また、材外面が接する本層下面に沿って黒色の薄層が観察されている。炭化した材底面の一部が遺構底面凹部から出土した事実を考え合わせれば、柱材基部に対し表面を炭化させる処理が行われていた可能性も考慮に入れておきたい。2層は1b層の下位付近では粘土質が強いが、開口部に近い1a層下位ではシルト質を呈する。粘土質の部分は木質が変化したものと推測されることから、抜き取りの際に材の下部が破断したか、あるいは意図的に切断され、内部に取り残されたものと考えられる。張り出し部の底面に貼り付いた黄褐色土（4a層）は、材の外面に付着した掘方埋土の一部が抜き取りの際に引き上げられたものであろう。材抜き取り後の遺構上部は、地山土ブロック層（1a・1b層）で埋められている。周囲に分布する北区整地層2の構成土に良く似た粘土を主体としている。なお、張り出し部を覆う1a層からは鉄製鋤先（図33-770）が出土している。一連の作業に用いられた工具であろうか。

〔重複・先後関係〕 北区整地層2と同時にまたはその後に掘方掘削と柱状材の埋設が為され、その後、同整地層を切って内部を再掘、柱材の引き倒し・抜き取りが行われたと考えられる。

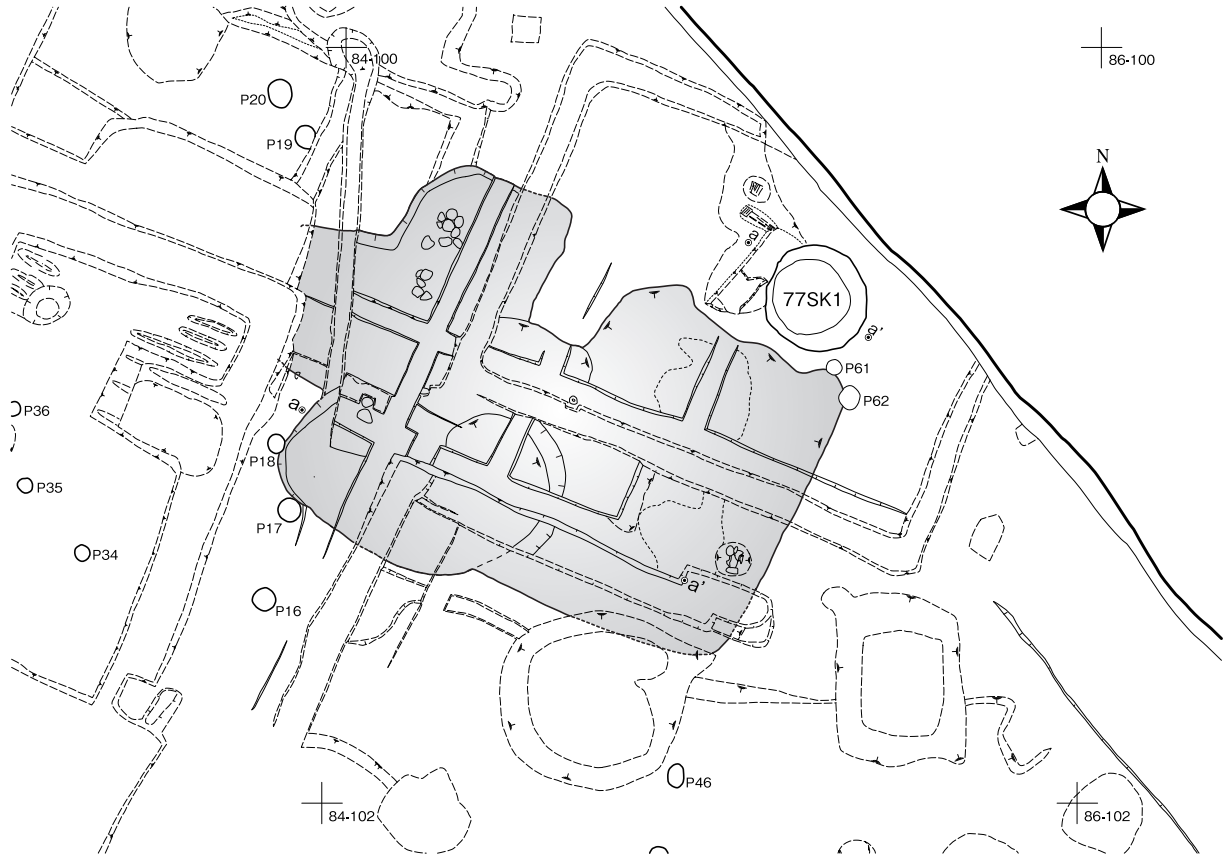
③ その他

77SX3（図13）

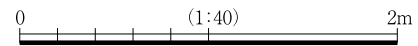
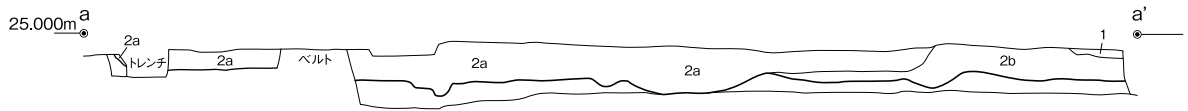
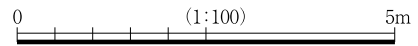
〔位置・検出状況・精査方法〕 84-100・84-101グリッド付近に位置する。地山黄褐色土及びその上位の黒褐色土面において、かわらけ・陶器等の遺物片と炭化物を混入する黒褐色土の不整形範囲として認識したものである。検出面は後世の宅地造成に伴う削平面である。溝状攪乱の壁面を代用して断面観察を行い、凡そのプランを把握した後、任意のベルトを設定して一部の埋土を底面まで掘り下げた。ベルト部および一部の埋土は未掘のまま保存した。

〔規模・形状〕 検出面を成す黒褐色土層と本遺構の埋土は酷似しており、両者を識別して平面プランを確定させることは極めて困難だった。平面図には断面観察と遺物・炭化物の分布状況から推定されるプランを示した。推定範囲の平面規模は7.5×6.5m、断面に観察される残存深度は最大25cmである。一部の精査にとどまってはいるが、南北軸が22°前後東偏する、一辺2.0～3.5m程の方形基調の竪穴状遺構または土坑が複数重複しているものと推測される。底面は地山黄褐色土の小ブロックが緻密な平坦面を形成している。壁の立ち上がりは全体に不明瞭で、底面からなだらかに外縁に連続する部分が多いが、主に西半部では短く立ち上がる壁が部分的に残存している。

〔埋土・堆積状況〕 埋土の主体は炭化物の混入が目立つ黒褐色土（2a層）で、周囲に分布する地山上位の自然堆積層（構築面旧表土）が流入したものと考えられる。北西部の一角では底面直上に径15cm前後の円礫の集積が見られ、また北東部の底面には焼土ブロックと炭化物が濃密に分布する箇所が確認された。焼土ブロック集中部の下面には弱い赤変が観察されるものの、周辺の底面から連続する平坦な面であり、継続使用された炉跡とは考えづらい。なお、このような方形基調の遺構の集中・重複は、埋土の様相に差異はあるものの、北区整地層1下位の先行遺構群に類似している。本遺構断面の



77SX3



【77SX3】(a-a)

- | | | | | | |
|----|-------------|-------|-------|-------|---|
| 1 | 2.5Y6/3-6/4 | にぶい黄色 | 砂質シルト | 粘性やや弱 | しまり中。地山土を用い凹部を埋めたもの。 |
| 2a | 10YR3/2 | 黒褐色 | シルト | 粘性中 | しまりやや密。全体に角張った炭小片(径5-30mm)少量。
下部はと多く図左端では下面に沿って濃密に分布。かわらけ・陶器の大形破片含む。 |
| 2b | 10YR3/2 | 黒褐色 | シルト | 粘性中 | しまりやや密。炭化物含まない。 |

図13 77SX3

1層は、埋土上部に生じた凹部を埋める地山起源の黄色土であり、北区整地層1及び同2における整地土に対比される可能性を指摘しておきたい。

〔重複・先後関係〕 複数の竪穴状遺構または方形土坑が重複しているとみられるが、相互の先後関係は明らかでない。本遺構（群）はいずれかの段階の整地土層により最上部を埋められたとみられる。
(村上)

柱穴等（図8）

このほか北区では規模の小さい柱穴を多数検出している。これらは埋土が12世紀代の土坑類とは異なり、多くは近世以降のものと推察される。また、攪乱等による削平も影響したためか、明確な掘立柱建物等を構成できていない。ここでは規模と位置のみを表で示す（表5）。

(櫻井)

表5 柱穴一覧表

遺構	グリッド	規模径(cm)	遺構	グリッド	規模径(cm)
P 1	86-103	34× 32	P36	83-101	20×19
P 2	86-103	32× 32	P37	83-101	27×20
P 3	86-103	26× 21	P38	83-101	48×46
P 4	86-103	28× 26	P39	83-101	36×28
P 5	86-103	22× 22	P40	82-101	41×37
P 6	86-103	22× 20	P41	82-101	33×30
P 7	86-103	26× 26	P42	82-101	45×36
P 8	86-102	26× 23	P43	82-101	38×36
P 9	87-103	30× 26	P44	82-102	34×33
P10	86-102	22× 21	P45	82-102	42×40
P11	86-102	28× 28	P46	85-102	31×20
P12	86-102	31× 29	P47	82- 99	62×20
P13	86-102	34× 30	P48	82- 99	44×40
P14	85-103	58× 36	P49	82- 99	48×44
P15	85-102	23× 22	P50	82-100	46×40
P16	84-101	30× 30	P51	82-100	36×32
P17	84-101	33× 30	P52	82-100	76×66
P18	84-101	26× 22	P53	82-100	32×28
P19	84-100	30× 24	P54	81-100	80×78
P20	84-100	37× 30	P55	81-100	34×30
P21	84- 99	72× 70	P56	81-100	24×24
P22	83- 99	50× 31	P57	81-100	76×42
P23	83- 99	36× 32	P58	81-100	23×20
P24	83- 99	30× 25	P59	81-101	26×25
P25	83- 99	114× 89	P60	81-101	78×58
P26	83- 99	68× 39	P61	85-101	20×20
P27-1	83-100	60× 48	P62	85-101	32×28
P27-2	83-100	52× 50	P63	87-102	32×28
P28	83- 99	46× 46	P64	87-102	20×15
P29	83-100	28× 28	P65	83-100	36×36
P30	83-100	88× 82	P66	83- 99	23×23
P31	83-100	113× 80	P67	85-102	36×30
P32-1	83-100	58× 54	P68	85-102	27×26
P32-2	83-100	121×114	P69	85-103	26×12
P33	83-100	28× 27	P70	85-103	22×20
P34	83-101	21× 20	P71	85-103	64×62
P35	83-101	20× 20			

3 出土遺物

出土遺物は総重量で270,708.75 gである。遺物は総重量のうち、かわらけが242,330.7 gと最も多く、次いで陶磁器類が22,274.4 gと多い。陶磁器類は国産陶器が21,120.8 gで、輸入陶磁器は1,402.3 g出土している。この他に瓦片や木製品などが出土している。瓦が339.2 g、壁土が732.6 g、縄文土器が2,826.5 g、縄文を主とする石器が525.8 g出土している。このほか時期不明の金属品類などがある。

今回の調査区内では、南区とした堀跡が確認された範囲では近世以降の盛土層を除去した直下で遺構検出面にあたる土層が確認される範囲が多く、遺構検出面において出土した遺物も多くは遺構の平面プラン内からの出土である。北区では、表土を除去した直下に遺構検出面にあたる土層が確認された範囲が多いが、一部に包含層等の出土資料もある。包含層出土資料は整地層の直上の土層からの出土だが、この土層が柳之御所遺跡が機能した12世紀代に近い堆積かは判断が難しい。明確な近世以降の

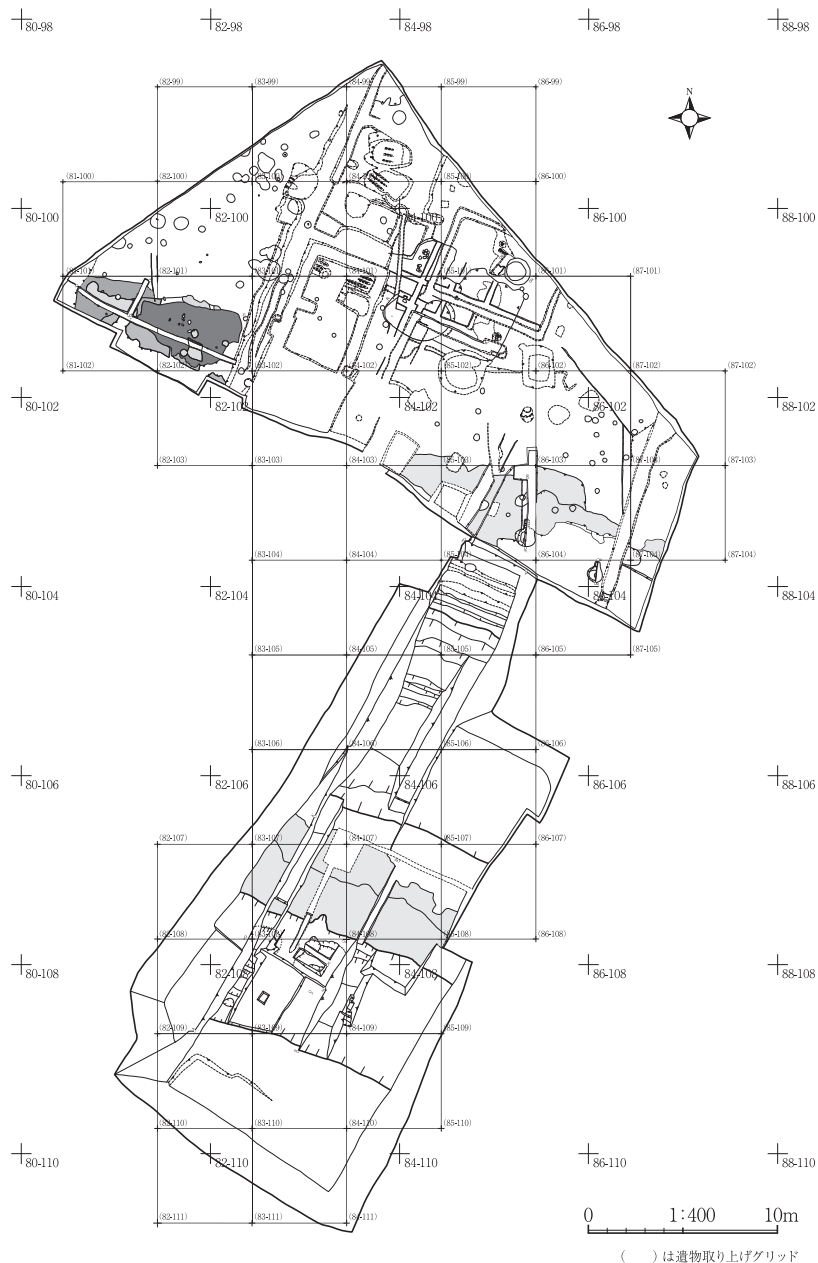


図14 遺物取り上げグリッド配置図

遺物を含む土層とは異なる可能性もあるが、取り上げ時の分層は困難である。検出面や直上の遺物も近世以降の時期に近いものと捉える方が遺物のあり方からは妥当である。

なお、かわらけはおおむね1/4以上残存し器形が復元可能なものを図示し、国産陶器類と輸入陶磁器、瓦は全点を登録し表に掲載、そのうち図示可能なものを示した。また、輸入陶磁器の分類にあたっては「大宰府分類」（太宰府市教育委員会2000）を参考にしてている。

また取り上げのグリッドが現在の調査区グリッドと異なる部分が生じている（図14）。表記載の取り上げグリッドについてはこちらの位置に対応する。

表6 遺物数量表

遺構名	かわらけ (g)	瓦 (g)	国産陶器 (g)	輸入 陶磁器 (g)	合計 (g)	遺構名	かわらけ (g)	瓦 (g)	国産陶器 (g)	輸入 陶磁器 (g)	合計 (g)	
21SD1	146056.2	317.6	9096.2	145.8	155615.8	PP29	13.1				13.1	
21SD2	11459.0	8.0	1260.8	1089.6	13817.4	PP30	97.4				97.4	
77SK1	上層	10511.6	1.4		0.4	10513.4	PP31	676.8		60.3		737.1
	9層	1086.8				1086.8	PP32-1	17.4				17.4
PP 1	52.8				52.8	PP32-2	831.6				831.6	
PP 2	160.1				160.1	PP33	18.1				18.1	
PP 3	32.1				32.1	PP34	53.3				53.3	
PP 4	3.4				3.4	PP35	2.2				2.2	
PP 5	57.5				57.5	PP36	13.3				13.3	
PP 6	22.5				22.5	PP39	73.4				73.4	
PP 7	2.9				2.9	PP40	24.8				24.8	
PP 8	35.5				35.5	PP44	10.2				10.2	
PP10	5.4				5.4	PP47	11.2				11.2	
PP11	41.5				41.5	PP48	101.6				101.6	
PP12	214.2				214.2	PP49	39.5				39.5	
PP13	19.4		14.5		33.9	PP50	4.9				4.9	
PP14	81.7				81.7	PP53	3.3				3.3	
PP15	71.5				71.5	PP55	46.5				46.5	
PP16	13.7				13.7	PP57	90.1				90.1	
PP17	27.5				27.5	PP61	17.5				17.5	
PP18	17.5				17.5	PP62	181.2				181.2	
PP19	22.7				22.7	PP63	21.9				21.9	
PP20	24.8				24.8	PP64	1.1				1.1	
PP22	18.2				18.2	PP67	8.9				8.9	
PP25	471.6				471.6	PP68	43.5				43.5	
PP27-1	8.8				8.8	検出面等	69347.5	12.2	9800.9	166.5	79327.1	
PP27-2	32.4		15.6		48.0	合計	242330.7	339.2	20248.3	1402.3	264320.5	
PP28	29.1				29.1							

(1) 土器・陶磁器類

21SD1出土遺物 (図15～23)

21SD1は掘り下げを行ったのはトレンチ部分のみだが、かわらけが144,056.2g、国産陶器が9,096.2g、輸入陶磁器が145.8g出土しており、このうちかわらけは167点、国産陶器196点、輸入陶磁器22点を図示した(1～385)。ただし多くは検出面や上層の12世紀以降の堆積とみられる上層からの出土である。中層以上の資料は12世紀代の遺跡廃絶後の堆積とみられ、遺物の多くも遺跡が廃絶した前後からの自然の流入とみられる。また、下層以下の土層も自然堆積土層からの出土で、一部に人為的な廃棄などによるものを含む可能性があるが、いずれも原位置を保つものではない。以下では下層の出土から記述する。

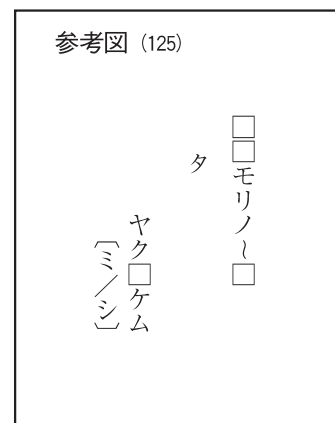
1～28は下層付近の自然堆積層である18層および19～20層から出土した土器類である。1～18はかわらけで、1～3はロクロかわらけの大皿、4～6はロクロかわらけの小皿、7～15は手づくねかわらけの大皿、16～18は手づくねかわらけの小皿である。ロクロかわらけは小片だが、いずれも器高が低い器形である。6は端部に打ち欠きの痕跡が確認でき、円盤状のものである。ロクロかわらけ大皿はいずれも器高が低い皿状の器形である。手づくねかわらけでは口径が13cmを超える器形もあるが、いずれも14cm以下におさまり13cm以下と口径が縮小した段階の資料が多い。13は底部の屈曲が強く、特徴的な器形である。この他は口径13cmほどと小型の器形となっている。17～27は国産陶器類で、体部片が多い。20は甕の頸部、22は壺類の底部、25は須恵器系陶器の四耳壺である。28は白磁壺類の体部片である。

29～65は下層である14～17層および17層からの出土である。29～58はかわらけで、29～35はロクロかわらけの大皿、36～40はロクロかわらけの小皿、41～53は手づくねかわらけの大皿、54・55は手づくねかわらけの小皿である。ロクロかわらけの大皿はいずれも器高が4cm以下と低い皿形の器形である。38は体部外面に工具の端部とみられる平行の線状痕が残る。40は柱状になる底部だが、12世紀中葉までにみられる柱状高台と比べて低い台部で、それとは異なる形状を示す。手づくねかわらけ大皿は口径が14cmを超えるやや大型の器形もあるが、13cm以下の小型の器形も多い。56～58は内折れかわらけである。59～65は国産陶器の体部片で、いずれも体部片である。62は方形の重なり文と直線を組み合わせた文様の特徴的な押印をもつ。

66～153は中層である10層および10～14層、12・13・14層から出土した土器類である。66～134はかわらけで、66～71はロクロかわらけの大皿、72・73はロクロかわらけの小皿、74～125は手づくねかわらけの大皿、126～134は手づくねかわらけの小皿である。ロクロかわらけの大皿で器高も低い皿形の器形が多い。手づくねかわらけの大皿は口径が小さい器形が多く、口径が縮小した段階の資料と捉えられる。91は体部内面に工具端部の痕跡が確認できる。125は体部内面に刻字が行われている。焼成前のものとみられ、刻字はカタカナで記されている。釈読できる部分もあるが、全体としての意味は判然としない(右図)。

136～152は国産陶器の体部片である。いずれも甕類等の体部片である。142は頸部の破片である。143は三筋文が施されたとみられるが、全体の器形および文様は確定できない。153は白磁壺類の体部片である。

154～385は9層以上の上層からの出土である。154～202はかわらけで、154はロクロかわらけの大皿、155・156はロクロかわらけの小皿、158～185は手づくねかわらけの大皿、186～195は手づくねかわらけの小皿、198～202は内折れかわらけである。



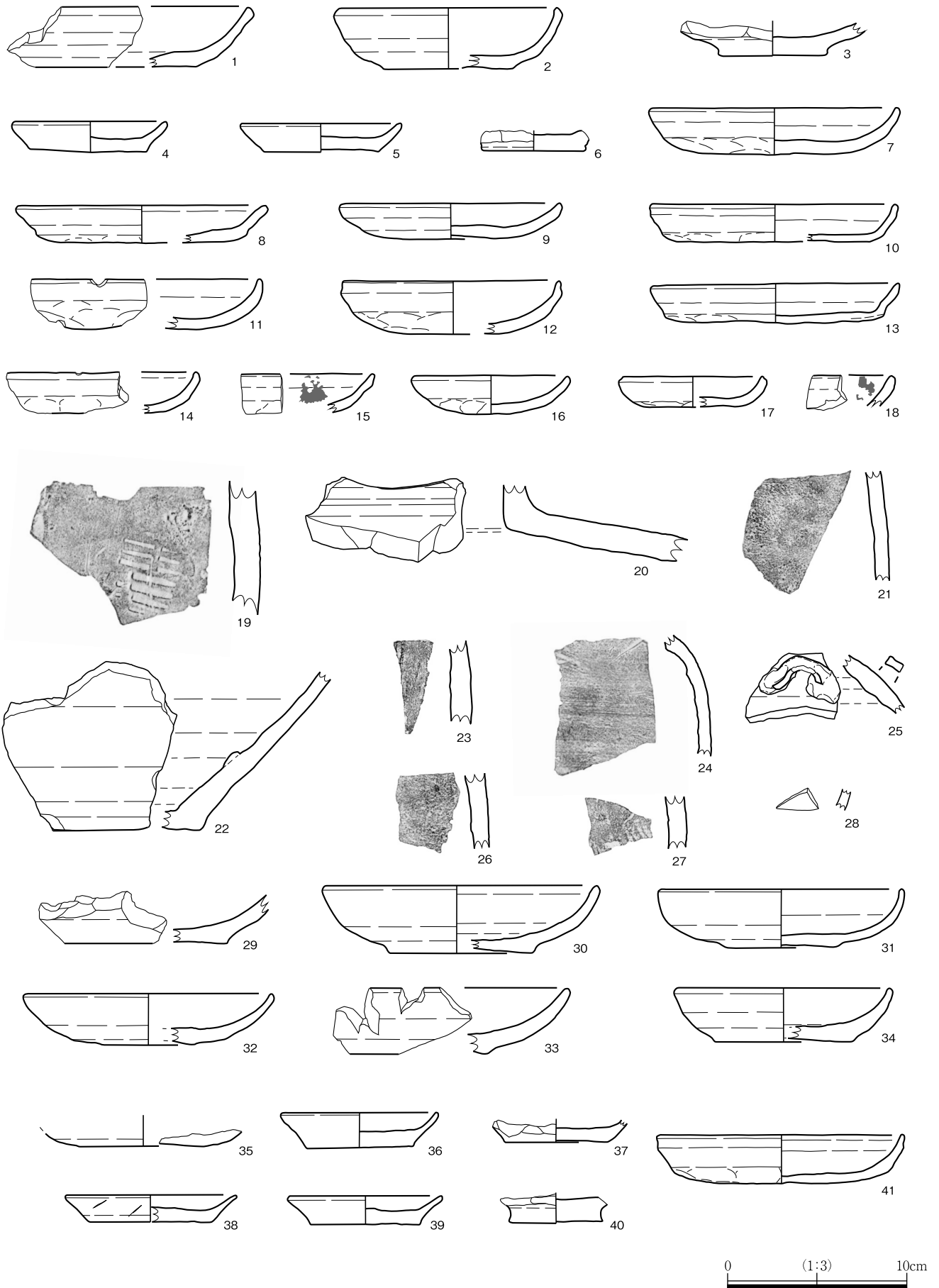


图15 21SD1 出土土器類実測图 1

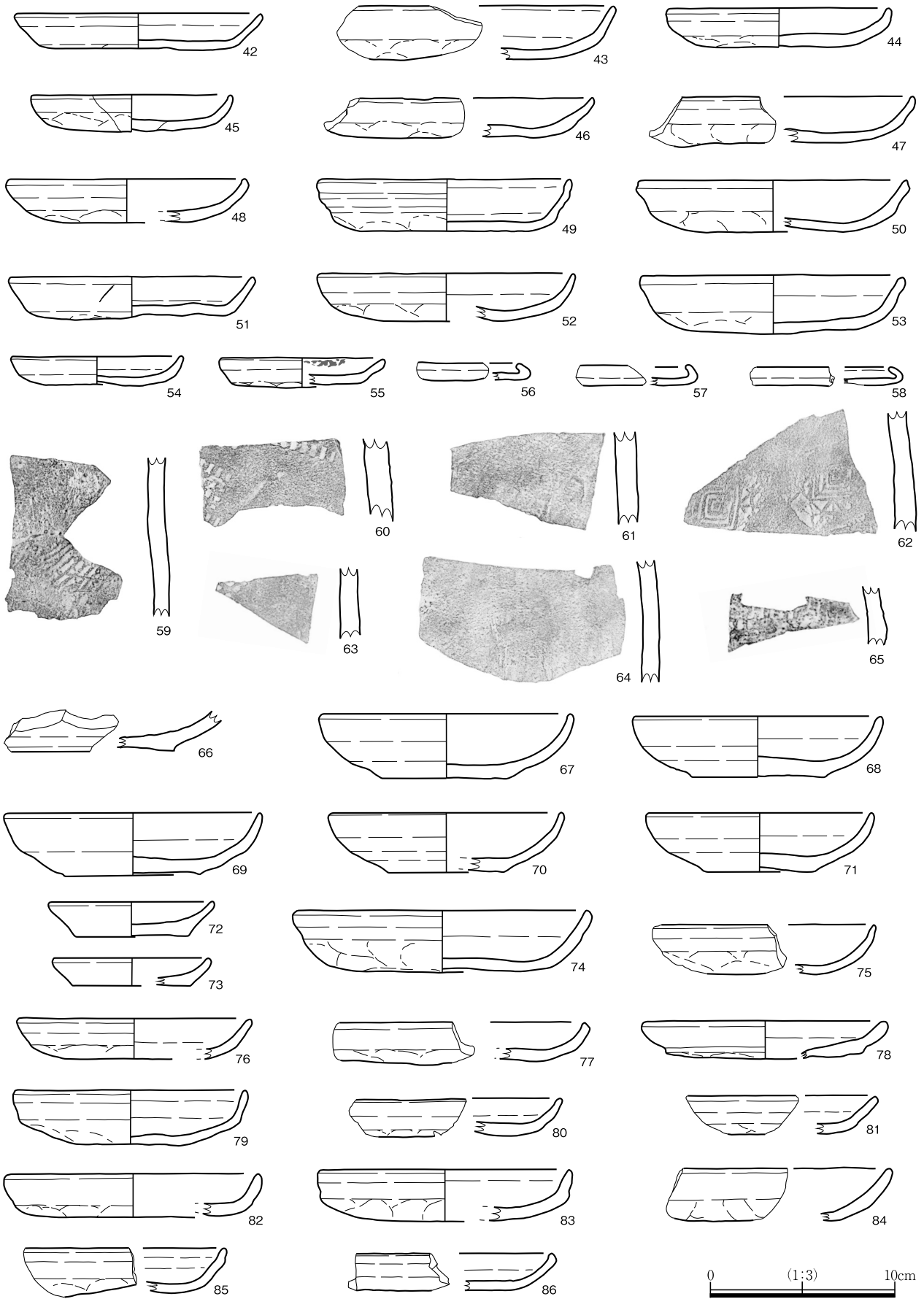


図16 21SD1 出土土器類実測図2

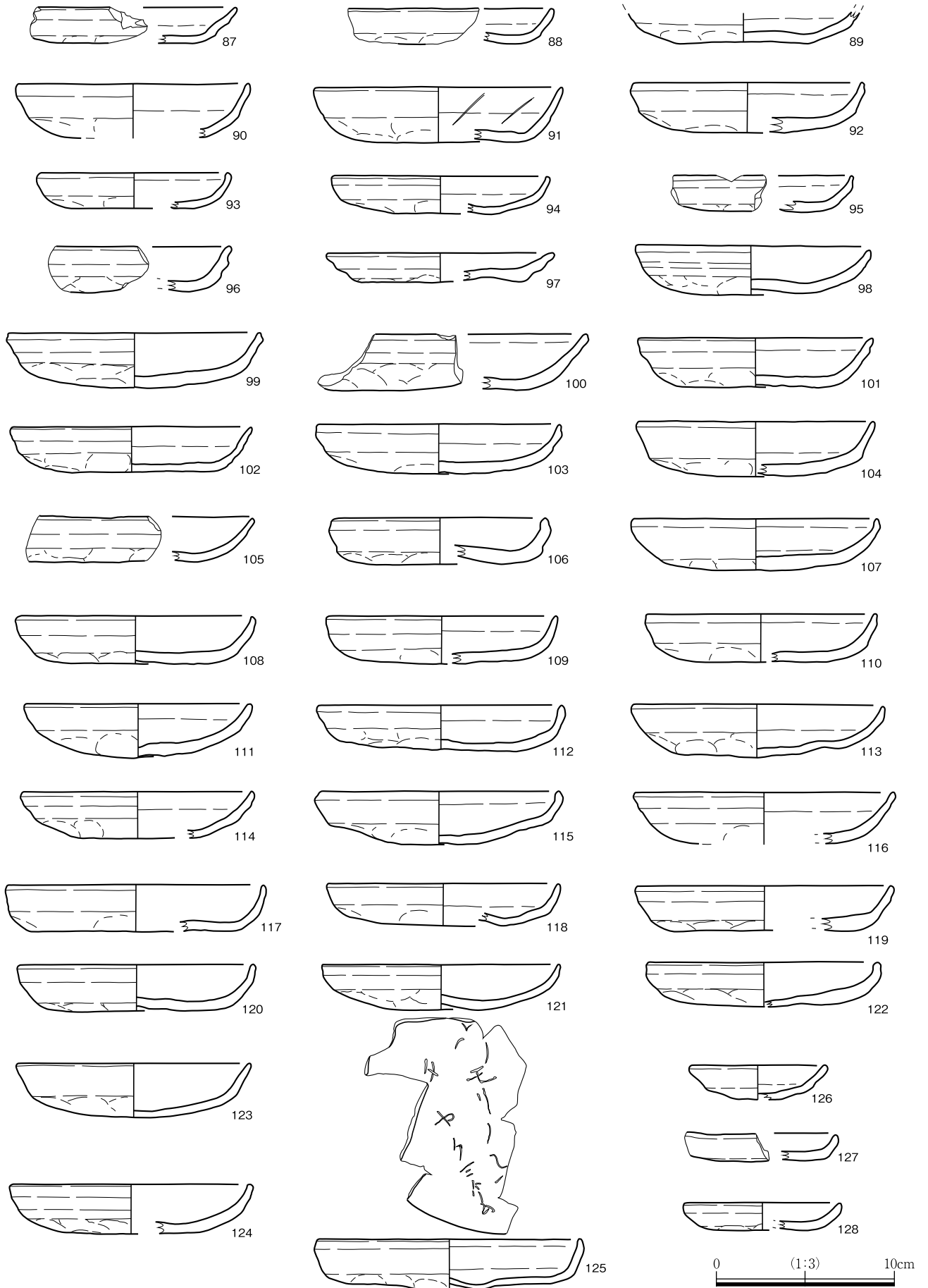


図17 21SD1 出土土器類実測図 3

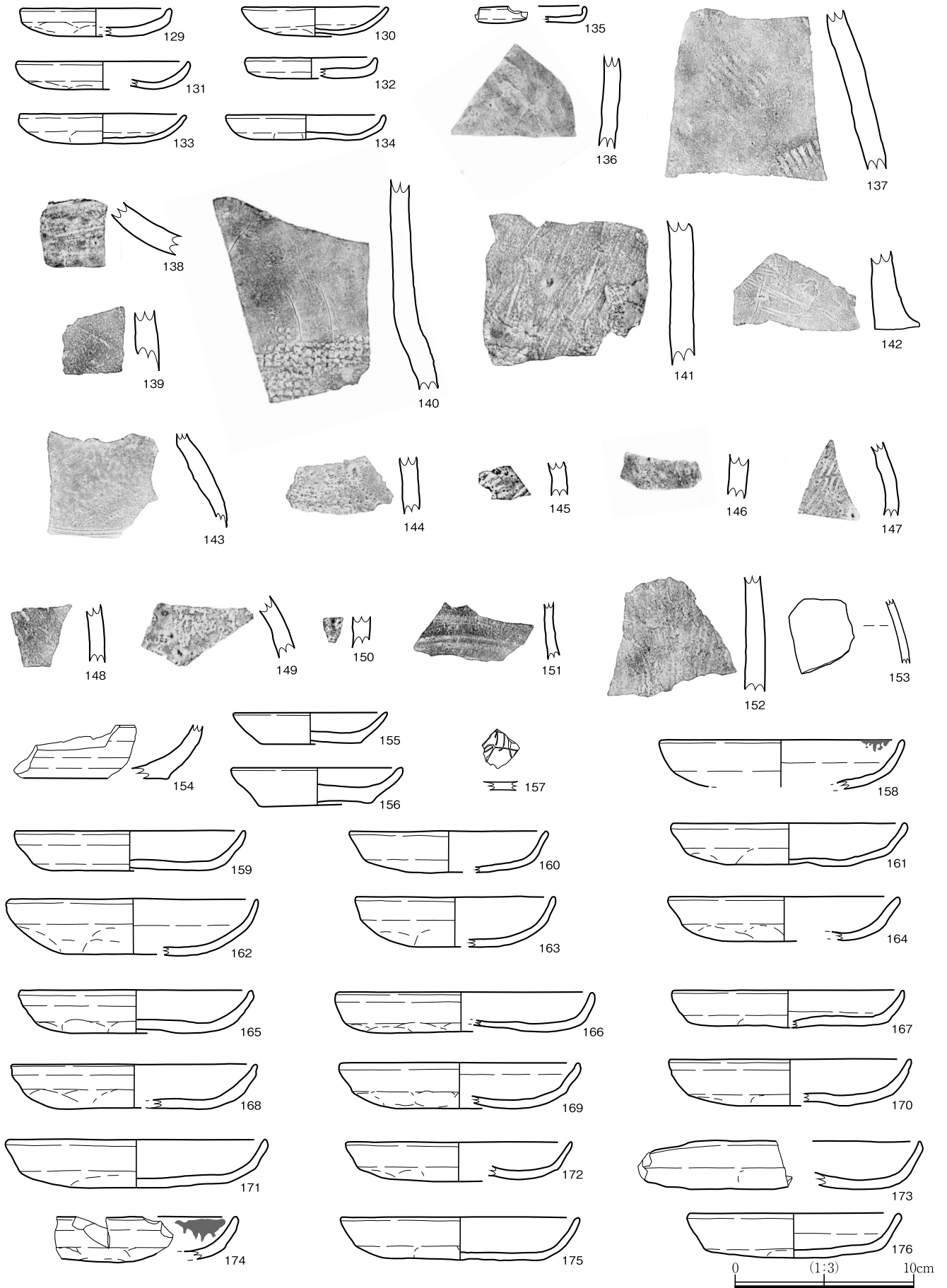


図18 21SD1 出土土器類実測図4

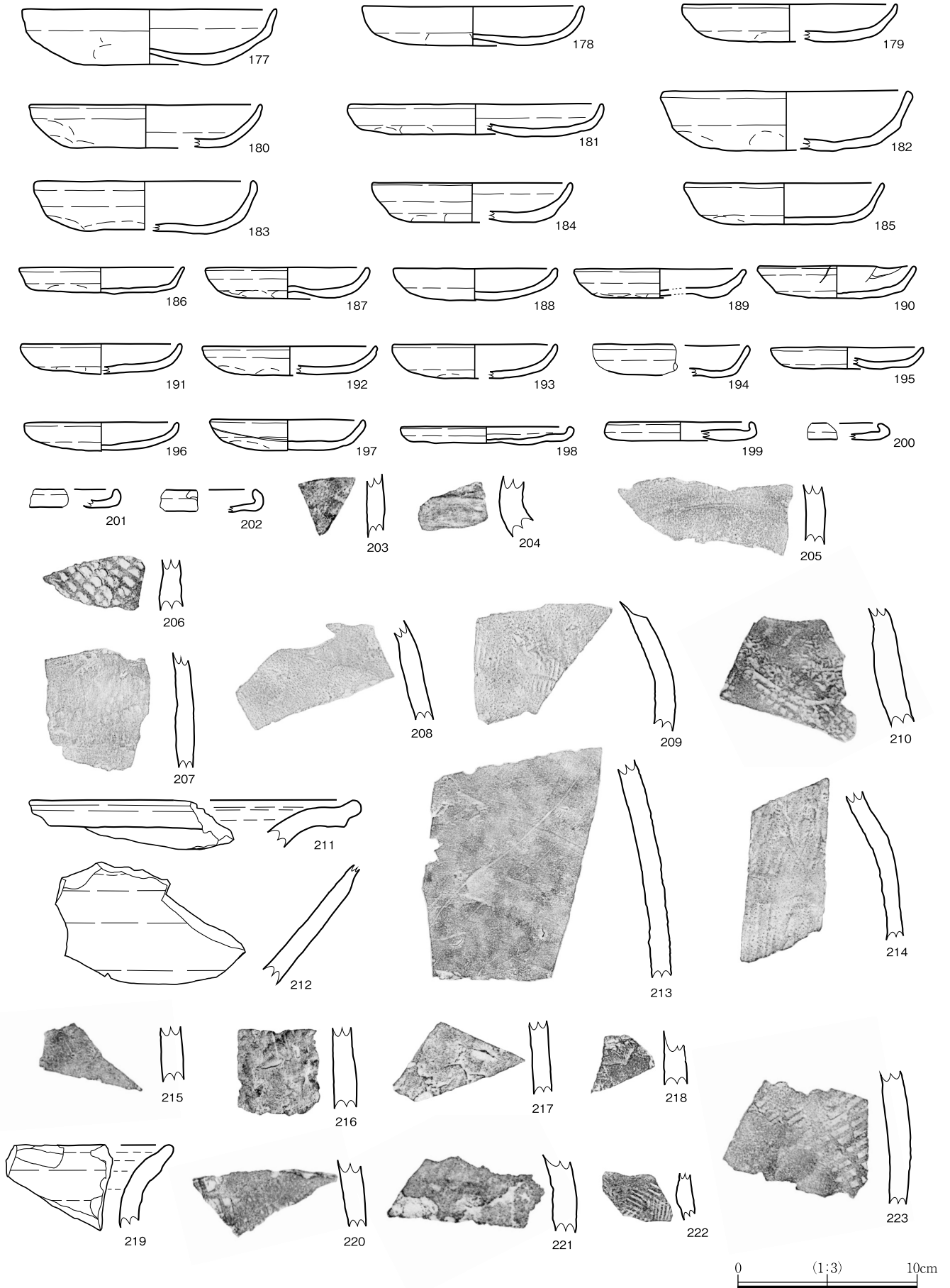


图19 21SD1 出土土器類実測图 5

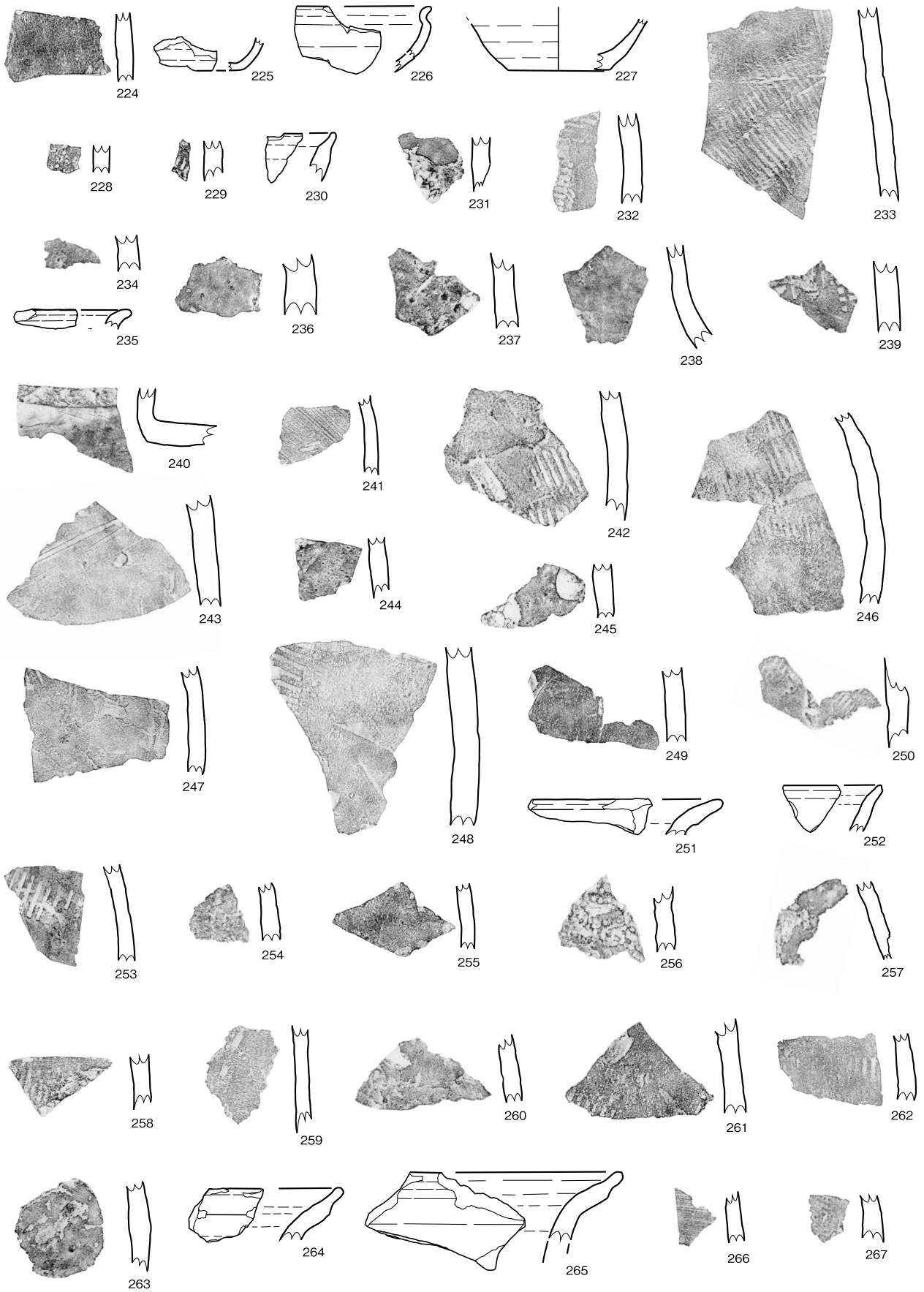


図20 21SD1 出土土器類実測図6

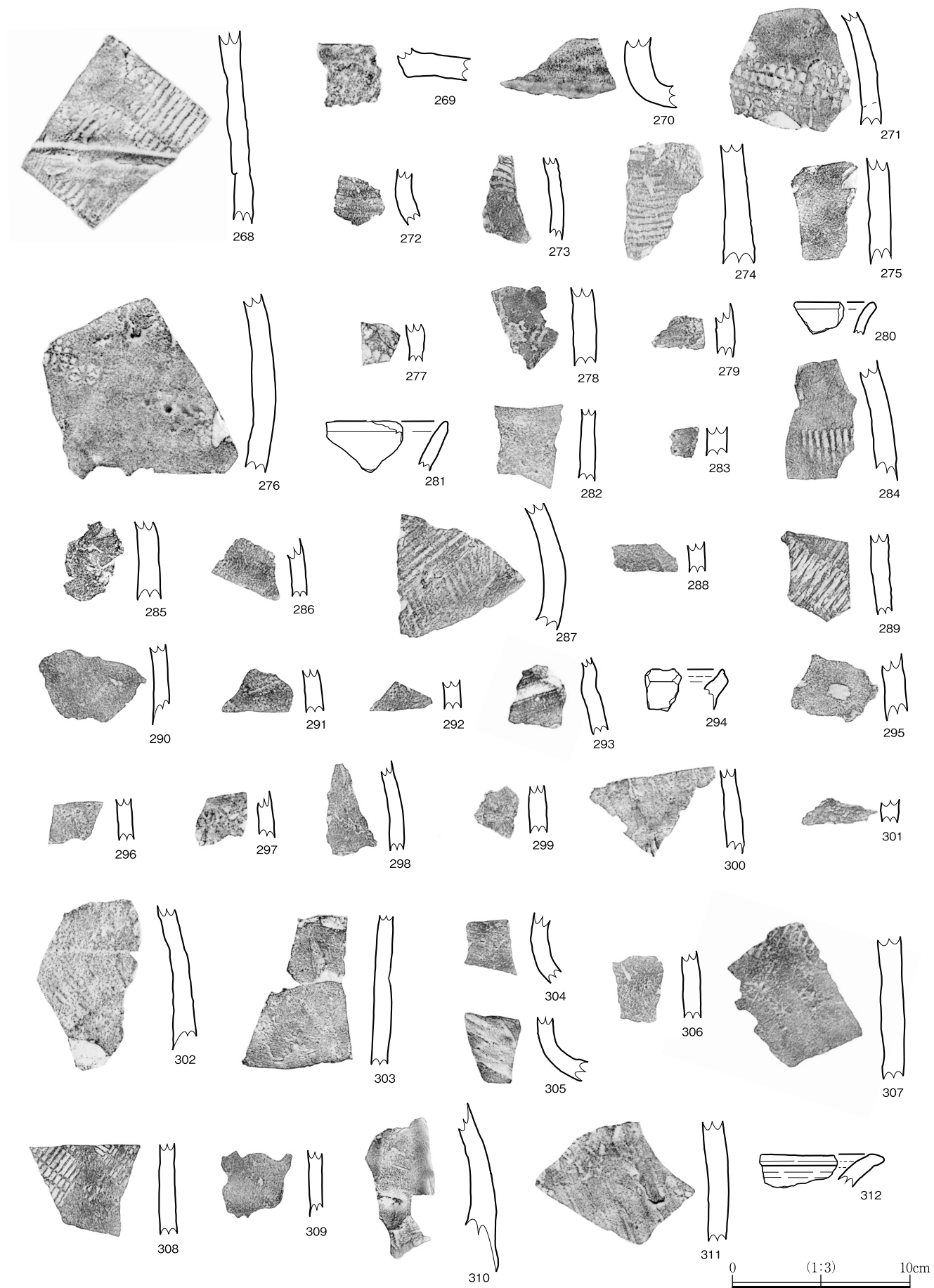


图21 21SD1 出土土器類実測图 7

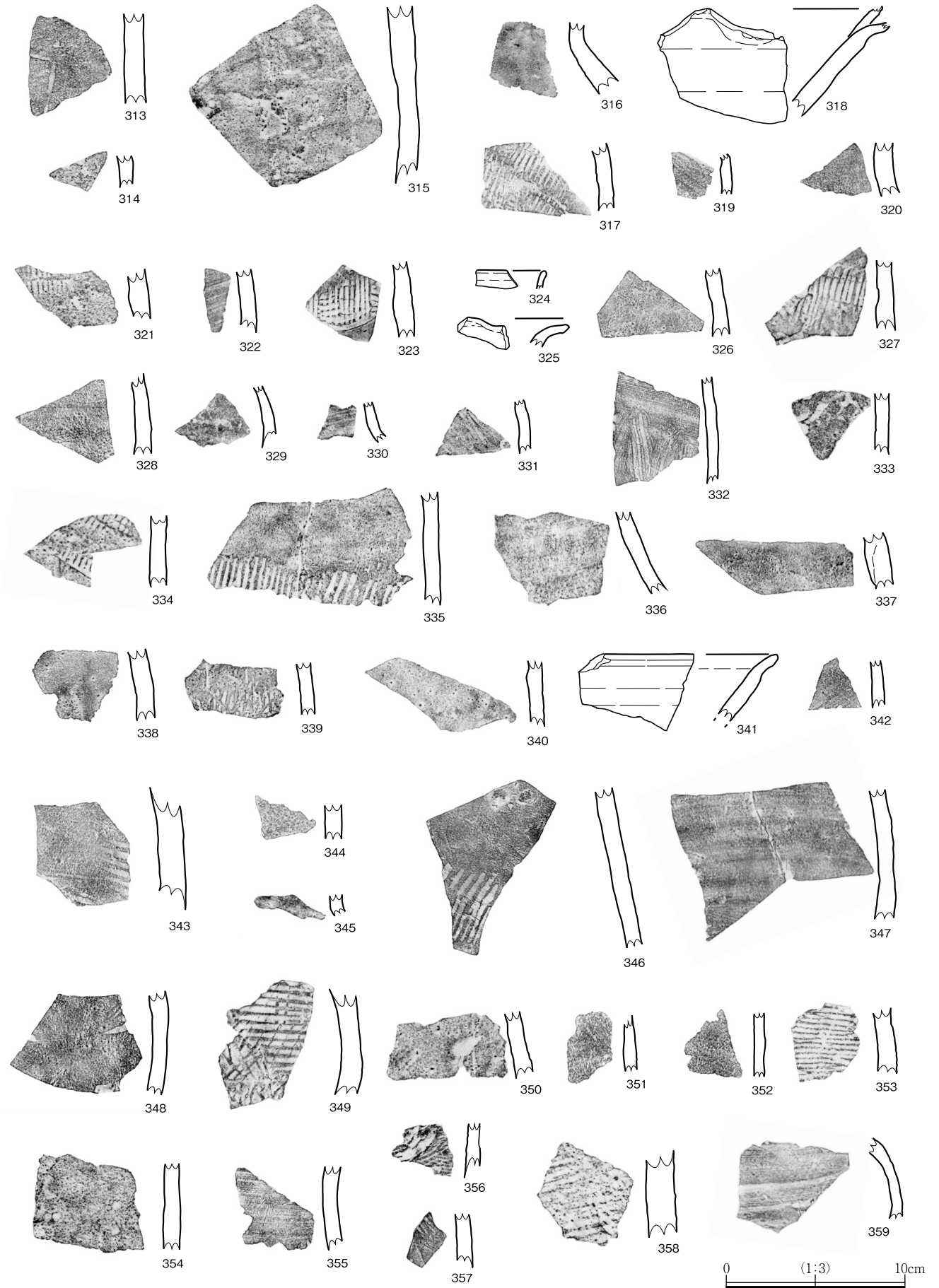


図22 21SD1 出土土器類実測図 8

157は体部内面に刻画がみられる。190は手づくねかわらけの小皿で、口縁から体部上部にかけて粘土接合痕跡が確認できる。203～365は国産陶器類である。212は片口鉢の口縁から体部片である。226は碗の口縁から体部で、片口の部分は残存していないが片口碗の可能性もある。225・227は碗の底部である。318は片口鉢である。341は片口鉢の口縁部である。体部片が多く、縦線文や格子文の押印が多い。307は円状の押印があり、装飾的な押印である。349のように直線文が組み合わせられるものもある。366～385は輸入陶磁器類である。366は白磁碗類の口縁部で口縁が外反する。368は外面に文様が施される。373は青磁碗類の口縁部片で、内面に花文がある。378は白磁壺類の頸部片である。381・385は四耳壺の耳部が残る。

21SD1の出土資料の様相をまとめる。最下層の自然堆積土は21SD1が機能した段階に堆積したとみられるが、遺物は少なく、かわらけも器高の低い器形や口径の小さい器形を含み12世紀後半の資料の特徴をもつ。下層とした資料は14層の下層から17層の資料を含み、一部に遺構機能時から廃絶時に近い資料を含むとみられる。ここでは口径が小さい器形などを主体とし、12世紀後半の特徴をもつ。口径が縮小化していることから想定できる資料の時期は、土層の観察から得られた所見と基本的に整合する。中層とした資料は一部下層の資料と同様に廃絶時に近い資料を含むとみられるが、12世紀後半以降の資料である。上層とした資料は遺跡廃絶後に堆積したもので、近世以降の堆積も含む。いずれの土層からも12世紀中葉以前の特徴を持つ資料は小片等では含まれるものの、器形の全体が把握できるものはみられない。自然堆積の土層からの出土のため、特定は難しいが、遺構が機能した段階を12世紀後半以降に置くことができよう。

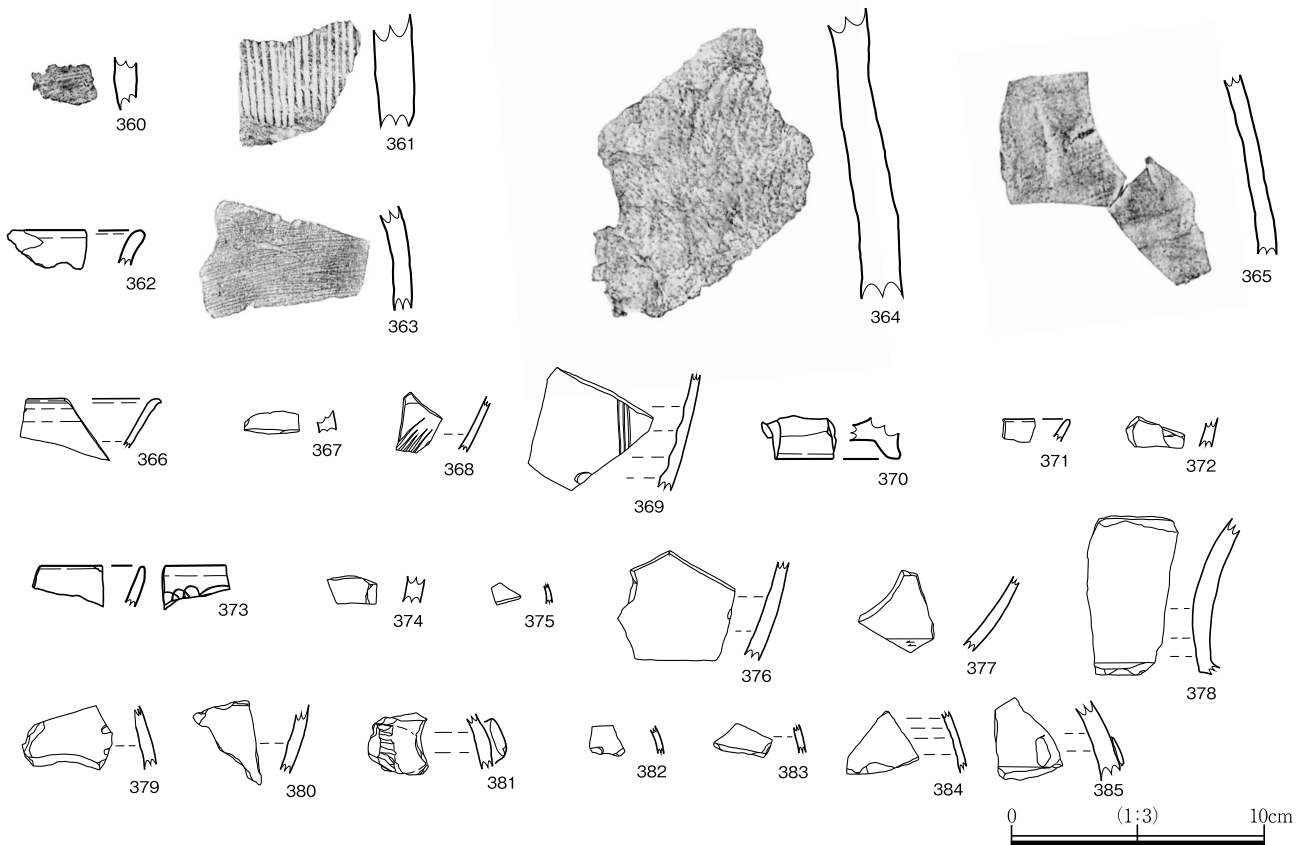


図23 21SD1 出土土器類実測図9

21SD2出土遺物 (図24・25)

21SD2は掘り下げを行ったのはトレンチ部分のみだが、かわらけが11,459.0g、国産陶器が1,260.8g、輸入陶磁器が1,089.6g出土しており、このうちかわらけ39点、国産陶器21点、輸入陶磁器3点を図示した(386~448)。

386~407は77T1からの出土した土器類である。386は下層からの出土だが、387~397は上層からの出土である。388~396は手づくねかわらけの大皿で、いずれも口径が13cm前後と小さい器形である。398~406は国産陶器である。上層からの出土が多い。体部片が多く、押印も縦線文や格子文が多い。409は白磁碗の口縁部で、口縁部が外に屈折する形状である。

408~448は77T2からの出土した土器類である。408・409は下層からの出土である。410は下層付近からの出土で、外面に工具端部の痕跡がみられる。411~415はロクロかわらけの大皿で415など器高が比較的高いものもあるが、全体では皿形の器形を呈する。416~419はロクロかわらけの小皿である。417は体部下半部に糸切り時とみられる痕跡が残る。420~429は手づくねかわらけの大皿で、口径は小さいものが多い。435~446は国産陶器類で、436は頸部、441は口縁部である。435・437~440・442~446は体部片である。447・448は輸入陶磁器類である。447は碗類の高台部である。448は福建省産とみられる白磁四耳壺で頸部から口縁部が欠損しているものの、ほぼ完形で出土した。器高は残存高で21.7cm、体部最大幅は17.7cmである。台部は径8.0cm、高さ1.3cmである。底部外面に3カ所の痕跡がある。内外面に施釉が行われ、一部に釉が垂下する。頸部と体部の接合部内面が、四耳壺としては

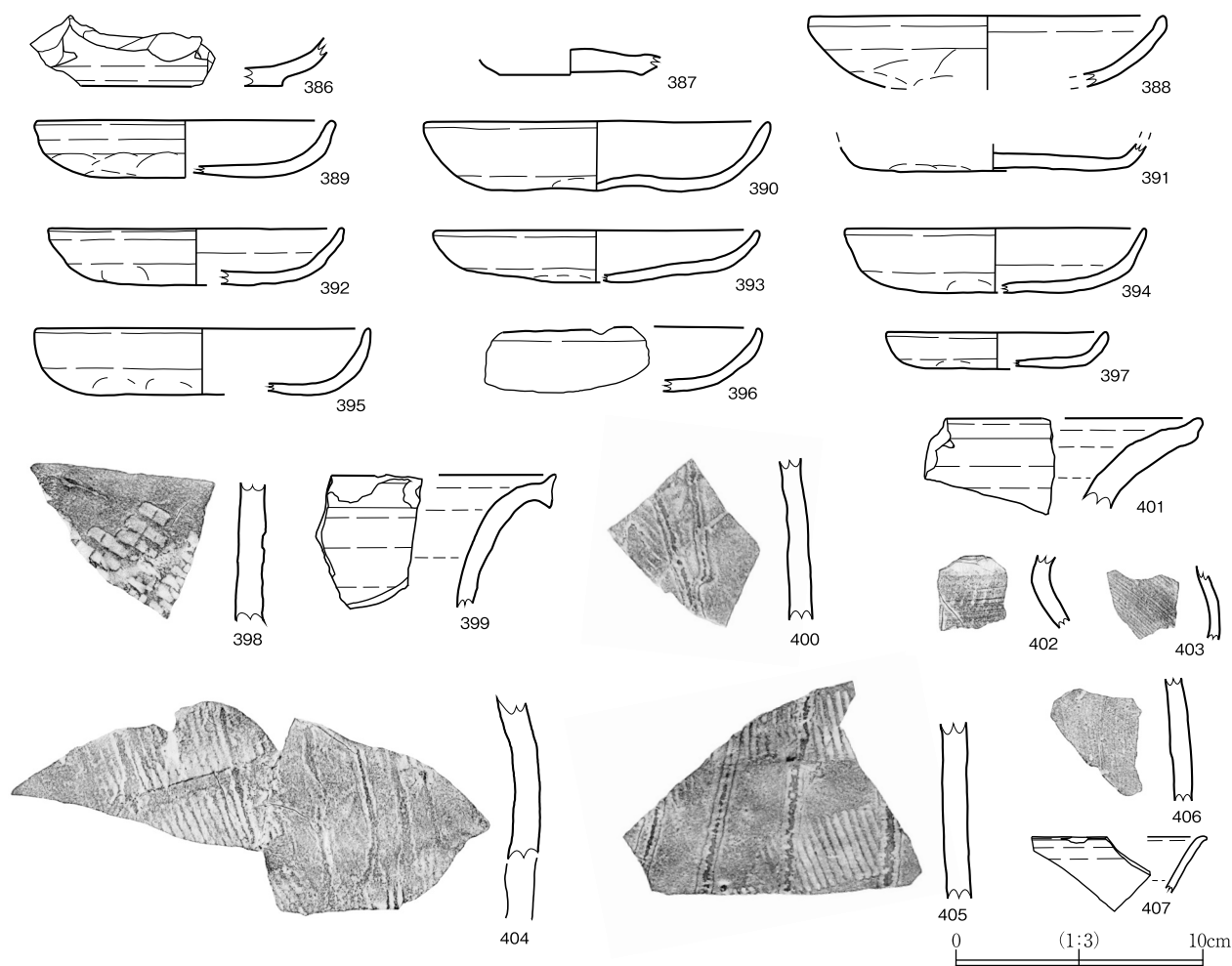


図24 21SD2出土土器類実測図1

鋭い形状である。

21SD2の出土資料は構築時や掘り直し時点までの遺物は少なく、かわらけでも器形が復元できる資料は少ない。特に機能時に関わるとみられる土層からの出土遺物は手づくね、ロクロのいずれとも小皿のため、時期の特定は難しい。また、これらも構築時に近い資料ではない。一方で、上層部分からは多くの遺物が出土している。いずれも12世紀後半の特徴をもつ資料である。遺跡が機能した最終段階からそれ以降に堆積した土層とみられるが、遺物の特徴もこれと整合する。また、図示できていない資料でも、上層は摩滅した資料が多いことも、土層の観察などから得られた所見と整合的である。

77SK1出土土器類 (図26)

かわらけが11,598.4 g 出土しており、このうちかわらけ29点を図示した。

449～462は底部に近い自然堆積層である9層から出土した。449はロクロかわらけ大皿で、450はロクロかわらけ小皿である。451～458は手づくねかわらけの大皿である。口径が14cmを超える大型の器形もあるが(454)、その他は14cm以下の器形である。459～461は手づくねかわらけの小皿である。462～477はそれより上層の人為的な埋土の土層から出土した。462～464はロクロかわらけの大皿で、器形の全体が確認できる464は器高が低い皿形の器形である。466～471は手づくねかわらけの大皿である。469は口径14.4cmとやや大型の器形だが、その他の資料は口径が13cm程度にまとまる。

77SK1出土土器の特徴から、9層は77SK1が機能した段階の堆積とみられるが、ロクロかわらけが少なく、手づくねかわらけが多いという組成の特徴、手づくねかわらけの特徴から12世紀後半の特徴をもち、その中でも12世紀第3四半期後半から第4四半期の遺構とみられる。堆積土の特徴から、埋め戻しが行われたとみられるが、この部分でも手づくねかわらけが多くを占め、器形の特徴からも最末期を含まない12世紀後半に埋め戻しが行われたとみられる。

柱穴出土土器類 (図26)

478～491は柱穴出土土器である。いずれの柱穴も精査はしておらず、検出面での出土である。そのため、各遺構の時期に関連する遺物と捉えられるかは不明である。478～480はPP31出土のかわらけ、491は国産陶器である。その他はいずれも出土点数が少ない。

その他遺構外出土遺物 (図27～32)

かわらけ27点、国産陶器類225点、輸入陶磁器類18点を図示した(492～761)。497はロクロかわらけの体部片で、体部内面に刻書が確認できる。文字かどうか判別できず、刻画の一部の可能性はある。499は口縁部に灯明等によるとみられるススの痕跡がある。517・518は内折れかわらけである。

519～743は国産陶器類で、多くは甕の体部片で器形の全体を復元できるものはない。特徴的な押印がみられるものも散見され、縦線文や格子文が多い。526・667は方形の重ね文、617は縦線文に直線を組み合わせたもの、599・662は円弧状の文様が連続する装飾的な押印である。549は底部付近まで押印がみられる。553・562・611は片口鉢の底部、581は片口鉢の体部である。このほか、三筋文壺などもみられる。774～761は輸入陶磁器類で、745・747・760は白磁四耳壺の口縁部、753は白磁壺類の底部片である。750は白磁碗で内面に花文が施文される。

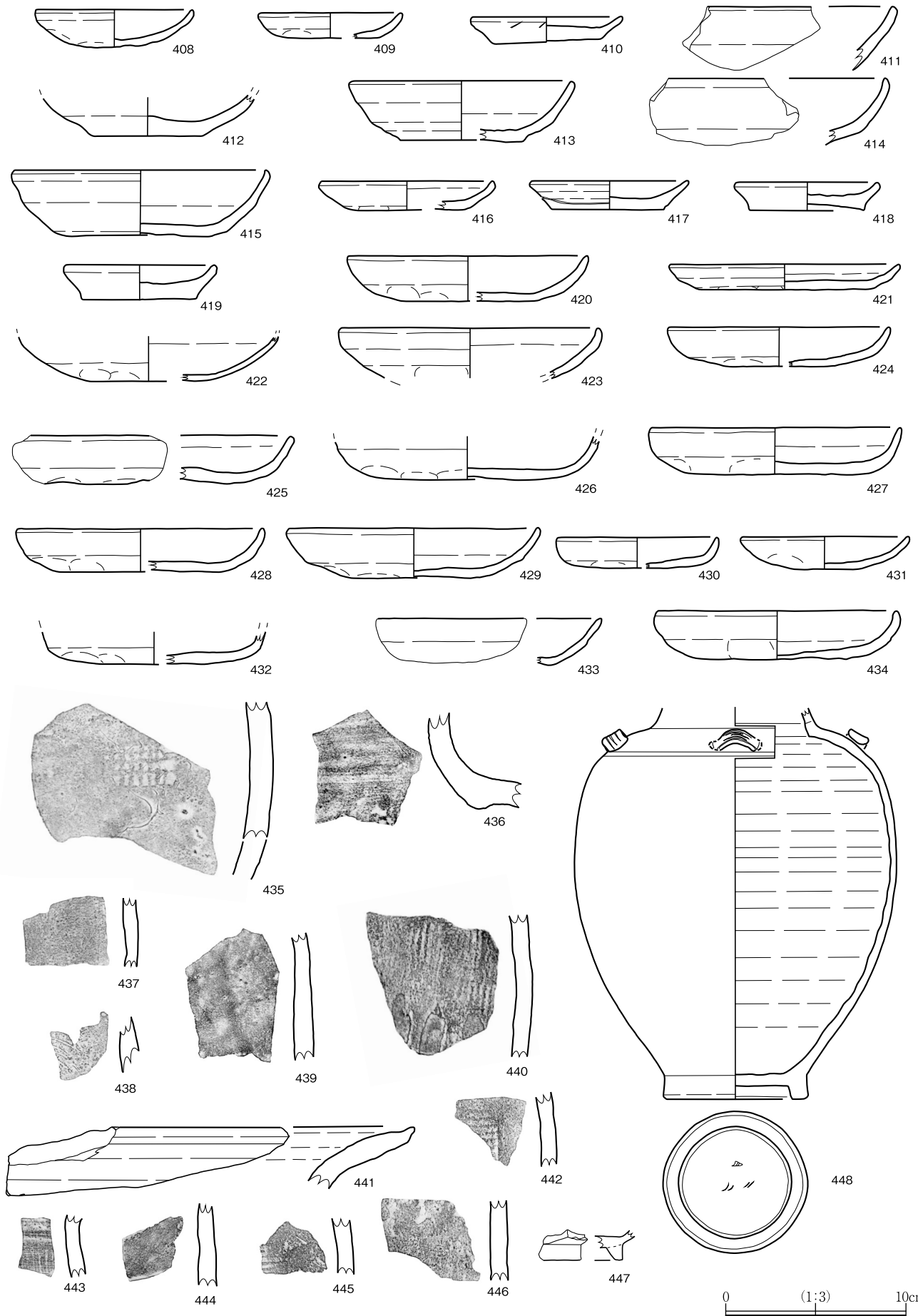


図25 21SD2 出土土器類実測図 2

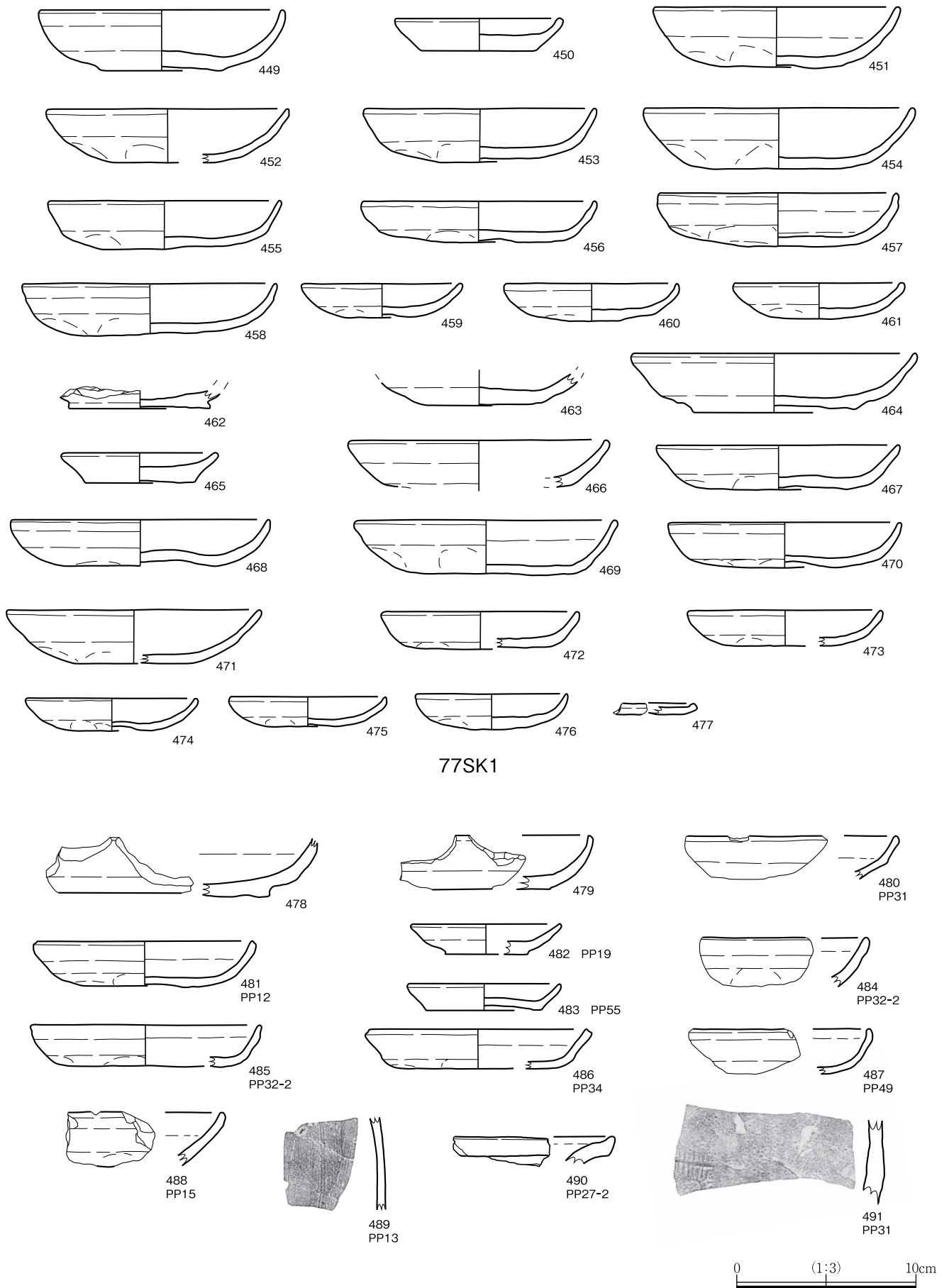


図26 77SK1・その他遺構出土土器類実測図

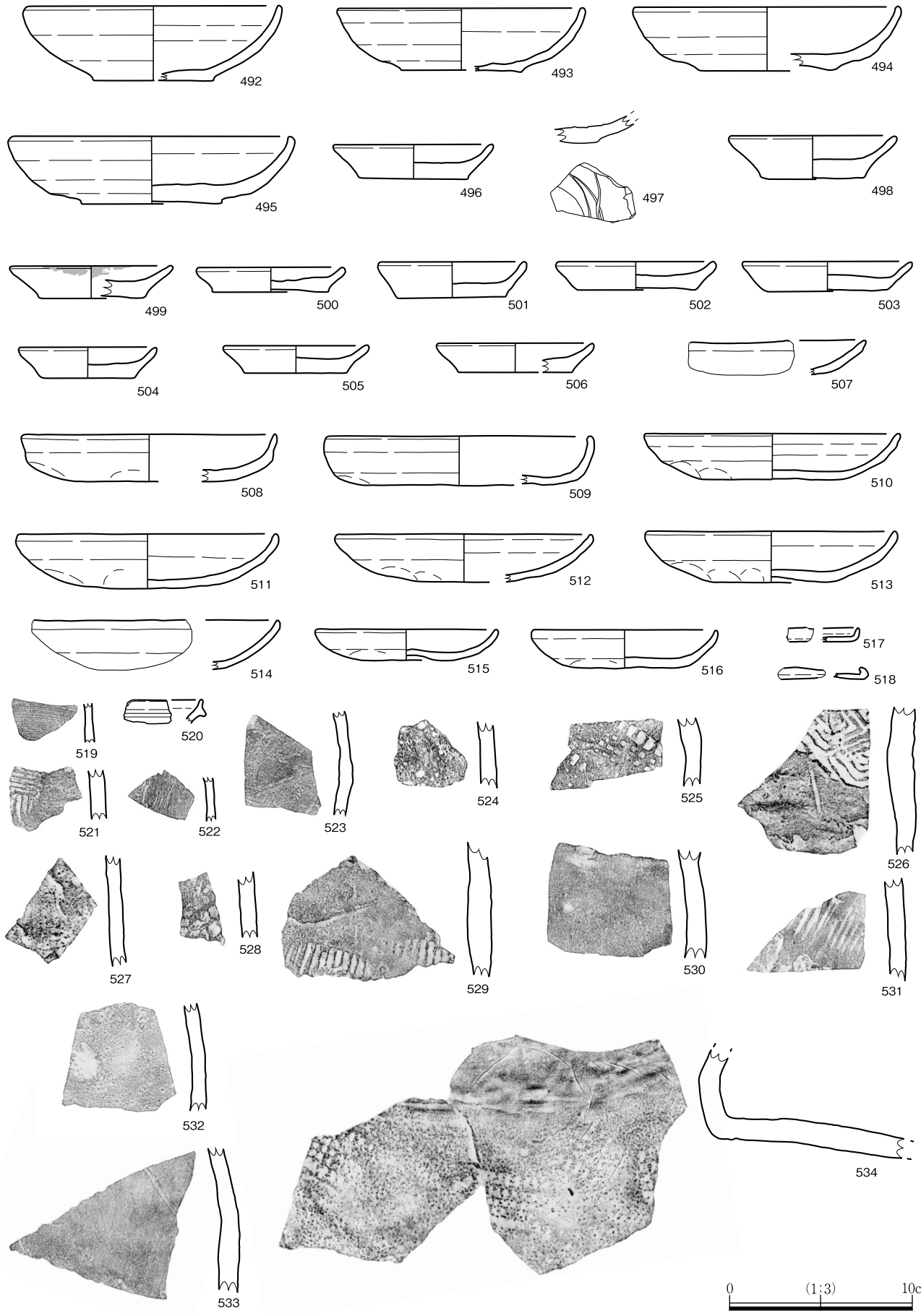


図27 遺構外出土器類実測図1

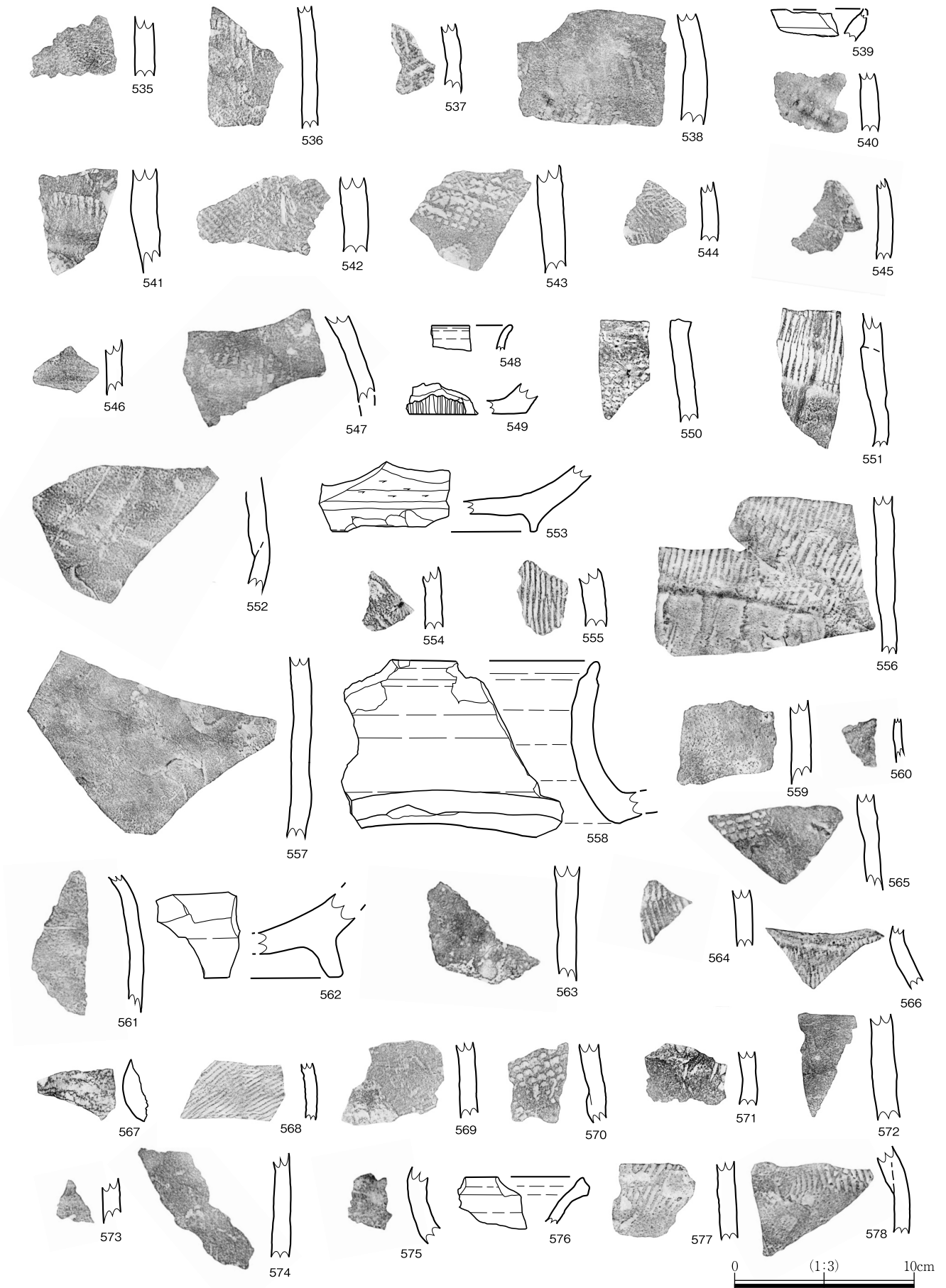


図28 遺構外出土土器類実測図 2

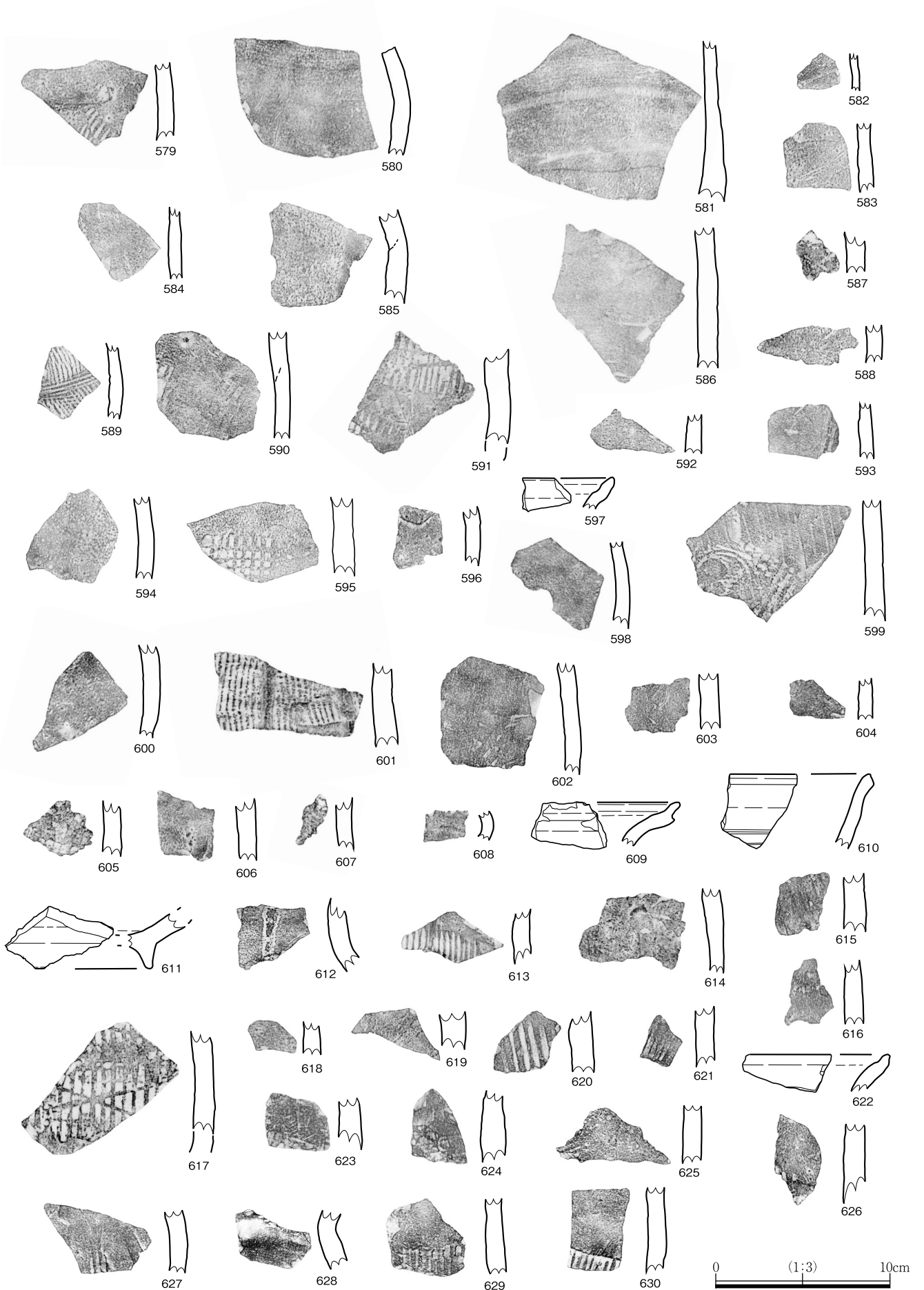


図29 遺構外出土土器類実測図3

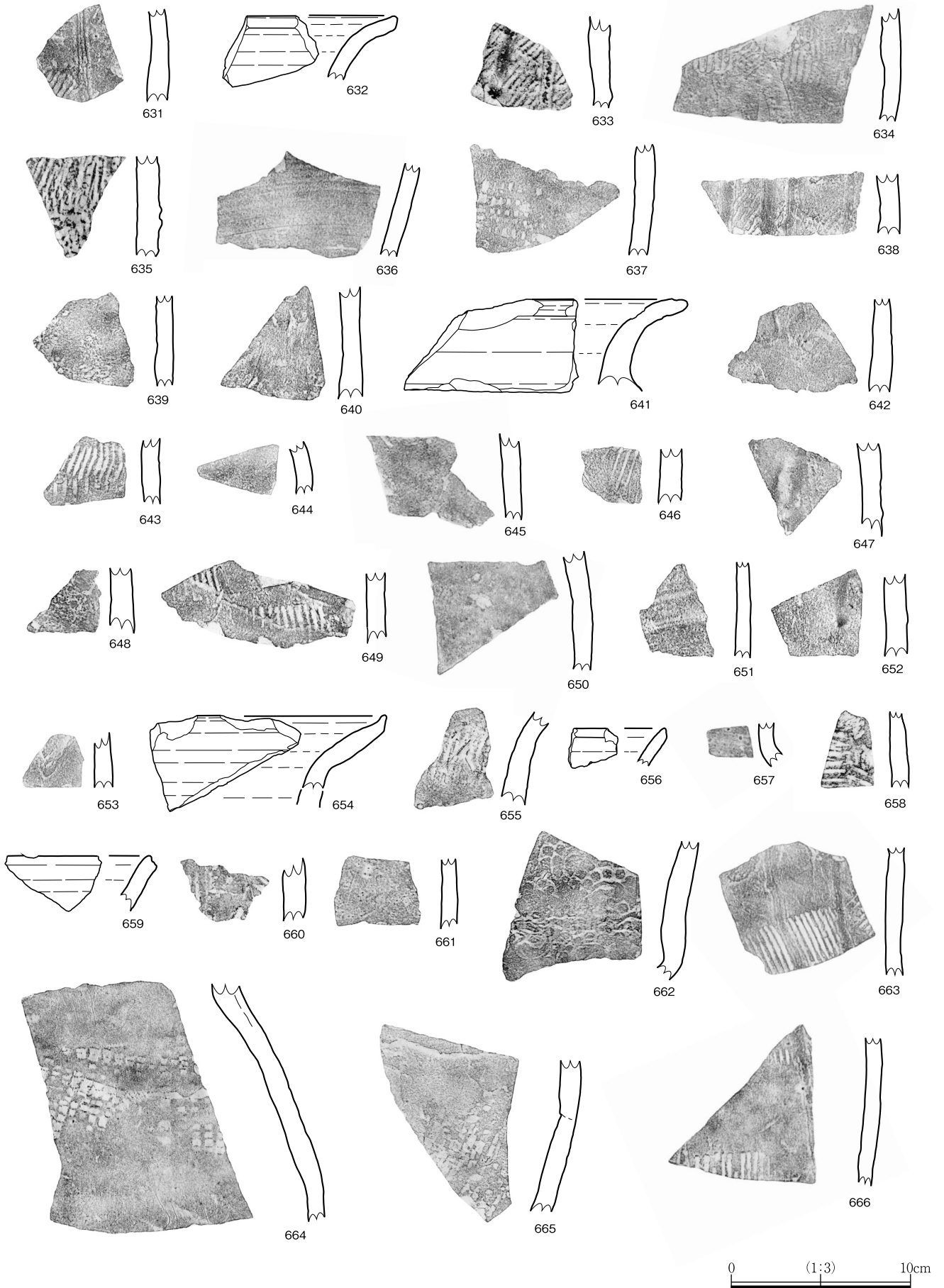


図30 遺構外出土土器類実測図 4

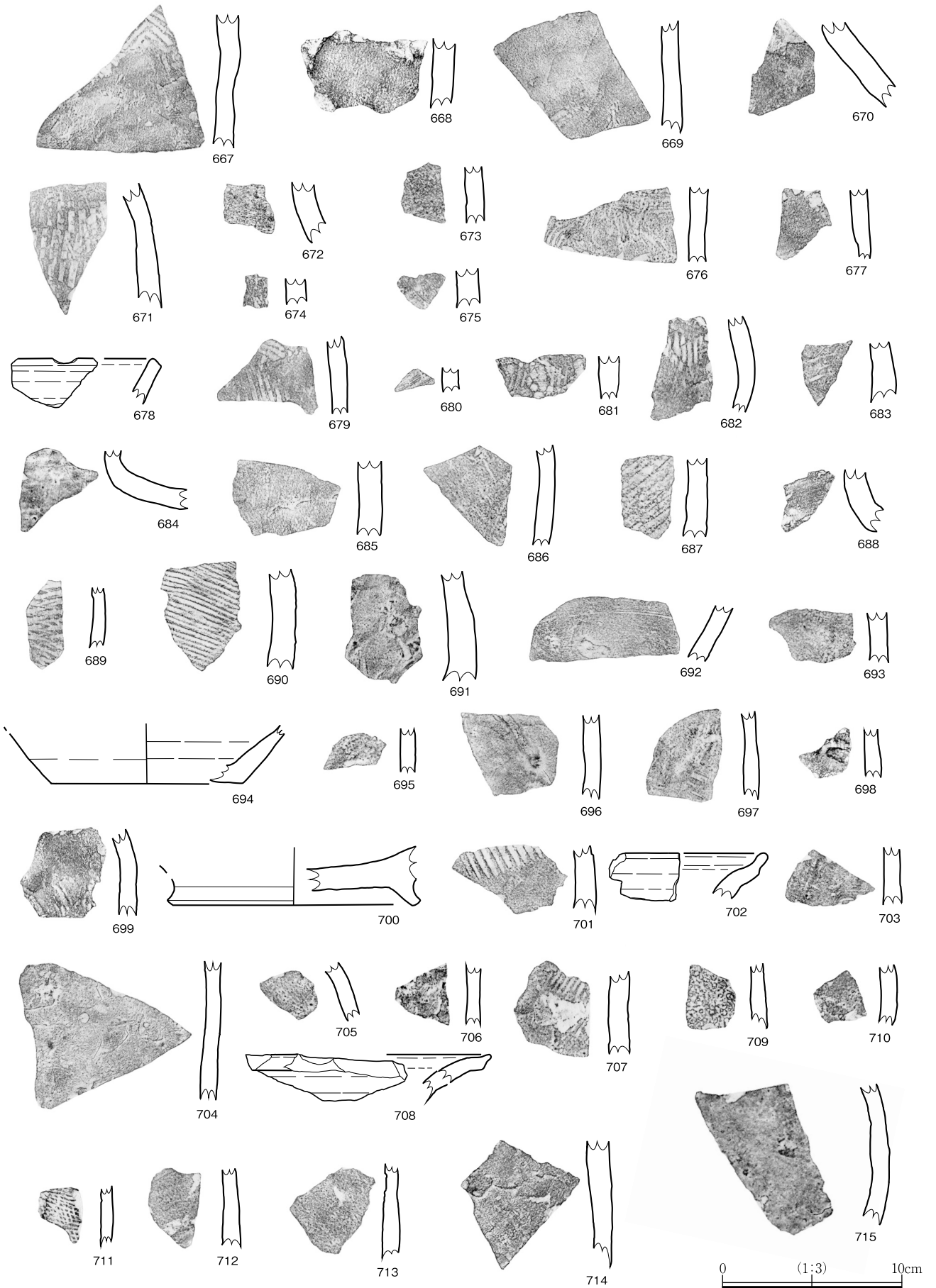
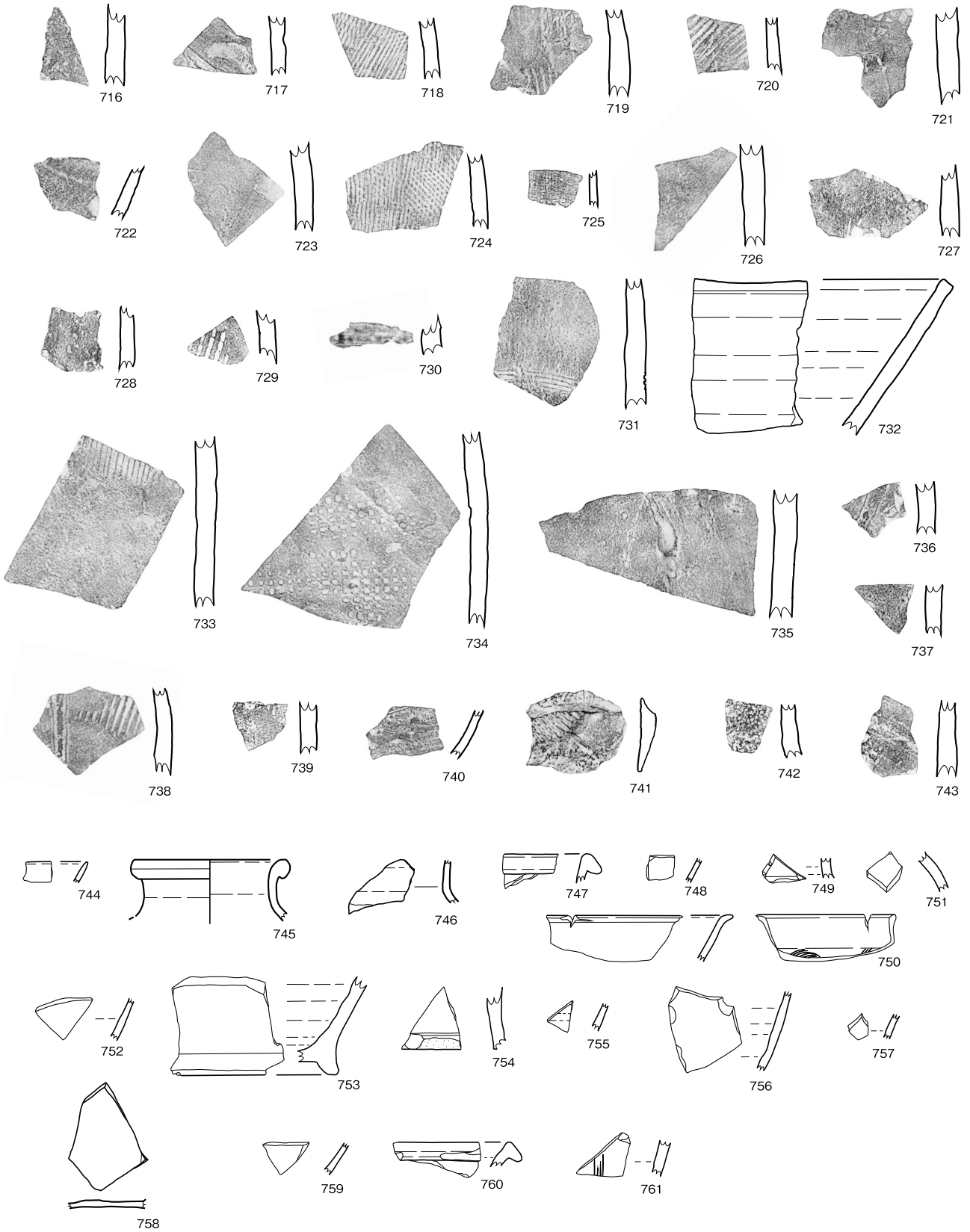


図31 遺構外出土土器類実測図5



0 (1:3) 10cm

图32 遺構外出土土器類実測图 6

(2) 木製品 (図33)

木製品はいずれも堀跡からの出土だが、出土量は少ない。加工痕跡のある資料を中心に8点を図示したが、製品としての機能が判明する資料は少ない。762は大型の部材だが、本来の形状等は不明である。763は箸状の木製品で、側面が整形されている。上下は折れにより破損しており、本来の長さ是不明である。764は加工された木製品だが、機能等は不明である。765は板材で、加工痕跡はあるものの、本来の形状等は不明である。766は上面が切りにより加工されている。木製品の部材とみられるが、本来の機能は不明である。767は樹皮で、柳之御所遺跡や志羅山遺跡で出土事例がある。木製品の部材もしくはその未製品とみられる。768は漆碗の体部片で、小片のため口径は不明である。769は上面および側面が切りにより調整されている。下面は折れにより破損している。大きさや加工の様相から部材とみられるものの、本来の形状や機能は不明である。

(3) 瓦

瓦はいずれも小破片のため、瓦当面が確認できる軒瓦のみ写真掲載した(図版19)。いずれも軒丸瓦の瓦当片で、剣頭文系などの既知の文様をもつものである。また、この他に平瓦、丸瓦片が出土しており、これらは表12に掲載した。小破片が多く、27点の出土だが、総重量は339.2gである。

(4) その他の遺物 (図33)

その他の遺物では77SK3の1a層から出土した鉄製鋤先(770)がある。長さが11.8cm、最大幅9.8cm、刃部の幅が5.1cm、厚さは1.5cmでほぼ完形である。先端部の特徴をみると平面形状は丸みを帯びるものの、断面形状では尖らされており、1cm程度の刃部の先端が整形される。耳部から刃部にかけての内面は窪みがあり、木工具との組み合わせ部分と想定できる。なお、柳之御所遺跡の堀外部で同様の資料が出土している(柳之御所遺跡24次調査)。

(櫻井)

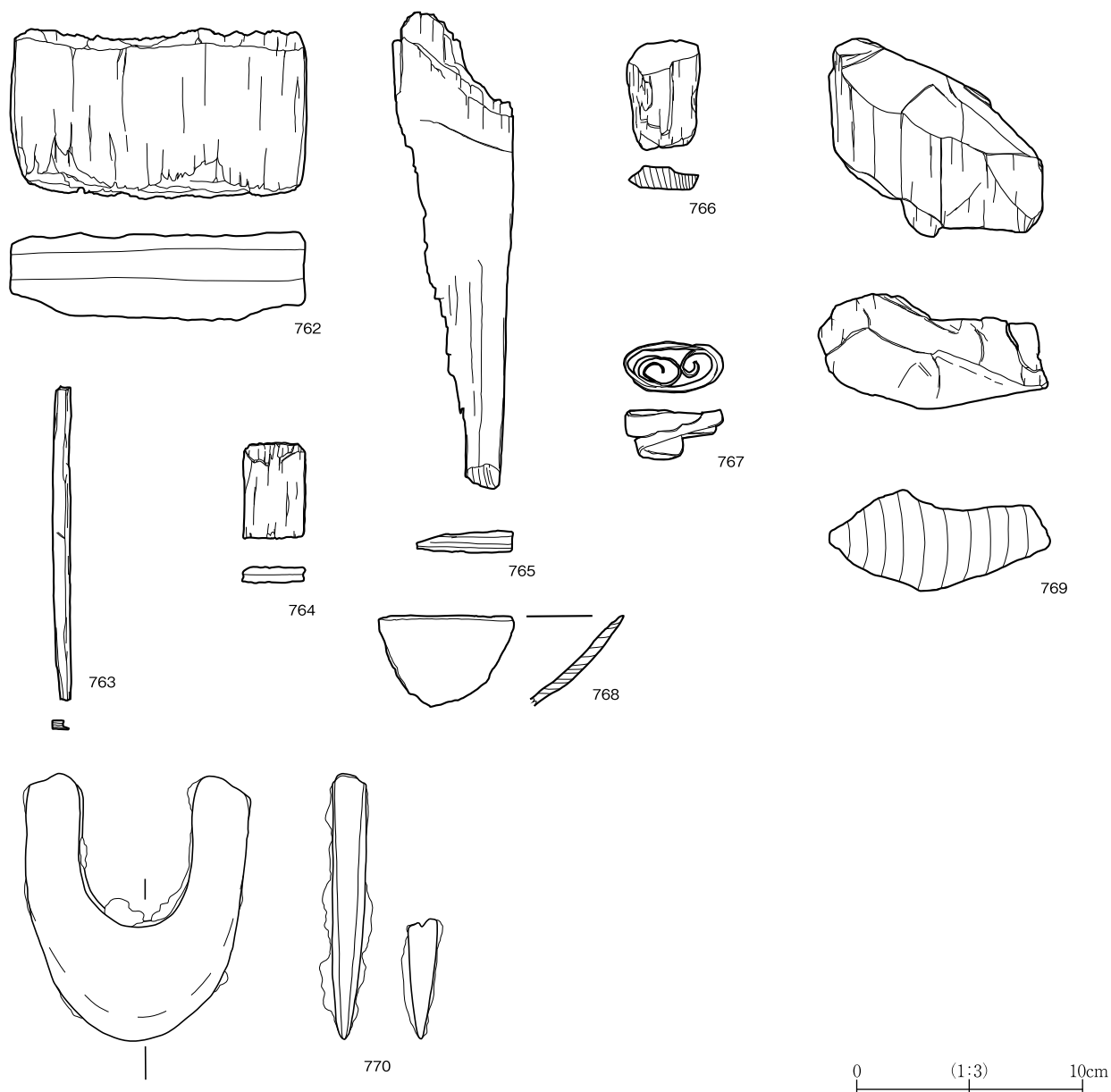


図33 木製品類・金属製品実測図

Ⅲ 自然科学分析

柳之御所遺跡第75次調査出土木製品の樹種同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

柳之御所遺跡第75次調査区は、無量光院跡と柳之御所遺跡の間に位置する、猫間が淵跡と呼ばれる低地部を中心とした範囲であり、隣接する72次調査区から続く外側および内側の堀、整地層、橋状遺構が検出されている(岩手県教育委員会,2015)。

本報告では、内側および外側の堀から出土した木製品の樹種同定を実施する。

I. 樹種同定

1. 試料

試料は、内側の堀(72SD1)から出土した木製品5点と、外側の堀(72SD2)から出土した木製品2点の合計7点である。

2. 分析方法

資料の木取りを観察した上で、剃刀を用いて木口(横断面)・柁目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール(抱水クロラール,アラビアゴム粉末,グリセリン,蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類(分類群)を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東(1982)やWheeler他(1998)を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林(1991)や伊東(1995,1996,1997,1998,1999)を参考にする。

3. 結果

樹種同定結果を表7に示す。木製品は、全て広葉樹で、7点中6点がケヤキ、1点がモクレン属に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・モクレン属 (*Magnolia*) モクレン科

散孔材で、道管は単独または2-4個が放射方向に複合して散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は単穿孔を有し、壁孔は階段状~対列状に配列する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-40細胞高。

表7 樹種同定結果

遺物No		遺構	位置	層位	器種	木取り	樹種
513	75RW1	72SD1		5層	漆塗り下駄	板目	ケヤキ
516	75RW2	72SD1		5層	漆塗り下駄	板目	ケヤキ
517	75RW4	72SD1		5層	漆椀	横木地柁目取	ケヤキ
601	75RW5	72SD1	2-3グリッド間	中層-下	漆椀	横木地柁目取	ケヤキ
554	75RW7	72SD1		中-下層	漆椀	横木地	ケヤキ
592	75RW8	72SD2	6トレンチ	中層-上(暗灰色土)	漆椀	横木地柁目取	ケヤキ
599	75RW435	72SD2		中下層	下駄	板目	モクレン属

4. 考 察

木製品が出土した堀跡は、これまでの調査から、外側の堀跡(72SD2)から内側の堀跡(72SD1)に作り替えられたことが確認されており、遺物の様相も外側の堀跡でやや古相の様相が見られる(岩手県教育委員会,2015)。したがって、出土した木製品についても、外側の堀跡から出土した2点が若干古い可能性がある。

樹種同定を実施した木製品は、漆椀と下駄であり、ケヤキとモクレン属の2種が認められた。ケヤキは、河畔・溪畔等に生育する落葉高木で、木材は重硬で強度と耐朽性が高い。一方、モクレン属には、ホオノキ、コブシ、オオヤマレンゲ等がある。二次林や河畔等に生育する落葉高木であり、木材は軽軟で強度と保存性は低い。

器種別にみると、漆椀は、内側の堀跡(72SD1)から3点(75RW4,5,7)、外側の堀跡(72SD2)から1点(75RW8)である。このうち、75RW4は内面が赤色、外面が黒色に塗られた資料で、残りは内外面共に黒色に塗られる。また、75RW5と75RW8には内面に同心円状の線が見えており、ろくろ挽きの痕跡が残ったと考えられる。木取りは、いずれも横木地であり、破片で高台が残っていない75RW7を除く4点では高台部分が柁目になることから、横木地柁目取りと判断できる。なお、75RW5は、椀内面の底にシワ状の物質があることから、漆を入れる容器として利用された可能性がある。漆椀の木地は、全てケヤキに同定され、遺構や漆塗りによる違いは認められない。

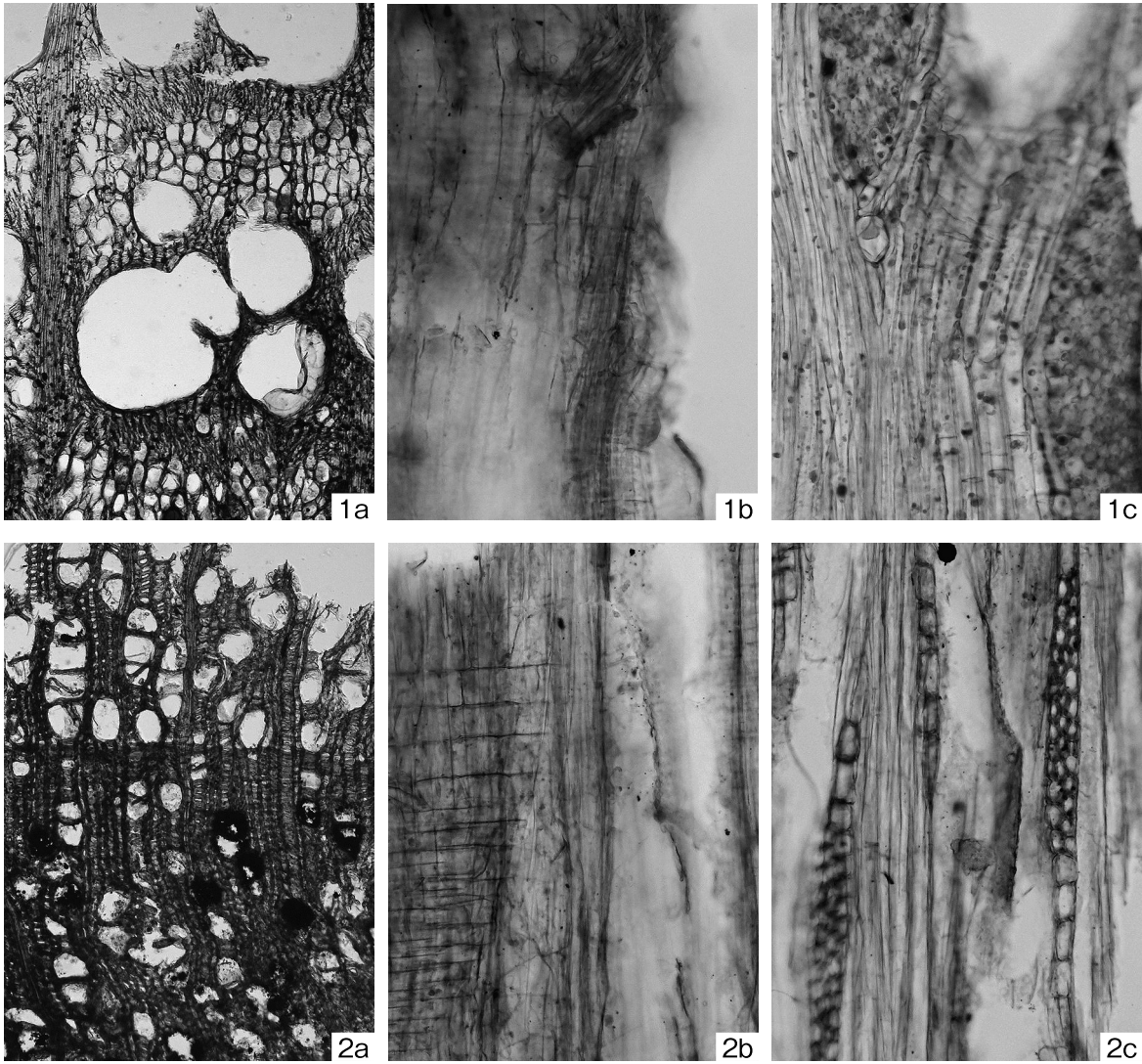
柳之御所遺跡では、第21次や第41次調査でも漆椀の樹種同定が実施されているが、その結果を見ると大部分がケヤキであり、ケヤキ以外にはブナ属が1点認められたのみである(能城,1995)。ケヤキを主体とする結果は、志羅山遺跡の12世紀とされる漆塗椀でも確認できる他、宮城県の調査例でも平安から鎌倉時代の挽物椀の大部分がケヤキである(伊東・山田,2012)。これらの結果から、当該期の漆塗椀ではケヤキに偏重した木材利用が推定され、今回の結果でもその傾向が改めて確認された。なお、四柳(2006)によれば、11~12世紀にかけて、国家権力の衰退と共に塗師や木地師の自立化が進み、漆器の普及と共に材料や工程を大幅に省略した渋下地漆器が出現し、木地もケヤキからより安価なブナやトチノキなど多様な樹種が選択されるようになることが指摘されている。前述の志羅山遺跡では、12世紀代の漆塗椀は全てケヤキであるが、13世紀後半~14世紀前半の漆塗椀では、点数は少ないがブナ属やハリギリに同定されており、四柳(2006)の指摘を支持する結果が得られている。

下駄は、72SD1から1点(75RW435)、72SD2から2点(75RW1,2)で、いずれも台と歯を一木で作る連歯下駄である。このうち、75RW1,2は黒漆塗りの下駄で、高い歯を持つ形状から同型の下駄と判断される。75RW1は前部、75RW2は後部のみの資料であり、木取りもよく似ている。樹種はいずれもケヤキに同定され、強靱で腐りにくい樹種が利用されている。欠損部分があり、接合はできないが、

木取りや樹種同定結果を考量すれば、2点の下駄は同一個体の可能性がある。一方、75RW435は、同じ連歯下駄でも歯が低く、白木で漆塗りは認められない。モクレン属に同定され、強度や保存性よりも、軽く足に負担の少ない木材を選択したことが推定される。柳之御所遺跡のこれまでの調査では、ケヤキを中心に広葉樹のクリ、キハダ、モクレン属、トチノキ、針葉樹のアスナロ、スギが確認されている(能城,1995:高橋,1995)。重硬な樹種(ケヤキ、クリ)と軽軟な樹種(キハダ、モクレン属、トチノキ、スギ、アスナロ)が混在しており、丈夫なことに重点をおいた下駄と、足に負担の少ない軽い下駄とが存在したことが推定される。なお、柳之御所遺跡では、台と歯を別材で作る差歯下駄も確認されているが、樹種をみるといずれの樹種も連歯下駄と差歯下駄に確認されており、形態による樹種の違いは確認されていない。

引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久(編), 2012, 木の考古学 出土木製品用材データベース. 海青社, 449p.
- 岩手県教育委員会, 2015, 柳之御所遺跡 第75次発掘調査概報, 岩手県文化財調査報告書第144集, 平泉遺跡群発掘調査報告書, 113p.
- 能城修一, 1995, 柳之御所遺跡から出土した木製品の樹種, 「柳之御所跡 一閑遊水地事業・平泉バイパス建設関連第21・23・28・31・36・41次発掘調査報告」, 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 433-456.
- 島地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織, 地球社, 176p.
- 高橋利彦, 1995, 柳之御所遺跡第23次・31次調査出土材の樹種, 「柳之御所跡 一閑遊水地事業・平泉バイパス建設関連第21・23・28・31・36・41次発掘調査報告南遺跡」, 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター, 423-432.
- Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].
- 四柳嘉章, 2006, 漆(うるし)Ⅰ. ものと人間の文化史131-I, 法政大学出版局, 252p.



1. ケヤキ(75RW2)
 2. モクレン属(75RW425)
 a: 木口, b: 柱目, c: 板目

100μm:a
 100μm:b,c

図34 木 材

IV 総 括

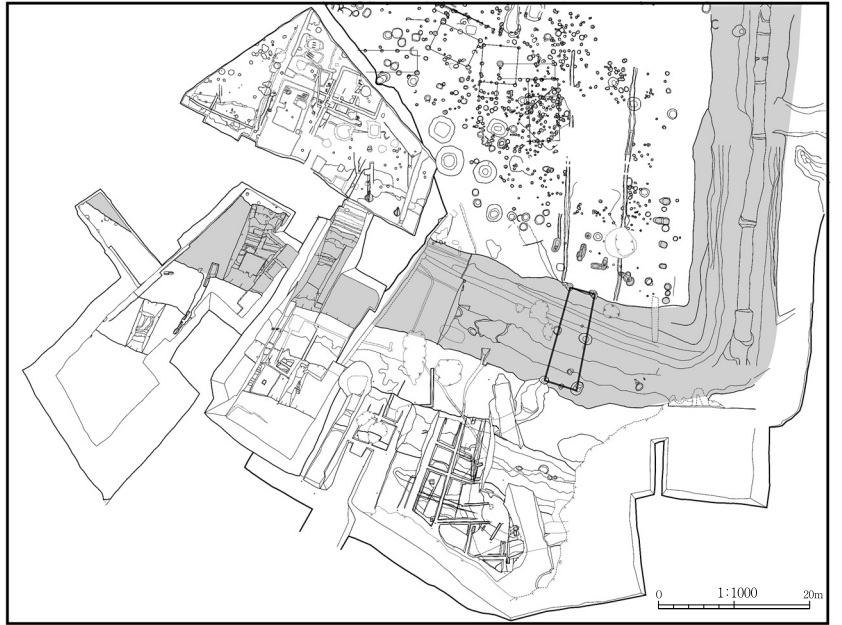
1 今回の調査範囲での堀跡の概要

内側に位置する21SD1堀跡は逆台形の形状で、残存で幅約11m、深さが約2.4mと大規模なものである。これまでの調査で確認されている遺構（21SD1・72SD1）と連続し、同一の遺構と判断できる。全体が自然堆積による土層で埋まり、上層は近世以降の堆積で、その段階までは窪みとして形状を保つ。下層の自然堆積層は、遺跡および遺構が機能した段階の堆積とみることができ、遺物は多くない。出土した遺物は12世紀後半の特徴を示し、中葉以前の特徴をもつものはみられない。

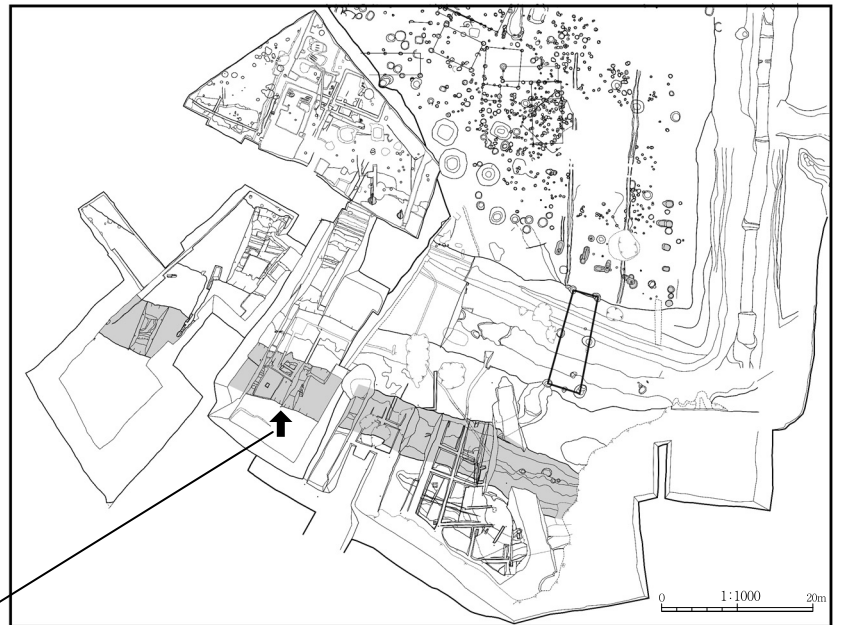
外側に位置する21SD2堀跡は掘り直し等の改修が多く土層も複雑で、21SD1とは対照的な様相を示す。複数回の掘り直しが推察できるが、最も旧期の段階では遺物の出土が少なく、この点からは構築時期の特定は難しい。遺物の多くは最終段階の自然堆積層からの出土で、12世紀後半の特徴をもつ遺物が多い。廃絶の時期とその様相にも不定な部分も残るが、77次調査の範囲では上部の自然堆積による土層が深く堆積する状況が観察できる。76次調査区ではこの最終段階の土層の深さが約60cm、標高21.8mほどとなっており、今回の調査区では深さが約80cmで標高21.3mほどとより深い。一方でより東側の69・70次調査区では検出面からの深さが約50cmで標高22mと東に向かって浅くなり、69次調査区の東端（Cトレンチ）では全体が整地で埋め戻されて窪みは確認できなくなる範囲がある。この範囲ではより南側に自然堆積の土層が広がり、これが最上層の自然堆積土層に対応するとみられる。この様相からは、それまでの堀跡の範囲が、形状は地点によって大きく異なり堀としての斉一的な様相とは異にしながら、溝状に排水の機能を果たしていた地点が存在することを想定できる。なお、この想定を踏まえれば、69・70次調査で確認した整地土層の性格が、21SD1堀跡で確認されている21SX35橋跡の延長部分に位置することを合わせて、改めて注目できる。

21SD2堀跡に関連する遺構に、77SX1・2とした部分がある。21SD2の北側部分を埋める人為堆積の土層を指し、今回の調査範囲では掘り込みをもつと判断し遺構としたものである。これまでの調査でも21SD2堀跡の内側に沿って人為的な土層を確認しており、21・69・70次調査の範囲では21SX4としている。今日の範囲まで位置が連続し、土質も地山ブロックを多く含む人為的な土層で類似していることから、一連の埋め戻しに伴う土層の可能性が高い。これが連続する土坑として認識できるかは、断面では掘り込み状になる範囲もあるがそのまま21SD2の掘り込みと同一の部分もあり、平面では全体的に人為的な類似した土層が続いており、判断が難しい。しかし、底面が凹凸をもつことなども含めて一連の地業の痕跡の可能性はある。性格は判然としないが、位置や埋土の締まり方などから何らかの基礎地業の痕跡の可能性を指摘しておきたい。ただし、関連する遺構やその痕跡はこの土層および隣接する整地層上面では確認できていない。

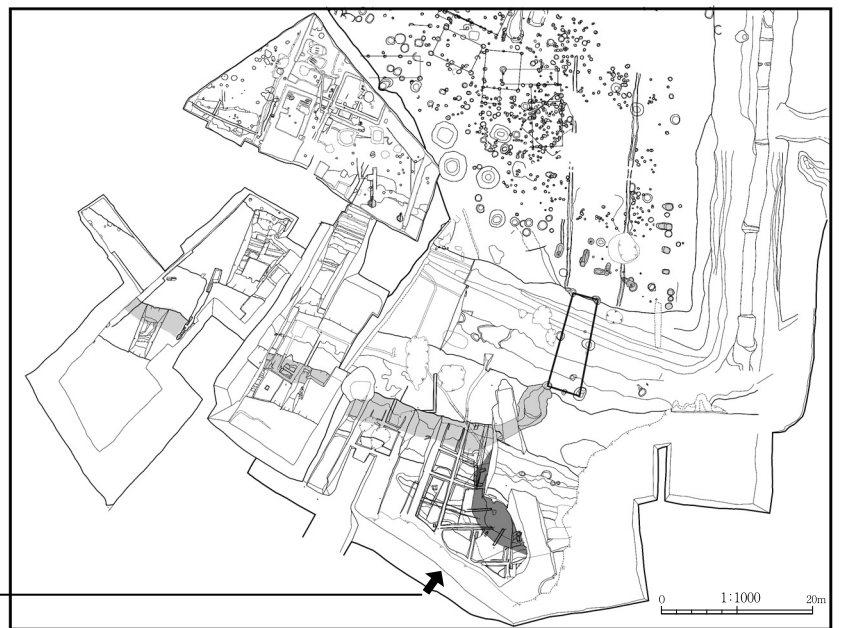
次に、両者の間に位置する南区整地層は21SD2堀跡と併行する段階が土層の対応から判断できる。21SD2の構築時期との関係は土層からは確定できないが、整地層の下層で古代の遺構面が確認でき、整地層中には12世紀の遺物を含まないことから、この範囲が使用された当初に構築時期を想定できる可能性がある。その場合には、21SD2の構築時期に近い段階で整地が行われたとみなすことができよう。既述の通り、出土遺物がなく時期を特定することは難しいが、12世紀中葉以降に遺跡内での遺物量が増大することを勘案すれば、それ以前に置くことができよう。遺跡南側の範囲でも12世紀前半代の遺構がこれまでの調査で確認されていること、21SD2の旧期の段階で確認されている遺物が量は少ないものの12世紀前半の器形的特徴をもつことを含めれば、12世紀当初期まで遡るかは確定できないが12世紀前半代にこれらの遺構が構築された可能性を指摘できる。



21SD1



21SD2



21SX4

図35 南端部の遺構

以上の堀跡の変遷を整理すると今回の調査範囲での遺構の変遷が図36のように想定できる。

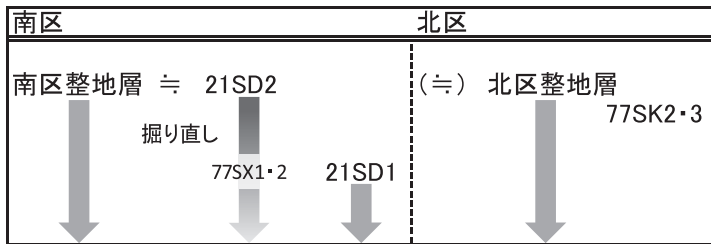


図36 77次調査区の遺構変遷模式図

2 柳之御所遺跡を囲む堀跡の位置と時期

今回の調査から、2条の堀跡の位置を確認することができ、2条の堀跡の位置を概ね確定することができた(図38)。内側の堀跡は遺跡西側ではV字に近い形状(①・②)、南西部の猫間ヶ淵跡に近い範囲では逆台形(③)、今回の調査範囲が位置する南端部ではより下幅が広い逆台形を呈する(④・⑤)。遺跡西部から猫間ヶ淵跡に下がる範囲で形状が変化したとみられるが、未調査範囲のため位置の特定はできない。走行位置などから同一の堀跡が連続するものと考えられる。

外側の堀跡は遺跡西部から(⑧)、南西部(⑨)、南端部(⑩・⑪)でも逆台形を呈する。全体的に掘り直しが複数回行われ、一部に人為的な埋め戻しが確認できるなど共通する特徴が多い。ただし、掘り直しの時間的な位置などの対応は土層の対応などからは確定が難しい。また、人為的な埋め戻しは検出面の上層まで行われる範囲があるものの(⑪、遺跡西部の①付近)、現状で全体的に確認できる範囲は限定的である。猫間ヶ淵跡の範囲では近世以降の溝によって上部が壊されており不明だが、77次の範囲では溝の形状を保っていた時期が想定できる。常時の滞水を意味するものではないが、遺跡を囲む自然地形の湿地帯からの排水等の機能を果たしていた範囲があるとみられる。

堀跡に関する既往の調査成果をみると、南端部においては相対的な変遷として21SD2→21SX4→21SD1の変遷を想定できる(岩手県教育委員会2010・2011)。遺跡の西側などでは遺構の直接的な切り合いからは前後関係を補強できないが、堆積土の様相の違いが指摘されており、構築時期などの前後は基本的に同様とみられる。また、構築時に近い形状で同時期に存在したとは考えづらい。基本的には外側の堀が構築され、一部に埋め戻しが行われ、内側の堀跡が構築されたとみられる。今回の遺構とあわせて、外側の堀跡(21SD2・72SD2)→21SX4・77SX1・2→内側の堀跡(21SD1)の変遷が想定できる。また、外側の堀跡は全体が埋め戻される範囲と、それ以外の範囲が想定できる。猫間ヶ淵跡に位置するおよび近接する位置は遺跡廃絶の時期までを通して流水の影響を受けていたものとみられる。便宜的に変遷を模式化する(図37)。

この変遷についての実年代の確定には遺物の限定性から確定できない部分も残るが、概略を示す。古い段階に外側の堀跡(21SD2・72SD2ほか)や、関連する整地層が機能する。また、この段階に想定できる外側の堀跡と併行もしくはそれより古い段階の遺構に56SD40溝跡がある。この遺構と外側の堀跡との関係は、未調査であることや想定される結節部分に内側の堀跡が位置することなどにより

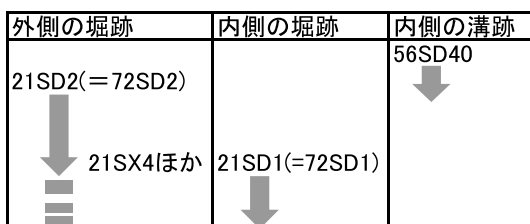
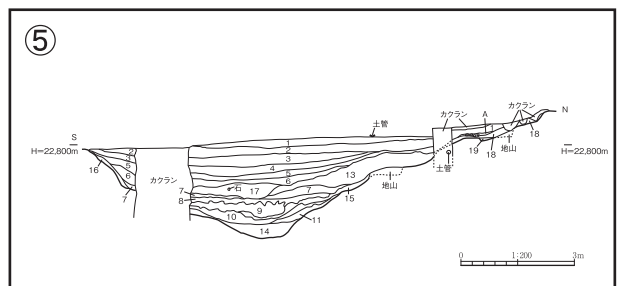
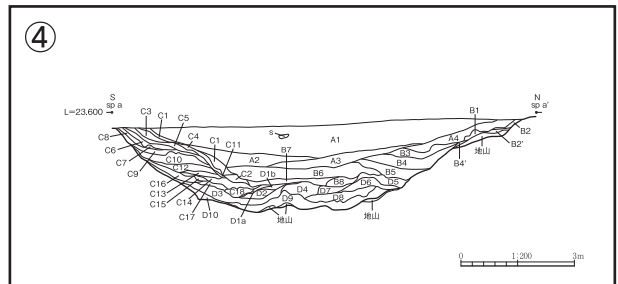
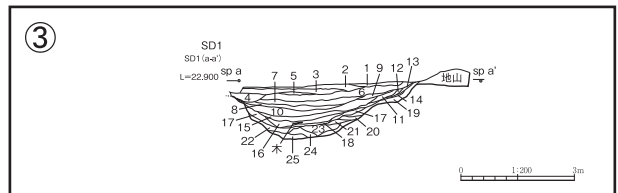
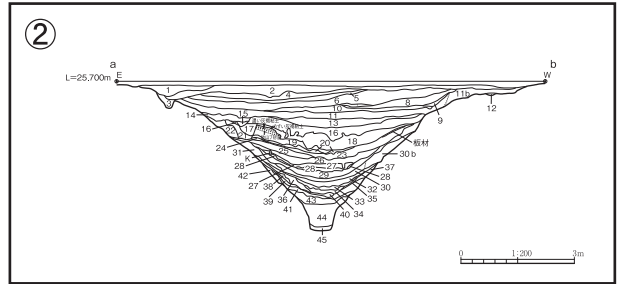
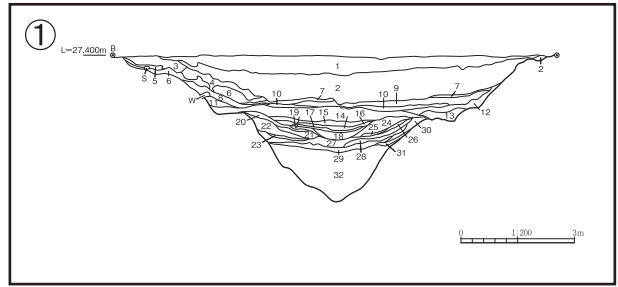
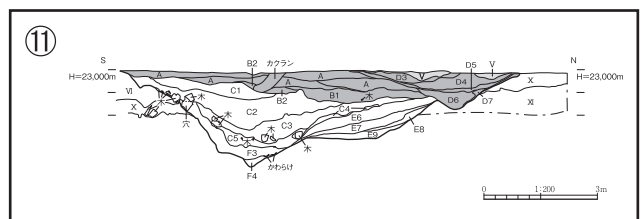
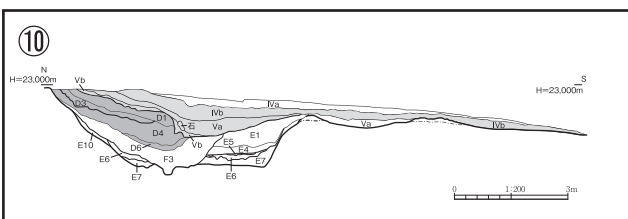
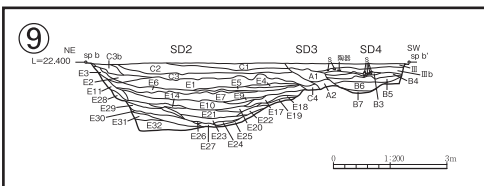
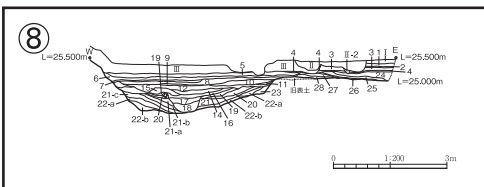


図37 堀の変遷模式図

2 柳之御所遺跡を囲む堀跡の位置と時期



内側の堀跡



外側の堀跡

図38 柳之御所遺跡の堀跡

現状では確定できない。これらの遺構の時期を遺物などから12世紀前半～中葉に想定できる。ただし、12世紀前半に想定しているが、その中での特定は難しい。整地層における遺物の少なさなどは遺跡が機能を開始した時期に近い段階での構築を想起させる内容であろう。これらの細分と位置による構築時期の差異の検討が課題となる。

次の、12世紀中葉～後半に外側の堀跡と関連する整地層が機能した段階がある。56SD40溝跡はこの時期には人為的に埋め戻されており、堀外部との間も含めて全体が外側の堀跡により区画されている段階である。

12世紀後半に外側の堀跡は内側の岸に近い一部で整地等（21SX4ほか）が行われ、南端部では全体的に整地された範囲がある。前節で述べたように、一部では外側の堀跡は部分的に溝状に残存したと捉えられる。この段階で内側の堀跡が構築されたと考えられる。21SX4などの整地層での出土遺物が12世紀後半の様相を示し、12世紀第3四半期後半から第4四半期の特徴をもつ遺物が多いことから、外側の堀跡周辺での地業と内側の堀跡の構築をその時期に想定できる。遺跡全体の遺構変遷の中でこの時期を具体的に位置づけ、他遺構（建物群）との関係性の検討が課題となる。

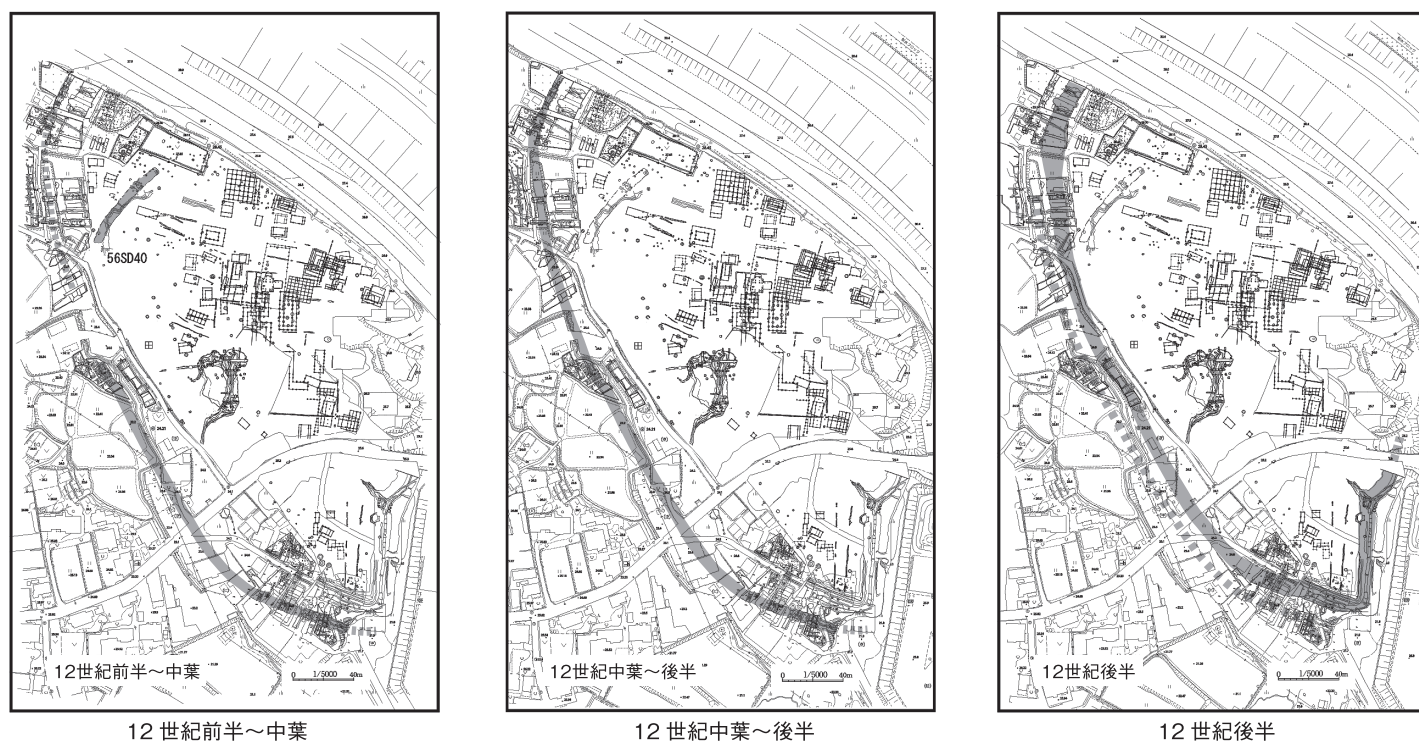


図39 堀の変遷案

※掘立柱建物の時期はそれぞれの存続時期を示していない。

3 堀跡周辺部の様相

(1) 南端部の様相

今回の調査では2条の堀跡の周辺部を調査した。遺跡南端部の性格についてはこれまでも議論が行われており、これまでの調査で小規模な建物や井戸跡などが確認されている。今回の調査では攪乱が著しく明確な建物跡などは確認できなかった。井戸跡とみられる土坑を確認しており、区画するような塀等もみられないことから同様の範囲として機能したと捉えられる。遺物等では樹皮等の出土は注目できるが、性格を特定できる材料は得られていない。

(2) 堀と関連する区画等

21SD1堀跡と21SD2堀跡の間については、整地層を確認したが、その他の明確な遺構は確認できておらず建物などはない空地となっていたと推定される。76次調査で確認した21SD1堀跡に斜行して堆積する人為的な様相をもつ土層などから、この範囲に整地土などの人為的な土層があったことが推定されてきたが、今回の部分で平面的にも確認できた。76次調査で確認された土層の土量や、空地としてのあり方からは土塁状の構築物があった可能性が想定できる。このほか、21SD1堀跡で崩落して確認される円礫も構築物との関連が窺える。

ただし、より猫間ヶ淵跡に近い範囲や堀外部地区との間では同様の土層は確認できておらず、2条の堀跡の間でも整地等は確認できていない。遺跡を囲む施設として、土塁状の部分があったとした場合でも、その範囲は限定的であったことが現状の成果からは想定される。また、21SD2堀跡の内側の岸部分の人為的な土層が、21SX4から続く人為堆積土層が連続した遺構として把握可能であれば、地業などの痕跡の可能性があり、関連する遺構として注目できる。上部の構造が不明なため特定はできないが、その端部が21SX35橋跡の柱穴の位置と重なる点も興味深い特徴である。

(3) 堀跡に近接する遺構

今回の調査範囲では2個の土坑状の柱穴を確認した(77SK1・77SK2)。遺跡南端部ではこれまでの調査で、21SD1の内側で通常の柱穴とは平面形状等にやや異なる柱穴を複数確認している(図40)。直線的に何で確認され、21SX36(21SK121、21SK119・120、21SK113・114、21SK117・118)・21SX37(21SK40、21SK34、21SK122、21SK116)として報告されており、性格についても祭祀に関連するとの見方もあるものの必ずしも明確ではない。円形の土坑もあるが、円形部分から片方に張り出しをもつ形状が特徴的な遺構である。柱痕跡等は必ずしも明確ではない。

今回の調査で確認した土坑も位置や平面形状にこれらと類似する点が指摘できる。77SK1・2は、柱が建てられた後、抜き取りが行われたことが断面の観察から理解できる。平面形状が円形の土坑部分と抜き取りに関連する張り出し状の部分で構成される。また、整地層の範囲で確認され、21SD1堀跡に沿うような位置に分布することも同様である。77次調査では21SD1堀跡の端部からやや離れた位置で確認しているが、削平によって21SD1の上端部の一部が失われている可能性もあり、基本的には同様の位置関係として把握できる。

これらの位置や形状の類似からは、全てが同一に捉えることができるかは確定できないが、同様の性格をもった土坑が多く存在するとの推測が可能である。いくつかの課題を挙げると、ひとつに配置の問題がある。直線的に並ぶように位置するもの間隔は一定ではなく、一連の遺構とは確定しがたい部分も残る。この点では、これらの遺構は整地層と同様の土質で埋められており、検出が難しいことが予想されることも留保すべきであろう。そのためか、77SK2と21SK121の間の部分について間隔が広く、この範囲での類似遺構の有無は不明な部分が残る。その他の遺構の分布状況からは、この位置にも類似の遺構が存在した可能性も推測される。

また時期については、現状では21SD1堀跡に沿って確認できるものの、整地層の下層で確認されたとの記述もあり(岩手県埋蔵文化財センター1995)、これらが同時期と見なしうるかは確定できない。整地層は遺物が少なく時期が特定できないものの、21SD1堀跡より先行する可能性があり、その場合は21SD2堀跡の内側に配置されたとの見方が妥当となろう。しかし、77SK1・2の調査所見からは、整地土と同様の埋土で最終的に埋まっており、前後関係の確認は特に整地面での検出は難しいものと考え



図40 掘跡周辺の土坑1

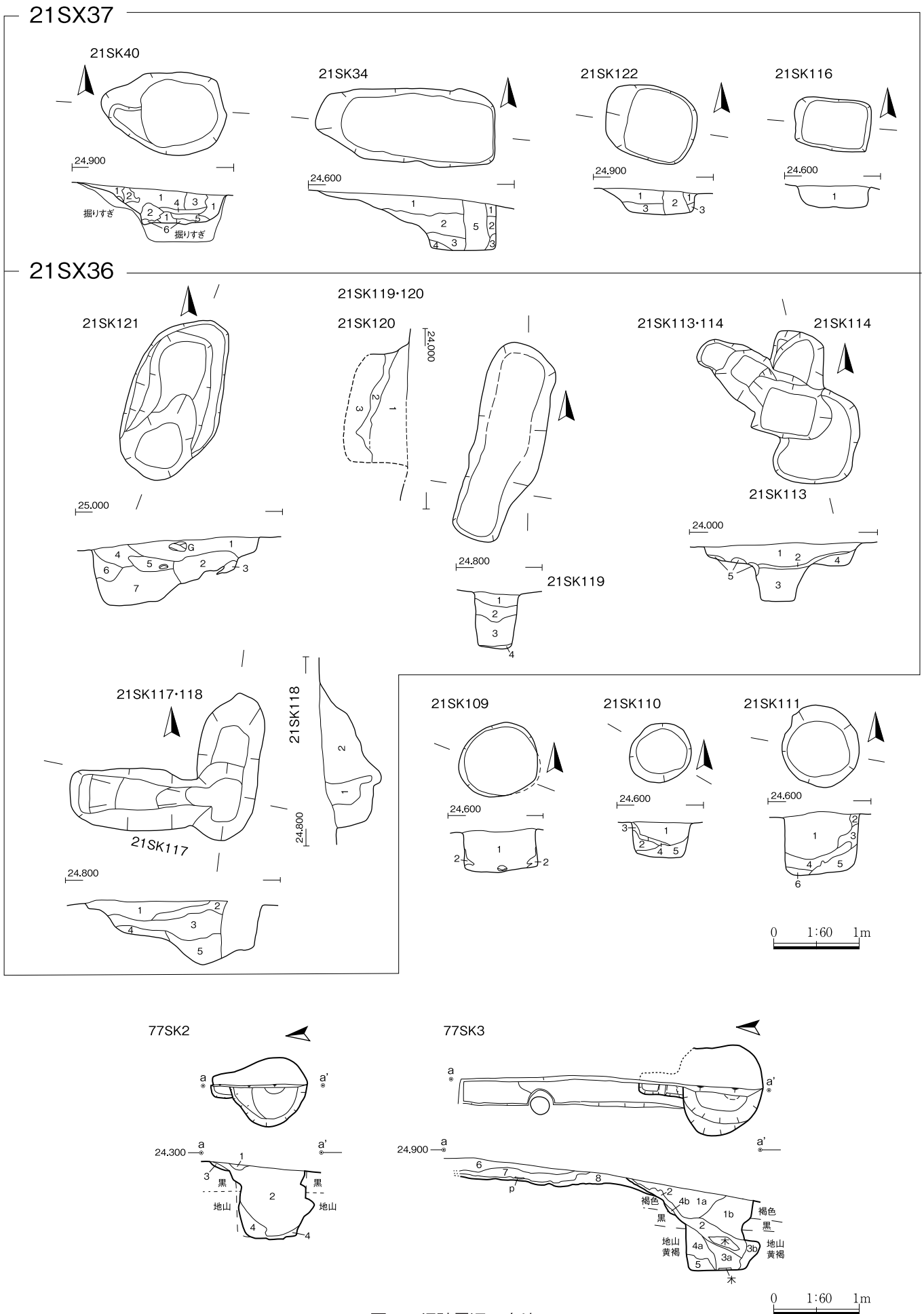


図41 堀跡周辺の土坑 2

えられる。また、遺構内の埋土に整地層と類似の埋土が含まれる状況からも、既調査範囲での整地層との前後関係の指摘は必ずしも確定できない可能性もある。また、77SK1・2については整地層と同時もしくはやや後出の可能性を考慮しており、その場合でも21SD2堀跡の時期の可能性はある。

これらの類似点から同様の遺構である可能性もあり、時期や配置には不確定な部分が残るが、遺跡を囲む堀跡の内側にこれらの施設が配置されたことは注目できる。これらの全てが同様の遺構として把握が可能であるか、また、この遺構の具体的な性格についても検討課題となる。

4 ま と め

- ① 柳之御所遺跡の南側にあたる猫間ヶ淵跡の周辺部を調査し、堀跡2条と関連する土坑などを確認した。堀跡は直接的な切り合い等はなく、時期等に不明な点は残るが、両者が平行して走ることを確認し、他の調査区と合わせて柳之御所遺跡を囲む堀跡の位置が確認できた。
- ② 内側の21SD1堀跡は構築に比較的近い時期の遺物も12世紀後半からの資料を含み、遺跡廃絶後にも開口して上部の形状を保つとみられる。外側の21SD2堀跡は複数回の掘り直しを含む改修の痕跡が確認できた。構築の時期を特定できる遺物は少ないが、構築時に近い整地層には遺物を含まず、12世紀前半から中葉に整地層および堀跡が構築された可能性が考えられる。また、12世紀後半に一部が埋め戻されるが、この部分を含めても今回の範囲においては窪みとして堀跡の形状を保っていたとみられる。地点によって12世紀後半段階の様相は異なるとみられる。
- ③ 21SD1堀跡の内側に沿うように77SK2・3の2つの土坑を確認した。抜き取りの痕跡をもち、大型の柱穴とみられる。これまでの調査でも堀跡に沿うように類似の遺構が確認されており、注目できる。
- ④ 21SD1堀跡の内側で整地層の分布を確認できた。既往の調査成果とも整合的で、遺跡の縁辺部で広く整地地業が行われ平坦な範囲を作るように造成したことがわかる。

(櫻井)

V 付章 高館跡の調査

1 高館跡の概要と調査計画

高館跡は柳之御所遺跡の遺跡範囲に隣接し、西側の丘陵に位置する。中尊寺が所在する関山丘陵からは東側にあたる。現在丘陵の頂部には義経堂が所在し、源義経の伝説とともに著名な範囲である。これらの伝承などによりよく知られた範囲である一方で、これまで数度の発掘調査が行われてきたものの、いずれも小規模な調査にとどまり、遺跡の遺構内容や時期、柳之御所遺跡との関係などに不明な点が多く残されてきた遺跡でもある。

現在、岩手県教育委員会では柳之御所遺跡の世界遺産拡張登録を目指して各種の事業に取り組んでいる。その中で柳之御所遺跡と隣接し地形的に関連性が想定できる高館跡についても調査研究を進め、この範囲と柳之御所遺跡との関係を検討することで柳之御所遺跡の位置づけや内容の評価にも重要な情報を得ることができると考えられた。そこで高館跡についても調査研究を行うこととし、上記のように遺跡の性格付けや時期を検討するための考古学的情報の蓄積も不十分と考えられたことから、3カ年の調査計画を立て発掘調査を実施することとした。平成27年度はその2年目に当たる。平成26年度の調査では、それまでの調査で確認されていた堀跡の位置を再確認し、規模などの把握を行ったほか、上部の平坦面の一部を調査し、遺構の分布状況を確認した。この成果を受けて、平成27年度は高館を囲むと推定される堀跡の追究と上部の平坦面の遺構の状況や時期を検討する材料を得ることを目的として2カ所にトレンチを設定した。

なお、高館跡の発掘調査成果については、3カ年の調査実施後に発掘調査報告書を刊行する計画としている。しかし、各年度の発掘調査の内容について、概要の報告が必要と考えられ、柳之御所遺跡の概報と合わせて概要報告を行うこととする。

高館跡の調査では隣接する柳之御所遺跡の調査成果と総合して検討を行なう必要性が高いものの、現在の遺跡範囲が異なり旧来の柳之御所遺跡のグリッド上から外れる部分が広い。さらに、局地的なグリッド範囲としてはきわめて広い範囲になってしまうことから位置関係の把握にも必ずしも有用な点だけでないことが想定された。そのため、柳之御所遺跡の調査で用いるグリッドとは独立させ、ここでは世界測地系の座標に基づいてグリッド表記等を行っている。

柳之御所遺跡および周辺との位置関係の把握については、高館調査時に旧測地系の座標を把握しておりこれにより行うことも可能としている。

表8 高館跡の調査計画

年次	調査目的
平成26年(2014)	堀跡の位置、遺構分布の確認
平成27年(2015)	堀跡の位置、遺構分布の確認
平成28年(2016)	堀跡の位置、遺構分布の確認
平成29年(2017)	報告書刊行

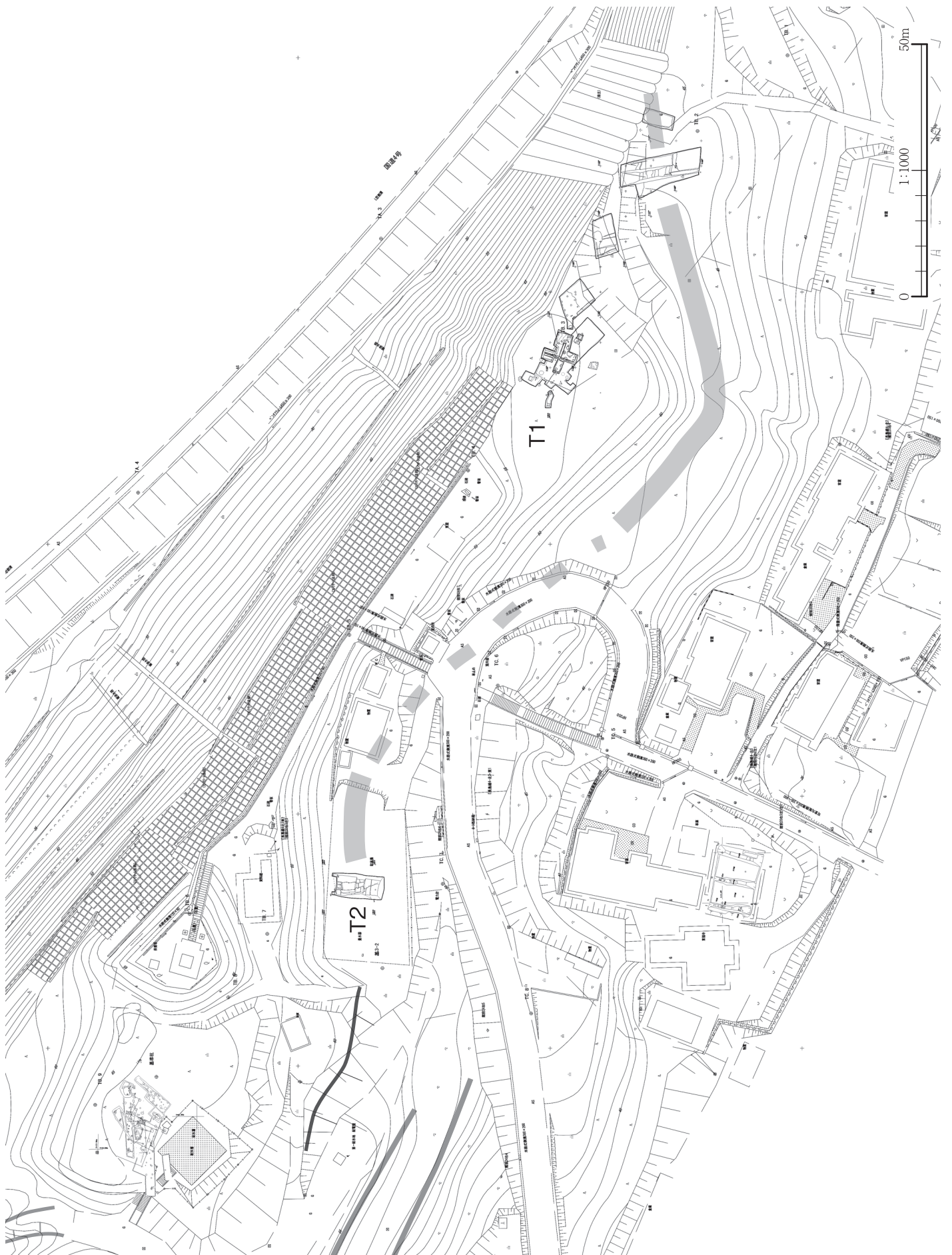


図42 高館跡調査位置図

2 高館跡第8次調査の概要

① 調査の概要

高館跡第8次調査では、高館が位置する丘陵上部を囲むと推定される堀跡の位置の確認と、柳之御所遺跡側に近い範囲で平坦面を中心に遺構の分布を確認することを目的として2カ所に調査区を設定した(図41)。

② 各トレンチの内容

1 トレンチ(T1)

平成26年度の調査で4トレンチ(T4)・5トレンチ(T5)を設定した範囲と一部重複している。現況の高館周辺では北上川によって丘陵全体が大きく削られたこともあり、平坦な地形面は少なく、建物跡等の遺構の所在が推定できる範囲も限られる。今日の調査範囲は丘陵頂部からは一段下がるものの、頂部に近く比較的平坦な地形が確認できる場所である。高館の丘陵の中で現在の義経堂として整備されている範囲から東の柳之御所遺跡の方向へ向かって下った部分の平坦面を対象に調査区を設定した。

土層は、黒色土の表土層が40～60cmほどと厚く形成されている。下層にはやや明るい黒色土層が20cm程度堆積する。これらの下層はいわゆる地山層で黄褐色の堅い土層である。

調査では、下層のやや明るい黒色土層の上面で30cm大の上面が平らな河原石を複数確認しており、この面で遺構の検出を行ったが、柱穴等は確認できなかった。同様の石はこの面で5個確認している。石の周囲にトレンチを入れて、下層の確認を行ったものの掘り込み等は確認できず、旧表土に直接置かれたような状況である。石の大きさは20～40cmとやや幅はあるもののいずれも平坦な面を上面にしている。このうち4個については東西方向に並ぶようにもみられるが、中心部で計測すると10cm程度の範囲で南北方向に位置が乱れており、正確な直線とはならない。礎石等の可能性も残るが、12世紀代の遺構でみられるような地業等がみられないことや、表土面についても土層の様相からはより新しい段階の旧表土の可能性が高く、この石の列についても年代の確定はできないものの12世紀段階より後世のもの可能性が高い。また、現状では石列は1列のみしか確認できていないが、周辺の土層状況からは本来のこの範囲の地形は南側に傾斜していたとみられ、石についても原位置を保っていない可能性がある。この面で周囲の精査を行ったが、柱穴等は検出できていない。この面では建物跡等は確認できなかった。

また、一部はさらに一段下げたいわゆる地山面で検出を行っている。この面では第7次調査に続いて、柱穴を複数確認している。ただし、いずれも径20cmほどと柱穴の規模が小さい。また上面で遺構の検出を行い、掘り下げを一部にとどめたこともあり、この調査でも建物跡を構成できていない。この面では焼土が散布する部分があるものの、いずれも部分的なもので、明確な遺構は確認できていない。

遺物は12世紀代のかわらけ、国産陶器が出土し、輸入陶磁器も少量ながら出土している。近世以降の遺物が少量、表土で出土しているものの、12世紀以降の遺物は少ない。また、鍛冶等に関連する可能性のある滓片が表土から出土している。

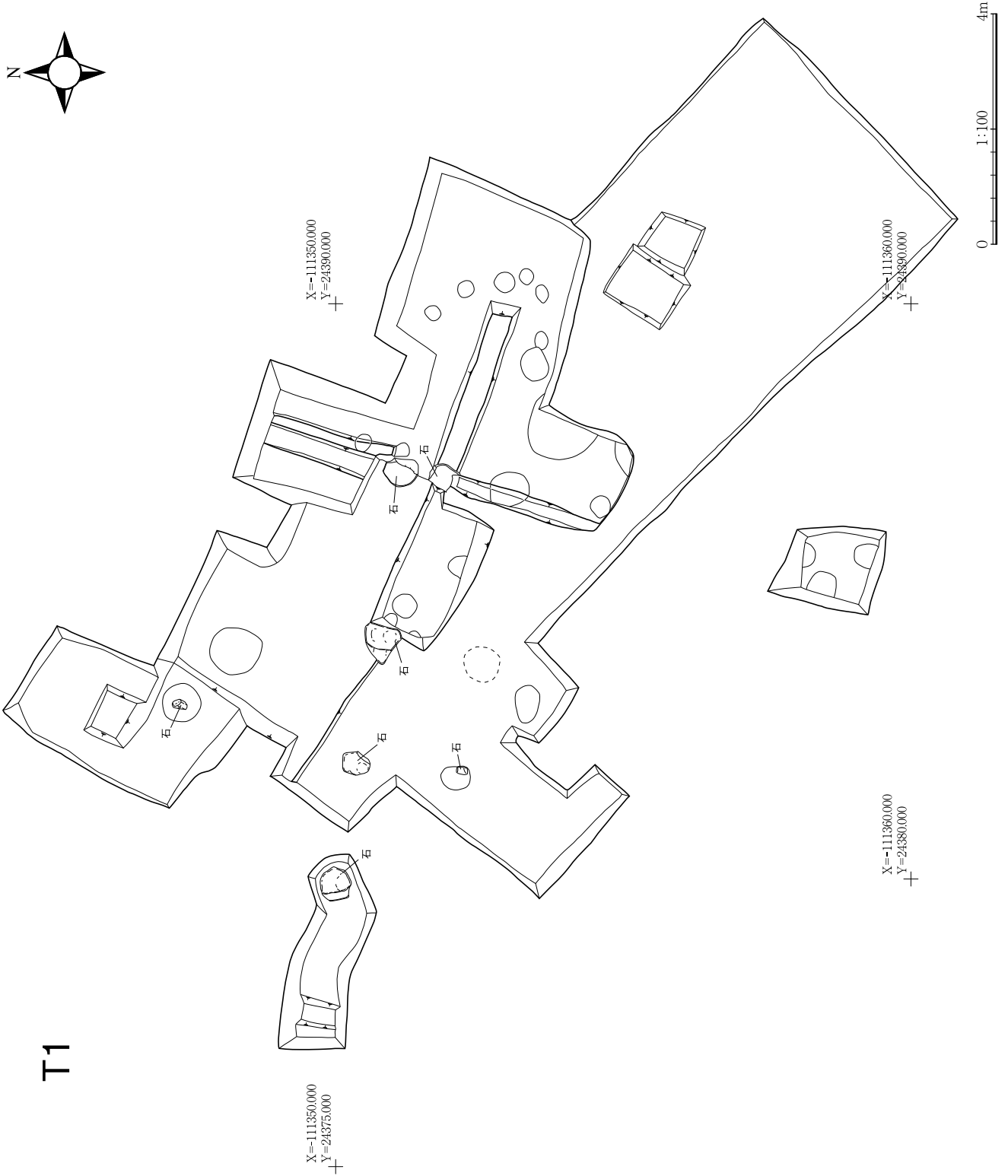


図43 T1平面図

2 トレンチ (T2)

7次調査で確認した堀跡の延長の確認を目的とし、高館の丘陵部の南側、現在の義経堂の直下の平坦面を対象にしている。7次調査では丘陵東部の部分で堀跡を確認したが、走行方向などに課題も残されていた。そこで、丘陵の南西側などで堀跡の有無などを確認する必要があると考えられた。第8次調査では周囲の平坦面の分布など地形の状況から、堀跡が延びる可能性があると思定できる範囲に、調査区を設定した。調査の結果、2トレンチでは、現在の駐車場造成時とみられる表土の直下で、堀跡 (SD1) と、それを切って直交する溝跡 (SD2) を確認した。

SD2溝跡はSD1堀跡と直交し、高館の斜面方向と同一の方向に延びることを確認できた。埋土は地山ブロックを含み、人為的な埋め戻しによる土層である。幅は約3mほど、深さは確認した面から約1mほどである。遺物は出土しておらず時期の特定は難しいが、土層の前後関係から堀跡より新しく、駐車場造成以前の遺構であることがわかる。

SD1堀跡は、幅は現在確認できる範囲で約6.2mほど、深さは確認した面から約1.9mほどである。堆積土は自然堆積の土層で形成され、いずれも斜面上部からの流入によるものである。19層では人頭

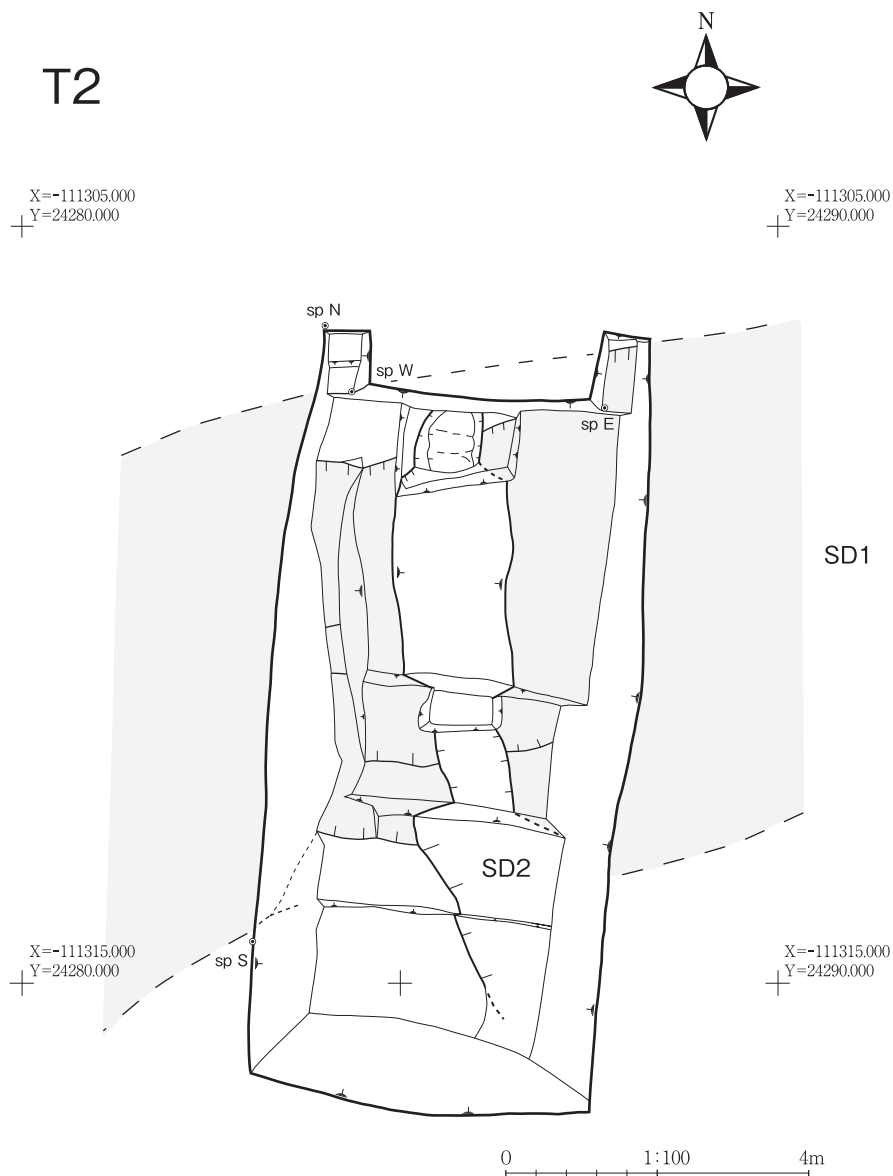


図44 T2平面図

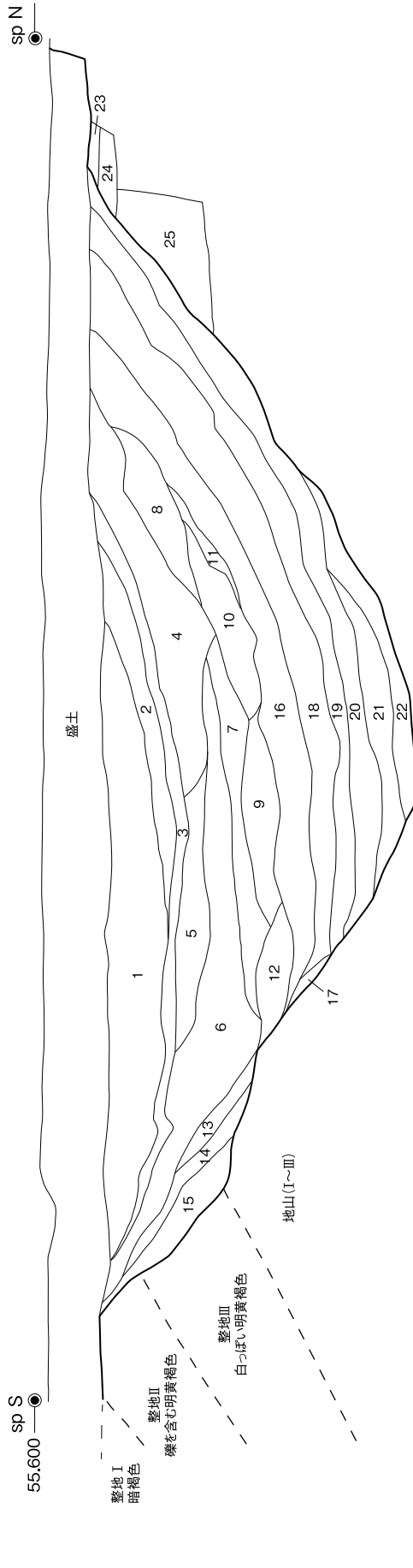
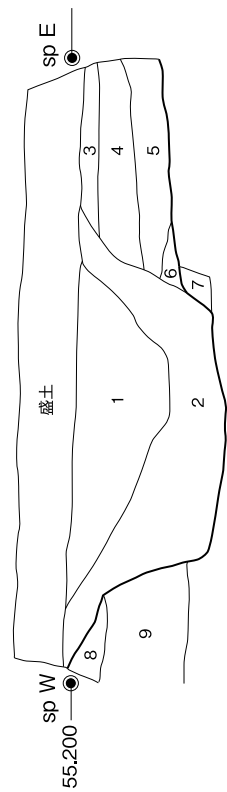


図45 T2断面図

- | | | | | | | | | | |
|----|------------------|---------|---------|----------------------------------|----|----------|---------|---------|--|
| 1 | 近代盛土 | 25Y8/6 | 黄色 | 地山等のブロックで構成され、円礫を多く含む層 | 13 | 南側からの崩落土 | 25Y7/6 | 明黄褐色 | かわらけ炭化物を少量含む。地山ブロックを含む層で薄い南側からの崩落土。細構築時にかき上げた土層の崩落か。 |
| 2 | 近代盛土 | 25Y8/4 | 淡黄色 | 地山ブロックで構成される層。1層と同様だが、より混じりが少ない。 | 14 | 南側からの崩落土 | 25Y6/4 | にぶい黄色 | 地山ブロック炭化物を少量含む。 |
| 3 | 旧表土 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | | 15 | 南側からの崩落土 | 25Y8/4 | 淡黄色 | 地山崩落土で構成される。13層と同様に構築時にかき上げた土層の崩落か。 |
| 4 | 自然堆積地山ブロック等は少ない。 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 5cm程の円礫を含み、炭化物が多い、自然堆積の土層で山側から崩落 | 16 | 山側からの崩落土 | 10YR8/6 | 黄褐色 | シルト質土層 |
| 5 | 自然堆積地山ブロック等は少ない。 | 25Y6/4 | にぶい黄色 | シルト質土層 炭化物を少量含む | 17 | 南側からの崩落土 | 25Y6/4 | にぶい黄色 | シルト質土層 |
| 6 | 自然堆積地山ブロック等は少ない。 | 25Y6/4 | にぶい黄色 | シルト質土層 炭化物を少量含む | 18 | 山側からの崩落土 | 10YR7/6 | 明黄褐色土 | 地山ブロック 炭化物を含む土層で、山側からの崩落 |
| 7 | 自然堆積地山ブロック等は少ない。 | 25Y4/4 | オリーブ褐色 | シルト、円礫、炭化物を多く含む、地山ブロックが少量含まれる | 19 | 山側からの崩落土 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色土 | 大小の円礫を大量に含み、礫で構成される。かわらけが少量出土した層 |
| 8 | 自然堆積地山ブロック等は少ない。 | 25Y5/3 | 黄褐色土 | 円礫、地山ブロックを少量含む | 20 | 山側からの崩落土 | 25Y7/6 | 明黄褐色土 | 砂質シルト 10~20cm程度の円礫を少量含 |
| 9 | 地山の崩壊土が多い層 | 10YR8/8 | 黄褐色土層 | 地山ブロックを多く含む層で、少量礫を含む | 21 | 山側からの崩落土 | 25Y6/4 | にぶい黄色 | 砂質シルト |
| 10 | 地山の崩壊土が多い層 | 25Y6/8 | 明黄褐色 | 地山崩落土で構成される | 22 | 山側からの崩落土 | 25Y7/3 | 淡い黄色 | 砂質シルト |
| 11 | 自然堆積 | 10YR7/6 | 明黄褐色 | | 23 | 地山I | 25Y5/2 | 暗灰黄色土層 | |
| 12 | 自然堆積 | 10YR7/4 | にぶい黄褐色 | シルト質土層 炭化物、礫を少量含む | 24 | 地山II | 25Y8/6 | 黄色 | |
| | | | | | 25 | 地山III | 25Y4/2 | 暗灰黄色 | |



- | | | | | |
|---|-------|--------|------------------|-------------------------------------|
| 1 | SD2 | 25Y7/6 | 明黄褐色土 | 人為的な埋土で盛土造成にともなう土層 |
| 2 | SD2 | 25Y8/4 | 淡い黄色 | 地山ブロック等25Y6/2灰黄色土層で構成される人為的な土層とみられる |
| 3 | SD1 | SD1 | 18層と同じ | |
| 4 | SD1 | SD1 | 19層と同じ | |
| 5 | SD1 | SD1 | 断面に対応しないが、SD1の埋土 | 25Y8/6黄色 |
| 6 | SD1 | SD1 | 20層と同じ | |
| 7 | 地山I | 23層と同じ | | 地山I 23層と同じ |
| 8 | 地山II | 24層と同じ | | 地山II 24層と同じ |
| 9 | 地山III | 25層と同じ | | 地山III 25層と同じ |

大の石を多く含んでおり、斜面上部からの崩落とみられる。遺物は少ないが、19層以下の下層から12世紀代とみられるかわらけ片が少量出土している。また、斜面下方にあたる範囲の土層には(17層)、一部で南側からの流入による土層が確認できる。また、13~15層は地山ブロックなども含み、斜面下方に現状では確認できないが、地山ブロック土を用いた人為的な整地層があった可能性が高い。関連する土層として、SD1の斜面下方は黄褐色土の地山土もしくは整地土が斜面方向に傾斜して堆積している。土質はこの範囲の地山土にあたる黄褐色の粘質土である。ブロック状の地山粒が確認できる部分もあるが、斜面下方への崩落によるものか人為的な整地によるものかはこの範囲では確定できない。地点は離れるものの7次調査では同様の範囲を掘削時のものとみられる土層で整地しており、この範囲についても周囲の様相からは斜面下方を整地により造成して平坦な範囲を形成した可能性がある。3層は旧表土とみられる黒褐色土層で、それより上層は近世以降の盛土層である。

③ 調査成果の概要

高館跡が所在する丘陵中腹で規模の大きな堀跡であるSD1を確認することができた。遺物は少ないが、12世紀代に限定されており、これまで得られている成果からは当該時期の遺構の可能性が高いと判断できる。今後の調査でこの堀跡の位置を確認し、圍繞された範囲を特定していくことが必要と考えられる。また圍繞された内部の平坦な地形をもつ範囲でもトレンチを設定し調査を行った。この範囲では12世紀代の遺物の出土もあり、時期には不明な点が残るが遺構の分布は確認できた。ただし、調査への地形的な制約も大きく、不明な点が多く残されている。

なお、既述の通り高館跡の正式な報告は調査終了後に行う予定とし、遺物の報告や遺構とその全体の位置づけはその際に行うこととしたい。

(櫻井)

引用・参考文献

- 愛知県史編さん委員会 2012 『愛知県史 別編 窯業3 中世・近世 常滑系』
- 岩手県教育委員会 2003 『柳之御所遺跡-第56次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第117集
- 岩手県教育委員会 2010a 『柳之御所遺跡-第69次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第130集
- 岩手県教育委員会 2010b 『柳之御所遺跡-第I期保存整備事業報告書』岩手県文化財調査報告書第131集
- 岩手県教育委員会 2011 『柳之御所遺跡-第70次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第133集
- 岩手県教育委員会 2012 『柳之御所遺跡-第72次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第135集
- 岩手県教育委員会 2014 『柳之御所遺跡-第74次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第140集
- 岩手県教育委員会 2015 『柳之御所遺跡-第75次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第144集
- 岩手県教育委員会 2016 『柳之御所遺跡-第76次発掘調査概報-』岩手県文化財調査報告書第147集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 『柳之御所跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集
- 太宰府市教育委員会 2000 『大宰府条坊跡XV-陶磁器分類編』太宰府市の文化財第49集
- 林 正之 2010 「古代における鉄製鋏先の研究」『東京大学考古学研究室研究紀要』第24号 pp.65-125
- 平泉町教育委員会 1993 『柳之御所跡発掘調査報告書-第35次調査概報-』岩手県平泉町文化財調査報告書第32集
- 平泉町教育委員会 1993 『平泉遺跡群範囲確認調査報告書-柳之御所跡第38次・39次・40次発掘調査-』岩手県平泉町文化財調査報告書第33集
- 前川佳代 2007 「『聖地』平泉」『平泉文化研究年報』第7号 岩手県教育委員会 pp.15-30
- MIHO MUSEUMほか 2010 『古陶の譜 中世のやきもの』
- 八重樫忠郎 2010 「消費地からの渥美編年」『渥美半島の考古学』小野田勝一先生追悼論文集 pp.289-299
- 柳之御所遺跡調査事務所 2008 「柳之御所遺跡堀内部地区の遺構変遷(中間報告 その4)」『平泉文化研究年報』第8号 pp.65-75

表9-1 遺物観察表 (かわらけ)

No.	器種名	区	遺構名	グリッド			土 層	口径	器高	底径	残存率 (%)	色 調	登録番号	備 考
				84	—	106								
1	ロクロ大	南	21SD1	84	—	106	19-20	—	3.4	—	20	2.5YR8/2灰白	77ROk7	
2	ロクロ大	南	21SD1	84	—	106	19-20	(12.1)	3.4	(7.1)	45	2.5YR7/4淡赤橙	77ROk64	
3	ロクロ大	南	21SD1	84	—	106	18	—	(1.9)	(6.0)	20	2.5Y8/2灰白	77ROk65	
4	ロクロ小	南	21SD1	84	—	106	19-20	8.5	1.7	6.4	90	7.5YR7/4にぶい橙	77ROk8	
5	ロクロ小	南	21SD1	84	—	106	19-20	(8.8)	1.6	(6.4)	90	2.5Y8/2灰白	77ROk109	
6	ロクロ小	南	21SD1	84	—	106	19-20	—	(0.9)	(5.7)	—	2.5Y7/3浅黄	77ROk52	
7	手づくね大	南	21SD1	84	—	106	19-20	(13.7)	2.6	—	40	5Y7/2灰白	77ROk23	
8	手づくね大	南	21SD1	84	—	106	19-20	(13.7)	2.1	—	15	2.5Y8/3淡黄	77ROk24	
9	手づくね大	南	21SD1	84	—	106	19-20	(12.1)	2.0	—	55	2.5Y8/3淡黄	77ROk25	
10	手づくね大	南	21SD1	84	—	106	19-20	(13.5)	(2.0)	—	20	2.5Y8/2灰白	77ROk26	
11	手づくね大	南	21SD1	84	—	106	19-20	—	2.8	—	15	2.5Y7/2灰黄	77ROk46	
12	手づくね大	南	21SD1	84	—	106	19-20	(12.0)	3.0	—	45	7.5YR8/4浅黄橙	77ROk48	
13	手づくね大	南	21SD1	84	—	106	19-20	13.6	2.2	—	90	10YR8/3浅黄橙	77ROk87	
14	手づくね大	南	21SD1	84	—	106	18	—	2.3	—	20	2.5Y8/3淡黄	77ROk86	
15	手づくね大	南	21SD1	84	—	106	18	—	(2.1)	—	5	5Y8/2灰白	77ROk103	
16	手づくね小	南	21SD1	84	—	106	19-20	(8.5)	2.2	—	55	2.5Y7/2灰黄	77ROk45	
17	手づくね小	南	21SD1	84	—	106	19-20	(7.8)	1.7	—	40	2.5Y8/2灰白	77ROk47	
18	手づくね小	南	21SD1	84	—	106	18	—	(1.9)	—	5	2.5Y8/2灰白	77ROk106	
29	ロクロ大	南	21SD1	—	—	—	17	—	(2.9)	—	—	10YR8/4浅黄橙	77ROk5	
30	ロクロ大	南	21SD1	—	—	—	17	(15.1)	3.8	(8.0)	25	5YR8/4淡橙	77ROk6	
31	ロクロ大	南	21SD1	84	—	105	14-17	(13.3)	3.3	(6.2)	65	5YR7/6橙	77ROk1	
32	ロクロ大	南	21SD1	84	—	105	14-17	(13.7)	2.8	(5.2)	40	表5YR5/1褐灰 裏7.5YR8/2灰白	77ROk2	
33	ロクロ大	南	21SD1	84	—	105	14-17	—	3.7	—	30	2.5Y8/1灰白	77ROk3	
34	ロクロ大	南	21SD1	84	—	105	14-17	(11.8)	3.0	(7.7)	30	2.5YR7/4淡赤橙	77ROk4	
35	ロクロ大	南	21SD1	84	—	105	14-17	—	0.9	(7.2)	10	5YR7/6橙	77ROk58	
36	ロクロ小	南	21SD1	—	—	—	17	(8.6)	2.0	(6.0)	47	7.5YR7/6橙	77ROk13	
37	ロクロ小	南	21SD1	84	—	105	14-17	—	(1.3)	5.8	50	5Y8/2灰白	77ROk11	
38	ロクロ小	南	21SD1	84	—	105	14-17	(9.9)	(1.5)	(6.8)	45	10YR7/3にぶい黄橙	77ROk9	
39	ロクロ小	南	21SD1	84	—	105	14-17	(8.4)	(1.6)	(6.1)	45	10YR7/2にぶい黄橙	77ROk10	
40	ロクロ小	南	21SD1	84	—	105	14-17	—	(1.4)	5.3	10	2.5Y8/2灰白	77ROk54	
41	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14-17	(13.6)	(2.7)	—	45	2.5YR7/2灰黄	77ROk27	
42	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14-17	(13.2)	(1.9)	—	45	2.5Y6/2灰黄	77ROk28	
43	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14-17	—	2.8	—	25	2.5Y8/2灰白	77ROk29	
44	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14-17	(11.9)	2.1	—	30	5Y8/1灰白	77ROk30	
45	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14-17	(10.8)	2.0	—	55	2.5Y8/3淡黄	77ROk31	
46	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14-17	—	2.2	—	25	10YR8/3浅黄橙	77ROk32	
47	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14-17	—	2.5	—	35	2.5Y8/2灰白	77ROk33	
48	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14-17	(12.7)	2.4	—	15	2.5Y8/2灰白	77ROk34	
49	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14-17	(13.2)	(2.8)	—	40	2.5Y8/2灰白	77ROk35	
50	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14-17	(14.4)	2.8	—	30	2.5Y7/2灰黄	77ROk36	
51	手づくね大	南	21SD1	—	—	—	14-17	(13.0)	(2.2)	—	95	10YR8/2灰白	77ROk37	
52	手づくね大	南	21SD1	—	—	—	14-17	(13.7)	2.6	—	20	10YR8/2灰白	77ROk39	
53	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14-17	14.3	3.2	—	60	2.5Y8/1灰白	77ROk89	
54	手づくね小	南	21SD1	—	—	—	14-17	(9.2)	(1.5)	—	40	2.5YR8/1灰白	77ROk38	
55	手づくね小	南	21SD1	84	—	105	14-17	(8.8)	1.6	—	40	5Y7/2灰白	77ROk56	
56	内折れ	南	21SD1	—	—	—	17	—	0.9	—	10	5YR7/6橙	77ROk51	
57	内折れ	南	21SD1	84	—	105	14-17	—	1.1	—	10	2.5Y7/2灰黄	77ROk49	
58	内折れ	南	21SD1	84	—	105	14-17	—	1.0	—	20	2.5Y7/2灰黄	77ROk50	
66	ロクロ大	南	21SD1	84	—	105	14	—	(2.2)	—	10	2.5YR8/6浅黄橙	77ROk12	
67	ロクロ大	南	21SD1	84	—	105	10-14	(13.3)	3.5	(7.2)	55	表5YR7/6橙 裏7.5YR7/2明褐灰	77ROk59	
68	ロクロ大	南	21SD1	84	—	105	10-14	(13.4)	3.3	7.2	65	5YR6/6橙	77ROk60	
69	ロクロ大	南	21SD1	84	—	105	10-14	(13.7)	3.4	(7.4)	48	7.5YR7/6橙	77ROk61	
70	ロクロ大	南	21SD1	84	—	105	10-14	(12.3)	3.2	(6.3)	40	2.5YR7/6橙	77ROk62	
71	ロクロ大	南	21SD1	84	—	105	10-14	(12.0)	3.2	(6.0)	29	7.5YR7/6橙	77ROk63	
72	ロクロ小	南	21SD1	84	—	105	10-14	(8.8)	1.9	(6.1)	40	5YR7/6橙	77ROk66	

表9-2 遺物観察表(かわらけ)

器種名	区	遺構名	グリッド			土 層	口径	器高	底径	残存率 (%)	色 調	登録番号	備 考	
			84	—	105									
73	ロクロ小	南	21SD1	84	—	105	10	(8.3)	1.5	(6.4)	25	5YR7/8橙	77ROk111	
74	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10-14	(15.2)	3.4	—	65	5Y7/3浅黄	77ROk67	
75	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14	—	2.7	—	20	5Y8/1灰白	77ROk14	
76	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14	(12.6)	2.2	—	15	2.5Y8/3淡黄	77ROk15	
77	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14	—	2.2	—	20	5Y8/2灰白	77ROk16	
78	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14	(13.0)	2.0	—	20	2.5Y8/3淡黄	77ROk17	
79	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14	(12.4)	(2.9)	—	30	2.5Y7/2灰黄	77ROk18	
80	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14	—	2.0	—	15	5Y8/1灰白	77ROk19	
81	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14	—	2.1	—	10	2.5Y7/3浅黄	77ROk20	
82	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14	(13.5)	2.3	—	10	2.5Y8/2灰白	77ROk21	
83	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14	(13.5)	2.8	—	35	2.5Y8/2灰白	77ROk22	
84	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14	—	2.9	—	15	2.5Y8/2灰白	77ROk40	
85	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14	—	2.5	—	15	2.5Y8/3淡黄	77ROk42	
86	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14	—	(2.0)	—	30	2.5Y7/2灰黄	77ROk43	
87	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14	—	(1.4)	—	20	10Y8/1灰白	77ROk55	うるし付着か
88	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14	—	(2.0)	—	15	2.5Y8/3淡黄	77ROk88	
89	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14	(13.0)	(1.7)	—	35	2.5Y8/2灰白	77ROk90	
90	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14	(13.0)	3.0	—	26	2.5Y8/2灰白	77ROk91	
91	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14	14.0	3.1	—	45	5Y8/1灰白	77ROk92	
92	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14	(12.8)	2.8	—	40	2.5Y8/2灰白	77ROk93	
93	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14	(10.4)	(2.0)	—	15	5Y7/1灰白	77ROk100	
94	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14	(12.0)	(2.1)	—	20	2.5Y7/3浅黄	77ROk101	
95	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	14	—	(2.0)	—	15	5Y7/2灰白	77ROk102	
96	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	12	—	2.6	—	10	5Y8/2灰白	77ROk94	
97	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10-14	—	1.6	—	25	5Y7/2灰白	77ROk68	
98	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10-14	13.0	2.8	—	80	5Y7/3浅黄	77ROk69	
99	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10-14	(14.1)	3.1	—	45	5Y7/2灰白	77ROk70	
100	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10-14	—	3.2	—	35	2.5Y8/3淡黄	77ROk71	
101	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10-14	13.0	2.8	—	98	2.5Y8/3淡黄	77ROk72	
102	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10-14	13.6	2.5	—	95	2.5Y7/3浅黄	77ROk73	
103	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10-14	(13.5)	2.8	—	46	2.5Y8/3淡黄	77ROk74	
104	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10-14	(13.2)	3.1	—	24	2.5Y7/2灰黄	77ROk75	
105	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10-14	—	2.6	—	30	5Y7/3浅黄	77ROk76	
106	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10-14	(11.8)	2.6	—	20	5Y7/2灰白	77ROk77	
107	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10-14	(13.6)	2.9	—	28	5Y7/2灰白	77ROk78	
108	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10-14	(12.8)	2.7	—	55	7.5YR8/3浅黄橙	77ROk79	
109	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10-14	(12.7)	2.7	—	28	10YR8/3浅黄橙	77ROk80	
110	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10-14	(12.8)	2.7	—	26	2.5Y8/2灰白	77ROk81	
111	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10-14	(12.6)	3.1	—	52	2.5Y8/3淡黄	77ROk82	
112	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10-14	13.7	2.6	—	99	5Y8/2灰白	77ROk83	
113	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10-14	14.2	3.0	—	95	2.5Y7/3浅黄	77ROk84	
114	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10-14	(13.2)	2.6	—	30	2.5Y8/2灰白	77ROk85	
115	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10	(13.4)	(3.0)	—	45	7.5YR8/3浅黄橙	77ROk117	
116	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10	(14.5)	2.9	—	20	2.5Y8/2灰白	77ROk126	
117	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10	(14.4)	(2.6)	—	20	10YR7/2にぶい黄橙	77ROk130	
118	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10	(12.8)	(2.0)	—	15	10YR8/2灰白	77ROk131	
119	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10	(14.2)	2.5	—	20	10YR8/2灰白	77ROk132	
120	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10	(13.0)	2.6	—	45	2.5Y8/3浅黄	77ROk133	
121	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10	(13.2)	2.6	—	35	2.5Y8/2灰白	77ROk134	
122	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10	(12.9)	2.5	—	50	5Y7/2灰白	77ROk135	
123	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10	(13.0)	3.0	—	45	2.5Y8/2灰白	77ROk136	
124	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10	(13.3)	2.8	—	35	10YR8/3浅黄橙	77ROk137	
125	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	10	14.8	(1.8)	—	20	2.5Y7/2灰黄	77ROk149	
126	手づくね小	南	21SD1	84	—	105	14	(7.4)	(1.9)	—	25	10Y8/2灰白	77ROk44	
127	手づくね小	南	21SD1	84	—	105	14	—	1.5	—	10	2.5Y7/2灰黄	77ROk53	

表9-3 遺物観察表(かわらけ)

No.	器種名	区	遺構名	グリッド			土層	口径	器高	底径	残存率(%)	色調	登録番号	備考
				84	—	105								
128	手づくね小	南	21SD1	84	—	105	10-14	(8.7)	1.6	—	30	10YR8/3浅黄橙	77ROk95	
129	手づくね小	南	21SD1	84	—	105	10-14	(8.3)	1.6	—	40	2.5Y7/2灰黄	77ROk96	
130	手づくね小	南	21SD1	84	—	105	10-14	7.7	1.6	—	98	10YR6/2灰黄褐	77ROk99	
131	手づくね小	南	21SD1	84	—	105	10-14	(9.5)	1.6	—	20	5Y7/2灰白	77ROk97	
132	手づくね小	南	21SD1	84	—	105	10-14	(7.2)	1.1	—	25	5Y7/3浅黄	77ROk104	
133	手づくね小	南	21SD1	84	—	105	10-14	(9.4)	1.7	—	85	2.5Y7/4浅黄	77ROk98	
134	手づくね小	南	21SD1	84	—	105	10	(8.8)	(1.4)	—	60	2.5Y7/2浅黄	77ROk143	
135	内折れ	南	21SD1	84	—	106	12-13	—	0.9	—	10	10YR8/2灰白	77ROk146	
154	ロクロ大	南	21SD1	84	—	105	1	—	—	—	15	10YR7/4にぶい黄橙	77ROk152	
155	ロクロ小	南	21SD1	84	—	105	8-10	8.6	1.7	(5.6)	75	7.5YR8/6浅黄橙	77ROk108	
156	ロクロ小	南	21SD1	84	—	105	8-10	9.5	2.2	6.2	97	10YR8/3浅黄橙	77ROk110	
157	ロクロ	南	21SD1	84	—	105	6	—	—	—	5	7.5YR8/2灰白	77ROk151	
158	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	8-10	(13.5)	2.7	—	20	2.5Y8/2灰白	77ROk112	
159	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	8-10	(12.8)	2.2	—	40	10YR8/3浅黄橙	77ROk113	
160	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	8-10	(11.0)	(2.3)	—	40	2.5Y7/2灰黄	77ROk114	
161	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	8-10	(13.0)	(2.3)	—	70	7.5YR8/3浅黄橙	77ROk115	
162	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	8-10	(13.8)	(3.1)	—	60	10YR8/4浅黄橙	77ROk116	
163	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	8-10	(11.0)	(2.8)	—	35	2.5Y8/2灰白	77ROk118	
164	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	8-10	(12.7)	2.5	—	20	10YR8/3浅黄橙	77ROk119	
165	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	8-10	(13.0)	2.4	—	60	2.5Y8/3浅黄	77ROk120	
166	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	8-10	(14.2)	2.2	—	35	2.5Y8/2灰白	77ROk121	
167	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	8-10	(12.8)	2.1	—	27	5Y7/2灰白	77ROk122	
168	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	8-10	(13.5)	2.5	—	45	5Y7/2灰白	77ROk123	
169	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	8-10	(13.3)	2.6	—	35	10YR8/3浅黄橙	77ROk124	
170	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	8-10	(13.4)	2.6	—	27	2.5Y8/2灰白	77ROk125	
171	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	8-10	(14.4)	(2.7)	—	45	10YR8/2灰白	77ROk127	
172	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	8-10	(12.6)	(1.9)	—	20	2.5Y8/2灰白	77ROk128	
173	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	6	—	(2.7)	—	20	5Y8/1灰白	77ROk129	
174	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	6	—	2.6	—	10	2.5Y8/3淡黄	77ROk142	
175	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	3-4	13.4	2.4	—	98	2.5Y7/3浅黄	77ROk156	
176	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	3-4	(11.6)	(2.5)	—	25	2.5Y7/2灰黄	77ROk157	
177	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	3-4	(14.0)	3.0	—	25	5Y7/2灰白	77ROk158	
178	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	3-4	(12.2)	2.2	—	47	2.5Y7/3浅黄	77ROk159	
179	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	3-4	(11.8)	2.1	—	26	5Y7/2灰白	77ROk164	
180	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	3-4	(12.8)	2.4	—	18	5Y7/2灰白	77ROk167	
181	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	1	(14.0)	(1.7)	—	40	10YR8/2灰白	77ROk153	
182	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	1	(13.6)	(3.3)	—	20	2.5Y8/2灰白	77ROk154	
183	手づくね大	南	21SD1	84	—	105	1	(12.0)	(2.7)	—	45	2.5Y8/2灰白	77ROk155	
184	手づくね大	南	21SD1		—		西壁クリーニング	(11.0)	2.2	—	20	2.5YR8/3淡黄	77ROk160	
185	手づくね大	南	21SD1		—		西壁クリーニング	(11.0)	(2.3)	—	15	5Y8/1灰白	77ROk171	
186	手づくね小	南	21SD1	84	—	106	9	(9.0)	(1.4)	—	55	10YR8/2灰白	77ROk169	
187	手づくね小	南	21SD1	84	—	105	8-10	(8.9)	1.7	—	45	7.5YR8/3浅黄橙	77ROk138	
188	手づくね小	南	21SD1	84	—	105	8-10	(9.0)	(1.8)	—	50	2.5Y6/2灰黄	77ROk139	
189	手づくね小	南	21SD1	84	—	105	8-10	(9.4)	1.6	—	65	5Y7/2灰白	77ROk140	
190	手づくね小	南	21SD1	84	—	105	8-10	(8.9)	1.8	—	95	10YR7/2にぶい黄橙	77ROk141	
191	手づくね小	南	21SD1	84	—	105	3-4	(8.8)	1.7	—	46	2.5Y7/3浅黄	77ROk163	
192	手づくね小	南	21SD1	84	—	105	3-4	(9.6)	1.6	—	26	2.5Y6/2灰黄	77ROk165	
193	手づくね小	南	21SD1	84	—	105	3-4	(9.0)	1.9	—	26	5Y7/2灰白	77ROk166	
194	手づくね小	南	21SD1	84	—	105	3-4	—	(1.7)	—	20	2.5Y7/2灰黄	77ROk168	
195	手づくね小	南	21SD1	84	—	105	1	(8.4)	1.2	—	21	2.5Y7/2灰黄	77ROk161	
196	手づくね小	南	21SD1	84	—	105	1	(8.4)	1.6	—	40	5Y7/2灰白	77ROk162	
197	手づくね小	南	21SD1		—		西壁クリーニング	(8.4)	(1.7)	—	40	2.5Y7/2灰黄	77ROk170	
198	内折れ	南	21SD1	84	—	105	6	(9.0)	0.9	—	25	2.5Y7/3浅黄	77ROk105	
199	内折れ	南	21SD1	84	—	105	6	(7.8)	1.1	—	40	2.5Y8/2灰白	77ROk144	
200	内折れ	南	21SD1	84	—	105	6	—	(0.9)	—	—	2.5Y6/3にぶい黄	77ROk174	

表9-4 遺物観察表(かわらけ)

器種名	区	遺構名	グリッド			土層	口径	器高	底径	残存率(%)	色調	登録番号	備考	
201	内折れ	南	21SD1	84	-	105	5-6	-	(1.0)	-	-	2.5Y7/2灰黄	77ROk173	
202	内折れ	南	21SD1	84	-	105	4	-	(1.2)	-	-	2.5Y7/2灰黄	77ROk175	
386	ロクロ大	南	21SD2		-		埋土下部	-	-	-	15	2.5Y8/2灰白	77ROk182	T1
387	ロクロ小	南	21SD2		-		一括	-	-	(5.8)	15	7.5YR7/4にぶい橙	77ROk181	T1
388	手づくね大	南	21SD2		-		埋土上	(14.2)	(2.9)	-	25	2.5Y7/2灰黄	77ROk188	T1
389	手づくね大	南	21SD2		-		埋土上	(12.0)	2.3	-	40	10YR8/3浅黄橙	77ROk189	T1
390	手づくね大	南	21SD2		-		埋土上	(13.8)	2.8	-	29	2.5Y8/2灰白	77ROk190	T1
391	手づくね大	南	21SD2		-		埋土上	-	(1.1)	-	30	5Y8/2灰白	77ROk191	T1
392	手づくね大	南	21SD2		-		埋土上	(12.0)	2.3	-	30	10YR8/3浅黄橙	77ROk192	T1
393	手づくね大	南	21SD2		-		埋土上	(12.9)	2.1	-	27	2.5Y8/2灰白	77ROk193	T1
394	手づくね大	南	21SD2		-		埋土上	(11.9)	2.6	-	28	10YR7/3にぶい黄橙	77ROk207	T1
395	手づくね大	南	21SD2		-		埋土上	(13.4)	2.7	-	29	5Y7/2灰白	77ROk208	T1
396	手づくね大	南	21SD2		-		埋土上	-	-	-	-	7.5YR7/4にぶい橙	77ROk209	T1
397	手づくね小	南	21SD2		-		埋土上	(8.8)	1.5	-	39	2.5Y7/2灰黄	77ROk210	T1
408	手づくね小	南	21SD2		-		40	(8.6)	2.1	-	62	2.5Y4/1黄灰	77ROk214	T2
409	手づくね小	南	21SD2		-		40	(7.8)	1.4	-	26	5Y7/2灰白	77ROk215	T2
410	ロクロ小	南	21SD2		-		34	8.2	1.5	5.9	88	10YR7/4にぶい黄橙	77ROk187	T2
411	ロクロ大	南	21SD2		-		埋土中部一括	-	-	-	15	5Y6/1灰	77ROk183	T2
412	ロクロ大	南	21SD2		-		11b	-	-	(6.0)	-	2.5Y8/2灰白	77ROk180	T2
413	ロクロ大	南	21SD2		-		埋土上部	(12.0)	(3.3)	(6.8)	40	7.5YR7/4にぶい橙	77ROk177	T2
414	ロクロ大	南	21SD2		-		埋土上部	-	-	-	20	10YR7/3にぶい黄橙	77ROk178	T2
415	ロクロ大	南	21SD2		-		6	(14.0)	(3.6)	(7.0)	40	2.5Y8/2灰白	77ROk179	T2
416	ロクロ小	南	21SD2		-		埋土中部	(9.8)	(1.6)	-	30	2.5Y8/2灰白	77ROk212	T2
417	ロクロ小	南	21SD2		-		埋土一括	(8.6)	(1.6)	(6.1)	90	10YR7/4にぶい黄橙	77ROk184	T2
418	ロクロ小	南	21SD2		-		埋土上部	(7.7)	1.6	(6.4)	40	7.5YR6/1褐灰	77ROk185	T2
419	ロクロ小	南	21SD2		-		9	8.2	2.0	6.3	85	7.5YR8/6浅黄橙	77ROk186	T2
420	手づくね大	南	21SD2		-		埋土中部一括	(13.4)	2.5	-	30	5Y7/2灰白	77ROk202	T2
421	手づくね大	南	21SD2		-		埋土一括	(12.8)	1.4	-	40	2.5Y8/3淡黄	77ROk205	T2
422	手づくね大	南	21SD2		-		埋土一括	-	(2.5)	-	30	2.5Y8/3淡黄	77ROk206	T2
423	手づくね大	南	21SD2		-		11b	(14.3)	3.0	-	12	2.5Y5/2暗灰黄	77ROk203	T2
424	手づくね大	南	21SD2		-		11b	(12.2)	2.2	-	27	5Y7/2灰白	77ROk204	T2
425	手づくね大	南	21SD2		-		埋土上部	-	-	-	25	5Y7/2灰白	77ROk197	T2
426	手づくね大	南	21SD2		-		8	-	(2.4)	-	40	2.5Y7/3浅黄	77ROk198	T2
427	手づくね大	南	21SD2		-		6	14.1	2.6	-	80	2.5Y8/2灰白	77ROk199	T2
428	手づくね大	南	21SD2		-		6	(13.8)	2.4	-	30	10YR8/3浅黄橙	77ROk200	T2
429	手づくね大	南	21SD2		-		5	(13.8)	(2.7)	-	50	2.5Y8/2灰白	77ROk201	T2
430	手づくね小	南	21SD2		-		埋土中部一括	(8.8)	1.7	-	26	2.5Y7/2灰黄	77ROk213	T2
431	手づくね小	南	21SD2		-		7	(9.2)	1.8	-	34	2.5Y7/3浅黄	77ROk211	T2
432	手づくね大	南	21SD2		-		検出面	-	(1.8)	-	30	2.5Y7/3浅黄	77ROk194	
433	手づくね大	南	21SD2		-		検出面	-	-	-	-	10YR8/3浅黄橙	77ROk195	
434	手づくね大	南	21SD2		-		検出面	(13.2)	2.7	-	47	2.5Y7/3浅黄	77ROk196	
449	ロクロ大	北	77SK1		-		9	13.5	3.4	6.8	80	10YR8/3浅黄橙	77ROk223	
450	ロクロ小	北	77SK1		-		9	(9.2)	1.8	(6.4)	48	2.5Y7/2灰黄	77ROk220	
451	手づくね大	北	77SK1		-		9	13.5	3.4	-	99	2.5Y7/2灰黄	77ROk224	
452	手づくね大	北	77SK1		-		9	(13.4)	3.0	-	35	5Y7/2灰白	77ROk230	
453	手づくね大	北	77SK1		-		9	12.8	3.0	-	98	10YR7/3にぶい黄橙	77ROk231	
454	手づくね大	北	77SK1		-		9	14.9	3.4	-	86	2.5Y7/2灰黄	77ROk232	
455	手づくね大	北	77SK1		-		9	13.0	2.7	-	87	10YR2/1黒	77ROk233	全面すず付着
456	手づくね大	北	77SK1		-		9	13.0	2.3	-	86	5Y7/2灰白	77ROk234	
457	手づくね大	北	77SK1		-		9	13.2	3.0	-	98	2.5Y7/2灰黄	77ROk235	
458	手づくね大	北	77SK1		-		9	14.0	2.9	-	98	5Y7/2灰白	77ROk229	
459	手づくね小	北	77SK1		-		9	8.8	1.9	-	100	2.5Y6/2灰黄	77ROk240	
460	手づくね小	北	77SK1		-		9	(9.6)	2.1	-	43	2.5Y6/3にぶい黄	77ROk241	
461	手づくね小	北	77SK1		-		9	(9.4)	2.0	-	99	2.5Y7/2灰黄	77ROk242	
462	ロクロ大	北	77SK1		-		9	-	(1.0)	8.0	50	2.5Y7/2灰黄	77ROk243	

表9-5 遺物観察表（かわらけ）

No.	器種名	区	遺構名	グリッド			土層	口径	器高	底径	残存率(%)	色調	登録番号	備考
463	ロクロ大	北	77SK1		—		2-3	—	(1.7)	7.2	35	5Y7/6橙	77ROk216	
464	ロクロ大	北	77SK1		—		2-3	(15.6)	3.3	9.0	60	10YR7/4にぶい黄橙	77ROk218	
465	ロクロ小	北	77SK1		—		2-3	(8.6)	(1.7)	(6.1)	65	7.5YR7/6橙	77ROk219	
466	手づくね大	北	77SK1		—		2-3	(14.1)	2.6	—	20	10YR7/3にぶい黄橙	77ROk217	
467	手づくね大	北	77SK1		—		2-3	(13.4)	2.5	—	80	2.5YR8/3淡黄	77ROk221	
468	手づくね大	北	77SK1		—		2-3	(14.4)	2.6	—	35	7.5YR8/3浅黄橙	77ROk222	
469	手づくね大	北	77SK1		—		2-3	14.4	3.0	—	100	2.5YR8/2灰白	77ROk225	
470	手づくね大	北	77SK1		—		2-3	(12.9)	2.5	—	55	10YR7/4にぶい黄橙	77ROk226	
471	手づくね大	北	77SK1		—		2-3	(14.0)	3.0	—	60	2.5YR8/2灰白	77ROk228	
472	手づくね小	北	77SK1		—		2-3	(10.6)	2.1	—	20	2.5YR8/2灰白	77ROk236	
473	手づくね小	北	77SK1		—		2-3	(10.7)	2.0	—	47	2.5YR8/2灰白	77ROk227	
474	手づくね小	北	77SK1		—		2-3	(9.8)	1.8	—	40	2.5Y7/3浅黄	77ROk237	
475	手づくね小	北	77SK1		—		2-3	(8.6)	1.7	—	96	7.5YR7/4にぶい橙	77ROk238	
476	手づくね小	北	77SK1		—		2-3	(8.4)	2.0	—	99	10YR8/3浅黄橙	77ROk239	
477	内折れ	北	77SK1		—		2-3	—	(0.6)	—	10	2.5YR8/2灰白	77ROk244	
478	ロクロ大	北	PP31		—		検出面	—	(2.4)	—	20	7.5YR7/3にぶい橙	77ROk245	
479	ロクロ大	北	PP31		—		検出面	—	(3.0)	—	20	7.5YR7/4にぶい橙	77ROk246	
480	手づくね大	北	PP31		—		検出面	—	—	—	15	10YR7/3にぶい黄橙	77ROk250	
481	手づくね大	北	PP12		—		検出面	(13.0)	(2.4)	—	30	10YR8/2灰白	77ROk249	
482	ロクロ小	北	PP19		—		検出面	(8.2)	(1.7)	(4.6)	45	7.5YR7/4にぶい橙	77ROk247	
483	ロクロ小	北	PP55		—		検出面	(8.4)	(1.5)	(6.4)	45	7.5YR7/4にぶい橙	77ROk248	
484	手づくね大	北	PP32-2		—		検出面	—	—	—	15	2.5Y7/2灰黄	77ROk251	
485	手づくね大	北	PP32-2		—		検出面	(12.8)	(2.3)	—	15	10YR8/3浅黄橙	77ROk253	
486	手づくね大	北	PP34		—		検出面	(12.0)	(2.2)	—	20	10YR7/2にぶい黄橙	77ROk254	
487	手づくね大	北	PP49		—		検出面	—	—	—	20	2.5Y7/2灰黄	77ROk255	
488	手づくね大	北	PP15		—		検出面	—	—	—	10	10YR8/3浅黄橙	77ROk256	
492	ロクロ大	北		85	—	103	Ⅲ	(13.8)	(4.1)	(6.6)	15	7.5YR7/4にぶい橙	77ROk257	
493	ロクロ大	北		86	—	103	Ⅲ	(13.2)	(3.4)	(6.6)	35	10YR7/4にぶい黄橙	77ROk258	
494	ロクロ大	北		86	—	103	Ⅲ	(14.4)	3.5	(7.7)	35	7.5YR8/4浅黄橙	77ROk259	
495	ロクロ大	北			—		検出面	(15.1)	3.7	(7.7)	65	7.5YR7/6橙	77ROk260	
496	ロクロ小	北			—		Ⅲ	8.6	1.9	6.0	97	10YR7/4にぶい黄橙	77ROk261	
497	ロクロ	北		85	—	102	Ⅲ	—	(1.5)	—	10	10YR6/3にぶい黄橙	77ROk262	
498	ロクロ小	北		86	—	103	Ⅲ	(9.0)	2.4	(5.6)	50	7.5YR8/4浅黄橙	77ROk263	
499	ロクロ小	北		85	—	103	Ⅲ	(8.8)	1.8	(5.8)	45	10YR7/4にぶい黄橙	77ROk264	
500	ロクロ小	北		85	—	102	Ⅲ	(7.9)	1.3	(6.3)	45	7.5YR6/3にぶい褐	77ROk265	
501	ロクロ小	北		85	—	102	Ⅲ	8.0	2.0	6.0	90	10YR7/3にぶい黄橙	77ROk266	
502	ロクロ小	北			—		検出面	(8.4)	1.6	(6.4)	65	10YR7/4にぶい黄橙	77ROk267	
503	ロクロ小	北			—		検出面	9.2	1.6	6.7	75	10YR7/3にぶい黄橙	77ROk268	
504	ロクロ小	北			—		検出面	(7.4)	1.7	5.0	25	5YR6/6橙	77ROk269	
505	ロクロ小	北			—		検出面	7.8	1.5	5.6	94	2.5YR6/8橙	77ROk270	
506	ロクロ小	北			—		検出面	(8.4)	1.6	(6.2)	28	10YR7/4にぶい黄橙	77ROk271	
507	手づくね大	北			—		検出面	—	—	—	—	2.5Y7/3浅黄	77ROk272	
508	手づくね大	北			—		検出面	(13.8)	2.6	—	49	10YR8/3浅黄橙	77ROk273	
509	手づくね大	北			—		Ⅲ	(14.2)	2.7	—	20	10YR7/3にぶい黄橙	77ROk274	
510	手づくね大	北		85	—	102	Ⅲ	(14.0)	2.5	—	30	10YR8/3浅黄橙	77ROk275	
511	手づくね大	北		85	—	102	Ⅲ	(14.0)	3.0	—	37	10YR8/3浅黄橙	77ROk276	
512	手づくね大	北		82	—	100	Ⅲ	(14.2)	2.6	—	30	10YR8/3浅黄橙	77ROk277	
513	手づくね大	北		82	—	101	Ⅲ	(13.8)	2.8	—	35	2.5Y7/3浅黄	77ROk278	
514	手づくね大	北		86	—	102	検出面	—	—	—	—	2.5Y4/1黄灰	77ROk279	
515	手づくね小	北			—		検出面	(9.8)	1.7	—	47	10YR7/3にぶい黄橙	77ROk280	
516	手づくね小	北		84	—	102	Ⅲ	(10.0)	2.1	—	38	10YR7/4にぶい黄橙	77ROk281	
517	内折れ	北		85	—	102	Ⅲ	—	1.8	(2.0)	10	10YR7/3にぶい黄橙	77ROk282	
518	内折れ	北		85	—	102	Ⅲ	—	0.6	—	10	5YR8/2灰白	77ROk284	

表10-1 遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	種別(産地)	器種名	部位	区	遺構	グリッド			層位	重量(g)	色調	備考	登録番号
19	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	106	18	172.7	N5/灰		ROt-158
20	渥美	甕	頸	南	21SD1	84	-	106	18	191.7	N6/1灰		ROt-159
21	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	106	18	44	表2.5Y3/2黒褐 裏2.5Y5/3黄褐		ROt-163
22	渥美	甕	底	南	21SD1	84	-	106	18	197	N7/1灰白		ROt-160
23	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	106	19-20	16.7	表7.5Y7/1灰白 裏10YR5/1褐灰		ROt-181
24	常滑	壺	体	南	21SD1	84	-	106	18	51.3	10YR6/1褐灰		ROt-161
25	須恵器系	四耳壺	体	南	21SD1	84	-	106	19-20	39.1	N5/灰白		ROt-180
26	常滑	甕	体	南	21SD1	84	-	106	18	25.5	2.5Y6/3にぶい黄		ROt-162
27	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	106	19-20	16	5Y5/1灰		ROt-182
59	渥美	甕	体	南	21SD1		-		17	76.9	表2.5Y6/1黄灰 裏2.5Y6/2灰黄	ROt-386(北区表土)接合	ROt-202
60	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	14-17	72.2	5PB5/1紫白		ROt-017
61	渥美	壺	体	南	21SD1	84	-	105	14-17	68.5	10YR5/2灰黄褐		ROt-019
62	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	14-17	110.2	N5/灰		ROt-020
63	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	14-17	25.6	7.5Y5/7灰白		ROt-018
64	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	14-17	113	表7.5YR5/4にぶい褐 裏7.5YR7/4にぶい橙		ROt-021
65	常滑	甕	体	南	21SD1	84	-	105	14-17	25.1	表5P4/1暗紫灰 裏5PB7/1明紫灰		ROt-016
136	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	10-14	46.9	5Y6/1灰		ROt-012
137	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	10-14	186.2	表2.5Y3/6にぶい黄 裏2.5Y2/7灰黄		ROt-015
138	渥美	甕	頸	南	21SD1	84	-	105	14	35	5YR4/2灰褐		ROt-007
139	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	106	12-13	29.8	5Y7/2灰白		ROt-173
140	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	106	12-13	159.2	5Y7/2灰白		ROt-174
141	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	106	12-13	181.7	2.5Y4/1黄灰		ROt-175
142	渥美	甕	頸	南	21SD1	84	-	106	12-13	70.8	表2.5Y6/1黄灰 裏7.5Y7/1灰白		ROt-176
143	渥美	壺	体	南	21SD1	84	-	106	12-13	57.6	表7.5Y6/2灰オリーブ 裏7.5YR5/3にぶい褐		ROt-177
144	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	106	12-13	26.6	表7.5Y5/2灰オリーブ 裏2.5Y6/3にぶい黄		ROt-179
145	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	14	8.2	7.5YR4/1褐灰		ROt-009
146	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	14	16.7	表5Y7/2灰白 裏5Y6/1灰		ROt-010
147	常滑	甕	体	南	21SD1	84	-	105	10-14	14.1	2.5Y6/1黄灰		ROt-013
148	常滑	甕	体	南	21SD1	84	-	106	12-13	12.6	10YR4/4褐		ROt-178
149	常滑	壺	体	南	21SD1	84	-	105	14	24.4	7.5Y6/3オリーブ黄		ROt-011
150	常滑	甕	体	南	21SD1	84	-	105	10-14	2.8	5Y2/6灰オリーブ		ROt-014
151	須恵器	甕	体	南	21SD1	84	-	106	13	15.8	7.5Y5/1灰		ROt-164
152	渥美	甕	体	南	21SD1		-		10	64.3	表2.5YR5/3にぶい赤褐 裏5YR7/3にぶい橙		ROt-203
203	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	106	9	11.3	2.5Y5/3黄褐		ROt-165
204	渥美	甕	頸	南	21SD1	84	-	106	9	31.9	7.5Y6/1灰		ROt-166
205	渥美	片口鉢	体	南	21SD1	84	-	106	9	60.3	10YR5/2灰黄褐		ROt-169
206	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	106	9	25.9	表10YR5/2灰黄褐 裏7.5YR4/1褐灰		ROt-167
207	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	106	9	62.8	表7.5YR3/2黒褐 裏2.5Y6/1黄灰		ROt-170
208	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	106	9	62.5	2.5Y6/2灰黄		ROt-171
209	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	106	9	66.7	表7.5YR3/2黒褐 裏2.5Y5/3黒褐		ROt-172
210	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	106	9	95.2	5Y7/1灰白		ROt-192
211	渥美	甕	口縁	南	21SD1	84	-	105	8-10	86.3	表2.5YR5/4にぶい赤褐 裏10Y6/2オリーブ灰		ROt-029
212	渥美	片口鉢	口縁	南	21SD1	84	-	105	8-10	116.7	7.5YR6/4にぶい橙	ROt-31接合	ROt-023
213	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	8-10	246.3	N6/1灰		ROt-022
214	渥美	壺	体	南	21SD1	84	-	105	8-10	72.2	表5YR5/3にぶい赤褐 裏5YR6/4にぶい橙		ROt-026
215	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	6	26.9	5Y5/1灰		ROt-130
216	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	6	45.9	表2.5Y4/1黄灰 裏5YR5/1褐灰		ROt-133
217	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	6	33.1	2.5Y7/2灰黄		ROt-136
218	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	6	16	表2.5YR4/3にぶい赤褐 裏2.5Y6/2灰黄		ROt-138
219	渥美	甕	口縁	南	21SD1	84	-	105	6	41.2	2.5GY5/1オリーブ灰		ROt-153
220	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	6	41.2	表10Y7/1灰白 裏N4/灰		ROt-154
221	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	6	65.7	表7.5Y6/2灰オリーブ 裏2.5Y7/1灰白		ROt-155
222	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	6	12.6	5Y7/2灰白		ROt-143
223	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	6	97.4	表7.5Y7/1灰白 裏5YR3/1黒褐		ROt-156
224	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	6	30.1	2.5Y5/2暗灰黄		ROt-157
225	渥美	埴	体	南	21SD1	84	-	105	6	5.2	5Y5/3灰オリーブ	ROt-118接合	ROt-058
226	渥美	埴	口縁	南	21SD1	84	-	105	6	11	表2.5Y4/1黄灰 裏7.5YR5/3にぶい褐	ROt-152接合 ROt-58と同一か	ROt-069
227	渥美	埴	底	南	21SD1	84	-	105	6	33.3	表N4/灰 裏10BG6/1青灰	ROt-58・69と同一か	ROt-101
228	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	5-6	4.3	表5Y5/2灰オリーブ 裏N2/黒		ROt-120
229	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	5-6	3.9	5Y4/1灰		ROt-121
230	渥美	甕	口縁	南	21SD1	84	-	105	4	4.6	表7.5Y8/3淡黄 裏5Y4/1灰		ROt-112
231	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	4	15.5	表5Y4/3暗オリーブ 裏7.5YR5/4にぶい褐		ROt-116
232	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	28.5	2.5Y6/2灰黄		ROt-068

表10-2 遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	種別(産地)	器種名	部位	区	遺構	グリッド			層位	重量(g)	色調	備考	登録番号
233	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	6	124.2	表5Y5/1灰 裏N7/灰白	ROt-262接合	ROt-039
234	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	9.2	10YR6/2灰黄褐		ROt-071
235	渥美	埴	口縁	南	21SD1	84	-	105	3-4	4.5	5Y7/2灰白		ROt-078
236	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	42.1	表2.5Y5/2暗灰黄 裏5Y7/1灰白		ROt-073
237	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	38	表10YR7/1灰白 裏2.5Y6/2灰黄		ROt-074
238	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	38.6	表10YR7/1灰白 裏5Y7/2灰白		ROt-077
239	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	25.5	5Y7/1灰白		ROt-080
240	渥美	甕	頸	南	21SD1	84	-	105	3-4	46	N7/灰白		ROt-093
241	渥美	埴	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	12.4	10R5/1赤灰		ROt-095
242	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	88.9	表2.5YR5/3にふい赤褐 裏5Y7/2灰白		ROt-097
243	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	109.3	N5/灰		ROt-109
244	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	18.5	表5Y4/1灰 裏5Y7/1灰白		ROt-099
245	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	24.9	表7.5Y4/2灰オリーブ 裏10YR4/4褐		ROt-104
246	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	116.9	表5Y8/1灰白 裏5Y6/1灰	ROt-106接合	ROt-105
247	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	4	60.3	2.5Y5/1黄灰	ROt-113接合	ROt-111
248	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105		160.6	表7.5Y7/1灰白 裏7.5Y5/1灰	ROt-128と接合	ROt-114
249	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	39.5	N6/1灰	ROt-92接合	ROt-091
250	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	104	3-4	33	7.5YR5/4にふい褐	ROt-90接合	ROt-003
251	渥美	甕	口縁	南	21SD1	84	-	105	1	22.4	5YR4/2灰褐		ROt-036
252	渥美	山茶埴	口縁	南	21SD1	84	-	105	1	6.6	7.5Y7/1灰白		ROt-049
253	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1	31.7	5Bp5/1青灰		ROt-033
254	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1	15.6	5Y6/2灰オリーブ		ROt-034
255	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1	24	表5YR2/1黒褐 裏7.5YR6/2灰褐		ROt-035
256	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1	27.9	2.5Y7/2灰黄		ROt-037
257	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1	19.4	表5Y5/2灰オリーブ 裏10YR4/4赤褐		ROt-038
258	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1	21.9	表2.5Y8/1灰白 裏5Y5/1灰		ROt-041
259	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1	29.9	表5Y5/3にふい赤褐 裏2.5Y5/1赤灰		ROt-042
260	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1	38.9	2.5Y6/1黄灰		ROt-043
261	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1	56	表2.5Y5/1赤灰 裏2.5Y7/1灰白		ROt-044
262	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1	36.3	表2.5Y5/2暗灰黄 裏2.5Y6/3にふい黄		ROt-045
263	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1	47.4	表5Y6/2灰オリーブ 裏10YR5/3にふい黄褐		ROt-050
264	渥美	甕	口縁	南	21SD1	84	-	105	1	19.4	5Y5/1灰		ROt-052
265	渥美	甕	口縁	南	21SD1	84	-	105	1	69.5	10Y5/1灰		ROt-053
266	渥美	山茶埴	体	南	21SD1	84	-	105	1	6.4	7.5Y7/1灰白		ROt-054
267	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1	9.9	表2.5Y6/2灰黄 裏10YR6/1褐灰		ROt-055
268	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1	146.9	表10YR5/2灰黄褐 裏10YR7/2にふい黄橙		ROt-056
269	渥美	甕	頸	南	21SD1	84	-	105	1	34.4	表5Y7/1灰白 裏5Y5/1灰		ROt-063
270	渥美	甕	頸	南	21SD1	84	-	105	1	51.1	表5Y6/3オリーブ黄 裏5Y7/1灰白		ROt-065
271	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1	75.7	N6/1灰		ROt-067
272	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	106	1	12.2	7.5YR4/1褐灰		ROt-184
273	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	106	1	12.8	表2.5Y3/2黒褐 裏7.5YR4/3にふい褐		ROt-185
274	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	106	1	61.7	10YR6/1褐灰		ROt-188
275	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	106	1	43.7	5Y5/1灰		ROt-189
276	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	106	1	188.8	表5Y7/2灰白 裏2.5Y6/2灰黄		ROt-190
277	渥美	甕	体	南	21SD1	85	-	104	1	6.7	5Y4/2灰オリーブ		ROt-193
278	渥美	甕	体	南	21SD1	85	-	104	1	35.3	表5Y4/3暗オリーブ 裏2.5Y7/2灰黄		ROt-194
279	渥美	甕	体	南	21SD1	85	-	105	1	7.8	表7.5YR4/3褐 裏7.5YR7/4にふい橙		ROt-195
280	渥美	埴	口縁	南	21SD1	85	-	105	1	4.1	表10YR2/2黒褐 裏5Y4/2灰オリーブ		ROt-196
281	渥美	埴	口縁	南	21SD1	85	-	105	1	11.3	表5Y5/2灰オリーブ 裏5Y7/2灰白		ROt-197
282	渥美	甕	体	南	21SD1	85	-	105	1	23.3	7.5YR5/2灰褐		ROt-198
283	渥美	甕	体	南	21SD1	85	-	105	1	5.3	5Y4/2灰オリーブ		ROt-200
284	渥美	甕	体	南	21SD1	85	-	105	1	50.3	表5Y5/1灰 裏10YR6/1褐灰		ROt-201
285	渥美	甕	体	南	21SD1		-		1	32	表2.5Y7/2灰黄 裏5Y6/2灰オリーブ		ROt-204
286	渥美	甕	体	南	21SD1		-		1	14.1	2.5Y7/1灰白		ROt-205
287	渥美	甕	体	南	21SD1		-		1	75.1	表7.5Y6/1灰 裏N5/1灰		ROt-207
288	渥美	甕	体	南	21SD1		-		1	9.7	表7.5YR4/3褐 裏10YR6/4にふい黄橙		ROt-208
289	渥美	甕	体	南	21SD1		-		1	32.3	表N5/灰 裏10YR6/1褐灰		ROt-209
290	渥美	甕	体	南	21SD1		-		1	34.7	7.5Y5/2灰褐		ROt-211

表10-3 遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	種別(産地)	器種名	部位	区	遺構	グリッド			層位	重量(g)	色調	備考	登録番号
291	渥美	甕	体	南	21SD1		-		1	14.4	表10YR4/1褐灰 裏5Y7/1灰白		ROt-212
292	渥美	甕	体	南	21SD1		-		1	7	表7.5YR5/1褐灰 裏5Y6/1灰		ROt-213
293	渥美	甕	体	南	21SD1		-		1	19.1	5Y7/1灰白		ROt-214
294	渥美	甕	頸	南	21SD1		-		1	7.3	表10YR4/3にぶい黄褐 裏5Y4/3暗オリーブ		ROt-215
295	渥美	甕	体	南	21SD1		-		1	36	表2.5Y5/2暗灰黄 裏5Y7/1灰白		ROt-216
296	渥美	甕	体	南	21SD1		-		1	10.2	表10Y5/1褐灰 裏2.5Y7/1灰白		ROt-218
297	渥美	甕	体	南	21SD1		-		1	10.6	表10YR5/3にぶい黄褐 裏10YR7/3にぶい黄橙		ROt-220
298	渥美	甕	体	南	21SD1		-		1	19.4	表7.5YR4/1褐灰 裏2.5Y6/1黄灰		ROt-221
299	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	104	1	11	2.5Y6/2灰黄		ROt-002
300	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	104	1	32.7	表7.5YR7/4にぶい橙 裏2.5Y7/2灰黄		ROt-004
301	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	104	1	7.3	表5Y5/3灰オリーブ 裏10YR5/4にぶい黄褐		ROt-005
302	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1	83.6	表7.5Y7/1灰白 裏7.5Y6/1灰	ROt-108と接合	ROt-064
303	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1-10	64.3	2.5YR5/6明赤褐 7.5YR6/3にぶい橙	ROt-122接合	ROt-025
304	渥美	甕	頸	南	21SD1		-			18.2	5Y7/1灰白		ROt-223
305	渥美	甕	頸	南	21SD1		-		攪乱層	21	表2.5Y5/4黄褐 裏2.5Y7/1灰白		ROt-225
306	渥美	甕	体	南	21SD1		-		攪乱層	18.5	7.5YR5/2灰褐		ROt-226
307	渥美	甕	体	南	21SD1		-		攪乱層	104.7	表2.5YR5/3にぶい赤褐 裏2.5Y7/2灰黄		ROt-227
308	渥美	甕	体	南	21SD1		-		攪乱層	43.7	5Y6/1灰		ROt-228
309	渥美	甕	体	南	21SD1		-		攪乱層	18.7	表2.5Y6/3にぶい黄 裏2.5Y7/1灰白		ROt-229
310	渥美	甕	体	南	21SD1		-		攪乱層	95.4	7.5Y7/1灰白		ROt-231
311	渥美	甕	体	南	21SD1		-		攪乱層	81.1	7.5Y5/2灰褐		ROt-232
312	渥美	壺	口縁	南	21SD1		-		攪乱層	15.3	表7.5Y3/1オリーブ黒 裏10Y6/1灰		ROt-234
313	渥美	甕	体	南	21SD1		-		攪乱層	43.4	10YR6/1褐灰		ROt-235
314	常滑	壺	体	南	21SD1	84	-	105	8-10	5.1	表5Y3/1オリーブ黒 裏5Y6/1灰		ROt-022
315	渥美	甕	体	南	21SD1		-		攪乱層	168.5	2.5Y6/1黄灰		ROt-236
316	常滑	甕	頸	南	21SD1	84	-	105	8-10	28.2	表7.5YR5/3にぶい褐 裏10Y6/2オリーブ灰		ROt-030
317	常滑	甕	体	南	21SD1	84	-	105	9	30	表7.5Y5/1灰 裏7.5Y7/1灰白	ROt-126・129・137接合	ROt-027
318	常滑	片口鉢	口縁	南	21SD1	84	-	105	6	76.3	表5YR5/3にぶい赤褐 裏10YR6/1褐灰		ROt-132
319	常滑	山茶壺	体	南	21SD1	84	-	105	6	5.1	5Y6/1灰		ROt-131
320	常滑	甕	体	南	21SD1	84	-	105	6	13.1	表5Y6/2灰オリーブ 裏10R4/1暗赤灰		ROt-134
321	常滑	甕	体	南	21SD1	84	-	105	6	29.7	10YR5/4にぶい黄褐		ROt-141
322	常滑	壺	体	南	21SD1	84	-	105	6	6.6	7.5Y6/2灰オリーブ		ROt-145
323	常滑	甕	体	南	21SD1	84	-	105	6	21.8	7.5YR4/2灰褐		ROt-147
324	常滑	壺	口縁	南	21SD1	84	-	105	6	1.3	表10YR5/2灰黄褐 裏2.5Y7/1灰白		ROt-148
325	常滑	片口鉢	口縁	南	21SD1	84	-	105	6	4.5	10YR6/2灰黄褐		ROt-149
326	常滑	甕	体	南	21SD1	84	-	105	5-6	25.9	表10YR5/4にぶい黄褐 裏5YR4/3にぶい赤褐		ROt-124
327	常滑	甕	体	南	21SD1	84	-	105	5-6	37	表2.5Y5/3黄褐 裏2.5Y6/1黄灰		ROt-125
328	常滑	壺	体	南	21SD1	84	-	105	4	23.2	5Y6/1灰		ROt-115
329	常滑	壺	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	8.6	2.5Y6/1黄灰		ROt-070
330	常滑	壺	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	4.4	2.5Y7/1灰白		ROt-076
331	常滑	山茶壺	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	7.5	10YR7/1灰白		ROt-096
332	常滑	壺	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	27	5YR4/1褐灰		ROt-107
333	常滑	甕	体	南	21SD1	84	-	104	1	18.2	表7.5YR4/3褐 裏2.5Y5/3黄褐		ROt-001
334	常滑	甕	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	27.7	表7.5Y4/1灰 裏5Y6/1灰	ROt-102接合	ROt-098
335	常滑	甕	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	114.5	N6/1灰	ROt-110接合	ROt-083
336	常滑	片口鉢	体	南	21SD1	84	-	104	1	45.2	2.5Y6/1黄灰		ROt-006
337	常滑	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1	50.9	表5Y6/3オリーブ黄 裏5Y7/1灰白	9c	ROt-048
338	常滑	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1	39.1	表7.5Y5/3灰オリーブ 裏7.5YR5/4にぶい褐		ROt-046
339	常滑	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1	23.9	5Y6/1灰	ROt-75・94接合	ROt-051
340	常滑	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1	28.4	7.5YR5/4にぶい褐		ROt-057
341	常滑	片口鉢	口縁	南	21SD1	84	-	106	1	34.7	7.5YR5/3にぶい褐		ROt-186
342	常滑	甕	体	南	21SD1		-		1	6.6	5Y5/2灰褐		ROt-206
343	常滑	甕	体	南	21SD1		-		1	64	7.5Y7/1灰白		ROt-210
344	常滑	甕	体	南	21SD1		-		1	8.7	2.5Y6/1黄灰		ROt-222
345	常滑	甕	頸	南	21SD1	84	-	106		4.3	5YR4/2灰褐		ROt-183
346	常滑	甕	体	南	21SD1		-		攪乱層	81.7	表2.5Y5/1黄灰 裏N7/1灰白		ROt-230
347	常滑	片口鉢	体	南北	21SD1		-		攪乱層	121.1	5Y7/1灰白	ROt-334と接合	ROt-233
348	常滑	甕	体	南	21SD1	84	-	105	4 6	47.7	表10YR6/3にぶい黄橙 裏10YR5/4にぶい黄褐	ROt-142接合	ROt-087

表10-4 遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	種別(産地)	器種名	部位	区	遺構	グリッド			層位	重量(g)	色調	備考	登録番号
						84	—	104					
349	常滑	甕	体	南	21SD1	84	—	104	1	65.1	表7.5Y7/1灰白 裏N5/灰		ROT-075
350	常滑	甕	体	南	21SD1	84	—	105	1	37.9	表5Y4/2灰褐 裏5Y6/2灰オリーブ	ROT-522接合	ROT-061
351	須恵器	甕	体	南	21SD1	84	—	105	6	9.2	7.5YR6/1褐灰		ROT-135
352	須恵器	甕	体	南	21SD1	84	—	105	6	8.3	表2.5YR6/1赤灰 裏10YR6/3灰黄褐		ROT-151
353	須恵器	甕	体	南	21SD1	84	—	105	3-4	26.9	表N7/灰白 裏N5/灰		ROT-079
354	須恵器	甕	体	南	21SD1	84	—	105	3-4	47.5	7.5Y5/1灰		ROT-082
355	須恵器	壺	頸	南	21SD1	84	—	105	3-4	22	10YR4/1褐灰		ROT-086
356	須恵器	甕	体	南	21SD1	84	—	105	1	8.8	2.5Y7/2灰黄		ROT-062
357	須恵器	甕	体	南	21SD1	84	—	106	1	5.3	2.5Y8/2灰白		ROT-187
358	須恵器系	甕	体	南	21SD1	84	—	105	8-10	64	表2.5GY6/1オリーブ灰 裏5Y6/1灰		ROT-024
359	須恵器系	壺	体	南	21SD1	84	—	105	8-10	31	表N4/灰 裏10BG6/1青灰		ROT-028
360	須恵器系	甕	体	南	21SD1	84	—	105	6	6.1	表7.5R4/1暗赤灰 裏N3/暗灰		ROT-140
361	須恵器系	甕	体	南	21SD1	84	—	105	5-6	44.1	N5/灰		ROT-119
362	須恵器系	埴	口縁	南	21SD1	84	—	105	6	4.4	N5/灰		ROT-150
363	須恵器系	壺	体	南	21SD1	84	—	105	1	29.4	表5Y4/1灰 裏N6/1灰		ROT-047
364	須恵器系	甕	体	南	21SD1	84	—	105	3-4	234.6	N6/1灰		ROT-084
365	須恵器系	甕	体	南	21SD1	84	—	106	9	46.2	N6/1灰	ROT-246接合	ROT-168
398	渥美	甕	体	南	21SD2-T1	—	—	—	埋土下部	60.3	2.5Y5/1黄灰		ROT-255
399	須恵器	甕	口縁	南	21SD2-T1	—	—	—	埋土下部	32.8	N5/灰		ROT-253
400	渥美	甕	体	南	21SD2-T1	—	—	—	埋土上部	43.5	5Y6/1灰	ROT-523接合	ROT-249
401	渥美	甕	口縁	南	21SD2-T1	—	—	—	埋土上部	46	N5/灰		ROT-250
402	常滑	甕	頸	南	21SD2-T1	—	—	—	埋土上部	9.9	10YR6/1褐灰		ROT-248
403	須恵器系	壺	体	南	21SD2-T1	—	—	—	埋土上部	4.8	2.5YR6/1赤灰		ROT-245
404	渥美	甕	体	南	21SD2-T1	—	—	—	埋土上部	213.3	N7/灰白	ROT-257接合	ROT-251
405	渥美	甕	体	南	21SD2-T1	—	—	—	No.4(断面記録有)	146.5	N6/1灰		ROT-252
406	須恵器系	甕	体	南	21SD2-T1	—	—	—	埋土上部	15.4	表5PB5/1青灰 裏N7/灰白		ROT-247
435	渥美	甕	体	南	21SD2-T2	—	—	—	No.1(断面記録有)	167.4	表5Y5/3灰オリーブ 裏2.5Y5/1黄灰		ROT-256
436	渥美	甕	頸	南	21SD2-T2	—	—	—	No.4(断面記録有)	100.6	表5Y7/1灰 裏2.5Y4/1黄灰		ROT-258
437	常滑	甕	体	南	21SD2-T2	—	—	—	埋土上部	23.7	表5YR5/4にぶい赤褐 裏7.5YR6/4にぶい橙		ROT-261
438	渥美	甕	体	南	21SD2-T2	—	—	—	埋土上部	11.4	表2.5Y8/2灰白 裏N5/灰	ROT-260接合 刻画あり	ROT-259
439	常滑	甕	体	南	21SD2-T2 南半部	—	—	—	埋土中部一括	56	表10YR4/2オリーブ灰 裏5Y5/2灰オリーブ		ROT-264
440	渥美	甕	体	南	SD2-T2	—	—	—	埋土一括	91.5	N7/灰白		ROT-266
441	渥美	甕	口縁	南	21SD2	—	—	—	埋土上部(白磁四耳壺と同層位)	135.8	N3/暗灰		ROT-244
442	渥美	甕	体	南	SD2-T2南半部	—	—	—	埋土中部	20.1	5GY6/1オリーブ灰		ROT-263
443	須恵器系	甕	体	南	21SD2	—	—	—	検出面	9.1	10Y7/1灰白		ROT-241
444	渥美	甕	体	南	21SD2	—	—	—	検出面	16.9	表5Y6/3オリーブ黄 裏2.5Y6/3にぶい黄		ROT-242
445	渥美	甕	体	南	21SD2	—	—	—	検出面	16.5	2.5Y7/1灰白		ROT-243
446	常滑	甕	体	南	SD2-T2	—	—	—	埋土一括	37.2	表10YR5/3にぶい黄褐 裏5Y7/1灰白		ROT-265
489	須恵器	壺	体	北	柱穴 PP13	—	—	—	埋土	14.5	表10YR3/1褐灰 裏10YR6/1褐灰	ROT-332・335接合	ROT-273
490	渥美	甕	口縁	北	柱穴 PP27-2	—	—	—	埋土	15.6	表2.5YR5/4にぶい赤褐 裏10YR5/4にぶい黄褐		ROT-274
491	常滑	甕	体	北	柱穴 PP31	—	—	—	埋土	60.3	表7.5YR4/4褐 裏10YR5/4にぶい黄褐	ROT-314接合	ROT-275
519	須恵器系	壺	体	南	21SD1・2間	—	—	—	検出面(整地層上面)	5.1	表2.5YR5/3にぶい赤褐 裏2.5YR5/1赤灰		ROT-237
520	常滑	埴	口縁	南	21SD1・2間 トレンチ	—	—	—	整地層下位黒～暗褐色土層	2.8	N3/暗灰		ROT-238
521	渥美	甕	体	南	南区一括	—	—	—	検出面	19.7	表5YR5/4にぶい赤褐 裏10YR6/4にぶい黄橙		ROT-270
522	渥美	埴	体	南	南区一括	—	—	—	検出面	6	表N5/灰 裏7.5Y7/1灰		ROT-271
523	須恵器系	壺	体	南	SD1・2間ト レンチ	—	—	—	整地層下位黒～暗褐色土層	21.8	N6/1灰		ROT-239
524	渥美	甕	体	南		85	—	104	攪乱層	22.9	表2.5Y6/1黄灰 裏2.5Y5/1黄灰		ROT-267
525	渥美	甕	体	南		85	—	104	攪乱層	37.1	7.5YR5/1褐灰		ROT-268
526	渥美	甕	体	南		85	—	104	攪乱層	107	表2.5Y5/1黄灰 裏2.5Y5/2暗灰黄		ROT-269
527	常滑	甕	体	北	南東部整地層 トレンチ	—	—	—	Ⅲ	26.9	表5YR5/3にぶい赤褐 裏10YR6/4にぶい赤橙		ROT-286
528	常滑	甕	体	北	南東部整地層 トレンチ	—	—	—	Ⅲ	13	表7.5Y6/1灰 裏7.5Y5/1灰		ROT-287
529	渥美	甕	体	南	南区一括	—	—	—	検出面	121.1	表7.5Y5/3灰オリーブ 裏2.5Y5/2暗灰黄		ROT-272
530	渥美	甕	体	北	南東部整地層 トレンチ	—	—	—	Ⅲ	96.2	表5Y6/2灰オリーブ 裏10YR6/1褐灰		ROT-290
531	渥美	甕	体	北	南東部整地層 トレンチ	—	—	—	Ⅲ	37	5Y6/1灰		ROT-288
532	常滑	甕	体	北	南東部整地層 トレンチ	—	—	—	Ⅲ	43.9	2.5Y5/1黄灰		ROT-289
533	渥美	甕	体	北	南東部整地層 トレンチ	—	—	—	Ⅲ	94.2	表7.5YR6/1褐灰 裏7.5YR6/2灰褐		ROT-291

表10-5 遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	種別(産地)	器種名	部位	区	遺構	グリッド	層位	重量(g)	色調	備考	登録番号
534	渥美	甕	頸	北	南東部整地層トレンテ	-	III	514.4	表7.5Y5/2灰オリーブ 裏N5/灰	ROT-348接合	ROT-292
535	渥美	甕	体	北	整地層範囲	84 - 102	II	26.8	2.5Y5/3黄褐		ROT-293
536	渥美	甕	体	北	整地層範囲	-	II	29.7	表10YR5/3にぶい黄褐 裏2.5Y6/3にぶい黄		ROT-294
537	須恵器	甕	体	北		81 - 101	II	13.7	10Y5/1灰		ROT-296
538	常滑	甕	体	北		81 - 101	II	97.1	表2.5Y5/1黄灰 裏7.5Y6/1灰		ROT-297
539	須恵器系	甕	口縁	北		82 - 100	II	7.5	表2.5Y2/1黒 裏5Y5/3灰オリーブ		ROT-299
540	渥美	甕	体	北		82 - 100	II	28.6	表5Y5/3灰オリーブ 裏2.5Y5/1黄灰		ROT-300
541	渥美	甕	体	北		82 - 100	II	45.9	10YR6/3にぶい黄橙		ROT-302
542	須恵器	甕	体	北		82 - 100	II	60.6	表7.5Y5/1灰 裏2.5Y5/1黄灰		ROT-303
543	渥美	甕	体	北		82 - 100	II	65.4	表2.5Y7/1灰白 裏2.5Y6/2灰黄		ROT-304
544	須恵器	甕	体	北		82 - 101	II	17.5	2.5Y7/3浅黄		ROT-305
545	須恵器系	甕	体	北		82 - 101	II	19.2	表2.5Y3/1黒褐 裏10YR5/1褐灰		ROT-306
546	渥美	甕	体	北		82 - 101	II	11	表5Y5/1灰 裏2.5Y6/2灰黄		ROT-307
547	渥美	甕	体	北		82 - 101	II	65.3	2.5Y7/1灰白		ROT-308
548	渥美	埴	口縁	北		84 - 102	II	2.4	表10YR5/3にぶい黄褐 裏2.5Y8/2灰白		ROT-317
549	渥美	壺	底	北		84 - 103	II	15	7.5Y4/1灰		ROT-321
550	渥美	甕	体	北		85 - 102	II	26.3	表5Y5/3灰オリーブ 裏10YR3/1黒褐		ROT-323
551	渥美	甕	体	北		85 - 102	II	51.3	表7.5Y5/1灰 裏5Y5/1灰		ROT-324
552	渥美	甕	体	北		85 - 102	II	94.7	表7.5Y3/2オリーブ黒 裏5Y7/1灰白		ROT-325
553	常滑	片口鉢	底	北		85 - 102	II	91.4	10YR7/1灰白		ROT-326
554	常滑	甕	体	北		85 - 103	II	10.6	10YR5/1褐灰		ROT-327
555	須恵器系	甕	体	北		86 - 102	II	18.2	7.5Y5/1灰		ROT-333
556	渥美	甕	体	北		85 - 103	II	162.4	5Y6/1灰	ROT-329接合	ROT-328
557	渥美	甕	体	北		85 - 103	II	167.3	10YR5/1褐灰		ROT-330
558	渥美	甕	口縁	北		85 - 103	II	245.8	2.5Y5/1黄灰		ROT-331
559	常滑	甕	体	北		86 - 103	II	50.4	表2.5Y5/1黄灰 裏5Y6/1灰		ROT-336
560	須恵器	坏	体	北	T8	-	-	2.2	2.5Y7/1灰白		ROT-279
561	常滑	甕	体	北	T3	-	-	30.7	表2.5Y6/1黄灰 裏2.5Y7/1灰白		ROT-276
562	渥美	片口鉢	底	北	T3	-	-	69.5	N8/灰白		ROT-277
563	常滑	甕	体	北	T4	-	-	45.1	表5Y5/2灰オリーブ 裏2.5Y3/2暗赤褐		ROT-278
564	渥美	甕	体	北	T8	-	-	38.3	10YR6/1褐灰		ROT-281
565	渥美	甕	体	北	南西部整地層	-	検出面	10.5	表N5/灰 裏10YR5/2灰黄褐		ROT-283
566	常滑	壺	頸	北	南西部整地層	-	検出面	18.5	2.5Y7/2灰黄		ROT-282
567	渥美	甕	頸	北	南東部整地層	-	検出面	19.1	表10YR6/2灰黄褐 裏7.5Y6/3オリーブ黄		ROT-284
568	須恵器	甕	体	北		82 - 101	検出面	16.1	表5Y6/2灰オリーブ 裏2.5Y7/3浅黄		ROT-309
569	渥美	甕	体	北		82 - 101	検出面	41.2	10YR6/1褐灰		ROT-311
570	須恵器系	甕	体	北		83 - 100	遺物集中層	23.1	表10YR2/1黒 裏10YR5/2灰黄褐		ROT-313
571	渥美	甕	体	北		84 - 101	炭化物集中面上位層	23.6	2.5YR6/1赤灰		ROT-315
572	渥美	甕	体	北		84 - 101	炭化物集中面上位層	31.2	10YR5/1褐灰		ROT-316
573	渥美	甕	体	北		83 - 100	検出面	6.2	表5YR5/1褐灰 裏2.5Y7/2灰黄		ROT-338
574	渥美	甕	体	北		84 - 101	検出面	40.2	10YR6/3にぶい黄橙		ROT-339
575	常滑	甕	体	北		84 - 102	検出面	18.4	表5Y5/3灰オリーブ 裏7.5Y4/3褐		ROT-342
576	須恵器	甕	口縁	北		84 - 102	検出面	10.6	10YR5/1褐灰		ROT-343
577	渥美	甕	体	北		84 - 102	検出面	28.7	5Y4/2灰オリーブ		ROT-344
578	渥美	甕	体	北		84 - 102	検出面	39.8	表2.5Y5/2暗灰黄 裏2.5Y4/3オリーブ褐		ROT-345
579	常滑	甕	体	北		84 - 102	検出面	37	表7.5YR5/2灰褐 裏2.5Y4/3オリーブ褐		ROT-346
580	常滑	壺	体	北		84 - 102	検出面	83.3	2.5Y6/2灰黄		ROT-347
581	渥美	片口鉢	体	北		84 - 102	検出面	145.9	表10YR5/2灰黄褐 裏2.5Y6/2灰黄		ROT-349
582	渥美	埴	体	北		85 - 102	検出面	3.1	10YR7/1灰白		ROT-350
583	渥美	甕	体	北		85 - 102	検出面	20.1	5YR4/1褐灰		ROT-351
584	渥美	甕	体	北		85 - 102	検出面	17.6	2.5Y5/1黄灰		ROT-352
585	渥美	甕	体	北		85 - 102	検出面	54	表5Y5/2灰オリーブ 裏10YR5/4にぶい黄褐		ROT-353
586	渥美	甕	体	北		85 - 102	検出面	95.1	7.5YR4/1褐灰		ROT-354
587	渥美	甕	体	北		81 - 101・102	攪乱層	11	表7.5Y5/3灰オリーブ 裏2.5Y5/2暗灰黄		ROT-355
588	渥美	甕	体	北		84 - 103	攪乱層	15.4	表10YR5/2灰黄褐 裏5Y6/2灰オリーブ		ROT-360
589	須恵器	甕	体	北		81 - 101・102	攪乱層	11.3	2.5Y7/3浅黄		ROT-356
590	常滑	甕	体	北		84 - 101	攪乱層	48.3	表5Y5/1灰 裏7.5Y6/1灰		ROT-357
591	渥美	甕	体	北		84 - 103	攪乱層	68.3	N5/灰		ROT-358
592	渥美	甕	体	北		84 - 103	攪乱層	11.1	2.5Y4/3オリーブ褐		ROT-359

表10-6 遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	種別(産地)	器種名	部位	区	遺構	グリッド			層位	重量(g)	色調	備考	登録番号
593	渥美	甕	体	北		84	-	103	攪乱層	17.9	2.5Y5/2暗灰黄		ROT-361
594	-	甕	体	北		84	-	103	攪乱層	36	表7.5Y5/3灰オリーブ 裏2.5Y4/3オリーブ褐		ROT-362
595	渥美	甕	体	北		84	-	103	攪乱層	60.2	10YR4/1褐灰		ROT-363
596	渥美	甕	体	北		85	-	103	攪乱層	13.6	5Y5/2灰オリーブ		ROT-364
597	渥美	埴	口縁	北		85	-	103	攪乱層	7	5Y5/2灰オリーブ		ROT-365
598	渥美	壺	体	北		85	-	103	攪乱層	23.9	10YR5/2灰黄褐		ROT-366
599	渥美	甕	体	北		85	-	103	攪乱層	86.7	表10YR3/2黒褐 裏5YR5/3にぶい赤褐		ROT-367
600	常滑	甕	体	北		85	-	103	攪乱層	32.2	表5Y6/2灰オリーブ 裏2.5Y6/1黄灰		ROT-368
601	渥美	甕	体	北		85	-	103	攪乱層	80.5	5Y5/1灰		ROT-369
602	渥美	甕	体	北		85	-	103	攪乱層	58.9	2.5Y5/1黄灰		ROT-370
603	渥美	甕	体	北	北区中央作業通路分		-		攪乱層	23.6	表5Y4/1灰 裏10YR5/1褐灰		ROT-371
604	渥美	甕	体	北	北区中央作業通路分		-		攪乱層	9.7	表5Y4/2灰オリーブ 裏2.5Y5/2暗灰黄		ROT-372
605	須恵器系	甕	体	北	北区中央作業通路分		-		攪乱層	17.2	表5Y5/1灰 裏7.5Y4/1灰		ROT-373
606	渥美	甕	体	北	北区中央作業通路分		-		攪乱層	21.9	2.5Y5/2暗灰黄		ROT-374
607	渥美	埴	体	北	北区中央作業通路分		-		攪乱層	7.4	表5Y7/2灰白 裏7.5Y7/1灰白		ROT-375
608	渥美	甕	頸	北	北区中央作業通路分		-		攪乱層	5	5Y5/2灰オリーブ		ROT-376
609	渥美	壺	口縁	北	北区中央作業通路分		-		攪乱層	18.1	表10YR5/2灰黄褐 裏2.5Y7/3浅黄		ROT-377
610	渥美	埴	口縁	北	北区中央作業通路分		-		攪乱層	18.8	表2.5Y6/2灰黄 裏5Y5/2灰オリーブ		ROT-378
611	常滑	片口鉢	底	北	北区中央作業通路分		-		攪乱層	35	2.5Y6/3にぶい黄		ROT-379
612	渥美	甕	体	北	北区中央作業通路分		-		攪乱層	33.6	表5Y5/1灰 裏2.5Y6/2灰黄		ROT-381
613	渥美	甕	体	北	北区中央作業通路分		-		攪乱層	20.7	表10YR5/1褐灰 裏2.5Y6/2灰黄		ROT-380
614	常滑	甕	体	北	北区中央作業通路分		-		攪乱層	35.5	表10YR5/1褐灰 裏2.5Y6/2灰黄		ROT-382
615	渥美	甕	体	北	北区中央作業通路分		-		攪乱層	26	10YR5/1褐灰		ROT-383
616	渥美	甕	体	北	北区中央作業通路分		-		攪乱層	16.5	表10YR5/2灰黄褐 裏2.5YR6/3にぶい黄		ROT-384
617	渥美	甕	体	北	北区東半		-		I	86.7	7.5Y5/1灰		ROT-385
618	渥美	甕	体	北	北区東半		-		I	28	表5Y4/2灰オリーブ 裏2.5Y4/2暗灰黄		ROT-387
619	渥美	甕	体	北	北区東半		-		I	17.9	表7.5YR5/1褐灰 裏5Y4/3暗オリーブ		ROT-388
620	渥美	甕	体	北	北区東半		-		I	7.9	表7.5Y7/1灰白 裏10YR6/2灰黄褐		ROT-389
621	渥美	甕	体	北	北区一括		-		検出面	11.8	表2.5Y5/1黄灰 裏5Y6/1灰		ROT-391
622	渥美	甕	口縁	北	北区一括		-		検出面	14.7	5Y5/3灰オリーブ		ROT-392
623	渥美	甕	体	北	北区一括		-		検出面	23.2	表2.5Y7/3浅黄 裏10YR5/4にぶい黄褐		ROT-393
624	渥美	甕	体	北	北区一括		-		検出面	28.8	2.5Y7/2灰黄		ROT-394
625	渥美	甕	体	北	北区一括		-		検出面	32	表2.5Y4/1黄灰 裏5Y6/2灰オリーブ		ROT-395
626	渥美	甕	体	北	北区一括		-		検出面	25.6	表10YR6/1褐灰 裏5Y5/3灰オリーブ		ROT-396
627	渥美	甕	体	北	北区一括		-		検出面	28.1	表7.5Y4/1灰 裏5Y6/1灰		ROT-397
628	渥美	甕	頸	北	北区一括		-		検出面	28.5	表5Y6/1灰 裏7.5Y4/1灰		ROT-398
629	渥美	甕	体	北	北区一括		-		検出面	29.7	2.5Y6/1黄灰		ROT-399
630	渥美	甕	体	北	北区一括		-		検出面	30.7	表2.5Y6/2灰黄 裏10YR5/1褐灰		ROT-400
631	渥美	甕	体	北	北区一括		-		検出面	38.8	10YR5/1褐灰		ROT-401
632	渥美	甕	口縁	北	北区一括		-		検出面	34.2	表N6/1灰 裏2.5Y8/2灰白		ROT-402
633	渥美	甕	体	北	北区一括		-		検出面	42.3	2.5Y6/1黄灰		ROT-403
634	常滑	甕	体	北	北区一括		-		検出面	90.2	表2.5Y3/2黒褐 裏2.5Y5/3黄褐	ROT-520接合	ROT-405
635	須恵器	甕	体	北	北区一括		-		検出面	42.1	表7.5Y4/2灰オリーブ 裏2.5Y5/1黄灰		ROT-404
636	渥美	片口鉢	体	北	北区一括		-		検出面	65.5	表5Y5/1灰 裏2.5Y6/1黄灰		ROT-406
637	渥美	甕	体	北	北区一括		-		検出面	61.2	表2.5Y4/1黄灰 裏2.5Y5/1黄灰		ROT-407
638	渥美	甕	体	北	北区一括		-		検出面	63.1	2.5Y6/1黄灰		ROT-408
639	渥美	甕	体	北	北区一括		-		検出面	44.7	表10YR5/1褐灰 裏2.5Y5/3黄褐		ROT-409
640	渥美	甕	体	北	北区一括		-		検出面	49.8	表2.5Y4/1黄灰 裏10YR5/1褐灰		ROT-410
641	渥美	甕	口縁	北	北区一括		-		検出面	129.1	表7.5Y5/1灰 裏5Y8/1灰白		ROT-411
642	渥美	甕	体	北	北区一括		-		検出面	55.6	2.5Y4/1黄灰		ROT-412
643	渥美	甕	体	北	北区一括		-		検出面	25.8	表2.5Y5/1黄灰 裏10YR6/2灰黄褐		ROT-413
644	常滑	甕	体	北	北区一括		-		検出面	13.1	表2.5Y6/2灰黄 裏10YR7/1灰白		ROT-414
645	渥美	甕	体	北	北区一括		-		検出面	45.4	表7.5YR5/3にぶい褐 裏7.5YR6/4にぶい橙	ROT-510接合	ROT-415
646	渥美	甕	体	北	北区一括		-		検出面	21.6	表2.5Y4/1黄灰 裏10YR5/1褐灰		ROT-416

表10-7 遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	種別(産地)	器種名	部位	区	遺構	グリッド		層位	重量(g)	色調	備考	登録番号
647	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	33.4	表5Y6/2灰オリーブ 裏10YR6/2灰黄褐		ROt-417
648	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	24	表5Y7/1灰白 裏2.5Y5/4黄褐		ROt-418
649	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	74.9	表7.5YR4/1褐灰 裏10YR5/2灰黄褐		ROt-419
650	常滑	甕	体	北	北区一括		-	検出面	65.5	表7.5Y5/2灰オリーブ 裏7.5YR6/4にぶい橙		ROt-420
651	常滑	片口鉢	体	北	北区一括		-	検出面	21.8	表2.5Y5/2暗灰黄 裏10YR6/1褐灰		ROt-423
652	常滑	甕	体	北	北区一括		-	検出面	44.6	表10YR4/2灰黄褐 裏7.5YR5/2灰褐		ROt-424
653	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	15.9	表10YR6/2灰黄褐 裏2.5Y8/2灰白		ROt-425
654	渥美	甕	口縁	北	北区一括		-	検出面	74.5	N5/灰		ROt-426
655	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	39.8	表10YR5/3にぶい黄褐 裏7.5YR5/3にぶい褐		ROt-427
656	渥美	埴	口縁	北	北区一括		-	検出面	6.5	表2.5Y6/1黄灰 裏7.5Y6/2灰オリーブ		ROt-429
657	渥美	甕	頸	北	北区一括		-	検出面	8.4	表2.5Y4/3オリーブ褐 裏5Y4/2灰オリーブ		ROt-430
658	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	19.5	表10YR5/1褐灰 裏2.5Y6/1黄灰		ROt-431
659	常滑	甕	口縁	北	北区一括		-	検出面	15.8	5Y6/1灰		ROt-432
660	須恵器	甕	体	北	北区一括		-	検出面	28.7	5Y4/1灰		ROt-433
661	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	28.6	表2.5Y3/1黒褐 裏5Y5/2灰オリーブ		ROt-435
662	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	102.8	表10YR5/2灰黄褐 裏2.5Y6/3にぶい黄		ROt-437
663	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	92.2	2.5Y6/1黄灰		ROt-439
664	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	330.8	表7.5Y3/1オリーブ黒 裏2.5Y5/1黄灰	ROt-441接合	ROt-440
665	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	113.5	表5Y4/1灰 裏2.5Y5/1黄灰		ROt-442
666	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	80.5	表7.5Y5/1灰 裏7.5Y7/1灰白		ROt-438
667	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	95.3	表5Y6/1灰 裏7.5Y5/3灰オリーブ		ROt-443
668	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	54.5	5Y4/2灰オリーブ		ROt-444
669	常滑	甕	体	北	北区一括		-	検出面	78.9	2.5Y5/1黄灰		ROt-446
670	渥美	甕	口縁	北	北区一括		-	検出面	37.7	表5Y7/2灰白 裏N5/灰		ROt-447
671	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	45.7	10Y5/1灰		ROt-448
672	須恵器系	甕	頸	北	北区一括		-	検出面	21.6	N5/灰		ROt-449
673	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	13.7	5Y5/2灰オリーブ		ROt-450
674	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	6.2	7.5Y6/2灰オリーブ		ROt-451
675	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	10.4	表7.5Y5/3灰オリーブ 裏7.5Y5/1灰		ROt-452
676	常滑	甕	体	北	北区一括		-	検出面	42.3	表10YR5/3にぶい黄褐 裏5Y5/3灰オリーブ		ROt-453
677	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	16.1	N4/灰		ROt-454
678	渥美	甕	口縁	北	北区一括		-	検出面	13.2	7.5Y6/1灰		ROt-455
679	常滑	甕	体	北	北区一括		-	検出面	29.9	表10YR5/3にぶい黄褐 裏2.5Y6/3にぶい黄		ROt-456
670	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	4.8	5Y4/2灰オリーブ		ROt-457
681	常滑	甕	体	北	北区一括		-	検出面	23.6	5Y4/4暗オリーブ		ROt-458
682	常滑	甕	体	北	北区一括		-	検出面	27.5	表7.5Y6/3オリーブ黄 裏2.5Y5/1黄灰		ROt-459
683	須恵器	甕	体	北	北区一括		-	検出面	15.3	N5/灰		ROt-460
684	渥美	甕	頸	北	北区一括		-	検出面	30.2	5Y5/2灰オリーブ		ROt-461
685	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	50.4	2.5Y5/1黄灰		ROt-462
686	常滑	甕	体	北	北区一括		-	検出面	28.3	10YR5/3にぶい黄褐		ROt-463
687	須恵器	甕	体	北	北区一括		-	検出面	29.9	表2.5Y8/2灰白 裏N6/1灰		ROt-464
688	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	24.3	10Y6/1灰		ROt-465
689	須恵器	甕	体	北	北区一括		-	検出面	12.4	10Y5/1灰		ROt-466
690	須恵器系	甕	体	北	北区一括		-	検出面	53.4	N6/1灰		ROt-467
691	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	61.1	表N6/1灰 裏7.5Y5/3灰オリーブ		ROt-468
692	渥美	壺	体	北	北区一括		-	検出面	43.2	7.5Y6/1灰		ROt-469
693	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	23.6	表7.5Y5/3灰オリーブ 裏5Y6/1灰		ROt-470
694	渥美	壺	底	北	北区一括		-	検出面 攪乱層	73.5	2.5Y6/1黄灰	ROt-507接合	ROt-471
695	常滑	甕	体	北	北区一括		-	検出面	10	2.5Y4/2暗灰黄		ROt-472
696	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	37.8	5Y5/1灰		ROt-473
697	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	25.5	2.5Y5/1黄灰		ROt-474
698	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	9.7	表2.5Y8/4淡黄 裏5Y5/1灰		ROt-475
699	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	38.8	表7.5Y7/2灰白 裏5Y5/1灰		ROt-476
700	渥美	片口鉢	底	北	北区一括		-	検出面	107.1	10YR5/1褐灰		ROt-477
701	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	33	10YR4/4褐		ROt-478
702	渥美	甕	口縁	北	北区一括		-	検出面	19.8	7.5Y7/3浅黄		ROt-479
703	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	23.4	7.5Y6/1灰		ROt-480
704	常滑	甕	体	北	北区一括		-	検出面	78.5	5YR5/4にぶい赤褐		ROt-483
705	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	13.3	表7.5YR4/3褐 裏2.5Y5/4黄褐		ROt-481
706	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	11.5	表2.5YR7/6橙 裏10YR7/3黄橙		ROt-482
707	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	40.8	2.5Y6/3にぶい黄		ROt-484

表10-8 遺物観察表 (国産陶器)

掲載番号	種別(産地)	器種名	部位	区	遺構	グリッド		層位	重量(g)	色調	備考	登録番号	
708	渥美	甕	口縁	北	北区一括		-	検出面	34.6	表10YR6/2灰黄褐 裏2.5Y6/2灰黄		ROT-489	
709	常滑	甕	体	北	北区一括		-	検出面	13.5	7.5Y6/3オリーブ黄		ROT-485	
710	常滑	甕	体	北	北区一括		-	検出面	11.7	10YR6/4にぶい黄橙		ROT-486	
711	須恵器	甕	体	北	北区一括		-	検出面	8.6	10YR7/1灰白		ROT-487	
712	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	18.8	7.5Y6/1灰		ROT-488	
713	常滑	甕	体	北	北区一括		-	検出面	26.5	10YR5/2灰黄褐		ROT-491	
714	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	57.7	N4/灰		ROT-492	
715	常滑	甕	体	北	北区一括		-	検出面	74.8	表7.5Y6/3オリーブ黄 裏7.5YR5/4にぶい褐		ROT-490	
716	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	13.9	表7.5Y8/2灰白 裏7.5Y5/1灰		ROT-493	
717	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	15.1	N6/1灰		ROT-494	
718	須恵器	甕	体	北	北区一括		-	検出面	14.3	2.5Y8/2灰白		ROT-495	
719	渥美	甕	体	北	北区一括		-	表土	37.7	表N5/灰 裏7.5Y8/2灰白		ROT-496	
720	須恵器	甕	体	北	北区一括		-	攪乱層	9.5	N6/1灰		ROT-497	
721	渥美	甕	体	北	北区一括		-	攪乱層	38.4	N4/灰		ROT-498	
722	渥美	壺	体	北	北区一括		-	攪乱層	13.1	7.5Y6/1灰		ROT-499	
723	渥美	甕	体	北	北区一括		-	攪乱層	34.1	表5Y5/1灰 裏5Y7/1灰白		ROT-500	
724	須恵器	甕	体	北	北区一括		-	攪乱層	31	2.5Y7/2灰黄		ROT-501	
725	須恵器	甕	体	北	北区一括		-	攪乱層	3.7	N6/1灰	9c	ROT-502	
726	渥美	甕	体	北	北区一括		-	攪乱層	29.5	2.5Y6/2灰黄		ROT-503	
727	渥美	甕	体	北	北区一括		-	攪乱層	33	表5Y6/2灰オリーブ 裏7.5YR5/3にぶい褐		ROT-504	
728	渥美	甕	体	北	北区一括		-	攪乱層	13.5	表2.5Y6/2灰黄 裏7.5YR5/3にぶい褐		ROT-506	
729	須恵器系	甕	体	北	北区一括		-	攪乱層	6	N4/灰		ROT-508	
730	須恵器	壺	頸	北	北区一括		-	I	8.2	10YR8/1灰白		ROT-509	
731	常滑	壺	体	北	北区一括		-	I	60.3	表2.5YR4/4にぶい赤褐 裏7.5Y4/3暗オリーブ		ROT-511	
732	常滑	壺	口縁	北	北区一括		-	I	76.3	7.5Y6/1灰		ROT-512	
733	常滑	甕	体	北	北区一括		-	I	104.9	表7.5YR6/3にぶい褐 裏5Y7/2灰白		ROT-513	
734	渥美	甕	体	北	北区一括		-	I	127.8	N5/灰		ROT-514	
735	渥美	甕	体	北	北区一括		-	I	124.5	N5/灰	ROT-516接合	ROT-515	
736	渥美	甕	体	北	北区一括		-	I	11.1	5Y5/1灰		ROT-517	
737	渥美	甕	体	北	北区一括		-	I	9.8	10YRにぶい黄橙		ROT-526	
738	渥美	甕	体	北	北区一括		-	I	31.3	N5/灰		ROT-518	
739	常滑	甕	体	北	北区一括		-	I	12.2	表7.5YR4/2灰褐 裏2.5Y6/4にぶい黄		ROT-519	
740	常滑	甕	体	北	北区一括		-	I	7.6	2.5YR5/3にぶい赤褐		ROT-521	
741	須恵器	甕	体	北	北区一括		-	I	16.1	N6/1灰		ROT-524	
742	常滑	甕	体	北	北区一括		-	I	9.1	表7.5Y5/3灰オリーブ 裏2.5Y6/2灰黄		ROT-525	
743	渥美	甕	体	北	北区一括		-	I	22.7	表5Y7/1灰白 裏7.5Y6/2オリーブ灰		ROT-527	
	須恵器	甕	体	南	21SD1	84	-	106	南端青灰色	15.1			RT-018
	須恵器	坏	体	南	21SD1	84	-	105	14	2.5	5Y7/1灰白	9c	ROT-008
	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	4.1	5Y5/2灰オリーブ		ROT-434	
	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	3.1	10YR4/1褐灰		ROT-422	
	須恵器	坏	口縁	北	北区一括		-	検出面	1.7	5Y7/2灰白	9c	ROT-390	
	須恵器	甕	体	北		85	-	102	整地層直上包含層	9.7	2.5Y5/1黄灰	9c	ROT-322
	須恵器	坏	体	北		82	-	101	整地層上面(検出面)	9.4	2.5Y7/3浅黄	9c	ROT-310
	渥美	甕	体	北		82	-	100	整地層上位褐色包含層	1.9	2.5Y6/3にぶい黄		ROT-298
	須恵器	坏	底	北	T8		-		一括	5.5	2.5Y6/2灰黄	9c	ROT-280
	須恵器	甕	体	南	21SD1・2間 トレンチ		-		整地層下位黒~暗褐色土層	1.2	10Y6/1灰		ROT-240
	渥美	埴	体	南	21SD1	85	-	105	1	1.6	表7.5Y6/1灰 裏5Y3/1オリーブ黒		ROT-199
	常滑	-	体	南	21SD1	84	-	105	6	1.2	5YR6/1褐灰		ROT-144
	渥美	-	体	南	21SD1	84	-	105	5-6	3.1	10YR6/1褐灰		ROT-117
	-	-	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	1.1	5Y6/2灰オリーブ		ROT-100
	常滑	甕	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	5	7.5Y5/2灰オリーブ		ROT-088
	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	7.7	2.5YR5/2灰赤		ROT-089
	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	2.5	5Y5/2灰オリーブ		ROT-081
	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1	3.6	表5YR4/4にぶい赤褐 裏10YR6/4にぶい黄橙		ROT-060
	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1	2.9	2.5Y6/1黄灰		ROT-040
	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	3-4	4.7	表7.5Y5/2灰オリーブ 裏5Y5/1灰		ROT-103
	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1	23.4	表7.5YR4/4褐 裏10YR5/4にぶい黄褐		ROT-066
	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	105	1	7.2	7.5Y5/1灰		ROT-059
	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-		1	8.6	表2.5YR4/2灰赤 裏5Y5/3灰オリーブ		ROT-219
	常滑	埴	体	南	21SD1	84	-	105	6	11.3	5Y6/1灰		ROT-139
	須恵器	坏	底部	南	21SD1	84	-	105	6	4.3	2.5Y8/1灰白	9c	ROT-146
	須恵器	坏	口縁	南	21SD1	84	-	105	3-4	6	2.5GY7/1明オリーブ灰	9c	ROT-072
	須恵器	坏	口縁	南	21SD2-T1		-			2.1	10Y8/1灰白	9c	ROT-254
	須恵器	甕	底	北	北区一括	82	-	100	II	246.4	2.5Y8/2灰白	ROT-436接合	ROT-301
	渥美	甕	体	北		84	-	102	II	15.3	表2.5Y5/2黄灰 裏10YR4/1褐灰	ROT-320接合	ROT-319
	須恵器	甕	体	北		86	-	103	II	9.5	表2.5Y5/1黄灰 裏2.5Y6/1黄灰	9c	ROT-337
	渥美	甕	体	南	21SD1	84	-	106	9	91.1	表7.5Y7/1灰白 裏5Y5/1灰		ROT-191
	渥美	片口鉢	口縁	南	21SD1	84	-	105	3-4	81.5	7.5YR6/3にぶい褐		ROT-085
	須恵器	坏	口縁	北		81	-	100	II	1.9	2.5Y6/2灰黄	9c	ROT-295
	渥美	甕	体	北	北区一括		-	検出面	27.6	7.5Y6/1灰		ROT-445	

表11 遺物観察表 (輸入陶磁器)

掲載番号	種別(産地)	器種名	部位	区	出土遺構	グリッド			層位	重量(g)	備考	登録番号
28	白磁	—	—	南	21SD1	84	—	105	19-20	1.7		ROg-020
153	白磁	壺類	体部	南	21SD1	84	—	106	12-13	12.2		ROg-021
366	白磁	椀	口縁部	南	21SD1	84	—	105	8-10	3.3		ROg-022
367	白磁	—	—	南	21SD1	84	—	105	6	1.8		ROg-019
368	白磁	椀	体部	南	21SD1	84	—	105	6	2		ROg-018
369	白磁	四耳壺	体部	南	21SD1	84	—	105	5-6	13.8		ROg-017
370	白磁	椀	体部	南	21SD1	84	—	105	5-6	10.7		ROg-127
371	青磁	椀	口縁部	南	21SD1	84	—	105	4	0.7	龍泉窯	ROg-014
372	中国陶器	壺類	体部	南	21SD1	84	—	105	4	1.8		ROg-016
373	青磁	椀	口縁部	南	21SD1	84	—	105	3-4	2.4	龍泉窯	ROg-009
374	白磁	椀	体部	南	21SD1	84	—	105	3-4	2.4		ROg-010
375	白磁	椀	体部	南	21SD1	84	—	105	3-4	0.4		ROg-011
376	白磁	壺類	体部	南	21SD1	84	—	105	3-4	17.7		ROg-012
377	白磁	椀	体部	南	21SD1	84	—	105	3-4	6.3		ROg-013
378	白磁	四耳壺	頸部	南	21SD1	84	—	105	1	35.3	Ⅱ類	ROg-006
379	白磁	壺類	体部	南	21SD1	84	—	105	1	6.4	Ⅲ類	ROg-001
380	白磁	壺類	体部	南	21SD1	84	—	105	1	5	Ⅲ類	ROg-002
381	白磁	四耳壺	体部	南	21SD1	84	—	105	1	5.7		ROg-003
382	青白磁	椀	体部	南	21SD1	84	—	105	1	0.7		ROg-004
383	白磁	椀	体部	南	21SD1	85	—	104	1	1.5		ROg-005
384	白磁	壺類	体部	南	21SD1	85	—	105	1	3.5	Ⅲ類	ROg-007
385	白磁	四耳壺	体部	南	21SD1	85	—	105	1	9.9	Ⅲ類	ROg-008
407	白磁	椀	口縁部	南	21SD2-T1		—		1	6.1		ROg-026
447	白磁	椀	底部	南	21SD2-T2		—		11	5.6		ROg-028
448	白磁	四耳壺		南	21SD2		—		8層相当層	1077.9	Ⅲ類	ROg-027
744	白磁	椀	口縁部	北		82	—	101	Ⅱ	1		ROg-036
745	中国陶器	壺	口縁	北		84	—	102	Ⅱ	17.2		ROr-318
746	中国陶器	壺	頸	北		84	—	102	検出面	4.2		ROr-341
747	白磁	四耳壺	口縁部	北		85	—	103	Ⅱ	5.9	Ⅲ類	ROg-033
748	白磁	椀	体部	北		86	—	102	Ⅱ	1.2		ROg-034
749	白磁	椀	体部	北	北区一括		—		検出面	2.2		ROg-039
750	白磁	椀	口縁部	北	北区一括		—		検出面	12.6		ROg-040
751	白磁	—	—	北	北区一括		—		I	2.9		ROg-053
752	中国陶器	壺類	体部	北	北区一括		—		検出面	3.1		ROg-041
753	白磁	四耳壺	体部	北	北区一括		—		検出面	65.4		ROg-042
754	白磁	壺類	体部	北	北区一括		—		検出面	7.8		ROg-043
755	白磁	—	—	北	北区一括		—		検出面	1.1		ROg-046
756	白磁	壺類	体部	北	北区一括		—		検出面	11.6		ROg-048
757	白磁	—	—	北	北区一括		—		攪乱層	0.8		ROg-049
758	中国陶器	壺類	体部	北	北区一括		—		攪乱層	11.1		ROr-505
759	中国陶器	壺類		北	北区中央作業通路分		—		攪乱層	2		ROg-050
760	白磁	壺類	体部	南	21SD1 北東岸付近		—		攪乱層	11.2	Ⅲ類	ROg-024
761	白磁	壺類	体部	南	21SD1 北東岸付近		—		攪乱層	4.2		ROg-025
	白磁	椀	体部	南	旧道部	85	—	104	攪乱層	1		ROg-031
	中国陶器	甕	底	北	南東部整地層トレンチ		—		I	5.1		ROr-285
	白磁	—	—	南	21SD1	84	—	105	4	0.6		ROg-015
	白磁	椀	体部	北	井戸状遺構 SK1		—		埋土上部	0.4		ROg-032

表12 遺物観察表 (瓦)

登録番号	区	出土地点・遺構名(グリッド)	層位	種別	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)
RT-001	南	21SD1(84-104)	1	平瓦	2.7	2.7	0.9	8.5
RT-002	南	21SD1(84-105)	12	—	1.2	1.1	0.8	2.2
RT-003	南	21SD1(84-105)	14	平瓦	2.2	1.6	0.6	2.1
RT-004	南	21SD1(84-105)	8-10	軒丸瓦(剣頭文)	3.2	3.6	1.2	1.4
RT-005	南	21SD1(84-105)	1	丸瓦	1.2	1.4	0.4	18
RT-006	南	21SD1(84-105)	1	軒丸瓦	5	1.2	1	11.8
RT-007	南	21SD1(84-105)	1	—	2.1	2.5	0.4	2.9
RT-008	南	21SD1(84-105)	3-4	丸瓦	4.5	2.9	1.4	20.6
RT-009	南	21SD1(84-105)	3-4	平瓦	1.6	2.1	0.8	3.4
RT-010	南	21SD1(84-105)	3-4	平瓦	2.3	2.2	1.4	7.1
RT-011	南	21SD1(84-105)	6	平瓦	3.1	1.7	1.5	12.6
RT-012	南	21SD1(84-105)	6	—	1.6	1.0	0.6	1.1
RT-013	南	21SD1(84-105)	6	軒丸瓦(剣頭文)	1.8	5.8	0.4	2.9
RT-014	南	21SD1(84-106)	12-13	平瓦	5.7	1.9	1.5	47.4
RT-015	南	21SD1(84-106)	12-13	軒平瓦	1.2	1.7	1	3
RT-016	南	21SD1(84-106)	12-13	平瓦	2.8	3.1	0.5	4.7
RT-017	南	21SD1(84-106)	12-13	—	1.9	6	0.5	4
RT-019	南	21SD1(84-106)	12-13	平瓦	4	5.2	1.5	41.1
RT-020	南	21SD1(85-105)	1	軒丸瓦(剣頭文)	3.1	2.4	0.6	5.4
RT-028	南	21SD1(84-105)	3-4	軒丸瓦(巴文)	2.5	1.1	0.5	2.1
RT-021	南	21SD1 北東壁際	1	平瓦	9.4	5.3	1.4	99.9
RT-022	南	21SD1	I	軒丸瓦(剣頭文)	4	2.5	0.6	10.1
RT-023	南	21SD1	I	—	3	2.6	0.5	5.3
RT-024	南	21SD2	埋土上部	平瓦	2.5	2.7	1.1	8
RT-025	北	77SK1	埋土上部	—	1.6	1.9	0.5	1.4
RT-026	北	北区一括	I	丸瓦	1.8	2.5	1.2	8.4
RT-027	北	北区一括	I	平瓦	1.5	1.2	1.4	3.8

表13 遺物観察表 (木製品)

掲載番号	器種名	遺構	出土層位	長さ	幅	厚さ	登録番号
762	下駄 歯か	21SD2	40	7.5	13.1	4.0	77RW1
763	木片	21SD2	40	13.9	0.8	0.4	77RW30
764	板材	21SD2	40	4.3	2.7	0.7	77RW31
765	部材	21SD2	40	21.1	4.2	1.0	77RW2
766	部材	21SD2	40	4.9	3.1	1.0	77RW6
767	木皮	21SD2	40	2.2	4.2		77RW3
768	漆椀	21SD2	埋土一括	4.1	6.0	0.4	77RW29
769	部材	21SD2	40	8.4	9.1		77RW18

圖 版

図版1
遺構



調査区全景（北東から）



調査区全景（北西から）



21SD1 断面（南東から）



21SD1 遺物出土状況（北東から）



21SD2-77T1 断面（南東から）



21SD2-77T2 断面（南東から）



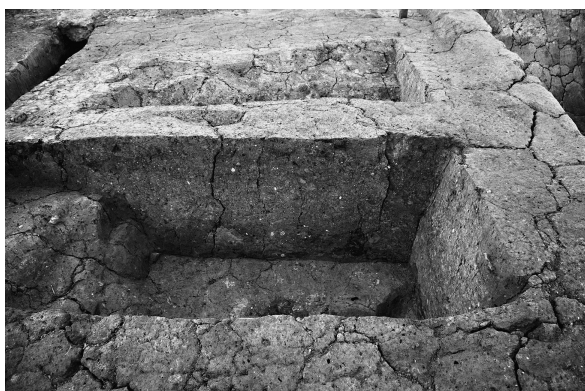
南区整地層 全景（北西から）



南区整地層 断面（21SD2-77T1 延長部、南から）



77SX1・77SX2 検出状況（南から）



77SX1 断面 b-b'（南西から）



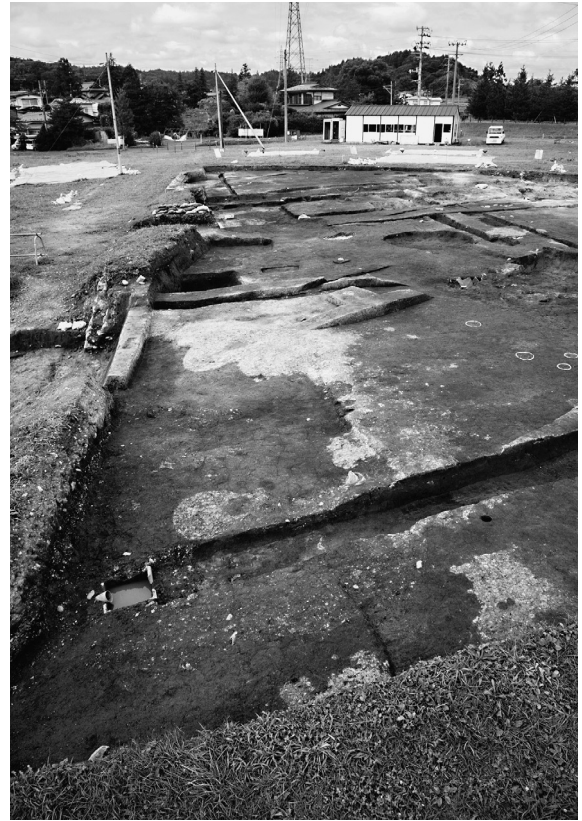
77SX1 断面 c-c'（北西から）



21SD2 内岸の水口状張出し部（北西から）



北区整地層1 全景（北西から）



北区整地層2 全景（南東から）



北区整地層1 断面 a-a'（南西から）



北区整地層2 断面（77SK3断面延長部、西から）



77SK2 断面 (西から)



77SK3 断面 (西から)



77SK2 壁面抉れ部 (北西から)



77SK3 柱材出土状況 (西から)



77SK1 断面 (南西から)

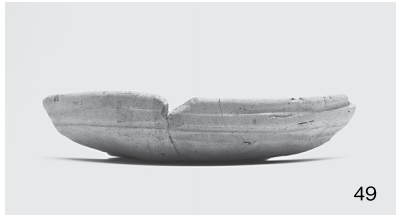


77SK1 遺物出土状況 (南西から)



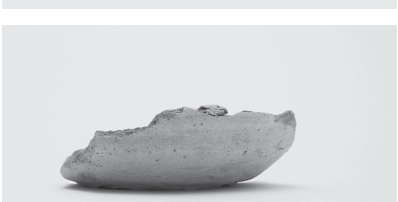
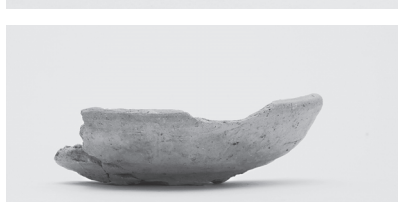
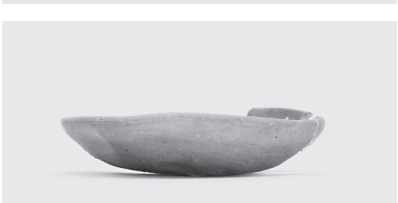
77SX3 全景 (南西から)



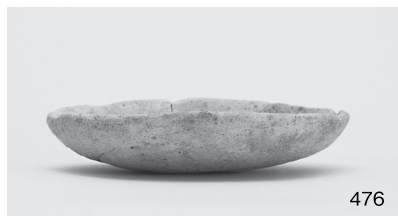


かわらけ 2

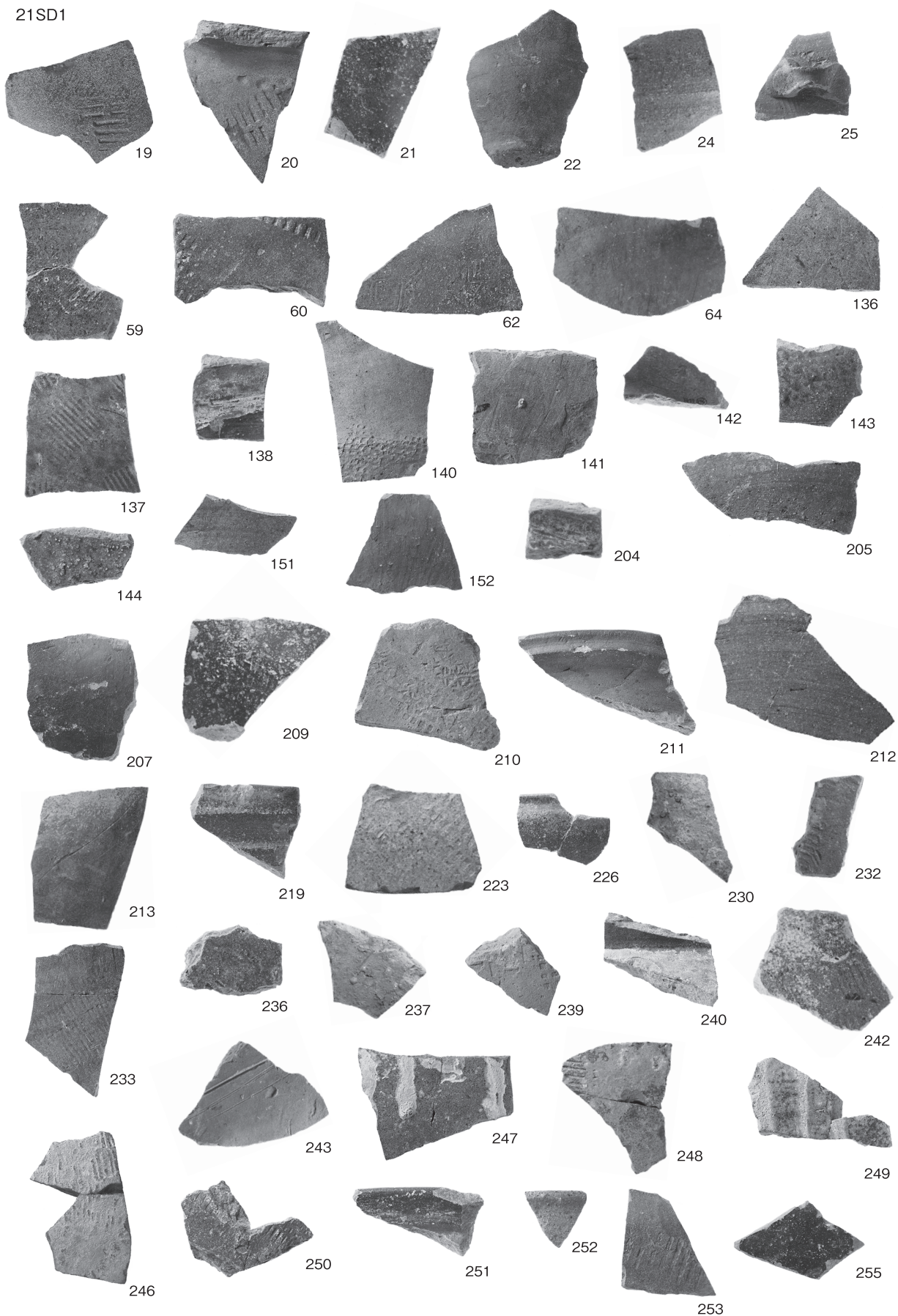




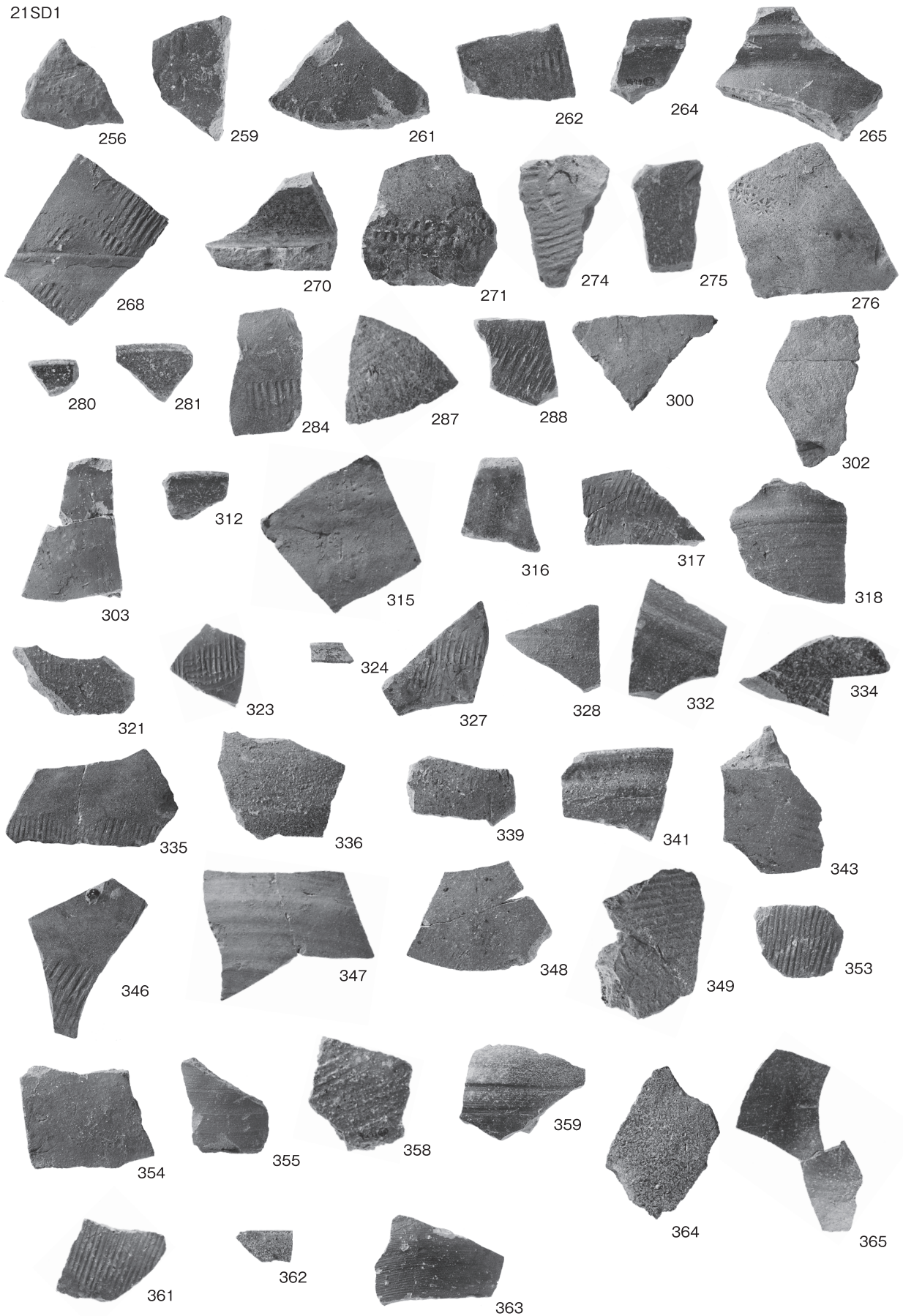
かわらけ 4



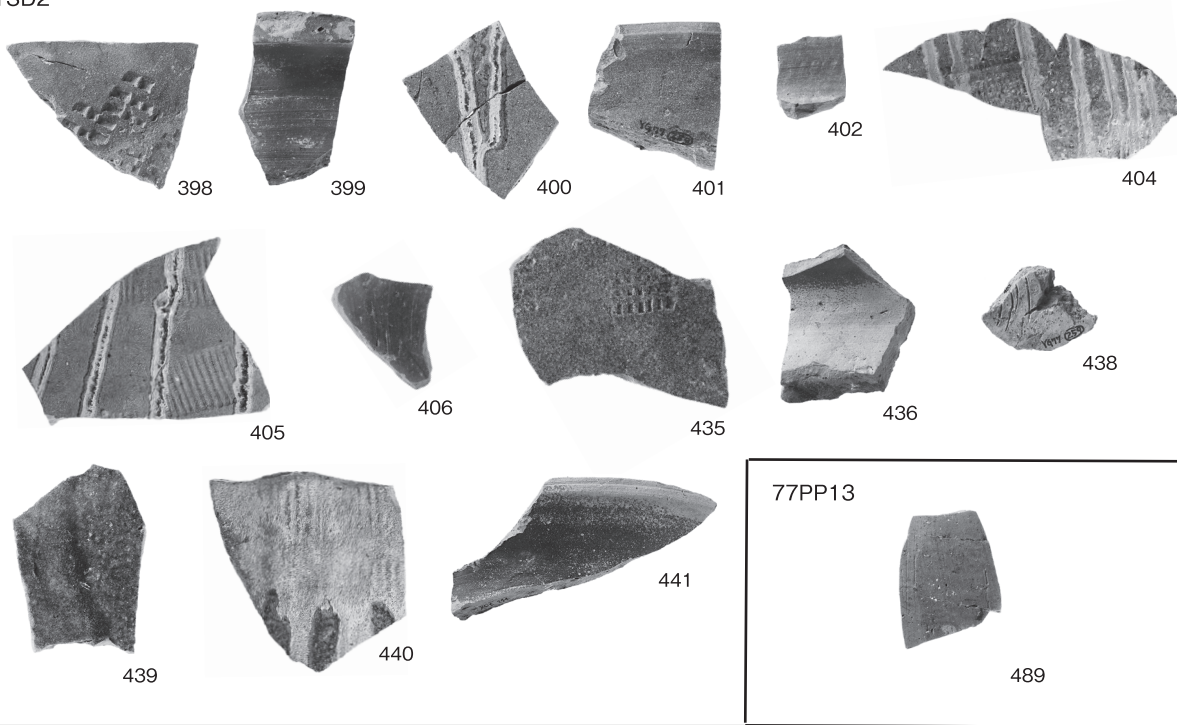
21SD1



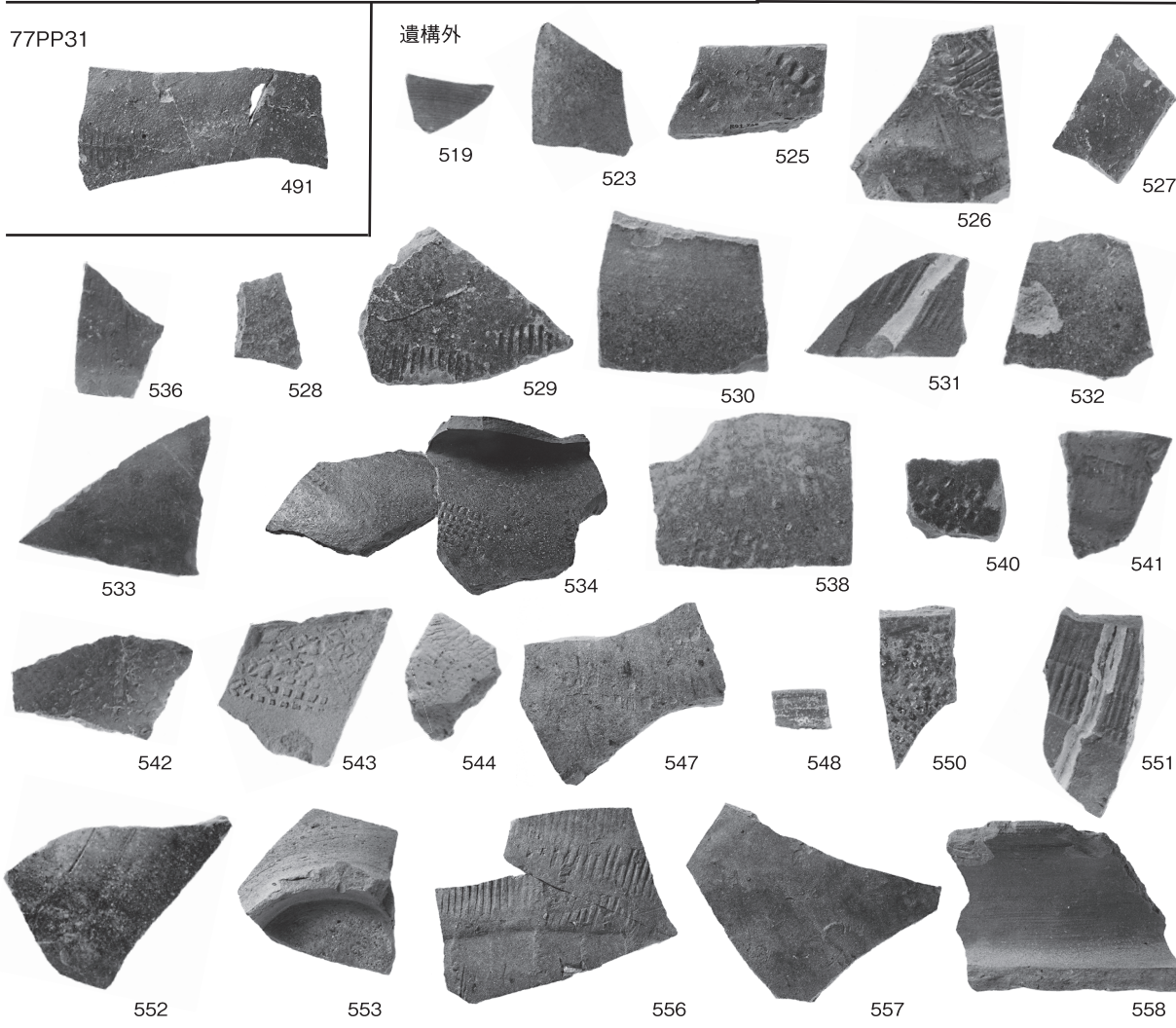
21SD1

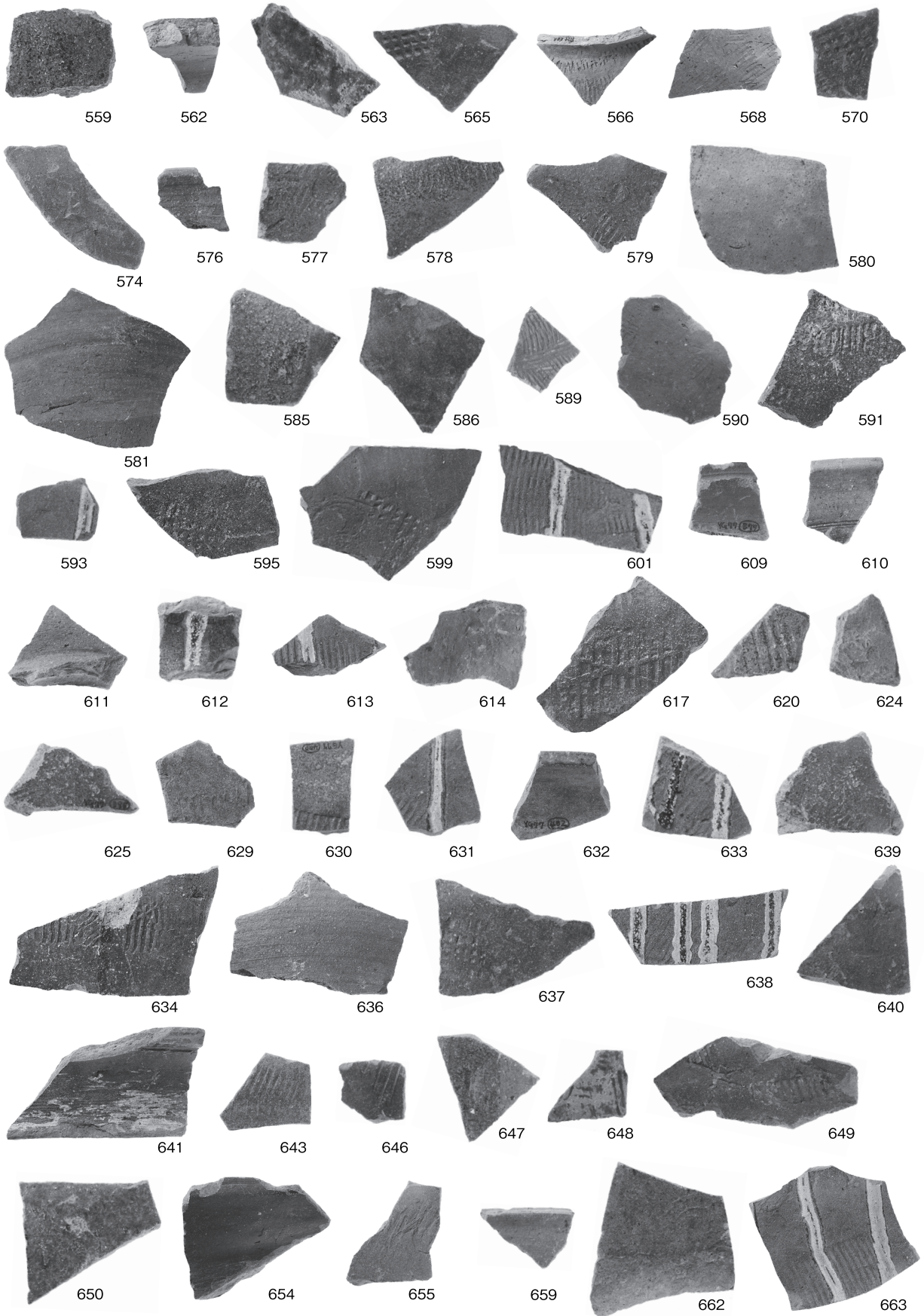


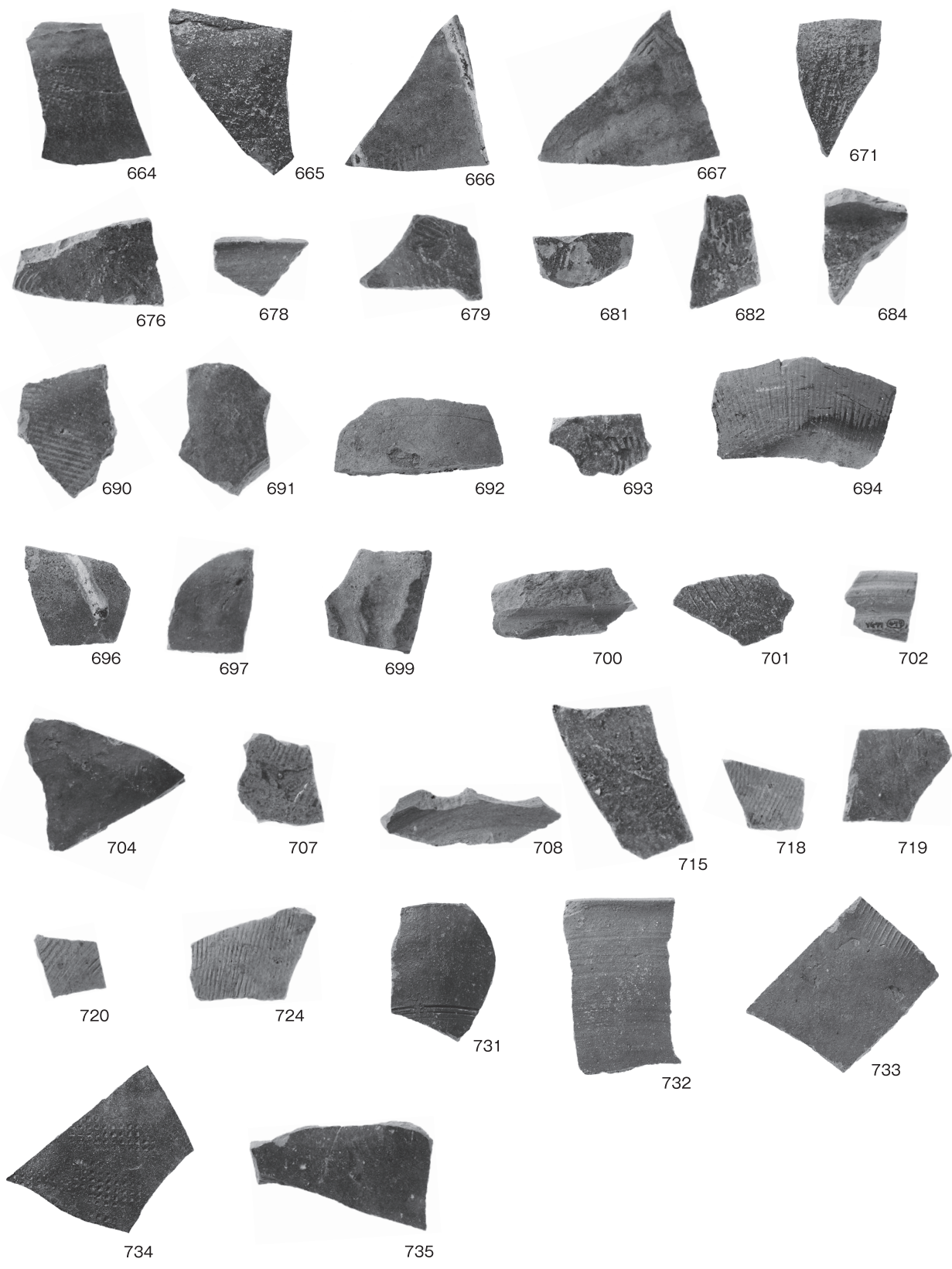
21SD2

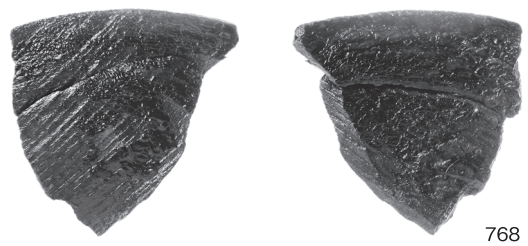
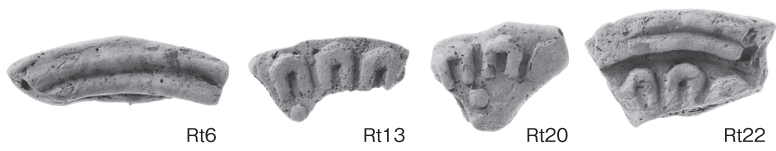
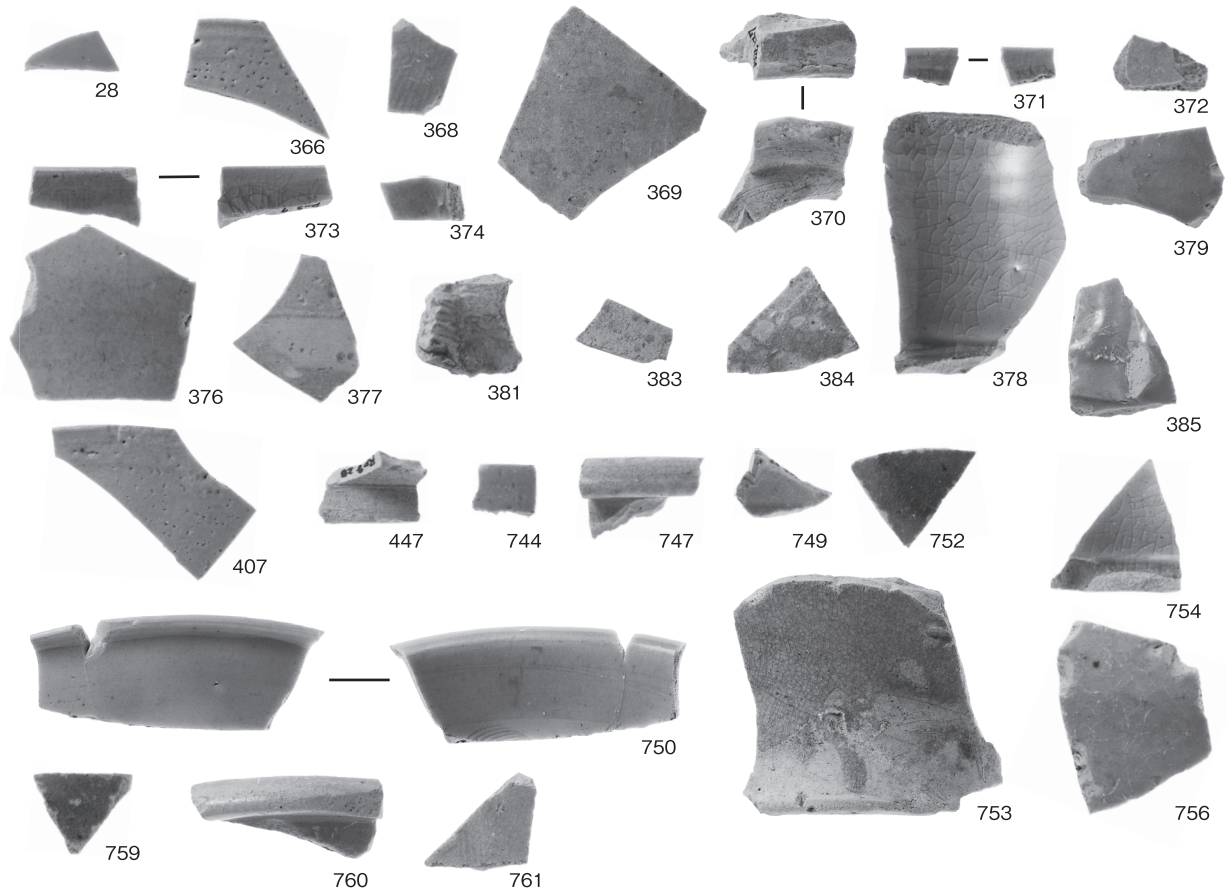


77PP31









輸入陶磁器・瓦・木製品

報告書抄録

ふりがな	ひらいずみいせきぐんはっくつちょうさほうこくしょ やなぎのごしよいせき							
書名	平泉遺跡群発掘調査報告書 柳之御所遺跡							
副書名	第77次発掘調査概報							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第150集							
編著者名	櫻井友梓 村上拓							
編集機関	岩手県教育委員会							
所在地	〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1							
発行年月日	西暦2017年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やなぎのごしよいせき 柳之御所遺跡	いわてけん 岩手県 にしほかいぐん 西磐井郡 ひらいずみちょう 平泉町 ひらいずみあざ 平泉字 やなぎのごしよちない 柳御所地内	03402	NE76-0190	38度59分 28秒	141度7分 35秒	20150515 ~20151130	800m ²	史跡整備に 向けた内容 確認調査
所収遺跡名	種別	おもな 時代	おもな遺構	おもな遺物		特記事項		
柳之御所遺跡	居館跡	平安 時代	堀跡2条、溝跡（中近 世を含む）、柱穴、整 地層など	かわらけ 国産陶器（渥美・常滑 など） 中国産陶磁器（白磁・ 青白磁・中国陶器） 木製品など		<ul style="list-style-type: none"> ・柳之御所遺跡の内部南端部で2条の堀跡の規模と走行方向を確認した。 ・2条の堀跡の間、堀内部の縁辺部で整地層を確認したほか、縁辺部に並ぶような柱穴を確認した。 		
要約	<p>柳之御所遺跡第77次調査の概報である。</p> <p>柳之御所遺跡はこれまでの調査により2条の大規模な堀跡で区画されることがわかってきたが、77次調査では未調査範囲にあたる遺跡南端部で調査を実施し、規模や位置と走行方向を確認できた。これまで想定されていた位置よりやや南側に広がるものの、これまでの調査で確認されていた規模や推定の位置から大きく離れるものではなく、遺跡全体を囲むことが改めて確認できた。</p> <p>21SD2堀跡では複数回の掘り直しや人為的な埋め戻しなどを確認できた。また、堀跡の周囲で整地土層を確認した。攪乱等もあり断続的な確認となっているが、堀跡周囲の地形の造成や時期など注目できる。</p> <p>21SD1堀跡の内側では抜き取りの痕跡をもつ特徴的な形状の柱穴を確認した。堀跡の周囲では同様の形状の柱穴をこれまでの調査でも確認しており、性格の特定は難しいが、注目できる遺構である。</p> <p>遺物では完形に近い白磁四耳壺が出土した。</p>							

岩手県文化財調査報告書 第150集

平泉遺跡群発掘調査報告書

柳之御所遺跡

－第77次発掘調査概報－

印刷日 平成29年 3月30日

発行日 平成29年 3月30日

発行 岩手県教育委員会生涯学習文化課
〒020-8570 岩手県盛岡市内丸10-1
電話 (019) 629-6171 (代表)

印刷 株式会社 一関プリント社
〒021-0031 岩手県一関市青葉一丁目7-24
電話 (0191) 23-4586

柳之御所遺跡第77次調査平面図(1/100)

